

沖縄県平和祈念資料館展示更新監修委員会（第8回）議事概要

- 1 開催日時：令和8年7月15日（水）14:00～15:28
- 2 開催形式：オンライン
- 3 出席委員：仲地博、林博史、古賀徳子、宮城晴美、謝花直美、鳥山淳、里井洋一、新城俊昭、今理織、山城彰子、石堂徳一
事務局：沖縄県平和祈念資料館 館長 大城友恵、副参事 平良智子、学芸班長 中山晋、主幹 比嘉栄司、主査 嶺井京子、主任（学芸員）大城航、主事 川満彰、学芸員 仲本和
八重山平和祈念館 分館長 親盛剛、主任 島袋光太
乃村工芸社 上原裕、森誠一郎、宮城あずさ、平良里紗、齊藤恵理、芦田光代、松岡瑛美、西村世津子、三宅大朗、中村和延

4 議題等

- (1) 各部会中間報告（沖縄県平和祈念資料館及び八重山平和祈念館展示更新基本設計（素案））〔資料1〕
- (2) 各部会と確認を要する事項等の検討状況〔資料2〕

5 議事等

- (1) 各部会中間報告（沖縄県平和祈念資料館及び八重山平和祈念館展示更新基本設計（素案））について

ア 事務局が資料1の説明を行った。

イ 委員から次のような発言があった。

①戦前・戦中時代部会

- ・戦前・戦中時代は写真やグラフィックなどの展示分量が多いので、今後の配置により、若干微調整が生じる可能性がある。
- ・開館以降の調査・研究の成果を反映していきたいが、情報を盛り込みすぎないように工夫していく必要がある。
- ・展示リストに記載されている「目的」「大項目のねらい」は、部会で決定したものではなく、現状は仮の文章である。
- ・調査・研究を踏まえた展示を手掛かりに、来館者それぞれに考えてもらう、ということを「ねらい」として打ち出していこうと考えている。これは、ミュージアムの世界的な流れにも合致すると思う。

②戦後時代部会

- ・「アメリカ世」「ヤマト世」等の言葉の定義については、次回部会で検討したい。

③平和の発信・学習部会

- ・平和の発信・学習部会でも「アメリカ世」という言葉を採用しようという話になっているが、「ヤマト世」の言葉をなぜ使うのかということの本

委員会で確認したい。戦前の沖縄でも「ヤマト世」という言葉があったのかが気になっている。

- ・「ソテツ地獄」という言葉は、当時の社会を反映した言葉ではなく、マスコミがつくり出した言葉が後々引用されたものであるため、使用するかどうか、再度検討してほしい。
- ・（戦後時代について）学術的には1945～1952年までを“占領”、サンフランシスコ平和条約締結後は“統治”と区別している。現在は27年間全部“占領”とされているため、戦後時代部会で検討してほしい。

④八重山平和祈念館部会

- ・本館第2展示室（【資料1】p.34）でも「戦争マラリア」について取り上げられていることは、大変にありがたい。
- ・「1-5-③ 弾圧される日本教育労働組合八重山支部」（【資料1】p.94）を取り上げてもらったのは良かったが、「標準語励行運動」についても重要なので取り上げてほしい。
- ・また『八重山群島ノ衛生状況大要』という報告書が、日本軍の極秘文書として残っている。その最後のページにはマラリアの有病地、無病地が明確に調査報告されているにも関わらず、実際は有病地に住民を避難させていたことを報告書と共に展示したいと思っている。

(2) 各部会と確認を要する事項等の検討状況について

ア 事務局が資料2の説明を行った。

- ・各部会間で確認・調整が必要な事項
- ・基本計画（素案）に対するご意見

イ 委員から次のような発言があった。

①導入における「平和の礎」の扱いについて

- ・特になし。

②第1展示室、第5展示室の「導入」について

- ・博物館の展示が変わらないといけない。啓蒙的ではなく、展示を見た来館者自身が考え、それを持ち帰り、現実と対峙してもらえるような博物館になっていくと良い、ということを前提にした場合、「なぜ基地が多いのか」「なぜこんなにたくさんの方が亡くなったのか」という問いが展示冒頭にあると、どこかに答えがあるという世界になってしまうのではないか。

（それよりも）なぜこのような形でたくさんの方が亡くなったのか、教育や経済、戦争軍隊などの問題から事実を示し、考えてもらうのが、よりよい展示にする方法だと思っている。その意味で冒頭の展示をどうするかはとても重要だと考えている。

③「平和の礎」刻銘者データを活用した展示について

- ・特になし。

④第5展示室「現在の戦争と紛争」、「世界情勢」の展示について

- ・非常に流動的なため、見直しの方向で検討している。次回の部会で検討していきたいと考えている。
- ・1階の展示は企画展を常時開催できるような形を考えているが、2階の常設展示は極めて固定的な形になる。2階の展示の最後をどうするか、戦後時代部会で議論をしてもらえるとよい。

令和8年8月25日

知事公室 平和祈念資料館

沖縄県平和祈念資料館及び八重山平和祈念館 展示更新基本設計（素案）

令和 8 年 7 月 15 日

沖縄県

沖縄県平和祈念資料館（本館）

常設展示室（2階）

① 展示構成について

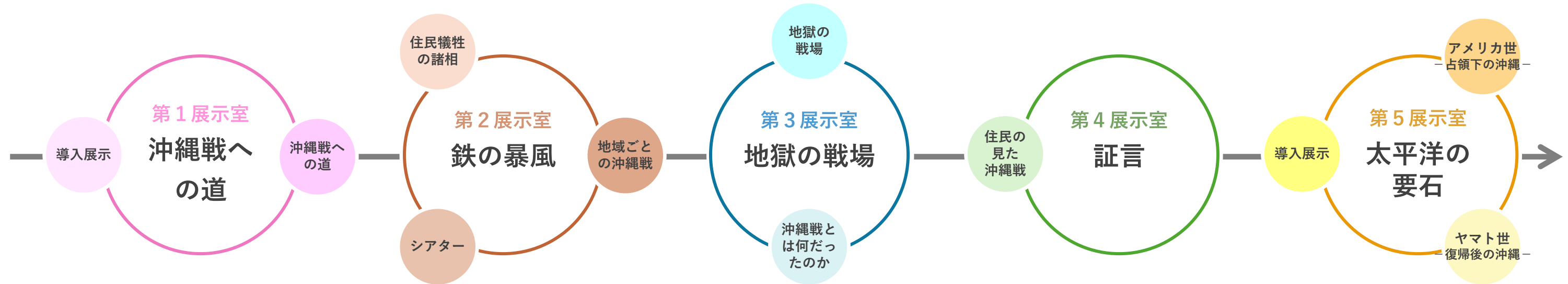
「設立理念」と「展示むすびのことば」を継承し、展示室の構成と各室のテーマは、原則として現展示室を引き継ぎ、戦争体験者なき時代を見据え、非体験者が沖縄戦や基地問題を自分に引き寄せて考えることができる展示構成とする。

② ニュートラルゾーンについて

第1展示室と第2展示室の間、第2展示室と第3展示室の間、第3展示室と第4展示室の間にそれぞれ設けられているニュートラルゾーンは、新たに取り上げる展示内容が増加することから隣接する展示室に統合する。

③ 各展示室のタイトルについて

各展示室のタイトルは、設計段階の検討により展示項目が固まった時点で必要に応じて見直しを行うものとする。



- 琉球併合から沖縄戦に至るまでの流れを辿り、なぜ、沖縄戦が起きたのかを考えてもらう。
- 富国強兵策により軍備を拡張し、帝国主義の道を歩んでいった日本に沖縄がどのように組み込まれていったのか、また、戦争が長期化し拡大するなかで沖縄の戦時体制がどのように進んでいったのかを伝える。

- 米軍上陸以降、およそ3か月に及ぶ沖縄戦の経緯を辿りながら、米軍の圧倒的な物量作戦による「鉄の暴風」が沖縄を一変させ、軍民合わせて20数万人もの死者を出した沖縄戦の実相を映像で伝える。
- 日本軍による住民虐殺や強制された「集団自決」「強制集団死」、収容所／収容地区での犠牲をはじめ沖縄戦のもとで、沖縄の人々が死に追いやられた数々の“地獄”の実相を伝える。
- 県内の地域ごとの戦争のコーナーを設け、ひとくくりにできない沖縄戦の実相を知り、考えてもらう展示を検討する。

- 沖縄戦において、戦火から身を守る場所であると同時に多くの住民が犠牲になった場所でもあるガマに焦点をあて、ガマで起こった象徴的な出来事を通じて、沖縄戦がどのような戦争であったのかを考えるきっかけを提供する。
- 戦場を逃げ惑い、追い詰められ、命を落とした人々の姿を記録に基づき表現し、戦争の悲惨さ、恐ろしさを伝える。

- 沖縄戦の実相がわかる物的資料が少ない中、想像を絶する極限状態の沖縄戦の実相を知る一級の資料が証言である。本展示室は、その貴重な証言を通じて、来館者が体験者と向き合うことができる場とすることをねらいとする。

- 沖縄の戦後は収容所から始まったこと、その状況について伝える。
- 十五年戦争が終結し沖縄戦が終わっても、沖縄は27年に及ぶ米国統治のもと世界の戦場と隣り合わせの生活を強いられ、冷戦構造の中、基地の島として強化されていった。そうした中で、住民は、土地を奪われ、抑圧を受け、女性への性暴力等、基地から派生する事件・事故の危険にさらされ続けてきたことを伝える。
- そうした困難な状況の中でも、平和や自治を求めて立ち上がった人々の姿や、沖縄の文化を復興させる動きがあったことにもふれる。
- 日本復帰後も、基地は再編強化され、基地被害は後を絶たず、現在も国土面積の約0.6%しかない沖縄に、全国の米軍専用施設の約70%が集中したままであることなど、今もなお基地の島であり続ける沖縄の状況や基地問題は沖縄だけの問題ではなく、日本全体の問題であることを伝える。

※以下に示す目的・ねらいについては、現状仮の文章になります。

ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
第1展示室 沖縄戦への道	・琉球併合から沖縄戦に至るまでの流れを辿り、なぜ、沖縄戦が起きたのかを考えてもらう。 ・富国強兵策により軍備を拡張し、帝国主義の道を歩んでいった日本に沖縄がどのように組み込まれていったのか、また、戦争が長期化し拡大するなかで沖縄の戦時体制がどのように進んでいったのかを伝える。	1.導入展示	(導入の導入) 慰霊の日、多くの遺族が「平和の礎」に集う風景を起点に、刻まれた名前の一人ひとりの“生”に意識を引き寄せ、沖縄戦がはじまる前の世界(＝導入展示)へといざなう。	1-1.沖縄戦前夜の風景と人々の暮らし (中項目詳細) ・導入の導入 ・家族・農村 ・学校 ・漁村 ・都市	－	⑩ 導入の導入ー6月23日の平和の礎の風景 ① 沖縄の農村に住む、ある家族を紹介する ② 戦時体制や近づく沖縄戦による影響は、家族の生活にも及んだ ③ 「糸満売り」された少年、「辻売り」された少女、ハンセン病患者など、家族に包摂されない人々を含む	グラフィック・映像装置・造形	
		2.沖縄戦への道	沖縄が日本に併合されてからの近代の日本のなかでの沖縄の歩みを振り返りながら、沖縄の人々の模索と努力、生きる姿、さらに沖縄が日本が進める戦争に巻き込まれていく姿を示して、ともに考えてもらう。	2-0.問いかけ展示 2-1.琉球併合から同化政策へ	－ －	－ 2-1-① 1609年の薩摩藩による琉球侵攻、日清両属関係の琉球王国の様子 2-1-② 台湾出兵(「台湾遭害事件之墓」、牡丹社事件) 2-1-③ 琉球併合(琉球王国から沖縄県へ) 2-1-④ 日本の分島・増約案、日清戦争を経て国境画定 2-1-⑤ 旧慣温存策、同化政策 2-1-⑥ 教育勅語、御真影 2-1-⑦ 標準語教育	グラフィック	
				2-2.日清戦争・日露戦争・第一次世界大戦	－	2-2-① 日清戦争 2-2-② 日露戦争 2-2-③ 韓国併合 2-2-④ 第一次世界大戦 2-2-⑤ シベリア出兵 2-2-⑥ 徴兵制度・徴兵検査 2-2-⑦ 第一次大戦後の戦後恐慌 2-2-⑧ ソテツ地獄 2-2-⑨ 沖縄の経済、社会状況(サトウキビ生産など)	グラフィック・資料	
				2-3.近代の沖縄と軍隊	－	2-3-① 軍人勅諭 2-3-② 分遣隊派遣 2-3-③ 陸軍教導団 2-3-④ 沖縄からの徴兵(九州の部隊への入隊) 2-3-⑤ 戦争への従軍(日露戦争、第一次世界大戦・日中戦争) 2-3-⑥ 戦死者の慰霊・顕彰 2-3-⑦ 海軍施設(中城湾) 2-3-⑧ 臨時要塞(中城湾と船浮) 2-3-⑨ 軍艦の寄港と県民の歓迎 2-3-⑩ 日本軍の沖縄県民観(沖縄警備隊区徴募事務概況、沖縄県の歴史的関係及人情風俗、沖縄防備対策)	グラフィック・映像装置・資料	

ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
				2-4.同化と異化のはざまで、 沖縄の人々の模索	—	2-4-① 人頭税廃止運動 2-4-② 自由民権運動（謝花昇） 2-4-③ 人類館事件 2-4-④ 伊波普猷（郷土研究、沖縄学） 2-4-⑤ 太田朝敷 2-4-⑥ 本土の社会運動への参加（労働組合） 2-4-⑦ 教員運動（社会科学研究会、東京と沖縄） 2-4-⑧ 沖縄教育労働者組合OIL、八重山教育労働者組合 2-4-⑨ 風俗改良、良妻賢母 2-4-⑩ 「新しい女たち」（新しい生き方を模索する女性たち）	グラフィック・映像装置・資料	
				2-5.移民と出稼ぎ	—	2-5-① 移民の始まりと展開 2-5-② 當山久三 2-5-③ 移民（南米・北米・ハワイ） 2-5-④ 台湾 2-5-⑤ 南洋群島 2-5-⑥ 東南アジア（フィリピンなど） 2-5-⑦ 本土出稼ぎ・留学（県人会/関西と東京） 2-5-⑧ 徴兵忌避と移民（本部事件） 2-5-⑨ 国策移民（満州、満蒙開拓団） 2-5-⑩ 三竈島（サンソウトウ）	グラフィック・映像装置・資料	
				2-6.沖縄からの移民と戦争	—	2-6-① 南洋群島（サイパン、テニアンなど） 2-6-② 移民と現地住民の犠牲 2-6-③ サイパン陥落後の軍の対民間人対策 2-6-④ フィリピン（ダバオ、パナイなど） 2-6-⑤ 東南アジア（インド抑留、オーストラリア抑留） 2-6-⑥ 北米（日系人強制収容） 2-6-⑦ 南米（ブラジル、勝ち組と負け組）	グラフィック・映像装置・資料	
				2-7.皇民化政策、沖縄と植民地・占領地 （中項目詳細） ・沖縄での皇民化政策 ※①～⑧ ・植民地・南洋群島・占領地での皇民化政策 ※⑨～⑬	—	2-7-① 御真影 2-7-② 教育勅語 2-7-③ 奉安殿 2-7-④ 学校防空指針（御真影・教育勅語）奉護のための殉職者 2-7-⑤ 国定教科書（「国語」「修身」など） 2-7-⑥ 標準語励行、方言札 2-7-⑦ 改姓改名 2-7-⑧ 神社、鳥居 2-7-⑨ 神社の建立 2-7-⑩ 創氏改名 2-7-⑪ 皇国臣民の誓詞（宮城遥拝） 2-7-⑫ 植民地での日本語教育 2-7-⑬ 占領地での日本語教育	グラフィック・映像装置・資料	

ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
			第32軍が沖縄に配備され、沖縄の人々の生活が一気に戦争に組み込まれて大きく変わっていく状況を示すとともに、疎開船の撃沈や10・10空襲など犠牲が生まれ、さらに米軍の上陸が迫るなかで沖縄の人々が戦場に動員されていく姿を伝え、沖縄戦に至る沖縄の社会・人々の状況への理解を深めてもらう。	2-8.十五年戦争と南進政策	—	2-8-① 満州事変からの十五年戦争 2-8-② 日中全面戦争 2-8-③ 銃後の戦争体制（千人針、奉公袋、出征） 2-8-④ 従軍した沖縄出身兵 2-8-⑤ 沖縄防備対策 2-8-⑥ 南進政策（南方の重要資源） 2-8-⑦ 第二次世界大戦 2-8-⑧ アジア太平洋戦争（マレー半島上陸と真珠湾攻撃）	グラフィック・映像装置・資料	
				2-9.第32軍の沖縄配備と飛行場建設	—	2-9-① 第32軍創設と配備・構成 2-9-② 飛行場建設（北飛行場・中飛行場、伊江島など） 2-9-③ 住民の動員 2-9-④ 地上軍の増強配備（1944年7月から） 2-9-⑤ 日本軍慰安所の設置 2-9-⑥ 将兵による非行と住民の反応 2-9-⑦ 陣地の構築	グラフィック・映像装置・資料	
				2-10.総動員体制 （中項目詳細） ・日本全体の総動員体制と沖縄の総動員体制	—	2-10-① 徴用（勤労動員） 2-10-② 供出（金属、食糧、木材など） 2-10-③ 徴用・供出の仕組み（軍・県・市町村・字） 2-10-④ 軍事訓練、竹槍訓練 2-10-⑤ 出征歓送式、慰問袋、千人針、帰還歓迎会、遺骨帰還・町村葬 2-10-⑥ 配給制度 2-10-⑦ 国防献金 2-10-⑧ マスメディア 2-10-⑨ 軽便鉄道爆発事件 2-10-⑩ 住民の生活、暮らしの変化	グラフィック・映像装置・資料	
				2-11.子どもたちの戦時体制	—	2-11-① 軍による学校接收、青空教室 2-11-② 勤労動員、陣地構築、食糧増産 2-11-③ 小学生（国民学校児童）の日常の変化 2-11-④ 竹槍訓練、沖縄青少年団訓練 2-11-⑤ 競技の変化（戦場競技へ） 2-11-⑥ 子どもたちの遊びの変化	グラフィック・映像装置・資料	

ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
				2-12.疎開	—	2-12-① 疎開政策（立案の経緯、疎開の考え方） 2-12-② 軍の方針 2-12-③ 県の方針・関わり（知事と軍の対立、知事交代による変化） 2-12-④ 県外疎開（九州、台湾） 2-12-⑤ 学童疎開（対馬丸など） 2-12-⑥ 北部（やんばる）疎開（県の方針、受け入れ体制、避難民の取扱、食糧難） 2-12-⑦ 宮古・八重山の県外疎開（台湾疎開、郡内の別の島への強制疎開、島内強制疎開） 2-12-⑧ 疎開と飢餓・マラリア（特に北部疎開、宮古・八重山） 2-12-⑨ 疎開先での生活（九州、台湾）	グラフィック・映像装置・資料	
				2-13.防諜とスパイ取締り	—	2-13-① 社会運動の取締り 2-13-② 個人の言動の取締り、監視 2-13-③ 防諜 2-13-④ 住民の相互監視、密告 2-13-⑤ 国土隊（秘密戦に関する書類） 2-13-⑥ 移民帰りの監視 2-13-⑦ 沖縄語禁止 2-13-⑧ 久米島の日本軍と住民 2-13-⑨ 日本軍による防諜取締り 2-13-⑩ 警察文書 2-13-⑪ 軍機保護法、特高、国防保安法	グラフィック・映像装置・資料	
				2-14.10・10空襲	—	2-14-① 10・10空襲の経過 2-14-② 米軍の作戦目的・計画 2-14-③ 空襲被害（那覇、各地、船舶） 2-14-④ 宮古・八重山諸島への空襲（10.12-13も含め） 2-14-⑤ 日本政府による抗議、米国政府の対応	グラフィック・映像装置・資料	
				2-15.戦時船舶の犠牲	—	2-15-① 沖縄関係戦時遭難船舶一覧 2-15-② 対馬丸、嘉義丸、湖南丸など 2-15-③ 連絡船、漁船など小型艦船の犠牲	グラフィック・映像装置・資料	
				2-16.米軍上陸前夜の沖縄、県民の戦場動員	—	2-16-① 軍官一体の県民の戦場動員体制 2-16-② 知事諭告第2号 2-16-③ 根こそぎ動員 2-16-④ 防衛隊 2-16-⑤ 義勇隊 2-16-⑥ 伊江島の軍官民合同訓練 2-16-⑦ 遊撃隊（護郷隊） 2-16-⑧ 女性たちの動員、救護班、炊事班等 2-16-⑨ 国民抗戦必携	グラフィック・映像装置・資料	

ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
				2-17.学徒の動員	－	2-17-① 勤労働員 2-17-② 軍事訓練、竹槍訓練 2-17-③ 中学生、高等女学校生らの戦場動員（軍県3者覚書） 2-17-④ 戦場動員と女性差別 2-17-⑤ 学校ごとの動員状況と教師の対応 2-17-⑥ 遊撃隊（護郷隊）への学徒の動員	グラフィック・映像装置・資料	
				2-18.日本軍の作戦と米軍の作戦 （中項目詳細） ・日本軍の作戦 ※①～⑬ ・米軍の作戦 ※⑭～⑰	－	2-18-① 日本軍の装備と作戦 2-18-② 戦陣訓、各種教令 2-18-③ 近衛上奏文 2-18-④ 大本營の方針 2-18-⑤ 第32軍の方針（作戦計画、時間稼ぎ、南部撤退など） 2-18-⑥ 住民対策 2-18-⑦ 捕虜・投降禁止（民間人も対象） 2-18-⑧ 戦闘方法（斬り込み隊など） 2-18-⑨ 国土決戦教令 2-18-⑩ 第32軍司令官最後の命令 2-18-⑪ 航空特攻 2-18-⑫ 海上特攻 2-18-⑬ 地上特攻 2-18-⑭ アイスバーグ作戦（沖縄作戦の目的） 2-18-⑮ 米軍の戦力・部隊 2-18-⑯ 心理戦 2-18-⑰ 住民対策	グラフィック・映像装置・資料	
第2展示室 鉄の暴風	・米軍上陸以降、およそ3か月に及ぶ沖縄戦の経緯を辿りながら、米軍の圧倒的な物量作戦による「鉄の暴風」が沖縄を一変させ、軍民合わせて20 数万人もの死者を出した沖縄戦の実相を映像で伝える。 ・日本軍による住民虐殺や強制された「集団自決」「強制集団死」、収容所／収容地区での犠牲をはじめ沖縄戦のもとで、沖縄の人々が死に追いやられた数々の“地獄”の実相を伝える。 ・県内の地域ごとの戦争のコーナーを設け、ひとくくりにできない沖縄戦の実相を知り、考えてもらう展示を検討する。	1.シアター	米軍上陸から戦闘終結までの経過を通して沖縄戦の全体像を示すとともに、激しい戦闘の中に兵士と区別なく住民が巻き込まれ、甚大な被害を受けた実態を、証言映像を通して住民の視点から伝える。	1-0.導入展示	－	－	グラフィック	
				1-1.鉄の暴風	－	1-1-① 沖縄戦戦闘経過 1-1-② 住民の戦争体験	グラフィック・映像装置	
		2.住民犠牲の諸相	沖縄戦の中で住民の犠牲について、戦闘に巻き込まれただけでなく、飢えやマラリア、性暴力など被害の多様な実相を理解してもらう。またそこに巻き込まれた朝鮮人や日米両軍の兵士たちの犠牲も取り上げ、一人一人の個人にとっての戦争の意味を考えてもらう。。	2-1.根こそぎ戦場動員	－	2-1-① 戦場での物資運搬、道案内、斬り込み 2-1-② 捕虜になることを許さない 2-1-③ 投降阻止、スパイ視 2-1-④ 米軍上陸下、砲爆撃の中での動員 2-1-⑤ 市町村長・警察署長会議（県指示、知事訓示） 2-1-⑥ 知事から県民への最後の訓示 2-1-⑦ 海軍根拠地隊 2-1-⑧ 沖縄出身兵	グラフィック・資料	
				2-2.北部疎開によって生まれた犠牲	－	2-2-① 北部疎開方針（棄民政策） 2-2-② 投降阻止、スパイ視 2-2-③ 警察の役割（県警察文書） 2-2-④ やんばる山中の避難民の実相（食糧、住居、日々の生活） 2-2-⑤ 日本兵による迫害（食糧強奪、虐殺）	グラフィック・資料	

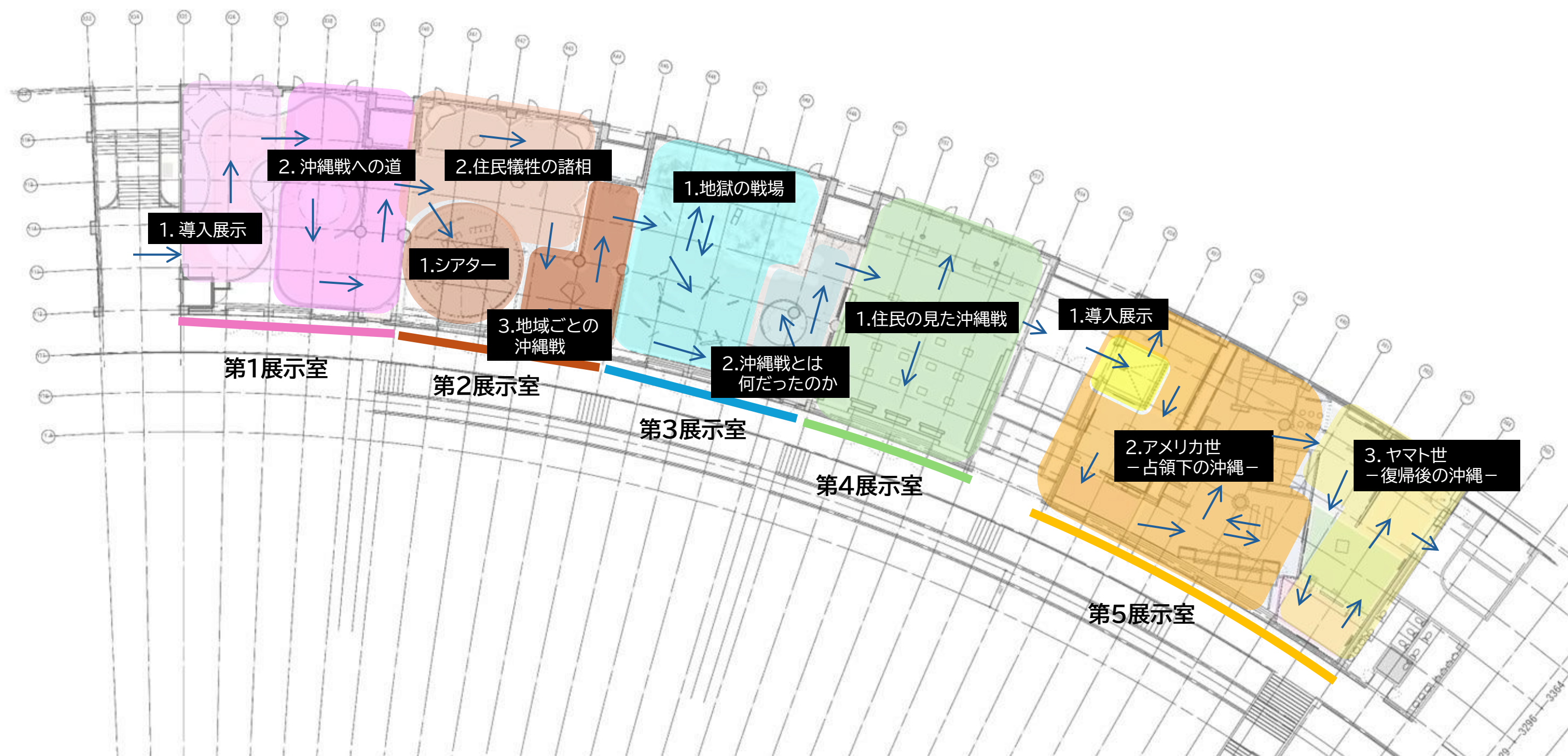
ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
				2-3.収容所/収容地区	—	2-3-① 米軍政策 2-3-② 食糧難（飢えとマラリア） 2-3-③ 米軍基地建設と住民移動（軍事優先、劣悪な収容地区） 2-3-④ 収容所内の避難民と日本軍 2-3-⑤ 学校の開設 2-3-⑥ 戦争孤児、孤児院	グラフィック・映像装置・資料	
				2-4.戦争マラリア	—	2-4-① 沖縄本島北部のマラリア 2-4-② 宮古島のマラリア 2-4-③ 八重山諸島の戦争マラリアと残置謀者	グラフィック	
				2-5.日本軍による住民虐殺・迫害	—	2-5-① 住民虐殺の実相 2-5-② なぜ日本軍は沖縄県民を虐殺したのか（地域・時期別特徴、その要因） 2-5-③ スパイ視 2-5-④ 壕（ガマ）追い出し、食糧強奪 2-5-⑤ 民間人の投降阻止	グラフィック・資料	
				2-6.「集団自決」「強制集団死」	—	2-6-① 「集団自決」とは何か 2-6-② 場所・地域ごとの特徴 2-6-③ なぜ起きたのか 2-6-④ 日本政府・日本軍の民間人対策 2-6-⑤ 軍から配られた手榴弾 2-6-⑥ 鬼畜米英、米兵への恐怖心を煽る宣伝 2-6-⑦ 性暴力への恐怖心を煽る宣伝 2-6-⑧ 起きなかった場所・地域との比較	グラフィック・資料	
				2-7.軍隊による性暴力	—	2-7-① 日本軍慰安所 2-7-② 日本兵による性暴力 2-7-③ 米兵による性暴力	グラフィック	
				2-8.障がい者	—	2-8-① 身体障がい者の体験 2-8-② 精神障がい者の体験 2-8-③ 戦争がつくりだした障がい者	グラフィック	
				2-9.ハンセン病患者	—	2-9-① ハンセン病患者の状況 2-9-② 日本軍による強制収容 2-9-③ 愛楽園 2-9-④ 南静園	グラフィック	
				2-10.心の傷	—	2-10-① 戦闘神経症 2-10-② 戦後も続く心の傷・PTSD	グラフィック	
				2-11.朝鮮人の動員と犠牲	—	2-11-① 沖縄に動員された朝鮮人 2-11-② 軍夫 2-11-③ 軍人 2-11-④ 船舶の乗組員 2-11-⑤ 日本軍「慰安婦」 2-11-⑥ 日本軍による扱い 2-11-⑦ 戦没時期、場所	グラフィック	
				2-12.日本軍兵士にとっての沖縄戦	—	2-12-① 全国各地から召集されてきた日本兵 2-12-② 日本軍の戦闘方法 2-12-③ 捕虜になることは許されない 2-12-④ 傷病兵殺害、青酸カリ処置 2-12-⑤ 国土決戦教令、戦陣訓	グラフィック	

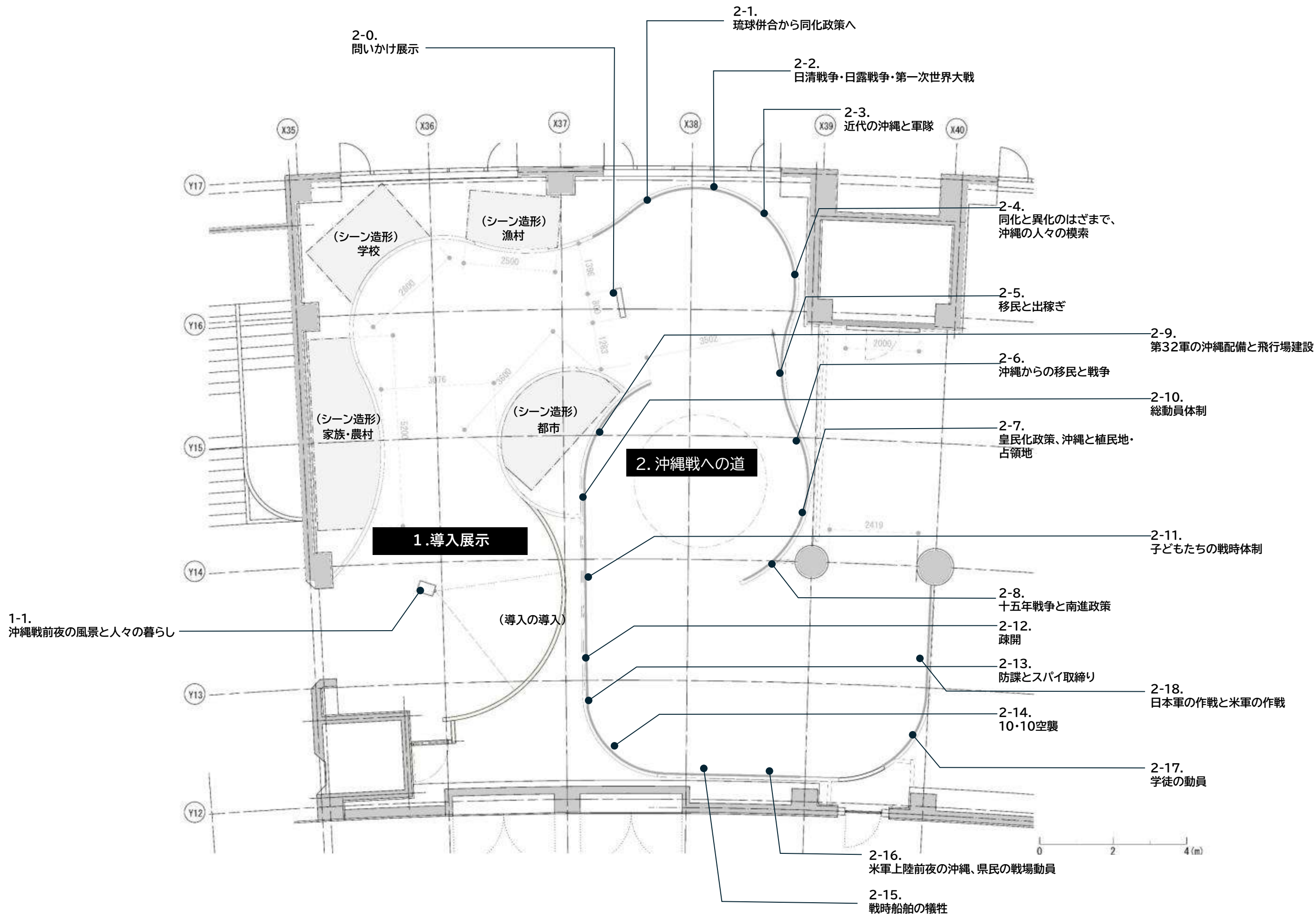
ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
		3.地域ごとの沖縄戦	沖縄戦のなかでも、地域や島によって異なる状況があったことを示し、県民が自分の関わる地域の状況を身近に感じながらその実相を理解してもらう。また沖縄戦のなかで人々がどのように生きようとして考え、行動したのか、沖縄の住民の視線で共に考えてもらう。	2-13.米軍兵士にとっての沖縄戦	—	2-13-① 米軍の戦闘方法 2-13-② 米軍部隊の戦歴 2-13-③ 米兵と住民 2-13-④ 米兵の戦闘神経症・PTSD	グラフィック	
				3-1.北部の沖縄戦	—	3-1-① 山中の戦争 3-1-② 国頭支隊（宇土部隊） 3-1-③ 日本兵による住民虐殺、食糧強奪 3-1-④ 飢餓・マラリア 3-1-⑤ 御真影奉護壕 3-1-⑥ 遊撃戦（護郷隊） 3-1-⑦ 陸軍中野学校 3-1-⑧ 伊江島の戦闘	グラフィック	
				3-2.中部の沖縄戦	—	3-2-① 北部疎開と南部への避難 3-2-② 早期に米軍支配下に入った地域 3-2-③ 日米両軍の激戦地 3-2-④ 米軍上陸地点 3-2-⑤ 進む米軍基地建設	グラフィック	
				3-3.南部の沖縄戦	—	3-3-① 戦場での住民動員 3-3-② 南部撤退と多大な住民犠牲 3-3-③ 軍民混在の戦場 3-3-④ 日本軍の行動（住民虐殺、壕追い出し、食糧強奪、投降阻止など） 3-3-⑤ 知念半島の状況 3-3-⑥ 一家全滅	グラフィック	
				3-4.本島周辺離島及び大東諸島の沖縄戦	—	3-4-① 日本軍がいた島（慶良間諸島、久米島、津堅島など） 3-4-② 日本軍がいなかった島（前島、平安座島、宮城島、久高島など） 3-4-③ 大東諸島 3-4-④ 奄美群島	グラフィック	
				3-5.宮古・八重山の沖縄戦	—	3-5-① 戦争マラリアと飢餓 3-5-② 軍命によるマラリア地帯への強制退去 3-5-③ 日本軍慰安所 3-5-④ 米英両軍による砲爆撃 3-5-⑤ 米軍捕虜虐殺と戦犯裁判 3-5-⑥ 陸軍中野学校と離島残置謀者 3-5-⑦ 波照間島、忘勿石	グラフィック	
				3-6.命を救った人たち	—	3-6-① 多くの命を救った人たち 3-6-② 生きるように勧めた日本軍将兵 3-6-③ 米軍のなかの日系兵士（通訳、沖縄からの移民）	グラフィック	
				3-7.沖縄戦を生き抜いた人たち	—	3-7-① いく人かの人物を取り上げて、沖縄戦全過程のなかでの行動を紹介	グラフィック	

ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
第3展示室 地獄の戦場	・沖縄戦において、戦火から身を守る場所であると同時に多くの住民が犠牲になった場所でもあるガマに焦点をあて、ガマで起こった象徴的な出来事を通じて、沖縄戦がどのような戦争であったのかを考えるきっかけを提供する。 ・戦場を逃げ惑い、追い詰められ、命を落とした人々の姿を記録に基づき表現し、戦争の悲惨さ、恐ろしさを伝える。	1.地獄の戦場	沖縄戦のなかで、軍にとっても住民にとってもガマは、時には死の場所、時には生の場所になるという生死を左右する重要な場所となった。ガマの再現模型のなかに入ることによって沖縄戦の実相をより深く感じ考えてもらう。	1-0.導入展示	—		グラフィック	
				1-1.ガマと沖縄戦	—	1-1-① ガマと住民 1-1-② 生死をわけたガマ（チビチリガマとシムクガマ等） 1-1-③ 糸数アブチラガマの諸相 1-1-④ 利用された墓（住民の避難場所、日本軍の陣地）	グラフィック	
				1-2.避難民・日本兵	—	① 現行のガマの再現模型に説明を追加	グラフィック・音響装置・資料・造形	
				1-3.投降ピラ・スパイ視	—			
				1-4.野戦病院・青酸カリ	—			
				1-5.作戦会議・斬り込み隊	—			
		2.沖縄戦とは何だったのか	「平和の礎」に刻まれた戦没者のデータから沖縄戦の実像を多角的に読み解き、沖縄戦が持つ意味を考えてもらう。同時に沖縄の経験は本土でも起き得たことを理解してもらい、沖縄戦の教訓は沖縄だけでなく日本全体のものであることを考えてもらう。	1-6.死の彷徨	—	1-6-① 現行の展示物、写真を活用	グラフィック・資料	
				2-1.「平和の礎」から見た戦没者	—	2-1-① 「平和の礎」のデータの活用、分析（戦没場所、時期等）	グラフィック・検索装置・資料	
				2-2.沖縄の基地からの本土攻撃	—	2-2-① 米軍飛行場の建設 2-2-② 航空部隊の配備・任務 2-2-③ 奄美、九州などへの爆撃 2-2-④ 空襲にあった疎開学童	グラフィック	
				2-3.もし本土決戦が行われていたら	—	2-3-① 米軍の本土進攻作戦計画 2-3-② 大本営の本土決戦準備 2-3-③ 国民義勇戦闘隊 2-3-④ 地区特設警備隊	グラフィック	
				2-4.戦後処理と諸問題	—	2-4-① 遺骨収集 2-4-② 追悼、慰霊碑（塔） 2-4-③ 援護法 2-4-④ 不発弾 2-4-⑤ 戦争遺跡の保存、文化財登録 2-4-⑥教科書検定問題 2-4-⑦ 平和の礎	グラフィック	
				2-5.沖縄戦のまとめ	—	2-5-① 住民の視点で見た沖縄戦の振り返り	グラフィック	
第4展示室 証言	・沖縄戦の実相がわかる物的資料が少ない中、想像を絶する極限状態の沖縄戦の実相を知る一級の資料が証言である。本展示室は、その貴重な証言を通じて、来館者が体験者と向き合うことができる場とすることをねらいとする。	1.住民の見た沖縄戦	沖縄戦をはじめとする戦争を体験した沖縄の一人ひとりの証言にじっくり向き合うことで、戦争の実相を感じ取り、来館者一人一人にとって戦争とは何かを考える契機とする。	1-0.導入展示	—	—	グラフィック	
				1-1.証言	—	1-1-① 証言本（紙媒体） 1-1-② 証言本（デジタル媒体） 1-1-③ 証言映像（常時放映等） 1-1-④ 多言語化の充実	グラフィック・映像装置・検索装置	

ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
第5展示室 太平洋の要石	・沖縄の戦後は収容所から始まったこと、その状況について伝える。 ・十五年戦争が終結し沖縄戦が終わっても、沖縄は27年に及ぶ米国統治のもと世界の戦場と隣り合わせの生活を強いられ、冷戦構造の中、基地の島として強化されていった。そうした中で、住民は、土地を奪われ、抑圧を受け、女性への性暴力等、基地から派生する事件・事故の危険にさらされ続けてきたことを伝える。 ・そうした困難な状況の中でも、平和や自治を求めて立ち上がった人々の姿や、沖縄の文化を復興させる動きがあったことにもふれる。 ・日本復帰後も、基地は再編強化され、基地被害は後を絶たず、現在も国土面積の約0.6%しかない沖縄に、全国のみ軍専用施設の約70%が集中したままであることなど、今もなお基地の島であり続ける沖縄の状況や基地問題は沖縄だけの問題ではなく、日本全体の問題であることを伝える。	1.導入展示	米軍の上陸直後から基地の建設が始まるなど、在沖米軍基地の起点が沖縄戦であることを伝える。	1-1.沖縄戦時下の基地建設	戦闘と並行して基地建設が進められていたことから、沖縄戦が現在の基地問題の出発点であることを感じてもらう。	1-1-① 来館者へのメッセージ 1-1-② 戦闘と並行した基地建設	グラフィック・映像装置	基地建設・本土爆撃の映像など
		2.アメリカ世－占領下の沖縄－	日本から切り離され、米国に直接統治されたことを知ってもらう。また米国統治下で人々の人権が抑圧されたことと、平和や自治を求めて活動した民衆の活動を伝える。	2-1.収容所の暮らしと復興の始まり	戦後の沖縄が収容所生活から始まり、困難の中で暮らしを再建していった様子を知ってもらう。	2-1-① 収容所の暮らしと食糧事情 2-1-② 戦後教育の始まり 2-1-③ 帰郷（基地建設と離散） 2-1-④ 戦果と密貿易 2-1-⑤ 海外・県外引揚げの諸相 2-1-⑥ 県人の救済活動と米軍支援物資 2-1-⑦ 文化の復興 2-1-⑧ うるま新報	グラフィック・資料	米軍由来の生活用品・道具、衣服など
				2-2.恒久的基地建設と住民	本土の基地が沖縄へ移転する中で基地の恒久化が進み、それに抗う住民の姿と、占領下での行政組織や統治の仕組みを知ってもらう。	2-2-① 沖縄保有の決定 2-2-② サンフランシスコ講和条約 2-2-③ 島ぐるみ闘争 2-2-④ 本土の基地問題と海兵隊 2-2-⑤ 基地建設工事 2-2-⑥ 土地接収 2-2-⑦ 海兵隊の移転 2-2-⑧ 核兵器 2-2-⑨ 行政組織の変遷 2-2-⑩ 占領統治の仕組み 2-2-⑪ 南米移民、八重山開拓		
				2-3.復帰運動の高まり	事件や権利侵害が続いた占領下の現実と、日本への復帰と権利回復を求めた県民の動きを示すとともに、占領下を象徴する展示物を通して当時の状況を具体的に理解してもらう。	2-3-① 言論統制・渡航制限・裁判移送 2-3-② 増加する米軍関連の事件・事故 2-3-③ 男女平等の新民法の施行（憲法は適用されず） 2-3-④ 沖縄県祖国復帰協議会の結成 2-3-⑤ 主席公選闘争と教公二法阻止闘争 2-3-⑥ 全軍労の結成 2-3-⑦ 日米への留学と集団就職 2-3-⑧ 沖縄返還をめぐる日米協議の始まり		
				2-4.基地の街の光と影	基地の存在によって生まれた街の繁栄と、その影で生じた犠牲の両面に目を向け、ベトナム戦争と沖縄の関わりを通して基地が持つ構造を捉えてもらう。	2-4-① 基地の街の背景 2-4-② アーニーパイル国際劇場と那覇の街 2-4-③ スーベニアショップとテラー 2-4-④ 金城商店とAサインバー 2-4-⑤ B-52とパラシュート 2-4-⑥ 毒ガス移送とコザ騒動 2-4-⑦ 映像コーナー 2-4-⑧ ベトナム戦争	グラフィック・映像装置・資料・造形	この時期の社会背景がわかる資料など

ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
		3.ヤマト世 ー復帰後の沖縄ー	日本に復帰した後も沖縄に基地が駐留し続け、その機能が強化されるとともに、負担も継続していることを伝える。さらに、その歴史的経緯から基地問題は沖縄だけの問題ではなく、日本全体の問題であることを知ってもらう。	3-1.「復帰」とは何だったのか	「核抜き・本土並み」基地の返還と平和を願って迎えた復帰が理想とは異なる形で実現したことと、その後の歩みから、復帰とは何だったのか考えてもらう。	3-1-① 沖縄返還協定（核抜き・本土並み） 3-1-② 復帰の措置に関する建議書 3-1-③ 1972年5月15日 3-1-④ 日本政府の沖縄振興策 3-1-⑤ 復帰三大事業と730交通方法変更 3-1-⑧ 復帰後の文化 3-1-⑦ 跡地利用、基地関連収入 3-2-① 縮小する首都圏の米軍基地と減らない基地負担	グラフィック・映像装置・資料	復帰の措置に関する建議書、復帰記念メダル、交通法変更に関するポスターなど
				3-2.減らない基地負担	本土で基地が縮小される一方で沖縄の負担が続き、新基地建設が進められている。事件・事故が繰り返される中で日米地位協定が大きな壁となっている状況を示し、この問題が沖縄だけでなく日本全体の課題であることを感じてもらう。	3-2-⑤ 沖縄大ヘリ墜落事件等・不時着と落下物事故 3-2-③ 日米地位協定、県民投票 3-2-② 1995年米兵による少女性暴力事件 3-1-⑥ 開発と環境問題	グラフィック・映像装置・検索装置	米軍による事件・事故の写真、映像など
				3-3.軍隊と性暴力	沖縄戦以降及び安全保障政策の名の下で沖縄に駐留し続ける軍隊によって、沖縄戦時から現在に至るまで、女性や子どもたちが繰り返し性暴力の被害を受けてきた現実を示し、基地の存在が人間の尊厳を侵害し続けてきたこと、そしてその負担が一方的に女性に集中する構造が今なお変わらず残っていることを伝える。	3-3-① 沖縄民政府と慰安施設設置問題 3-3-② ベトナム戦争と性暴力・殺人事件 3-3-③ 1995年米兵による少女性暴力事件で開催された県民大会の様子 3-3-④ 強姦救援センター・沖縄「REICO(レイコ)」 3-3-⑤ 米軍による性暴力	グラフィック・映像装置・検索装置	米軍による性暴力に関するデータ資料など
				3-4.軍備強化される基地の島	沖縄戦以前の日本軍による要塞化から、戦後の米軍基地拡張、さらに現在の自衛隊配備へと続く軍事拠点化の流れを通して、沖縄が一貫して「基地の島」と位置づけられてきた歴史を捉えその現実に対する県民の訴えと、万国津梁の精神を生かした地域外交による平和への取り組みを理解してもらう。	3-2-④ 普天間飛行場の返還発表から辺野古新基地建設、名護市民投票 3-2-⑥ オスプレイ配備 3-4-① 南西諸島への自衛隊配備 3-4-② 新しい万国津梁(地域外交等の取組)	グラフィック	ー



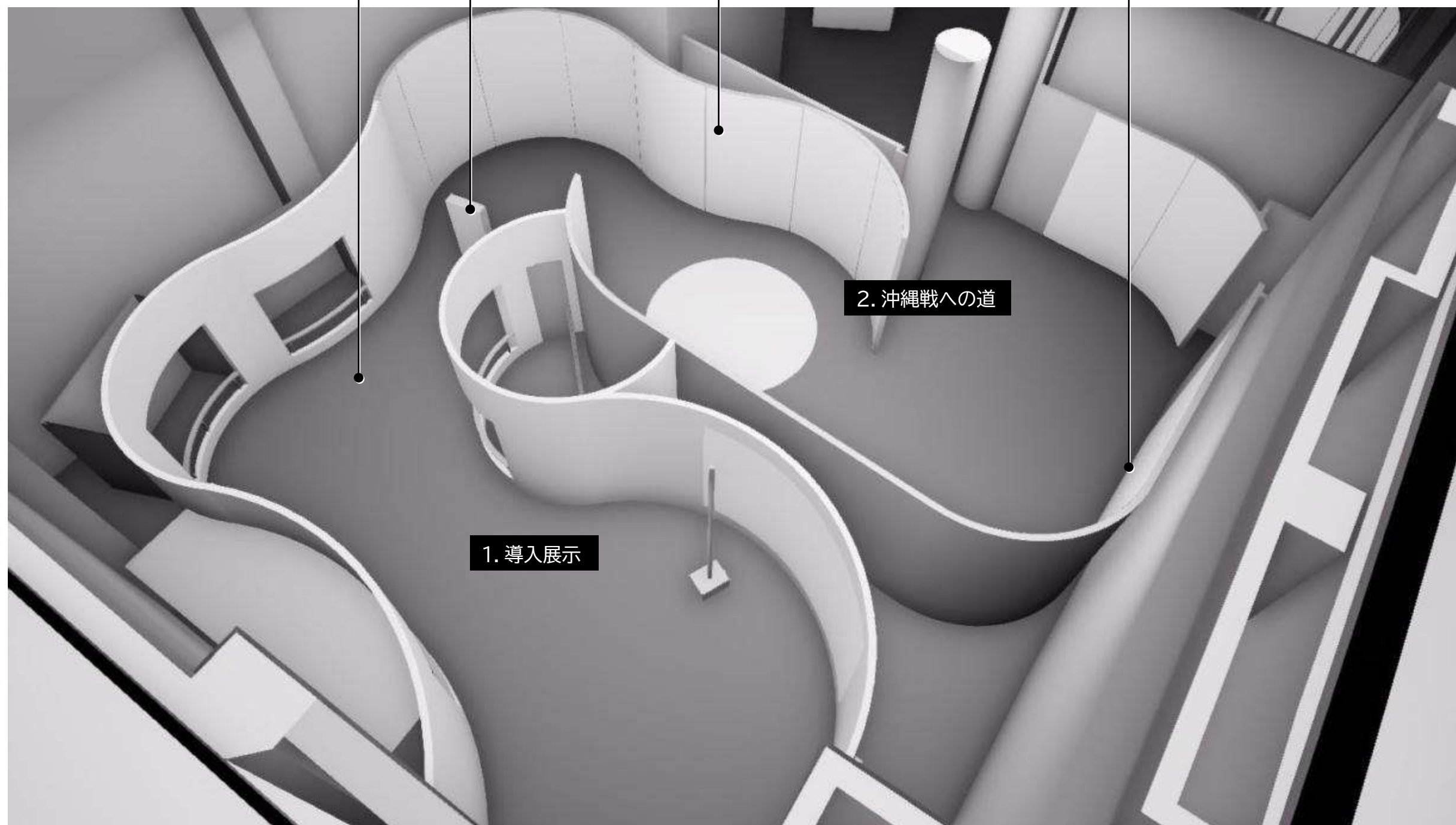


1-1.沖縄戦前夜の風景と人々の暮らし

2-0.問いかけ展示

2-1.琉球併合から同化政策へ
2-2.日清戦争・日露戦争・第一次世界大戦
2-3.近代の沖縄と軍隊
2-4.同化と異化のはざまで、沖縄の人々の模索
2-5.移民と出稼ぎ
2-6.沖縄からの移民と戦争
2-7.皇民化政策、沖縄と植民地・占領地
2-8.十五年戦争と南進政策

2-9.第32軍の沖縄配備と飛行場建設
2-10.総動員体制
2-11.子どもたちの戦時体制
2-12.疎開
2-13.防諜とスパイ取締り
2-14.10・10空襲
2-15.戦時船舶の犠牲
2-16.米軍上陸前夜の沖縄、県民の戦場動員
2-17.学徒の動員
2-18.日本軍の作戦と米軍の作戦



1.導入展示

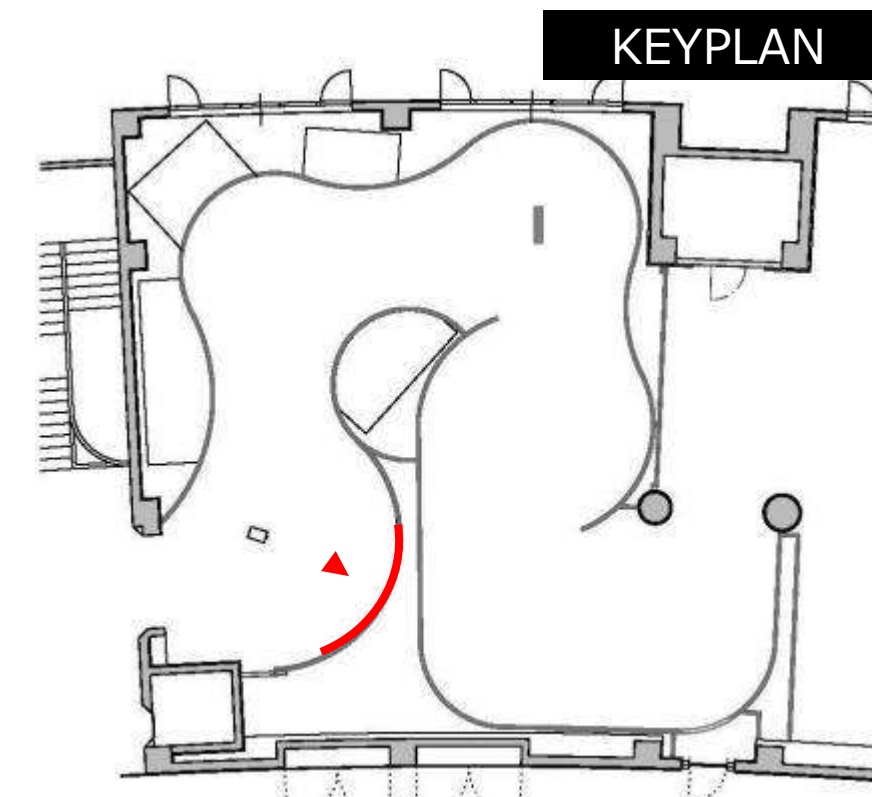
1-1.沖縄戦前夜の風景と人々の暮らし -導入の導入

【展示のねらい】

- ・ 慰霊の日、多くの遺族が「平和の礎」に集う風景を起点に、刻まれた名前の一人ひとりの“生”に意識を引き寄せ、沖縄戦が始まる前の世界(＝導入展示)へといざなう。

【展示の展開方針】

- ・ 6月23日の「平和の礎」の前で遺族の方々がみせる姿を丁寧に伝えることで、“この場”との接点をつくり、過去(戦前の沖縄の人びとの“日常”を伝える「導入展示」)へと違和感なくつなげる。
- ・ 解説(ナレーションやテロップなど)は極力おこなわず、情景や自然音・環境音などの効果音で映像を構成する。
- ・ プロジェクターによる60～90秒程度のループ映像とする(来館者の滞留を防ぐ)。



- ・ 1-1-① 導入の導入—6月23日の平和の礎の風景
グラフィック・映像装置

1-1.沖縄戦前夜の風景と人々の暮らし -(導入の導入)

第1展示室入口に入ってすぐの壁面を映像面とし、プロジェクターによって映像がループで上映される。

1.導入展示

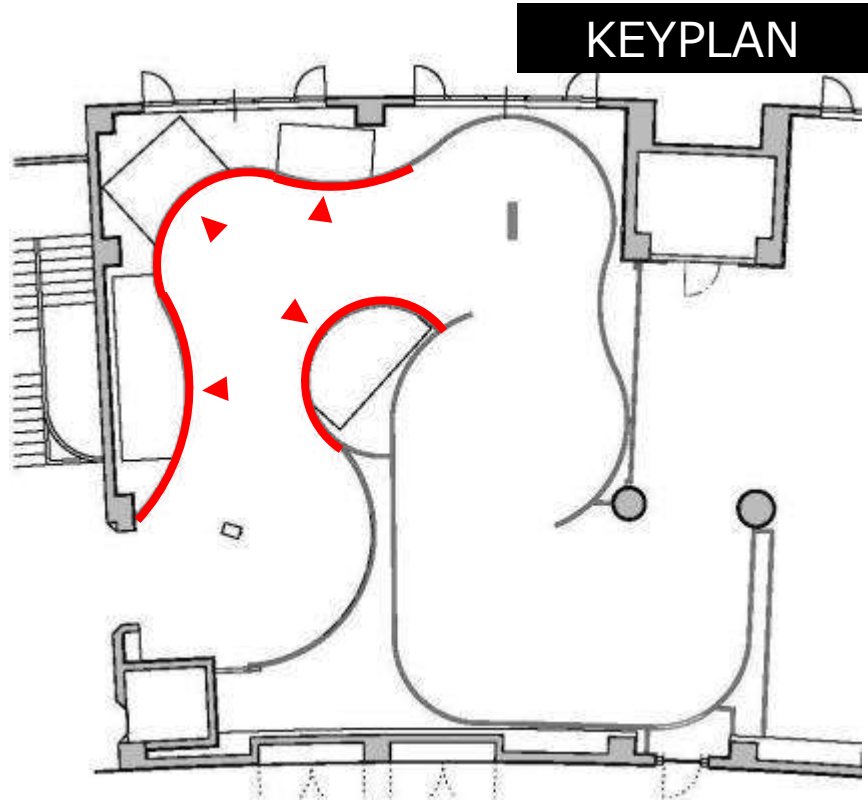
1-1.沖縄戦前夜の風景と人々の暮らし

【展示のねらい】

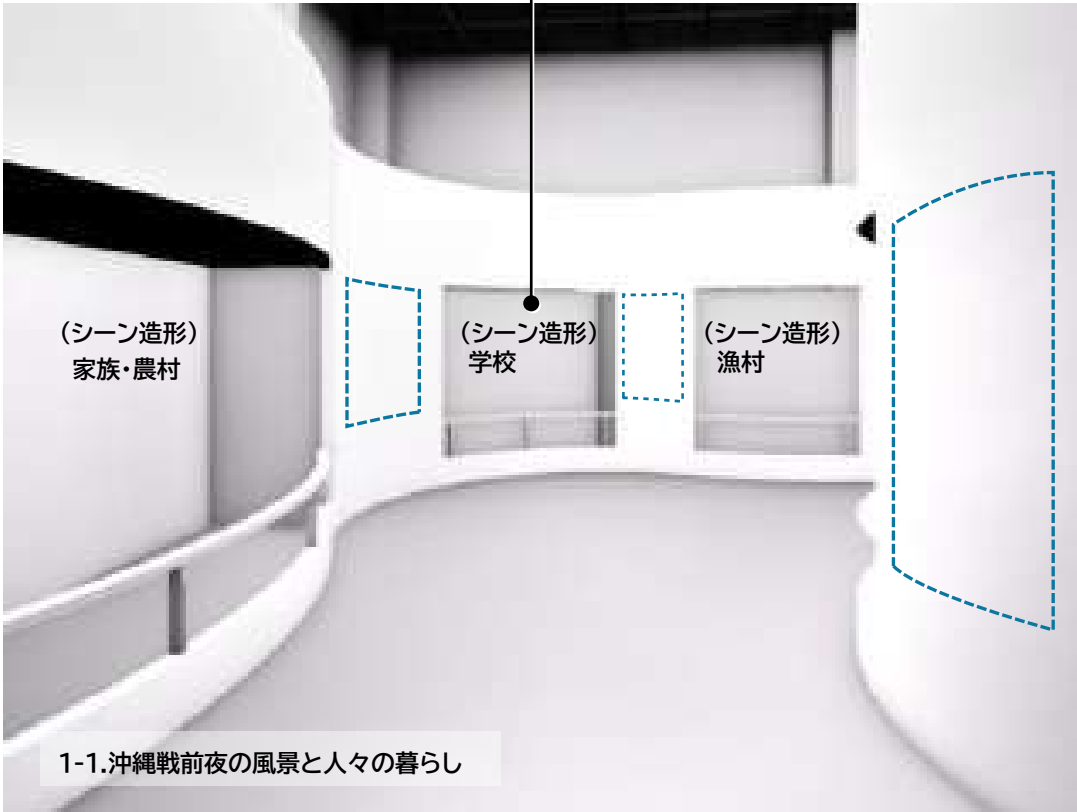
- ・ 農村・漁村・学校・都市などを舞台に戦前の沖縄の日常を描き出すとともに、それぞれの日常に戦争の影が忍び寄り、戦時体制へと向かっていく様子をイメージしてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 10・10空襲以前の沖縄の風景と沖縄の人びとの日常を伝える。
- ・ イラストで表現された立体積層造形により、沖縄戦が始まる前の「1.家族・農村」「2.学校」「3.漁村」「4.都市」の場면을再現する。
- ・ 辻売りや糸満売り、ハンセン病など、戦前の沖縄に存在した構造的差別の存在についても表現するが、前面に出して説明はしない。
- ・ 長い説明文は配置せず、補足的に出征風景などの写真を2～3点ほど掲示する。



- ・1-1-① 沖縄の農村に住む、ある家族を紹介する
 - ・1-1-② 戦時体制や近づく沖縄戦による影響は、家族の生活にも及んだ
 - ・1-1-③ 「糸満売り」された少年、「辻売り」された少女、ハンセン病患者など、家族に包摂されない人々を含む
- グラフィック・造形



■ 立体積層造形のイメージ(都市)



立体積層造形や当時の写真、簡易な解説などにより、沖縄戦前の沖縄の日常を伝える。

2.沖縄戦への道

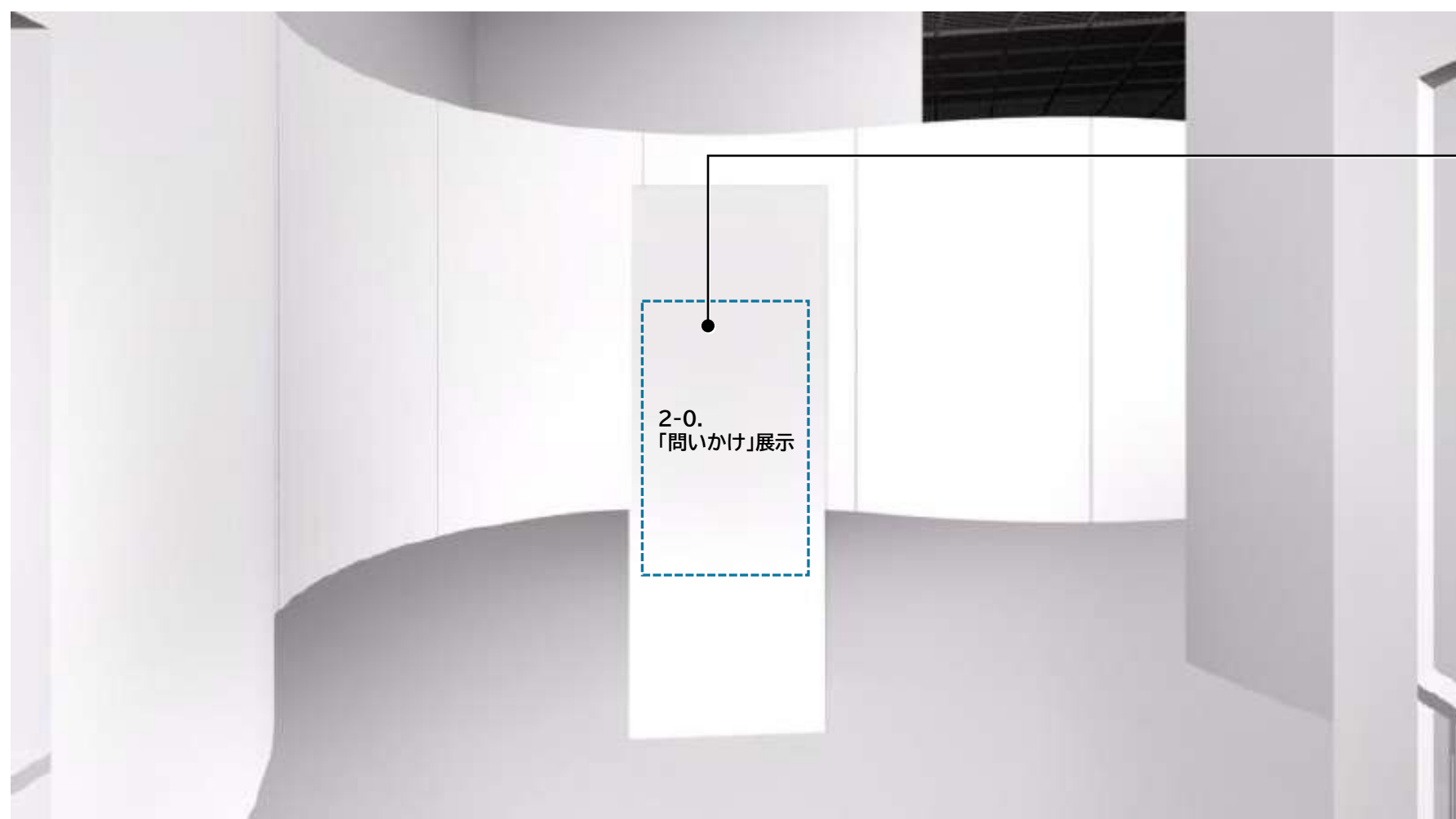
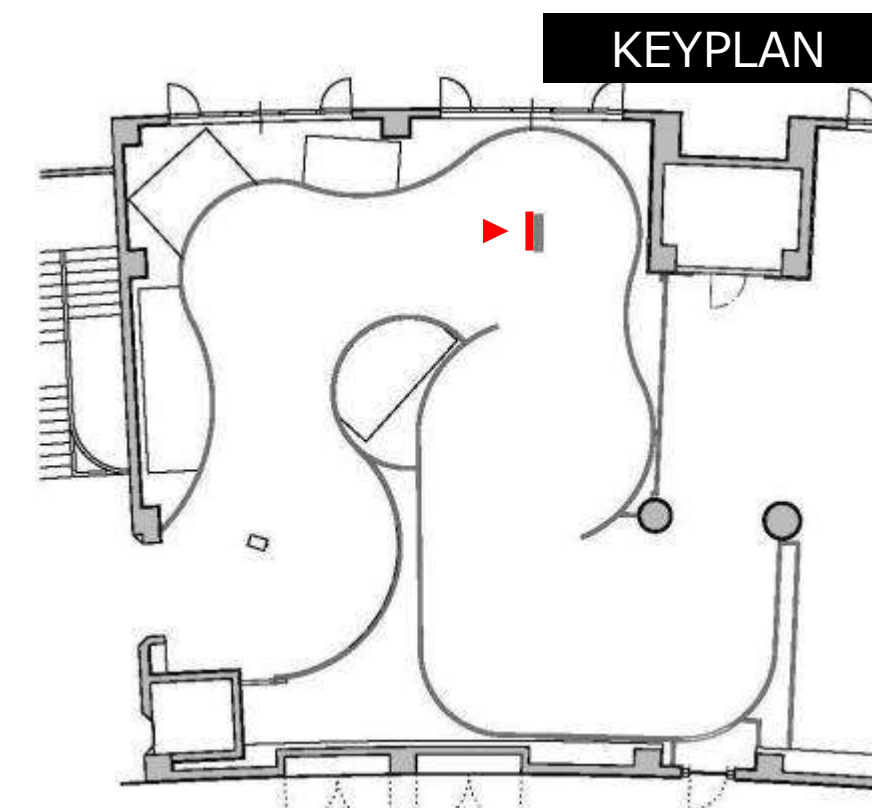
2-0.問いかけ展示

【展示のねらい】

- ・ 沖縄が日本に併合されてからの近代の日本のなかでの沖縄の歩みを振り返りながら、沖縄の人々の模索と努力、生きる姿、さらに沖縄が日本が進める戦争に巻き込まれていく姿を示して、ともに考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 「沖縄戦への道」展示の冒頭に、「問いかけ」展示として以下の問いを提示する。
→なぜ、沖縄は戦場になり、多くの民間人が命をうばわれたのか？
→なぜ、沖縄には、こんなに基地が多いのか？



グラフィック

沖縄戦や現在の沖縄が抱える課題について考え、展示観覧の動機づけとなるように、「問いかけ」展示を設置する。

2.沖縄戦への道

2-1.琉球併合から同化政策へ

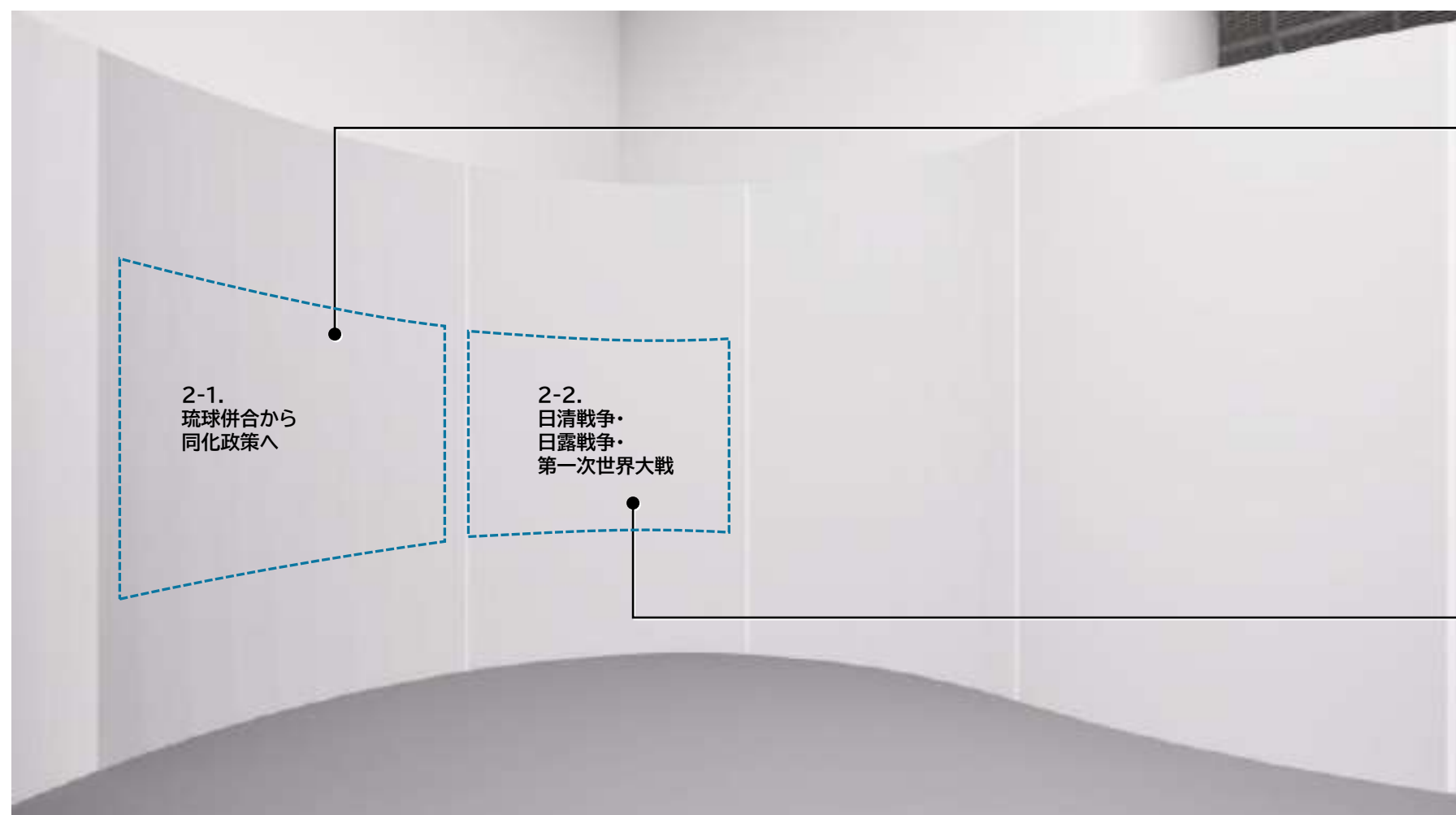
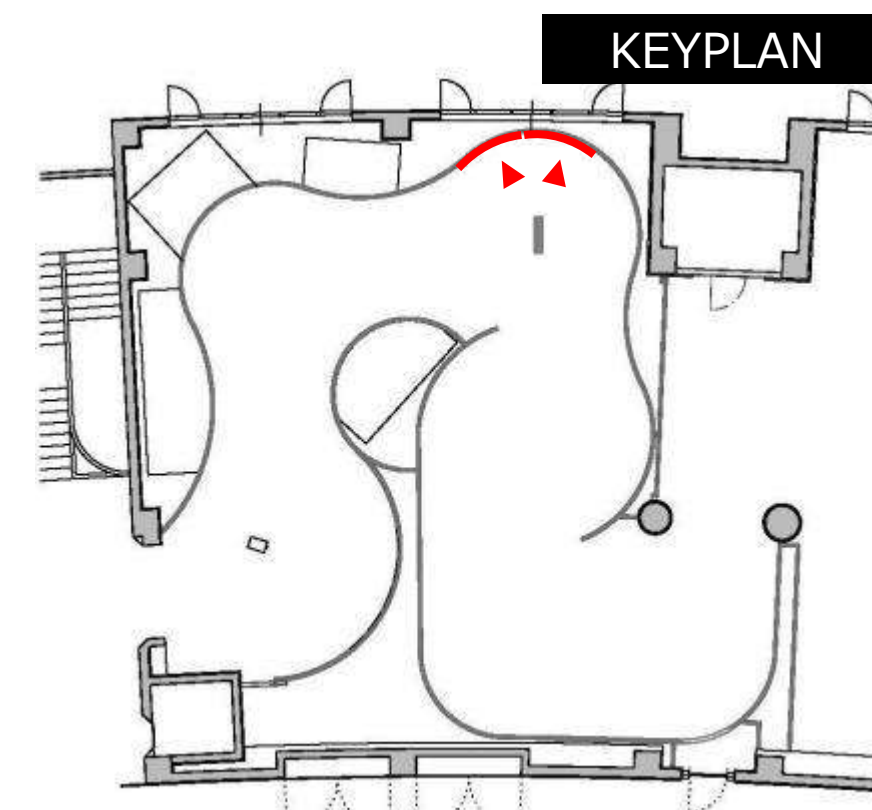
2-2.日清戦争・日露戦争・第一次世界大戦

【展示のねらい】

- ・ 沖縄が日本に併合されてからの近代の日本のなかでの沖縄の歩みを振り返りながら、沖縄の人々の模索と努力、生きる姿、さらに沖縄が日本が進める戦争に巻き込まれていく姿を示して、ともに考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。



- ・ 2-1-① 1609年の薩摩藩による琉球侵攻、日清両属関係の琉球王国の様子
 - ・ 2-1-② 台湾出兵(「台湾遭害事件之墓」、牡丹社事件)
 - ・ 2-1-③ 琉球併合(琉球王国から沖縄県へ)
 - ・ 2-1-④ 日本の分島・増約案、日清戦争を経て国境画定
 - ・ 2-1-⑤ 旧慣温存策、同化政策
 - ・ 2-1-⑥ 教育勅語、御真影
 - ・ 2-1-⑦ 標準語教育
- グラフィック・映像装置・資料

- ・ 2-2-① 日清戦争
 - ・ 2-2-② 日露戦争
 - ・ 2-2-③ 韓国併合
 - ・ 2-2-④ 第一次世界大戦
 - ・ 2-2-⑤ シベリア出兵
 - ・ 2-2-⑥ 徴兵制度・徴兵検査
 - ・ 2-2-⑦ 第一次大戦後の戦後恐慌
 - ・ 2-2-⑧ ソテツ地獄
 - ・ 2-2-⑨ 沖縄の経済、社会状況(サトウキビ生産など)
- グラフィック・資料

2.沖縄戦への道

2-3.近代の沖縄と軍隊

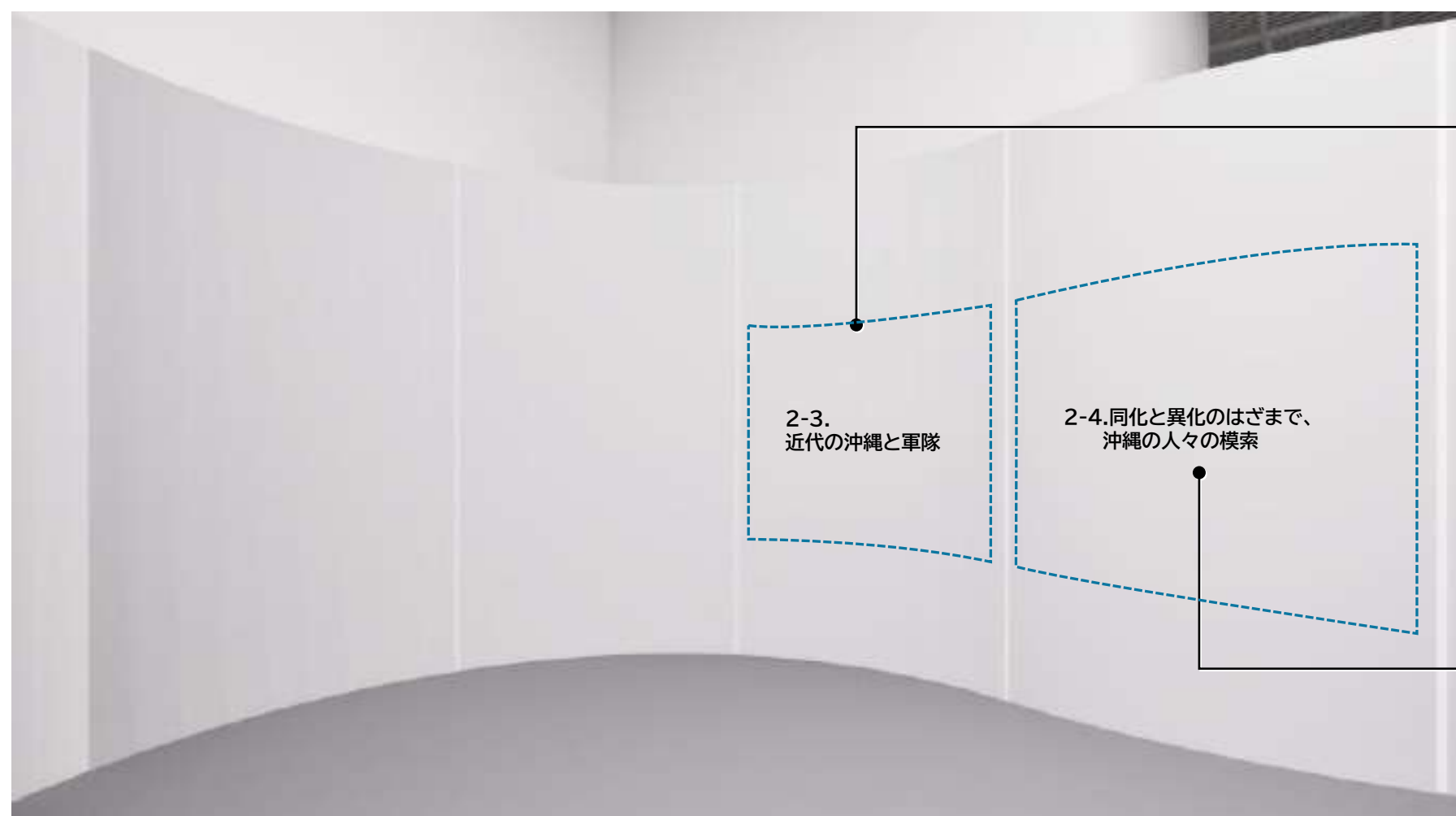
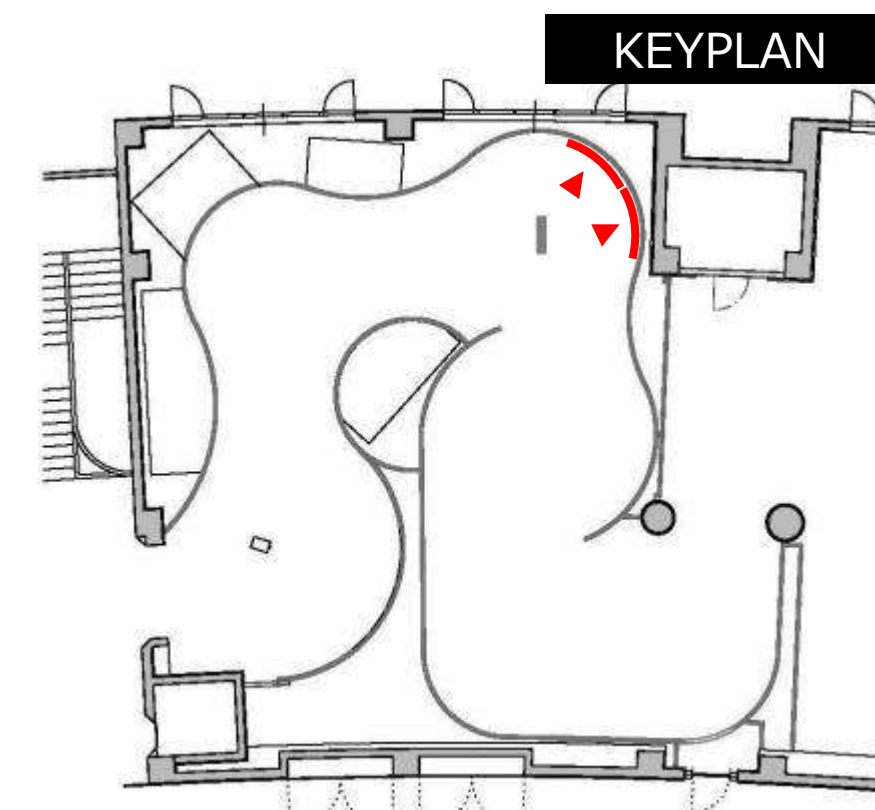
2-4.同化と異化のはざまで、沖縄の人々の模索

【展示のねらい】

- ・ 沖縄が日本に併合されてからの近代の日本のなかでの沖縄の歩みを振り返りながら、沖縄の人々の模索と努力、生きる姿、さらに沖縄が日本が進める戦争に巻き込まれていく姿を示して、ともに考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- ・ 既存映像を活用した映像展示をおこなう。



- ・ 2-3-① 軍人勅諭
- ・ 2-3-② 分遣隊派遣
- ・ 2-3-③ 陸軍教導団
- ・ 2-3-④ 沖縄からの徴兵(九州の部隊への入隊)
- ・ 2-3-⑤ 戦争への従軍(日露戦争、第一次世界大戦・日中戦争)
- ・ 2-3-⑥ 戦死者の慰霊・顕彰
- ・ 2-3-⑦ 海軍施設(中城湾)
- ・ 2-3-⑧ 臨時要塞(中城湾と船浮)
- ・ 2-3-⑨ 軍艦の寄港と県民の歓迎
- ・ 2-3-⑩ 日本軍の沖縄県民観(沖縄警備隊区徴募事務概況、沖縄県の歴史的関係及人情風俗、沖縄防備対策)

グラフィック・映像装置・資料

- ・ 2-4-① 人頭税廃止運動
- ・ 2-4-② 自由民権運動(謝花昇)
- ・ 2-4-③ 人類館事件
- ・ 2-4-④ 伊波普猷(郷土研究、沖縄学)
- ・ 2-4-⑤ 太田朝敷
- ・ 2-4-⑥ 本土の社会運動への参加(労働組合)
- ・ 2-4-⑦ 教員運動(社会科学研究会、東京と沖縄)
- ・ 2-4-⑧ 沖縄教育労働者組合OIL、八重山教育労働者組合
- ・ 2-4-⑨ 風俗改良、良妻賢母
- ・ 2-4-⑩ 「新しい女たち」(新しい生き方を模索する女性たち)

グラフィック・映像装置・資料

2.沖縄戦への道

2-5.移民と出稼ぎ

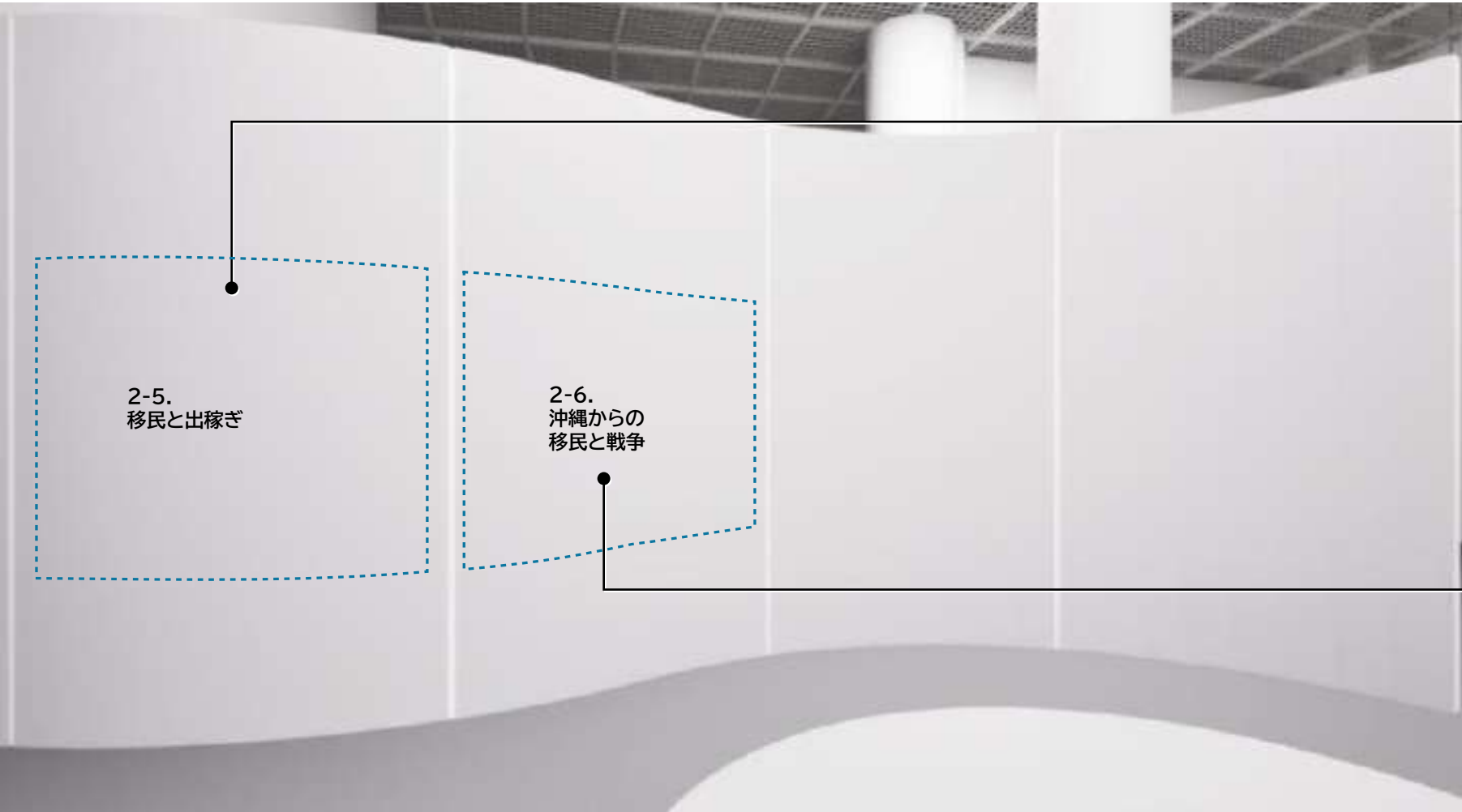
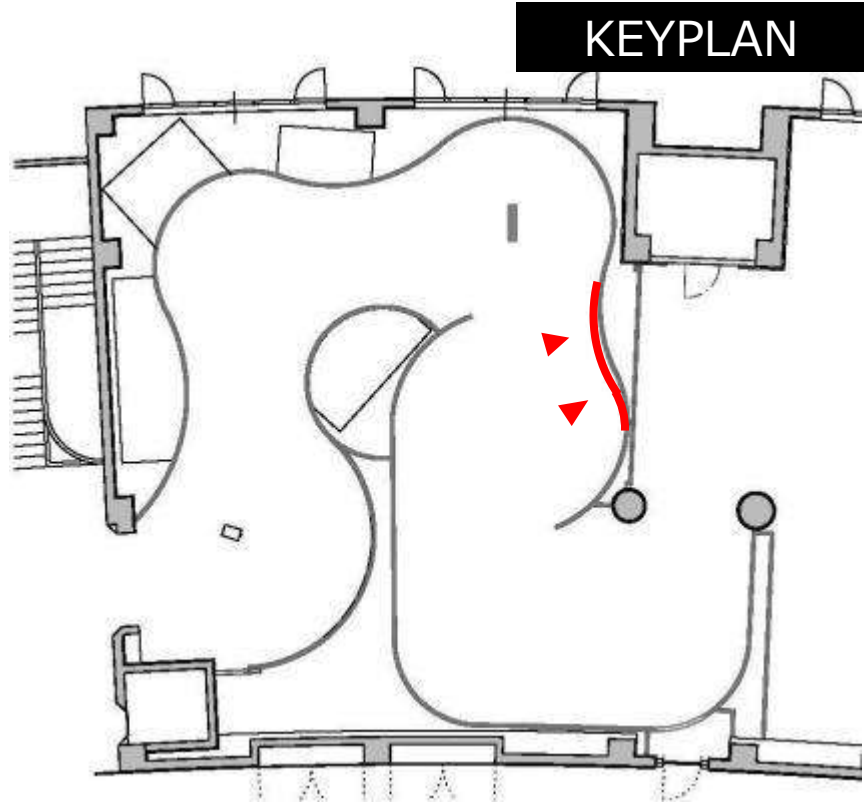
2-6.沖縄からの移民と戦争

【展示のねらい】

- ・ 沖縄が日本に併合されてからの近代の日本のなかでの沖縄の歩みを振り返りながら、沖縄の人々の模索と努力、生きる姿、さらに沖縄が日本が進める戦争に巻き込まれていく姿を示して、ともに考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- ・ 既存映像を活用した映像展示をおこなう。



- ・ 2-5-① 移民の始まりと展開
 - ・ 2-5-② 富山久三
 - ・ 2-5-③ 移民(南米・北米・ハワイ)
 - ・ 2-5-④ 台湾
 - ・ 2-5-⑤ 南洋群島
 - ・ 2-5-⑥ 東南アジア(フィリピンなど)
 - ・ 2-5-⑦ 本土出稼ぎ・留学(県人会/関西と東京)
 - ・ 2-5-⑧ 徴兵忌避と移民(本部事件)
 - ・ 2-5-⑨ 国策移民(満州、満蒙開拓団)
 - ・ 2-5-⑩ 三竈島(サンソウトウ)
- グラフィック・映像装置・資料

- ・ 2-6-① 南洋群島(サイパン、テニアンなど)
 - ・ 2-6-② 移民と現地住民の犠牲
 - ・ 2-6-③ サイパン陥落後の軍の対民間人対策
 - ・ 2-6-④ フィリピン(ダバオ、パナイなど)
 - ・ 2-6-⑤ 東南アジア(インド抑留、オーストラリア抑留)
 - ・ 2-6-⑥ 北米(日系人強制収容)
 - ・ 2-6-⑦ 南米(ブラジル、勝ち組と負け組)
- グラフィック・映像装置・資料

2.沖縄戦への道

2-7.皇民化政策、沖縄と植民地・占領地

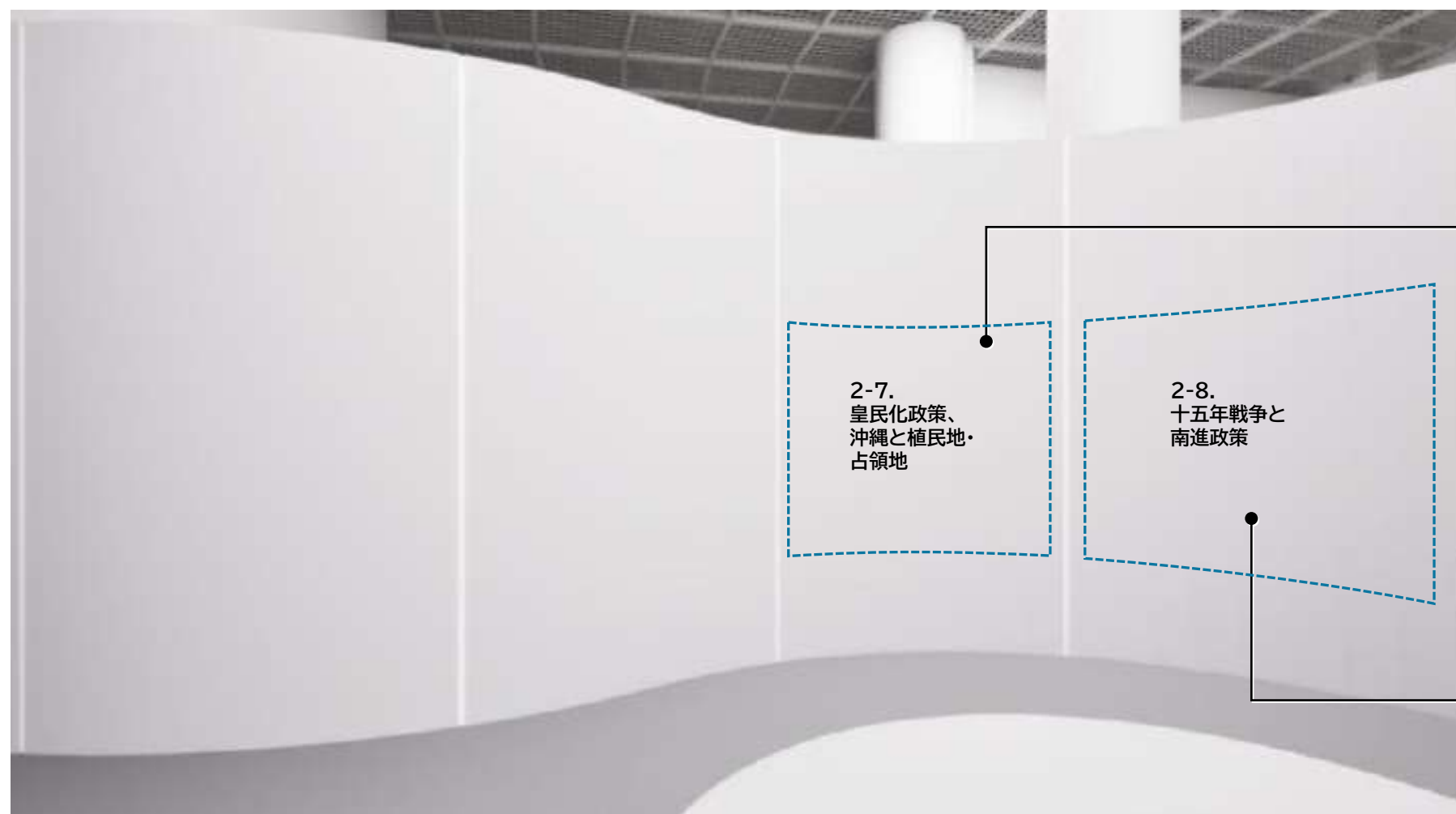
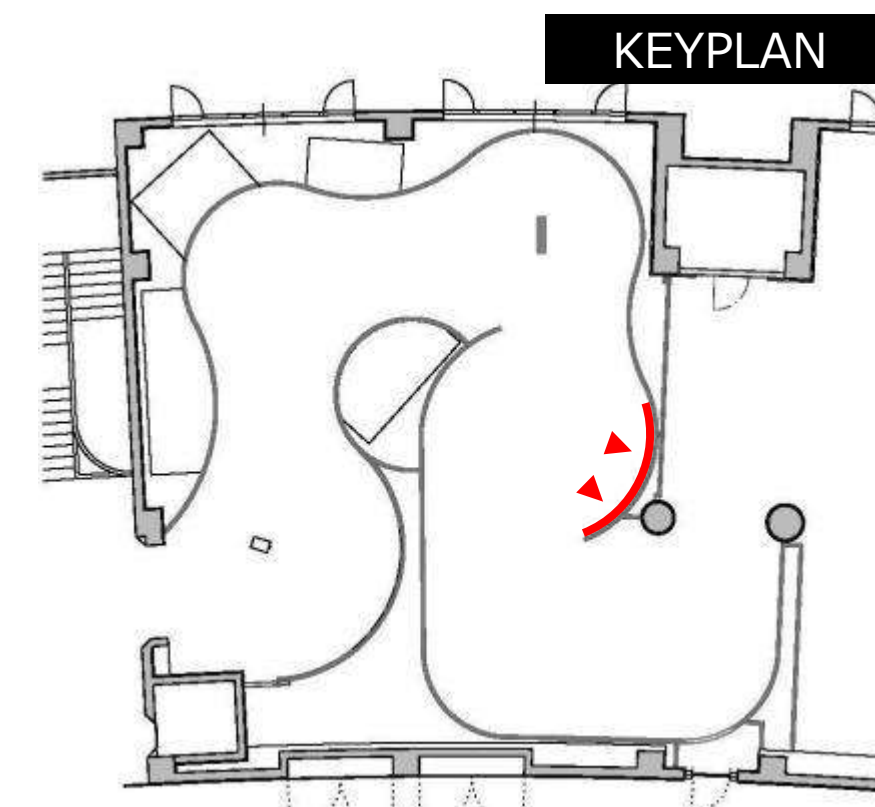
2-8.十五年戦争と南進政策

【展示のねらい】

- ・ 沖縄が日本に併合されてからの近代の日本のなかでの沖縄の歩みを振り返りながら、沖縄の人々の模索と努力、生きる姿、さらに沖縄が日本が進める戦争に巻き込まれていく姿を示して、ともに考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- ・ 既存映像を活用した映像展示をおこなう。



- ・ 2-7-① 御真影
 - ・ 2-7-② 教育勅語
 - ・ 2-7-③ 奉安殿
 - ・ 2-7-④ 学校防空指針(御真影・教育勅語)奉護のための殉職者
 - ・ 2-7-⑤ 国定教科書(「国語」「修身」など)
 - ・ 2-7-⑥ 標準語励行、方言札
 - ・ 2-7-⑦ 改姓改名
 - ・ 2-7-⑧ 神社、鳥居
 - ・ 2-7-⑨ 神社の建立
 - ・ 2-7-⑩ 創氏改名
 - ・ 2-7-⑪ 皇国臣民の誓詞(宮城遥拝)
 - ・ 2-7-⑫ 植民地での日本語教育
 - ・ 2-7-⑬ 占領地での日本語教育
- グラフィック・映像装置・資料

- ・ 2-8-① 満州事変からの十五年戦争
 - ・ 2-8-② 日中全面戦争
 - ・ 2-8-③ 銃後の戦争体制(千人針、奉公袋、出征)
 - ・ 2-8-④ 従軍した沖縄出身兵
 - ・ 2-8-⑤ 沖縄防備対策
 - ・ 2-8-⑥ 南進政策(南方の重要資源)
 - ・ 2-8-⑦ 第二次世界大戦
 - ・ 2-8-⑧ アジア太平洋戦争(マレー半島上陸と真珠湾攻撃)
- グラフィック・映像装置・資料

2.沖縄戦への道

2-9.第32軍の沖縄配備と飛行場建設

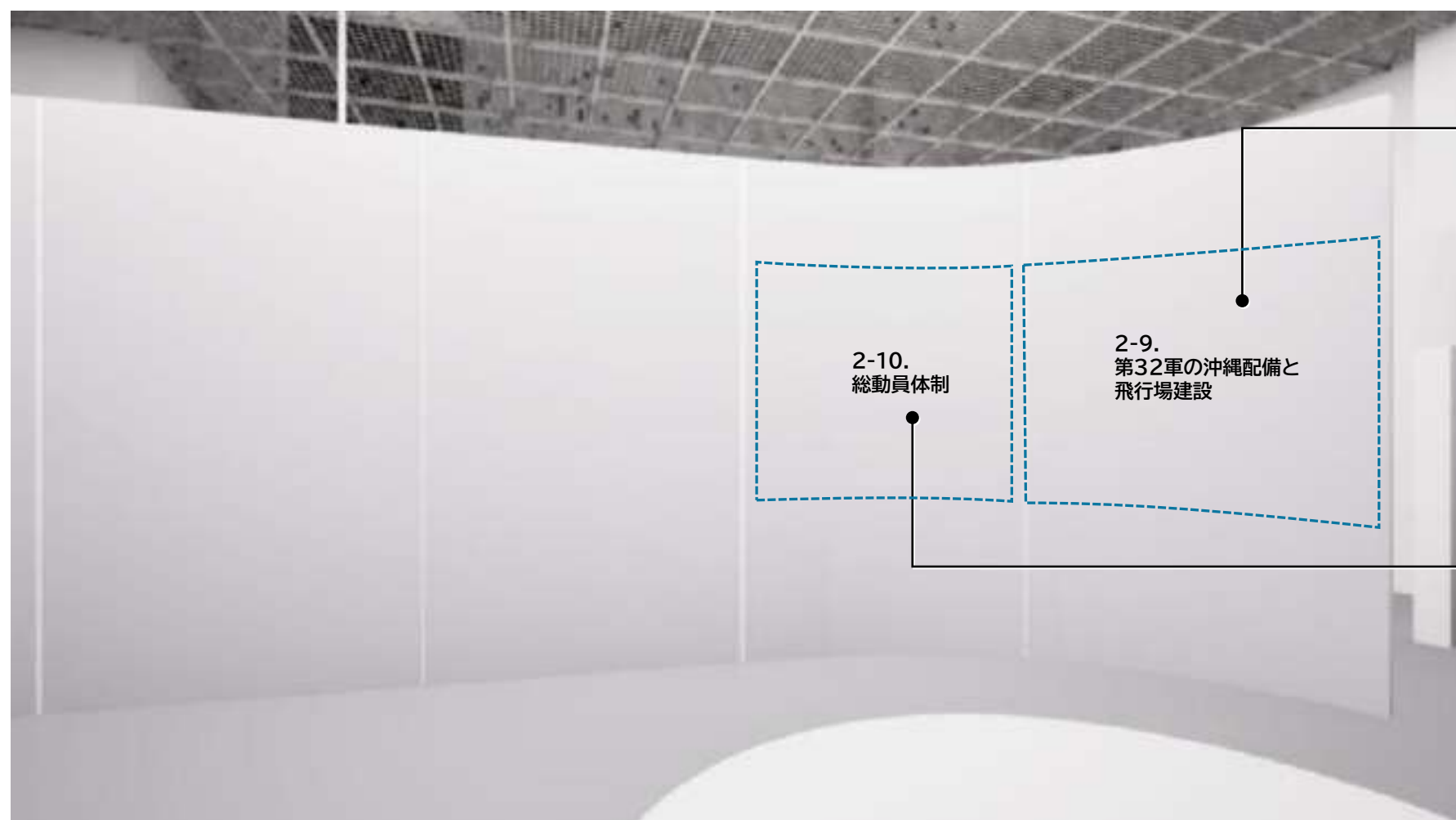
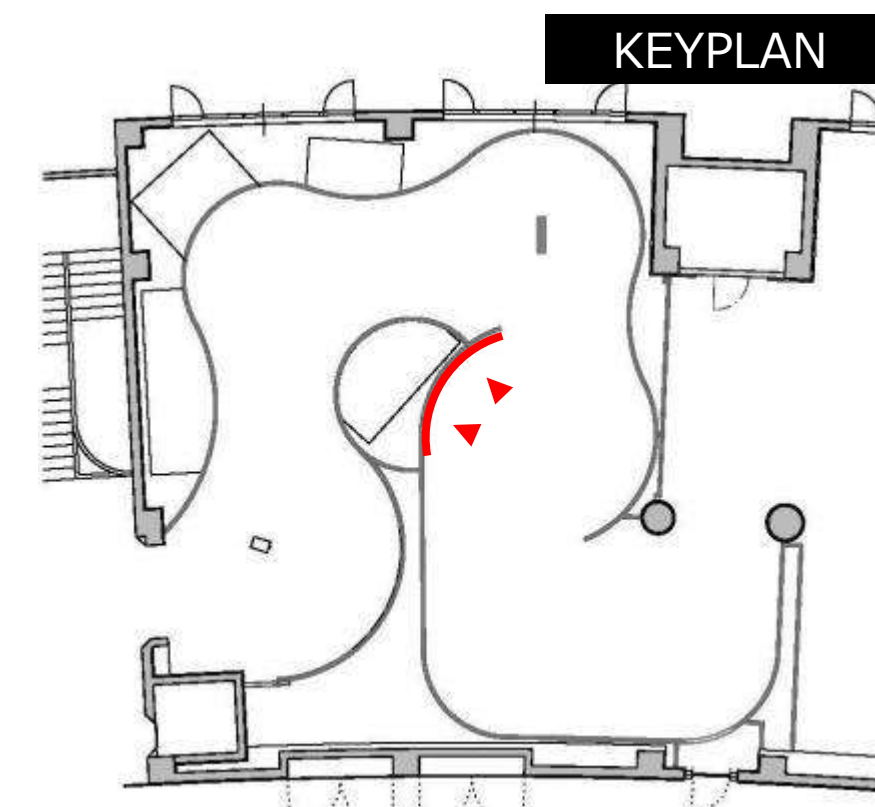
2-10.総動員体制

【展示のねらい】

- 第32軍が沖縄に配備され、沖縄の人々の生活が一気に戦争に組み込まれて大きく変わっていく状況を示すとともに、疎開船の撃沈や十・十空襲など犠牲が生まれ、さらに米軍の上陸が迫るなかで沖縄の人々が戦場に動員されていく姿を伝え、沖縄戦に至る沖縄の社会・人々の状況への理解を深めてもらう。

【展示の展開方針】

- 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- 既存映像を活用した映像展示をおこなう。



- 2-9-① 第32軍創設と配備・構成
 - 2-9-② 飛行場建設
(北飛行場・中飛行場、伊江島など)
 - 2-9-③ 住民の動員
 - 2-9-④ 地上軍の増強配備(1944年7月から)
 - 2-9-⑤ 日本軍慰安所の設置
 - 2-9-⑥ 将兵による非行と住民の反応
 - 2-9-⑦ 陣地の構築
- グラフィック・映像装置・資料

- 2-10-① 徴用(勤労働員)
 - 2-10-② 供出(金属、食糧、木材など)
 - 2-10-③ 徴用・供出の仕組み
(軍・県・市町村・字)
 - 2-10-④ 軍事訓練、竹槍訓練
 - 2-10-⑤ 出征歓送式、慰問袋、千人針、帰還歓迎会、
遺骨帰還・町村葬
 - 2-10-⑥ 配給制度
 - 2-10-⑦ 国防献金
 - 2-10-⑧ マスメディア
 - 2-10-⑨ 軽便鉄道爆発事件
 - 2-10-⑩ 住民の生活、暮らしの変化
- グラフィック・映像装置・資料

2.沖縄戦への道

2-11.子どもたちの戦時体制

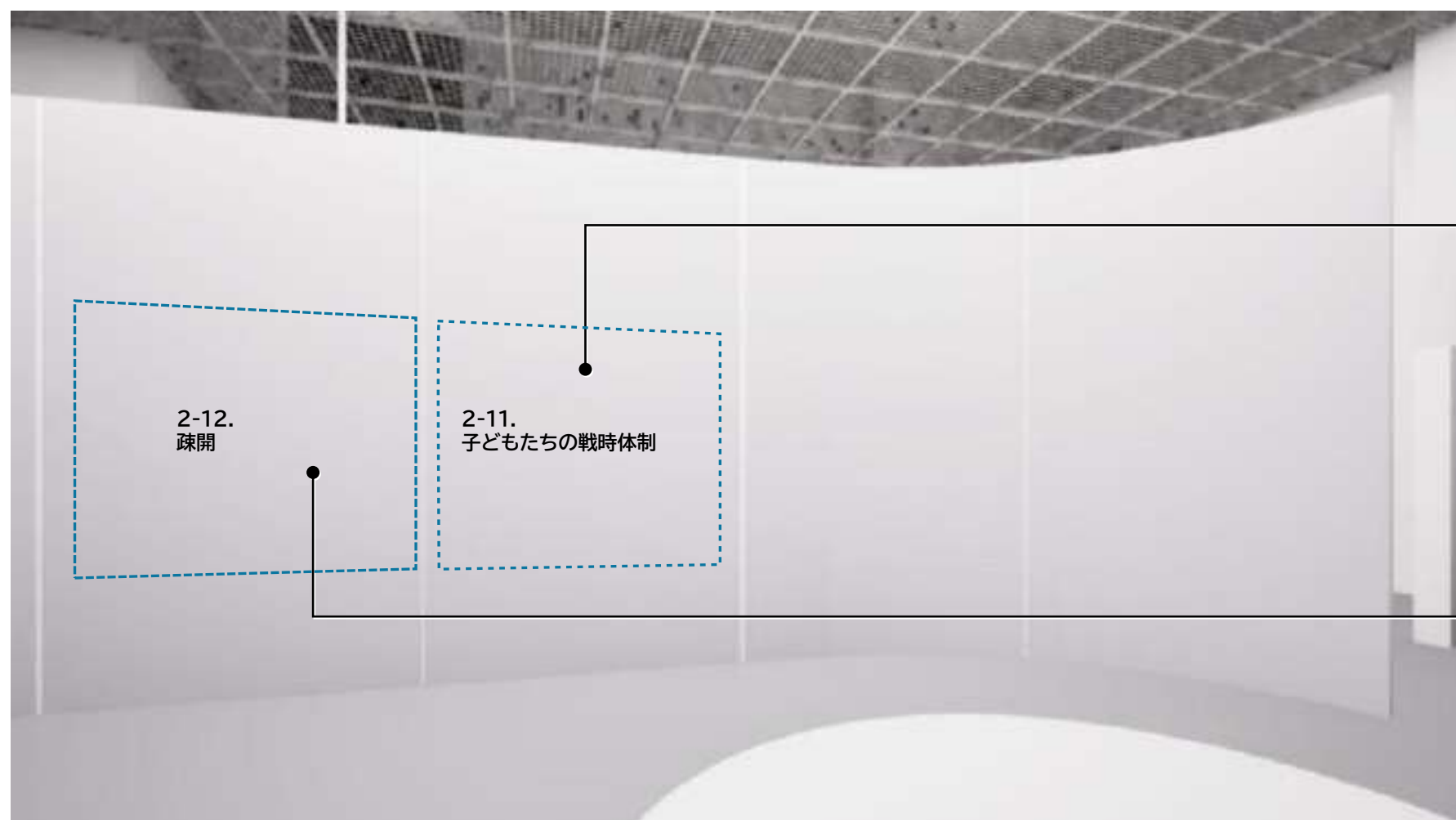
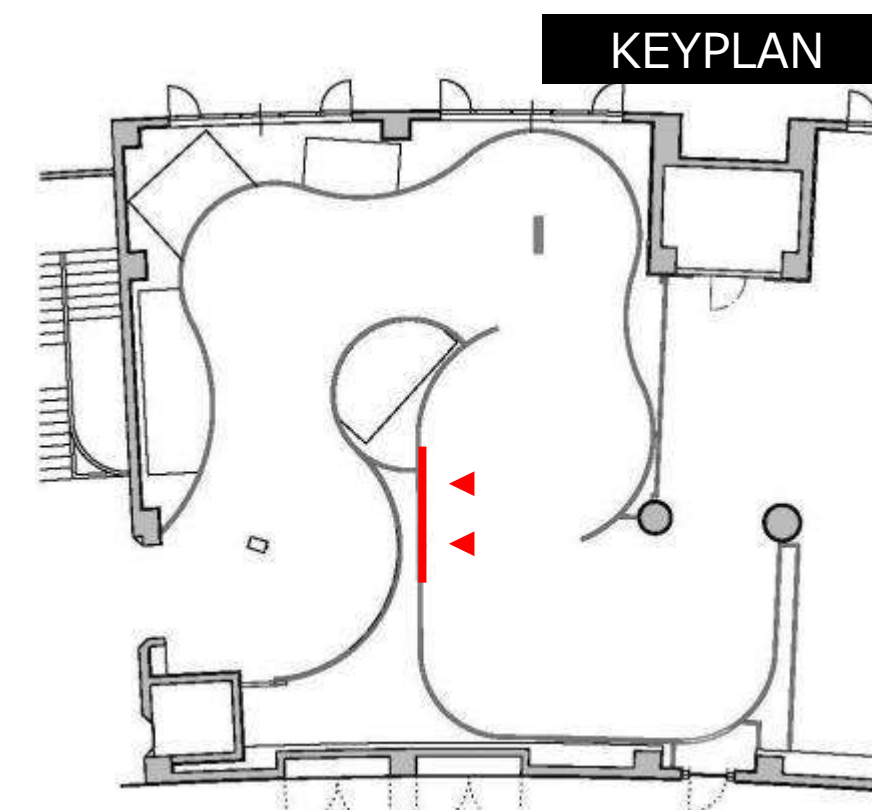
2-12.疎開

【展示のねらい】

- 第32軍が沖縄に配備され、沖縄の人々の生活が一気に戦争に組み込まれて大きく変わっていく状況を示すとともに、疎開船の撃沈や十・十空襲など犠牲が生まれ、さらに米軍の上陸が迫るなかで沖縄の人々が戦場に動員されていく姿を伝え、沖縄戦に至る沖縄の社会・人々の状況への理解を深めてもらう。

【展示の展開方針】

- 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- 既存映像を活用した映像展示をおこなう。



- 2-11-① 軍による学校接收、青空教室
- 2-11-② 勤労働員、陣地構築、食糧増産
- 2-11-③ 小学生(国民学校児童)の日常の変化
- 2-11-④ 竹槍訓練、沖縄青少年団訓練
- 2-11-⑤ 競技の変化(戦場競技へ)
- 2-11-⑥ 子どもたちの遊びの変化

グラフィック・映像装置・資料

- 2-12-① 疎開政策(立案の経緯、疎開の考え方)
- 2-12-② 軍の方針
- 2-12-③ 県の方針・関わり(知事と軍の対立、知事交代による変化)
- 2-12-④ 県外疎開(九州、台湾)
- 2-12-⑤ 学童疎開(対馬丸など)
- 2-12-⑥ 北部(やんばる)疎開(県の方針、受け入れ体制、避難民の取扱、食糧難)
- 2-12-⑦ 宮古・八重山の県外疎開(台湾疎開、郡内の別の島への強制疎開、島内強制疎開)
- 2-12-⑧ 疎開と飢餓・マラリア(特に北部疎開、宮古・八重山)
- 2-12-⑨ 疎開先での生活(九州、台湾)

グラフィック・映像装置・資料

2.沖縄戦への道

2-13.防諜とスパイ取締り

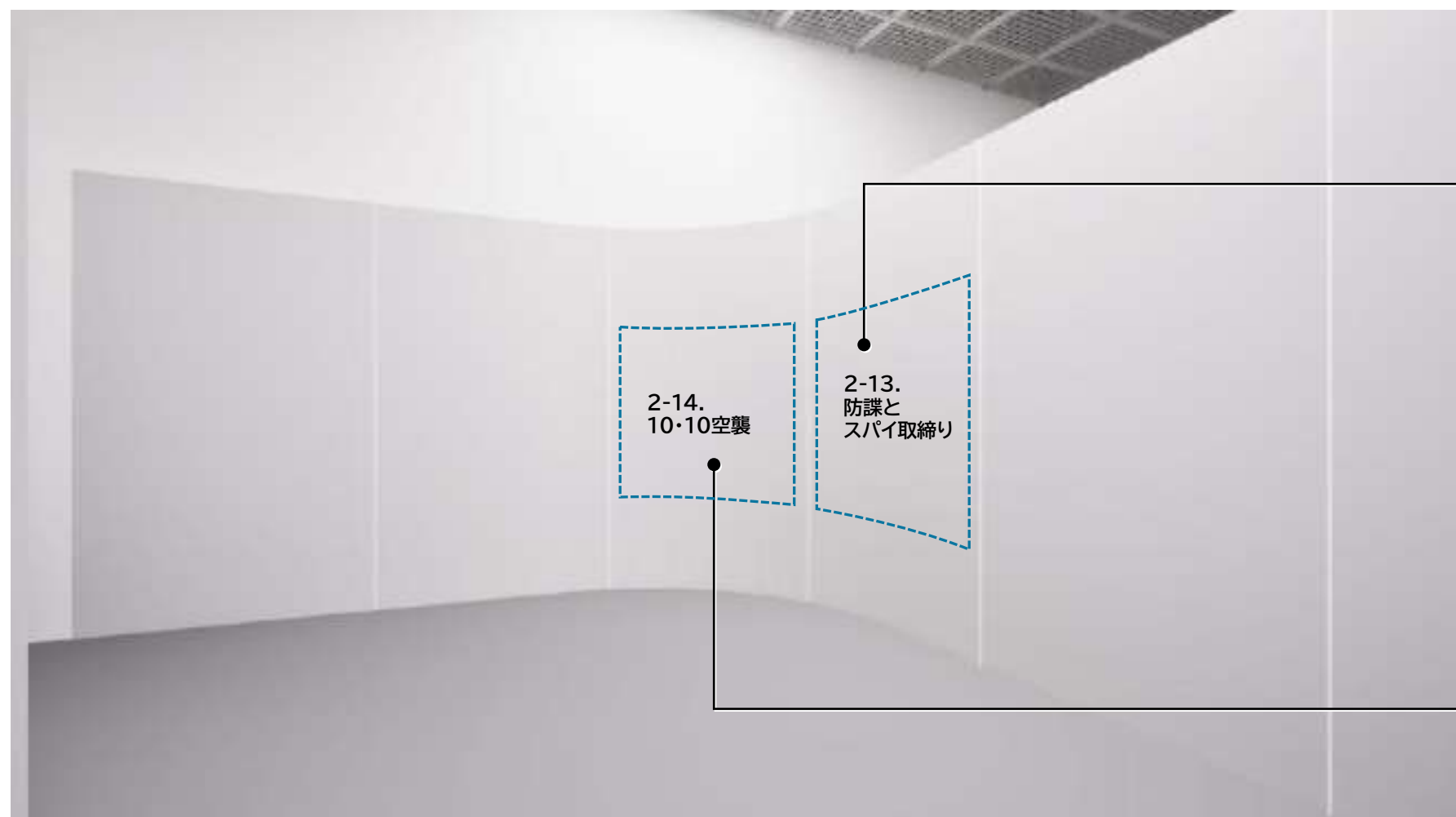
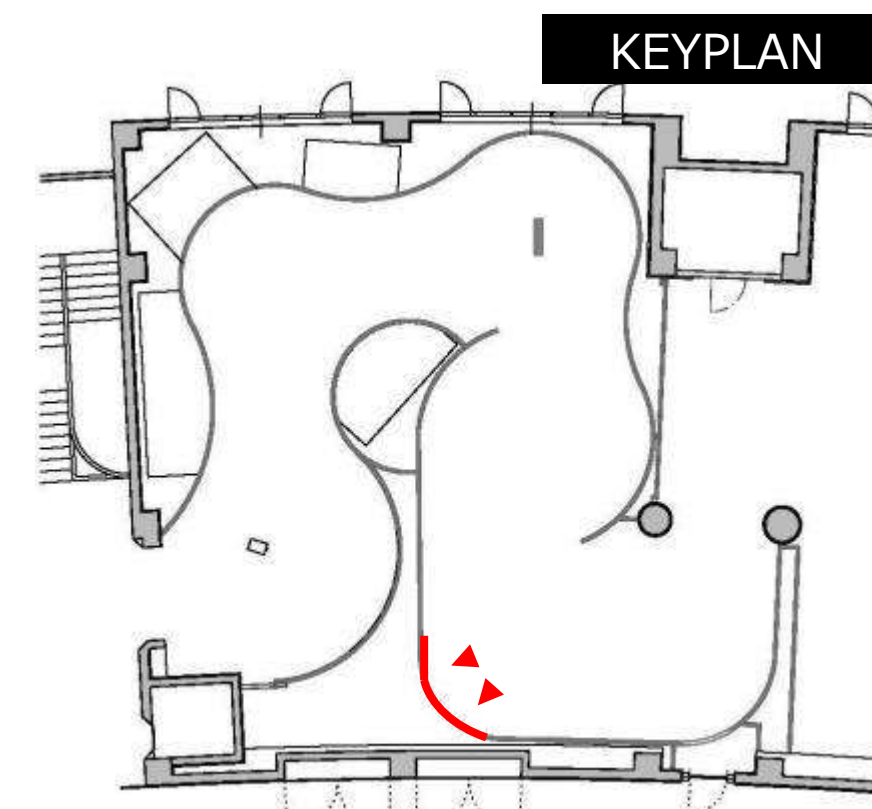
2-14.10・10空襲

【展示のねらい】

- ・ 第32軍が沖縄に配備され、沖縄の人々の生活が一気に戦争に組み込まれて大きく変わっていく状況を示すとともに、疎開船の撃沈や十・十空襲など犠牲が生まれ、さらに米軍の上陸が迫るなかで沖縄の人々が戦場に動員されていく姿を伝え、沖縄戦に至る沖縄の社会・人々の状況への理解を深めてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- ・ 既存映像を活用した映像展示をおこなう。



- ・ 2-13-① 社会運動の取締り
- ・ 2-13-② 個人の言動の取締り、監視
- ・ 2-13-③ 防諜
- ・ 2-13-④ 住民の相互監視、密告
- ・ 2-13-⑤ 国土隊(秘密戦に関する書類)
- ・ 2-13-⑥ 移民帰りの監視
- ・ 2-13-⑦ 沖縄語禁止
- ・ 2-13-⑧ 久米島の日本軍と住民
- ・ 2-13-⑨ 日本軍による防諜取締り
- ・ 2-13-⑩ 警察文書
- ・ 2-13-⑪ 軍機保護法、特高、国防保安法
グラフィック・映像装置・資料

- ・ 2-14-① 10・10空襲の経過
- ・ 2-14-② 米軍の作戦目的・計画
- ・ 2-14-③ 空襲被害(那覇、各地、船舶)
- ・ 2-14-④ 宮古・八重山諸島への空襲(10.12-13も含め)
- ・ 2-14-⑤ 日本政府による抗議、米国政府の対応
グラフィック・映像装置・資料

2.沖縄戦への道

2-15.戦時船舶の犠牲

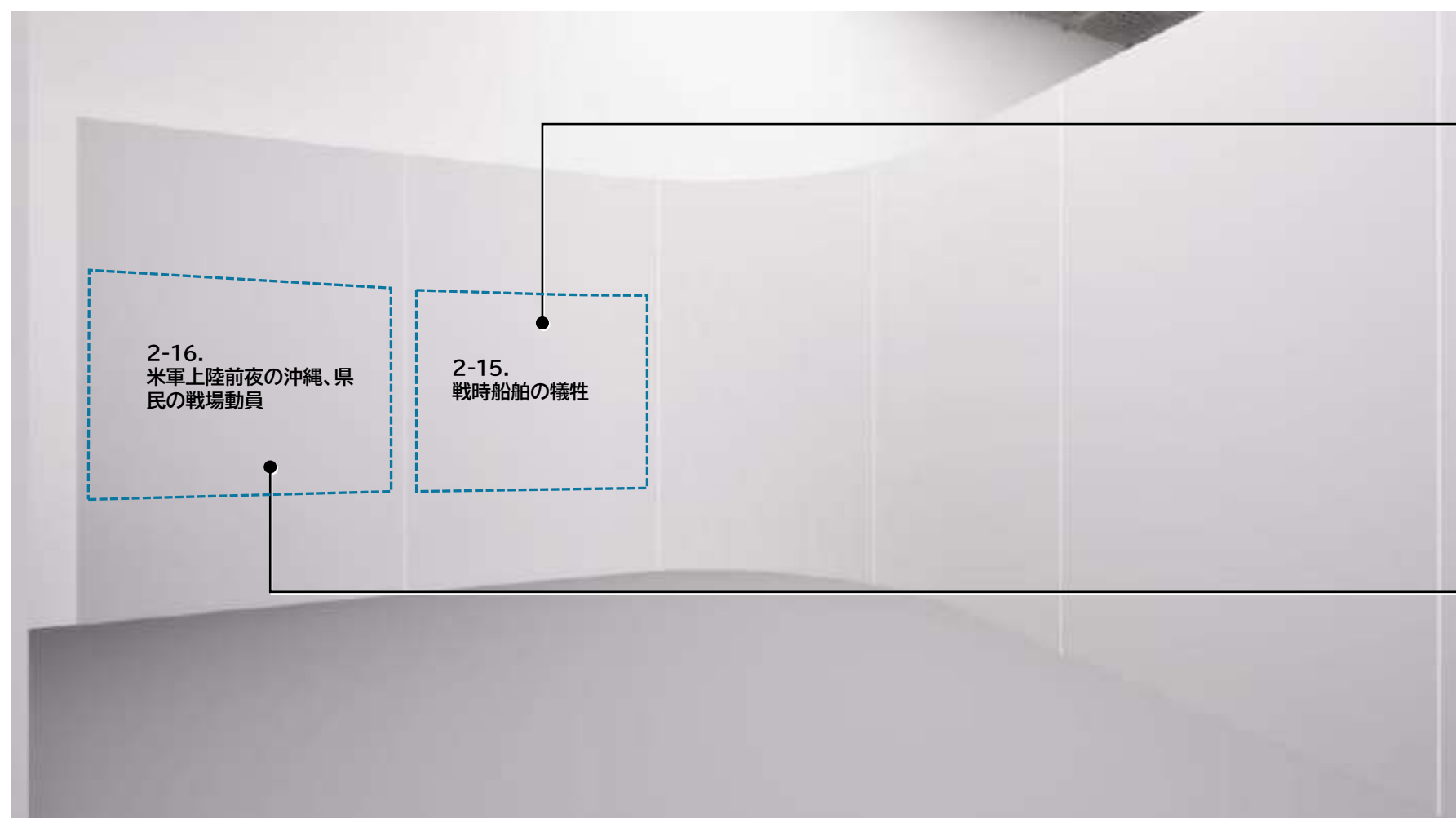
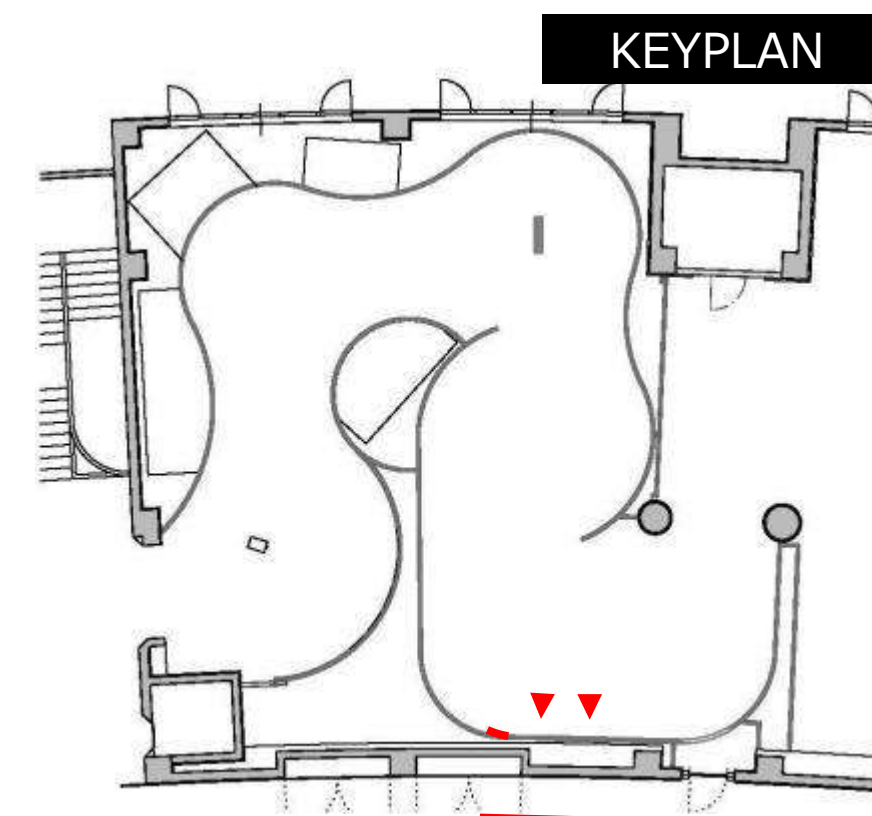
2-16.米軍上陸前夜の沖縄、県民の戦場動員

【展示のねらい】

- 第32軍が沖縄に配備され、沖縄の人々の生活が一気に戦争に組み込まれて大きく変わっていく状況を示すとともに、疎開船の撃沈や十・十空襲など犠牲が生まれ、さらに米軍の上陸が迫るなかで沖縄の人々が戦場に動員されていく姿を伝え、沖縄戦に至る沖縄の社会・人々の状況への理解を深めてもらう。

【展示の展開方針】

- 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- 既存映像を活用した映像展示をおこなう。



- 2-15-① 沖縄関係戦時遭難船舶一覧
- 2-15-② 対馬丸、嘉義丸、湖南丸など
- 2-15-③ 連絡船、漁船など小型艦船の犠牲
グラフィック・映像装置・資料

- 2-16-① 軍官一体の県民の戦場動員体制
- 2-16-② 知事諭告第2号
- 2-16-③ 根こそぎ動員
- 2-16-④ 防衛隊
- 2-16-⑤ 義勇隊
- 2-16-⑥ 伊江島の軍官民合同訓練
- 2-16-⑦ 遊撃隊(護郷隊)
- 2-16-⑧ 女性たちの動員、救護班、炊事班等
- 2-16-⑨ 国民抗戦必携
グラフィック・映像装置・資料

2.沖縄戦への道

2-17.学徒の動員

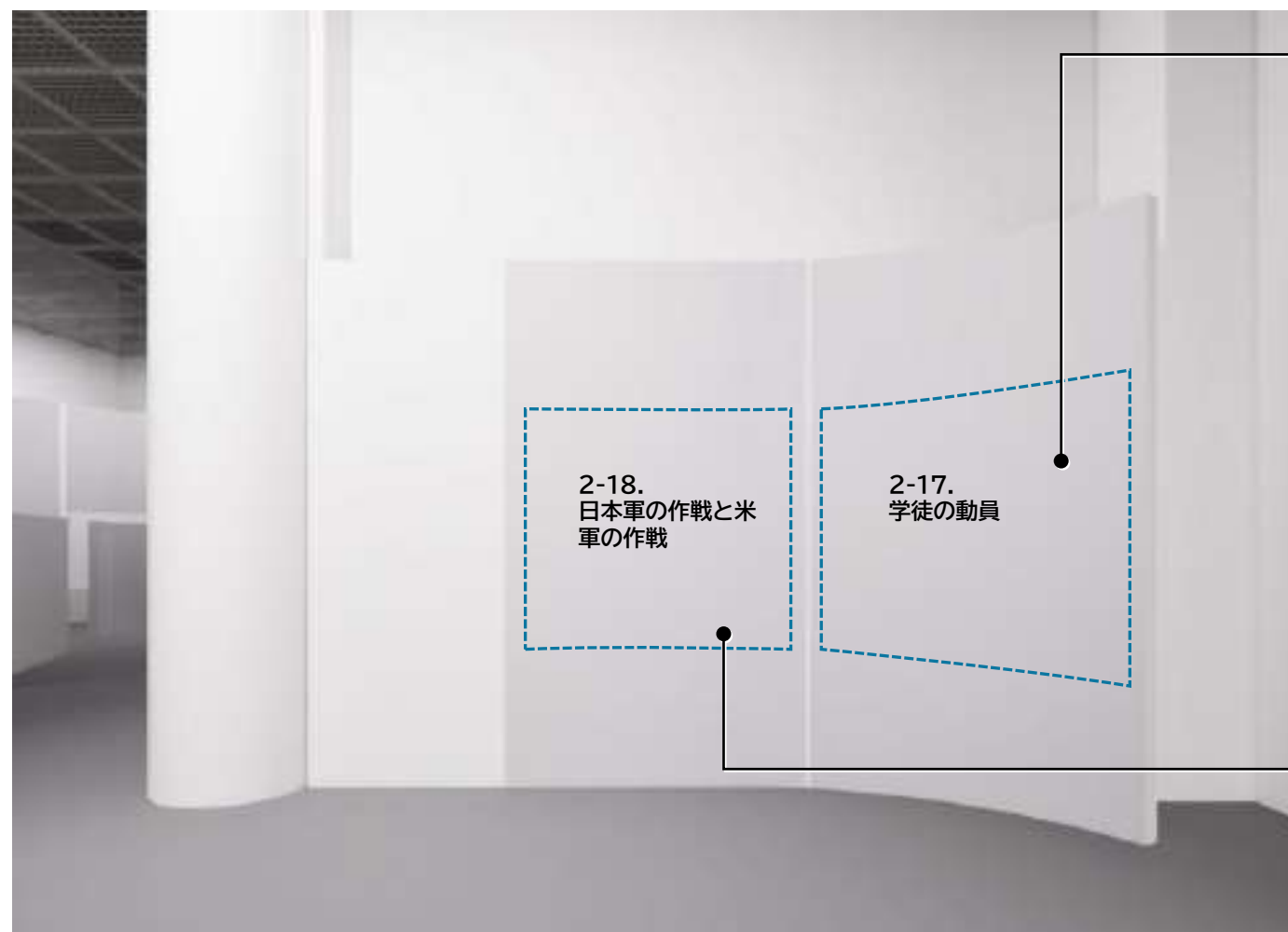
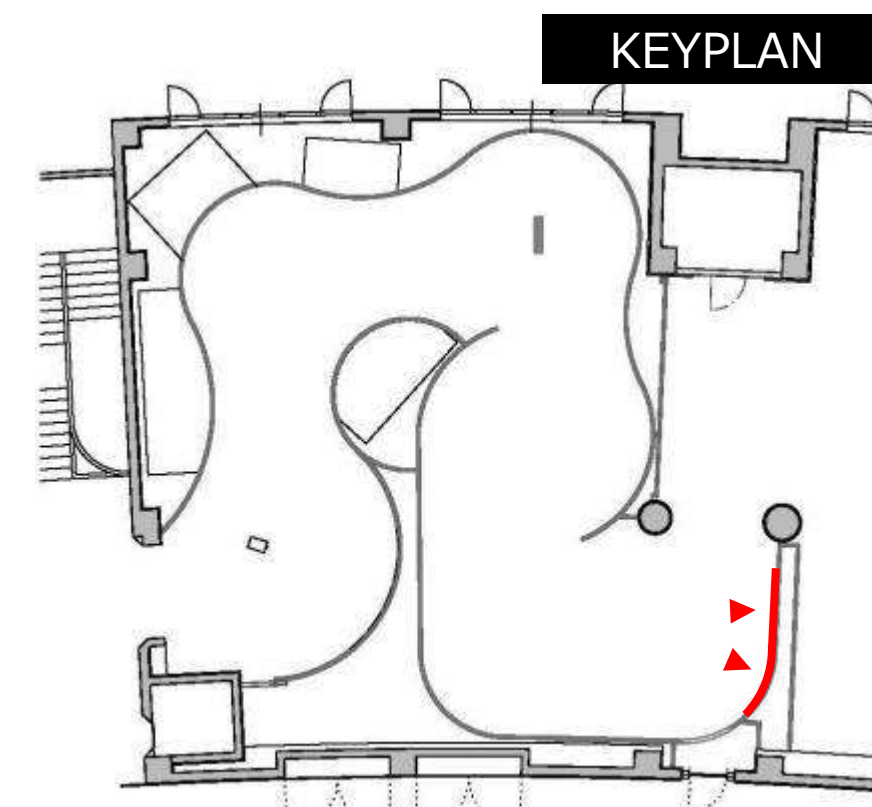
2-18.日本軍の作戦と米軍の作戦

【展示のねらい】

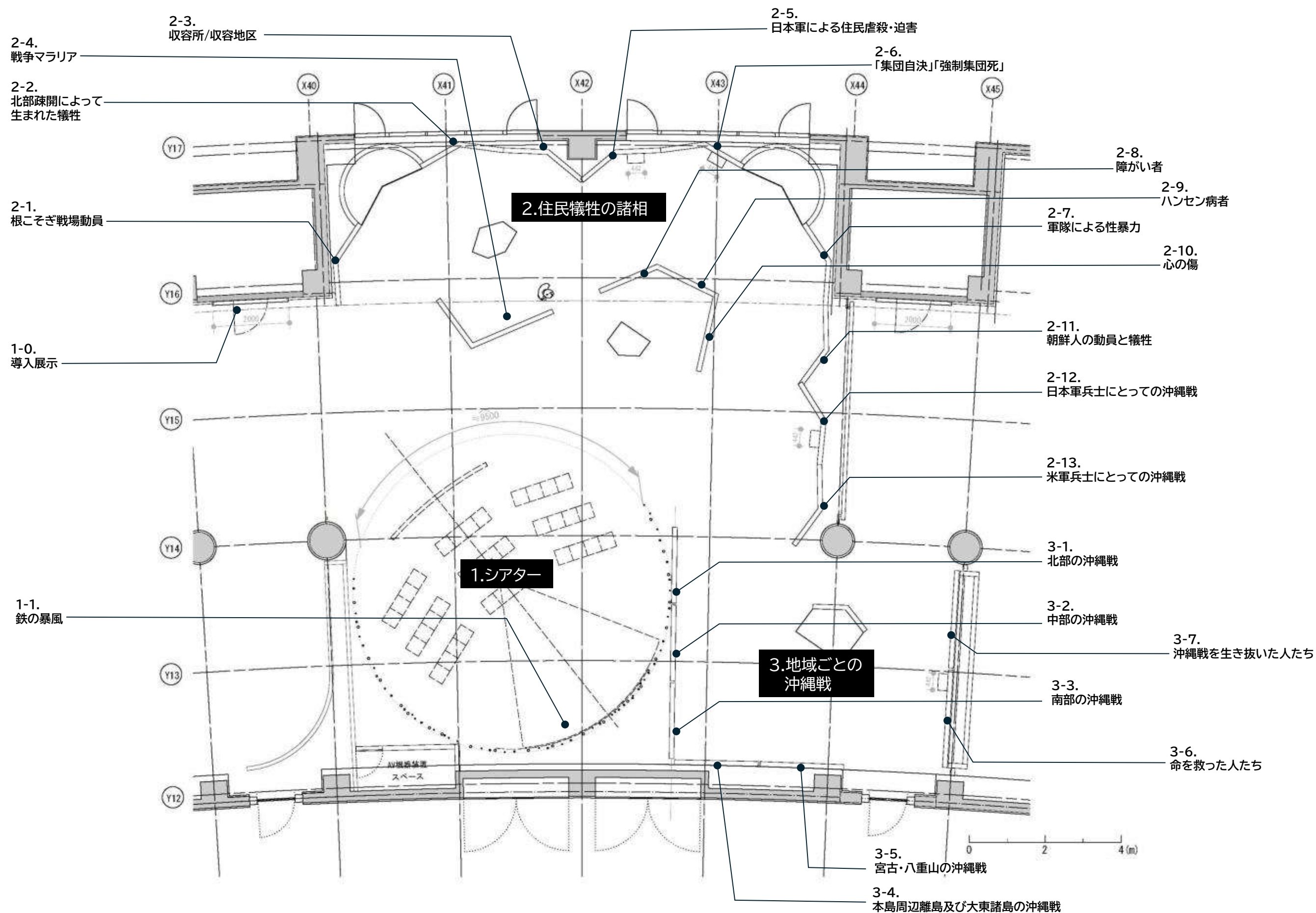
- 第32軍が沖縄に配備され、沖縄の人々の生活が一気に戦争に組み込まれて大きく変わっていく状況を示すとともに、疎開船の撃沈や十・十空襲など犠牲が生まれ、さらに米軍の上陸が迫るなかで沖縄の人々が戦場に動員されていく姿を伝え、沖縄戦に至る沖縄の社会・人々の状況への理解を深めてもらう。

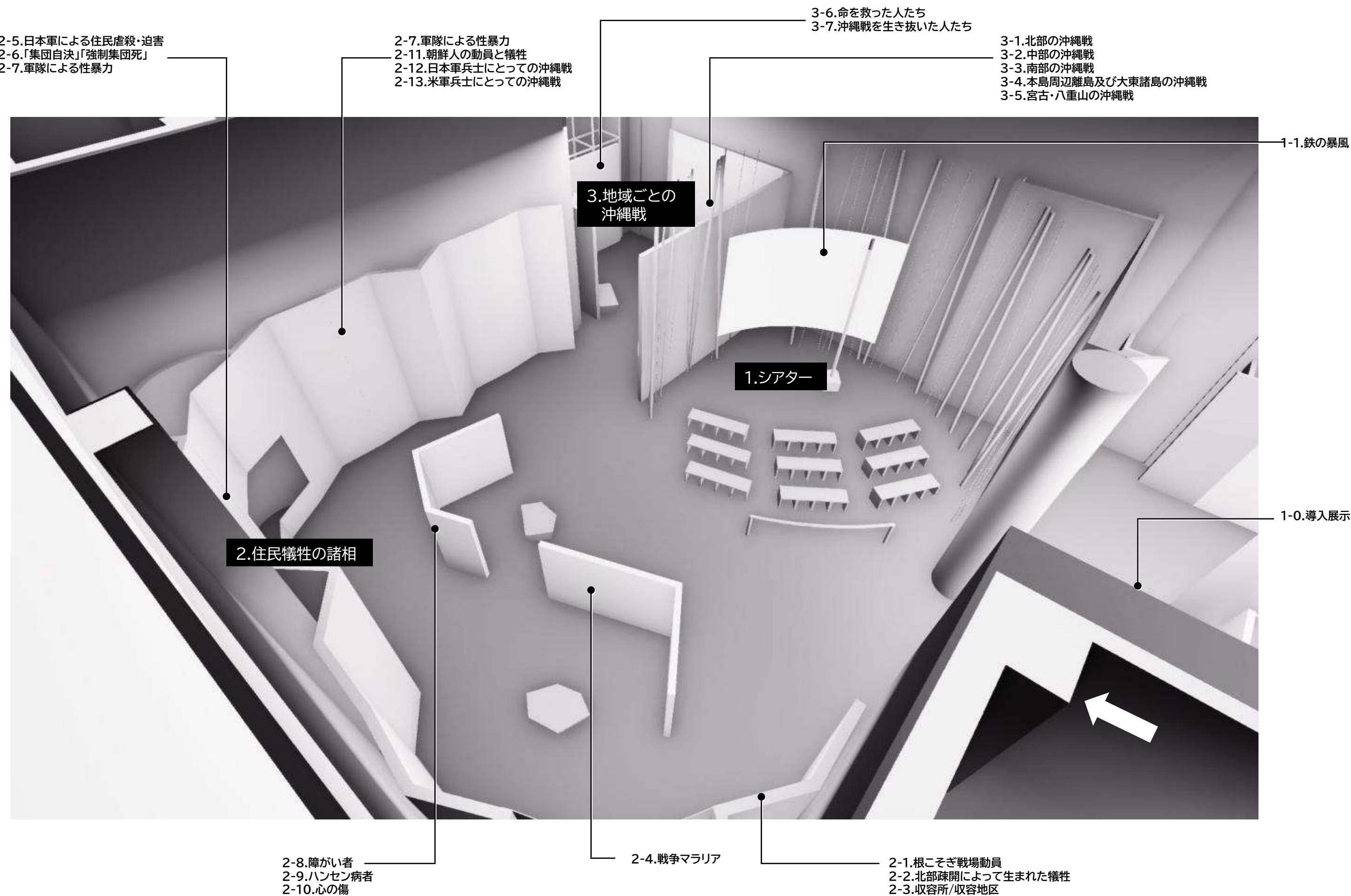
【展示の展開方針】

- 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- 既存映像を活用した映像展示をおこなう。



- 2-17-① 勤労働員
- 2-17-② 軍事訓練、竹槍訓練
- 2-17-③ 中学生、高等女学校生らの戦場動員(軍県三者覚書)
- 2-17-④ 戦場動員と女性差別
- 2-17-⑤ 学校ごとの動員状況と教師の対応
- 2-17-⑥ 遊撃隊(護郷隊)への学徒の動員
グラフィック・映像装置・資料
- 2-18-① 日本軍の装備と作戦
- 2-18-② 戦陣訓、各種教令
- 2-18-③ 近衛上奏文
- 2-18-④ 大本營の方針
- 2-18-⑤ 第32軍の方針
(作戦計画、時間稼ぎ、南部撤退など)
- 2-18-⑥ 住民対策
- 2-18-⑦ 捕虜・投降禁止(民間人も対象)
- 2-18-⑧ 戦闘方法(斬り込み隊など)
- 2-18-⑨ 国土決戦教令
- 2-18-⑩ 第32軍司令官最後の命令
- 2-18-⑪ 航空特攻
- 2-18-⑫ 海上特攻
- 2-18-⑬ 地上特攻
- 2-18-⑭ アイスバーグ作戦
(沖縄作戦の目的)
- 2-18-⑮ 米軍の戦力・部隊
- 2-18-⑯ 心理戦
- 2-18-⑰ 住民対策
グラフィック・映像装置・資料





1. シアター

1-1.鉄の暴風

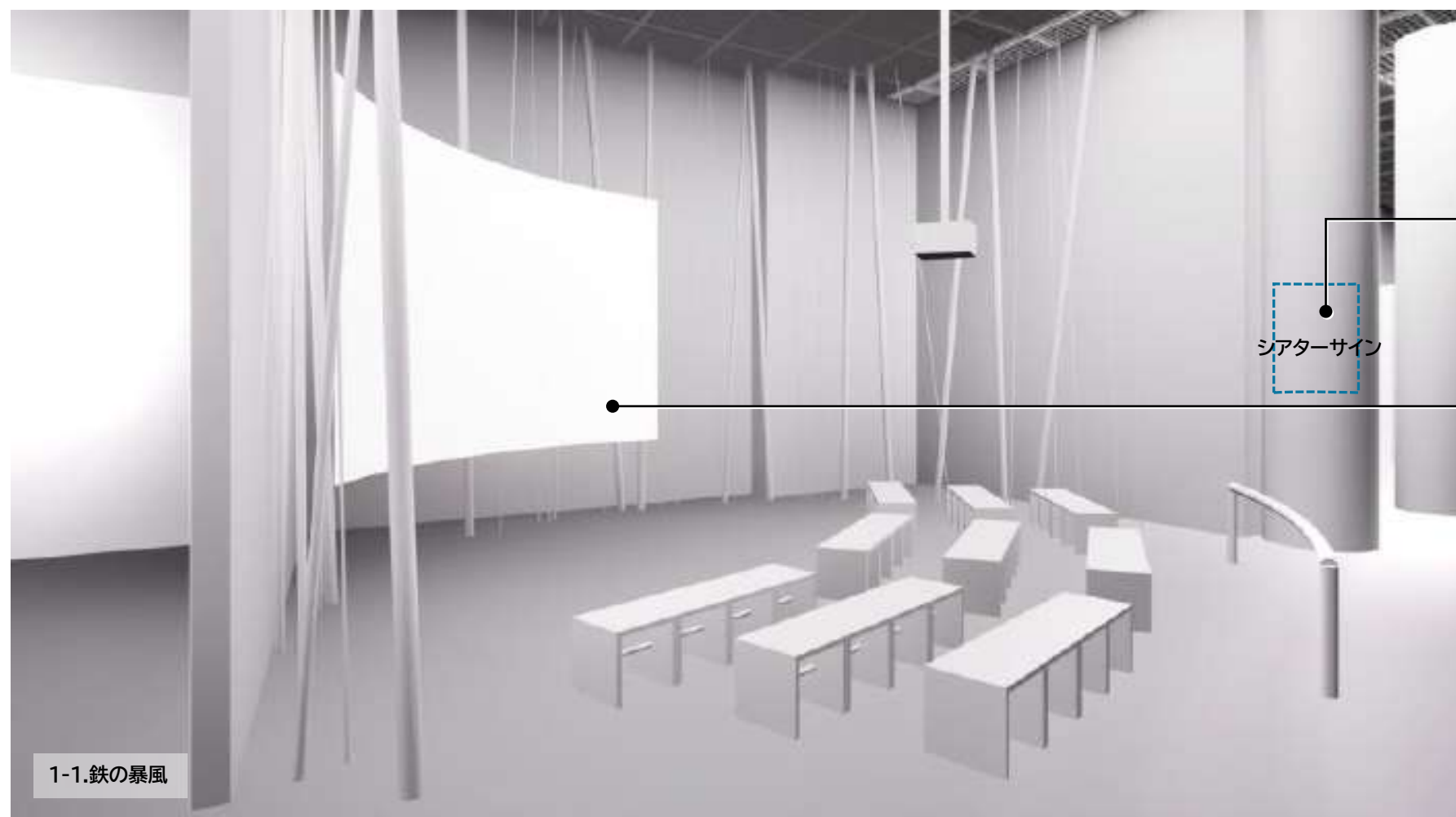
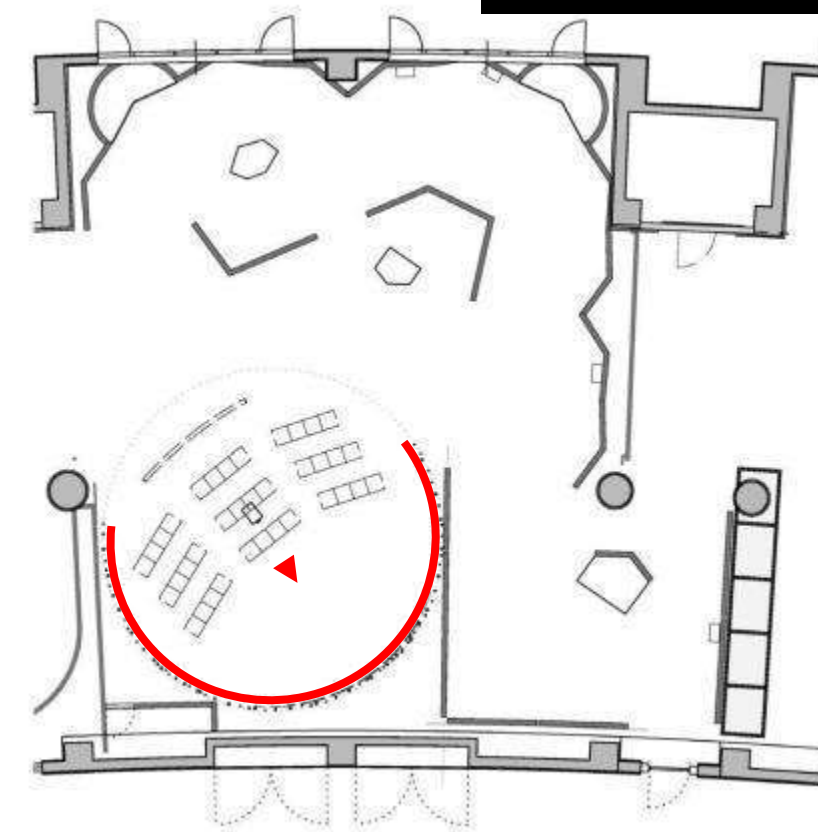
【展示のねらい】

- ・ 米軍上陸から戦闘終結までの経過を通して沖縄戦の全体像を示すとともに、激しい戦闘の中に兵士と区別なく住民が巻き込まれ、甚大な被害を受けた実態を、証言映像を通して住民の視点から伝える。

【展示の展開方針】

- ・ 沖縄戦の経緯を時間軸に沿って辿る「実写映像」と住民の証言で構成する「証言映像」を上映する。
- ・ 地形を変えるほどの破壊をもたらした、「鉄の暴風」と呼ばれる米軍による圧倒的な砲爆撃の凄まじさ、攻撃の状況を描く。
- ・ 各地で甚大な被害があったこと、“地獄”と称される沖縄戦の実相を、証言映像を通して、住民の視点から物語る。

KEYPLAN



グラフィック

シアターサイン

- ・ 1-1-① 沖縄戦戦闘経過
- ・ 1-1-② 住民の戦争体験映像装置

1-1.鉄の暴風

プロジェクターにより、「実写映像」と「証言映像」がループ再生される。

1. シアター

1-1.鉄の暴風

○放映方式など

- ・ ループ方式で「実写映像」と「証言映像」を交互に上映する。
- ・ 「実写映像」と「証言映像」の間に30秒～1分程度のインターバルを設ける。
- ・ 両映像ともに、日本語ナレーション(「証言映像」は証言者の声)、日本語及び英語テロップを採用する。

■沖縄戦を捉えた「実写映像」の展開方針及び展開案

- ・ 沖縄戦のはじまりから終結までの経緯を時系列に沿って分かりやすく伝える。
- ・ 戦闘場面だけでなく、米軍によってつくられた収容所、ガマなどから民間人が救出されるシーンも取り上げる。
- ・ 適宜、戦闘地域や軍隊の移動経路を示すことで、沖縄戦の経緯についての理解を助ける。



■沖縄戦の体験を物語る「証言映像」の展開方針

- ・ 実写映像からは見えてこない、住民の視点から見た戦闘・戦場の実相を伝える。
- ・ 適宜、戦闘地域や移動経路を図示することで、沖縄戦の経緯についての理解を助ける。
- ・ 映像のねらいや目的に合わせ、実施設計以降に証言者や証言の選定をおこなう。

2.住民犠牲の諸相

2-1.根こそぎ戦場動員

2-2.北部疎開によって生まれた犠牲

2-3.収容所/収容地区

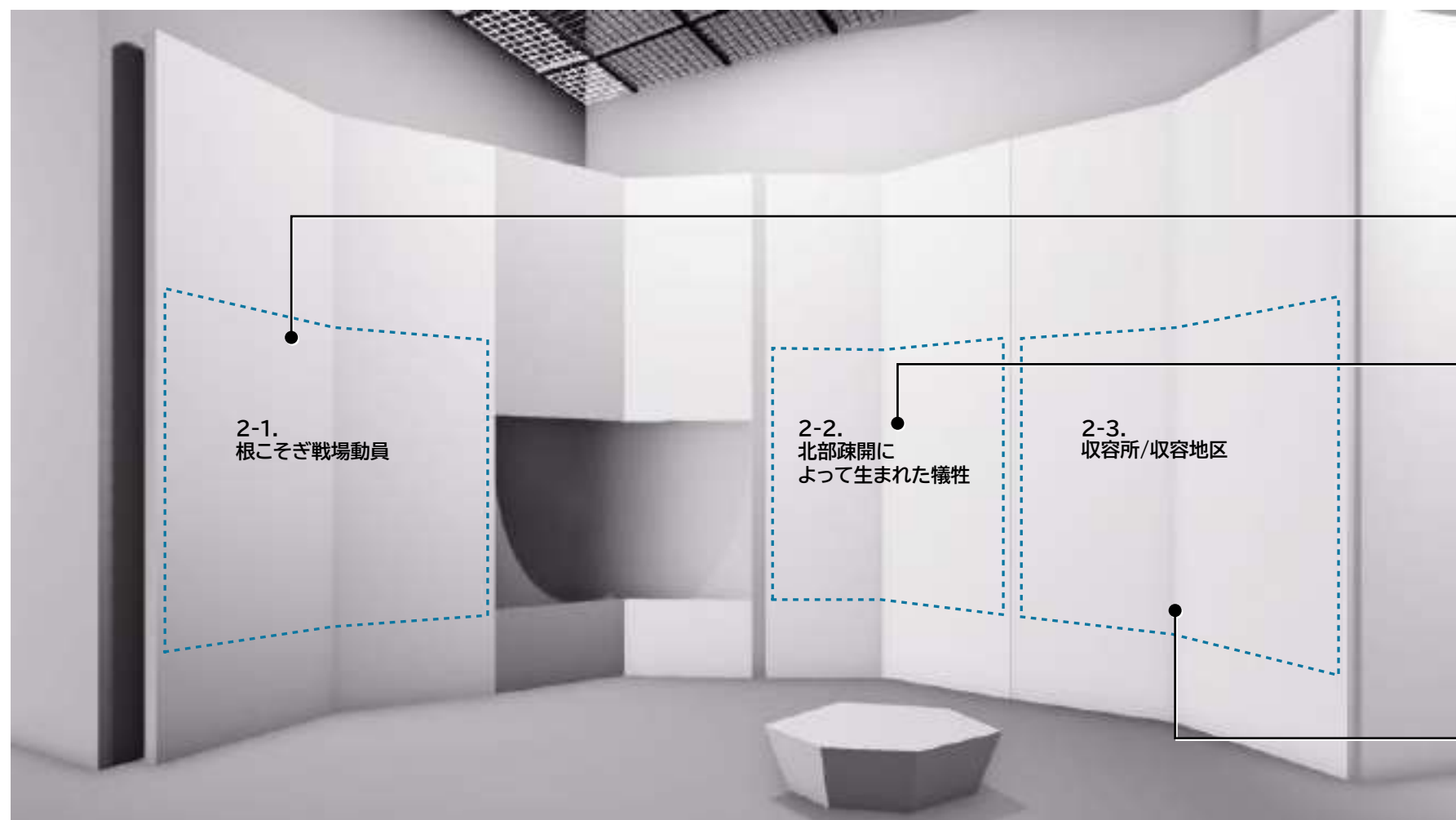
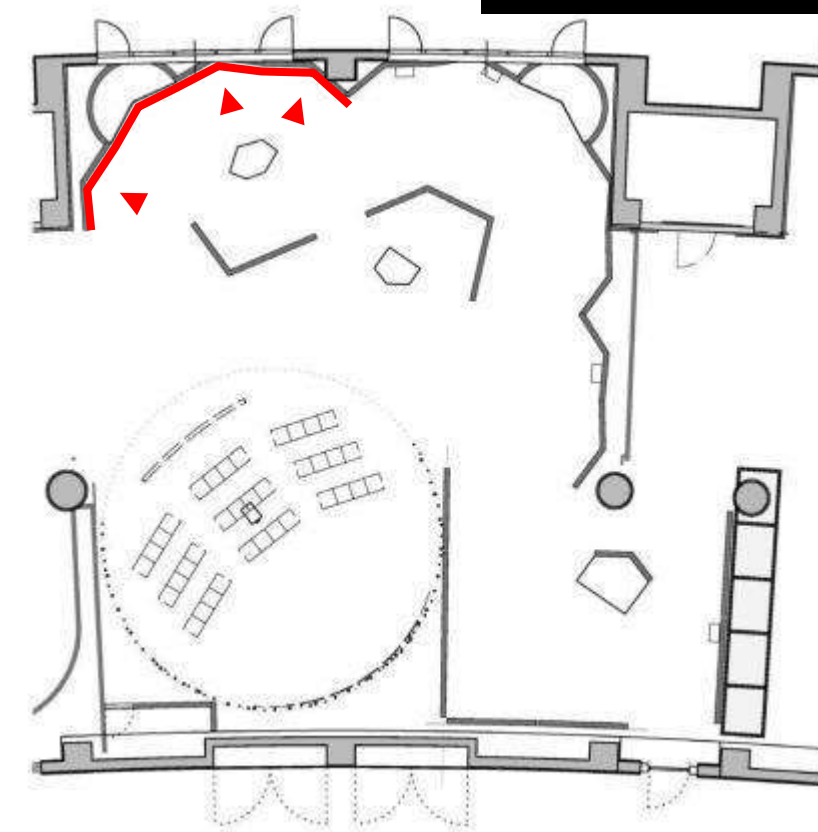
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦の中で住民の犠牲について、戦闘に巻き込まただけでなく、飢えやマラリア、性暴力など被害の多様な実相を理解してもらう。またそこに巻き込まれた朝鮮人や日米両軍の兵士たちの犠牲も取り上げ、一人一人の個人にとっての戦争の意味を考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- ・ 既存映像を活用した映像展示をおこなう。
- ・ 「住民犠牲の諸相」の情報を構成する基礎となった、市史などの地域史について紹介する。
- ・ デジタル端末、あるいはめくり式グラフィックなどの手法により、素朴な疑問を入口に考える素材や資料、視点、論点を提供し、来館者の思考を促す展示を設ける。

KEYPLAN



- ・ 2-1-① 戦場での物資運搬、道案内、斬り込み
 - ・ 2-1-② 捕虜になることを許さない
 - ・ 2-1-③ 投降阻止、スパイ視
 - ・ 2-1-④ 米軍上陸下、砲爆撃の中での動員
 - ・ 2-1-⑤ 市町村長・警察署長会議(県指示、知事訓示)
 - ・ 2-1-⑥ 知事から県民への最後の訓示
 - ・ 2-1-⑦ 海軍根拠地隊
 - ・ 2-1-⑧ 沖縄出身兵
- グラフィック・資料

- ・ 2-2-① 北部疎開方針(棄民政策)
 - ・ 2-2-② 投降阻止、スパイ視
 - ・ 2-2-③ 警察の役割(県警察文書)
 - ・ 2-2-④ やんばる山中の避難民の実相(食糧、住居、日々の生活)
 - ・ 2-2-⑤ 日本兵による迫害(食糧強奪、虐殺)
- グラフィック・資料

- ・ 2-3-① 米軍政策
 - ・ 2-3-② 食糧難(飢えとマラリア)
 - ・ 2-3-③ 米軍基地建設と住民移動(軍事優先、劣悪な収容地区)
 - ・ 2-3-④ 収容所内の避難民と日本軍
 - ・ 2-3-⑤ 学校の開設
 - ・ 2-3-⑥ 戦争孤児、孤児院
- グラフィック・映像装置・資料

2.住民犠牲の諸相

2-4.戦争マラリア

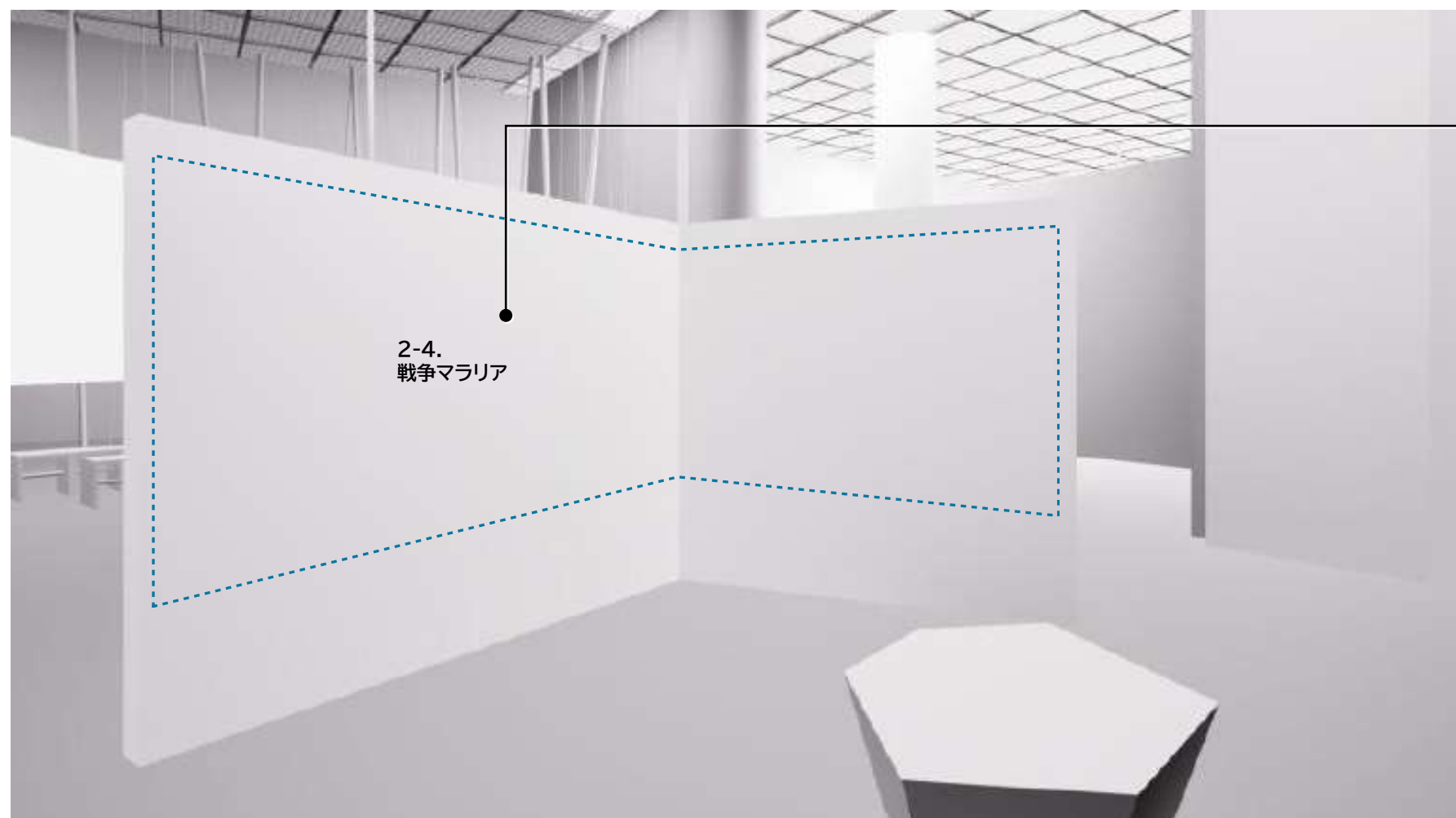
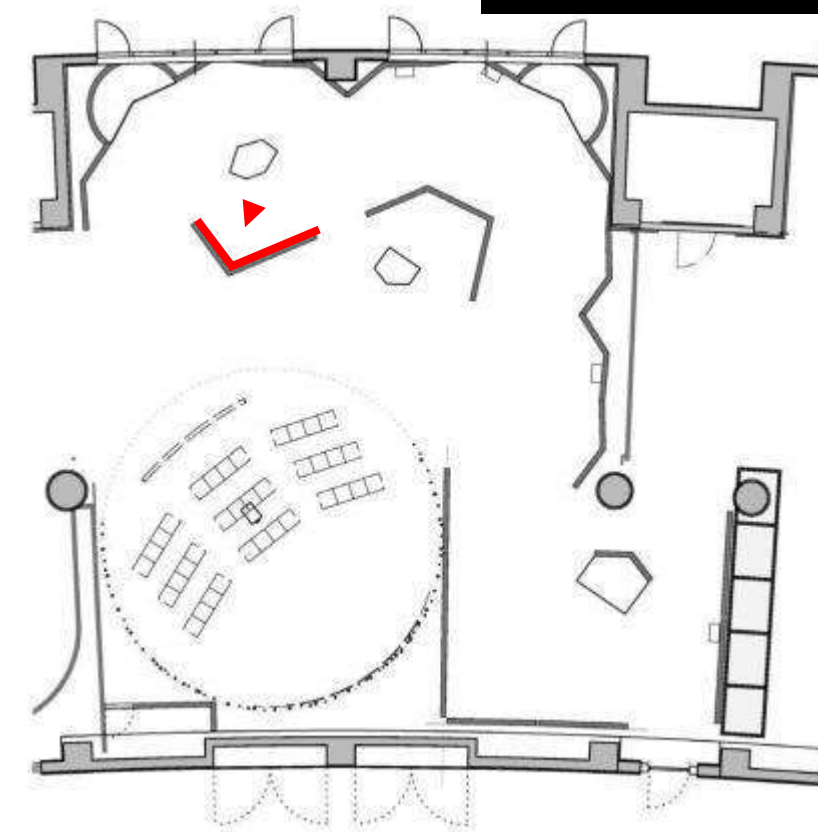
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦の中で住民の犠牲について、戦闘に巻き込まれただけでなく、飢えやマラリア、性暴力など被害の多様な実相を理解してもらう。またそこに巻き込まれた朝鮮人や日米両軍の兵士たちの犠牲も取り上げ、一人一人の個人にとっての戦争の意味を考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- ・ 既存映像を活用した映像展示をおこなう。
- ・ 「住民犠牲の諸相」の情報を構成する礎となった、市史などの地域史について紹介する。
- ・ デジタル端末、あるいはめくり式グラフィックなどの手法により、素朴な疑問を入口に考える素材や資料、視点、論点を提供し、来館者の思考を促す展示を設ける。

KEYPLAN



- ・ 2-4-① 沖縄本島北部のマラリア
- ・ 2-4-② 宮古島のマラリア
- ・ 2-4-③ 八重山諸島の戦争マラリアと残置諜者グラフィック

2.住民犠牲の諸相

2-5.日本軍による住民虐殺・迫害

2-6.「集団自決」「強制集団死」

2-7.軍隊による性暴力

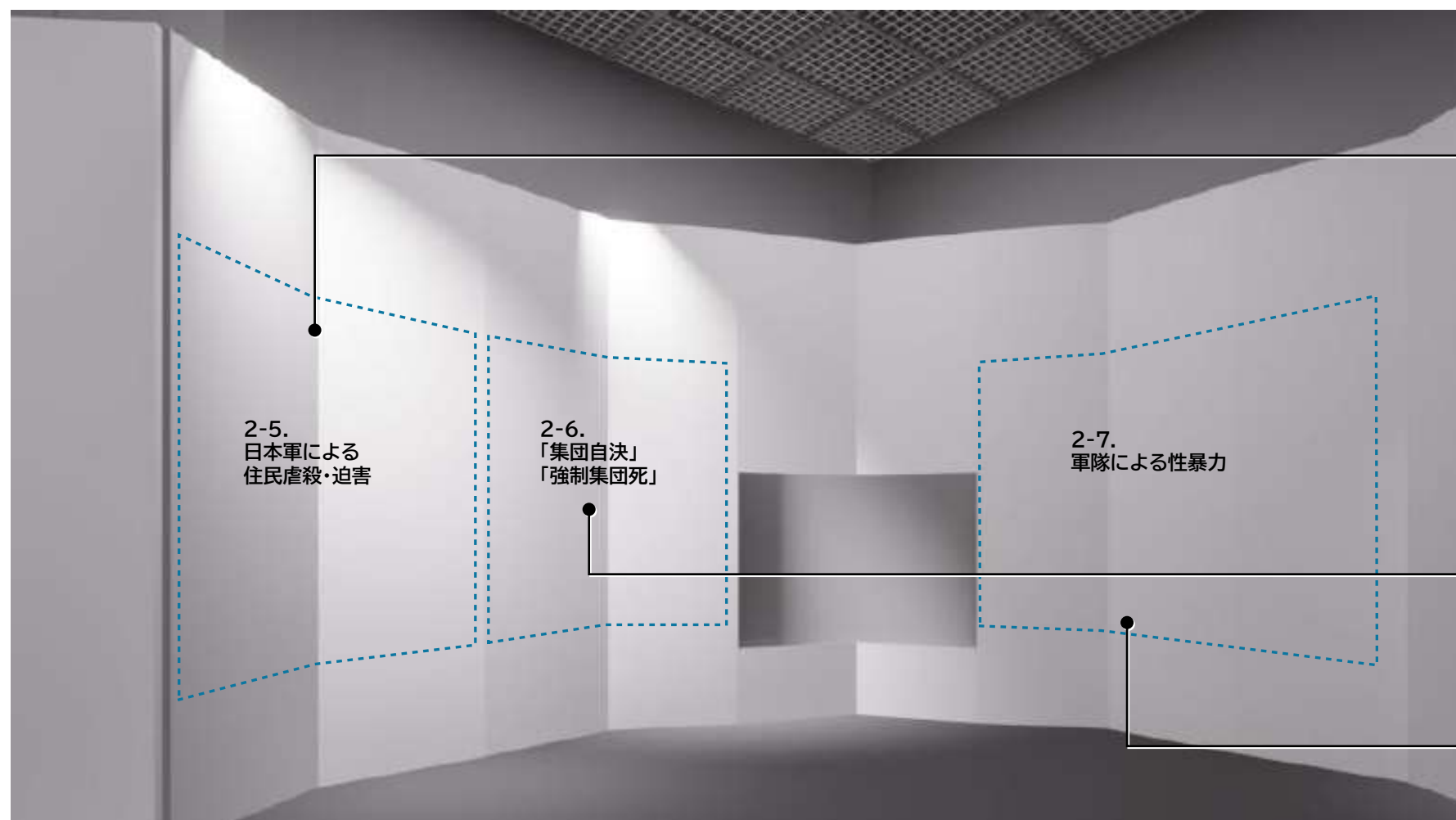
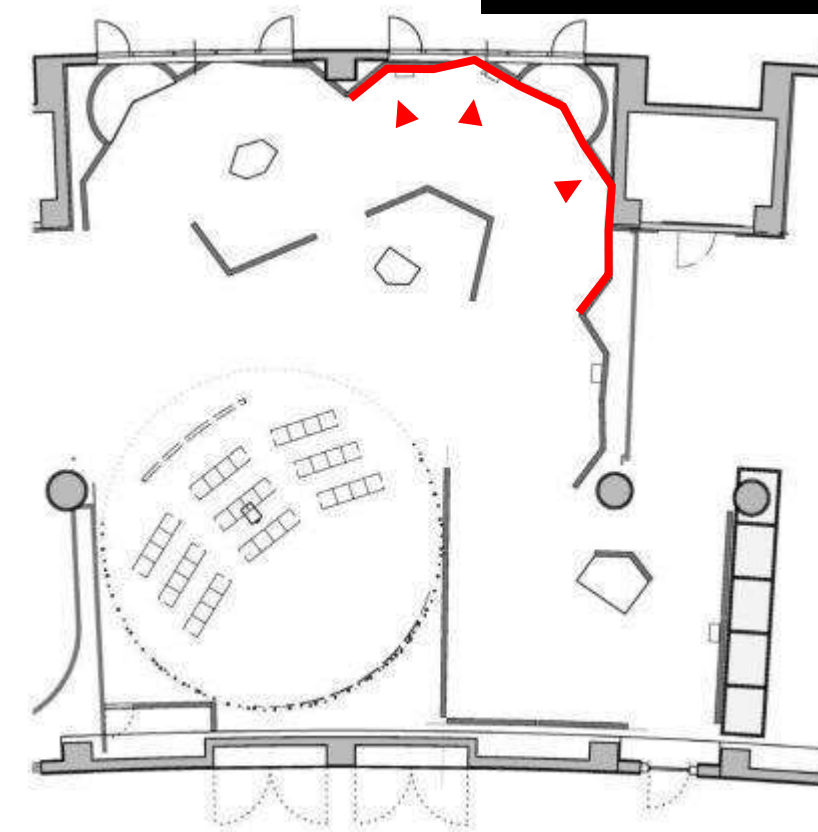
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦の中で住民の犠牲について、戦闘に巻き込まれただけでなく、飢えやマラリア、性暴力など被害の多様な実相を理解してもらう。またそこに巻き込まれた朝鮮人や日米両軍の兵士たちの犠牲も取り上げ、一人一人の個人にとっての戦争の意味を考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- ・ 既存映像を活用した映像展示をおこなう。
- ・ 「住民犠牲の諸相」の情報を構成する礎となった、市史などの地域史について紹介する。
- ・ デジタル端末、あるいはめくり式グラフィックなどの手法により、素朴な疑問を入口に考える素材や資料、視点、論点を提供し、来館者の思考を促す展示を設ける。

KEYPLAN



- ・ 2-5-① 住民虐殺の実相
 - ・ 2-5-② なぜ日本軍は沖縄県民を虐殺したのか(地域・時期別特徴、その要因)
 - ・ 2-5-③ スパイ視
 - ・ 2-5-④ 壕(ガマ)追い出し、食糧強奪
 - ・ 2-5-⑤ 民間人の投降阻止
- グラフィック・資料

- ・ 2-6-① 「集団自決」とは何か
 - ・ 2-6-② 場所・地域ごとの特徴
 - ・ 2-6-③ なぜ起きたのか
 - ・ 2-6-④ 日本政府・日本軍の民間人対策
 - ・ 2-6-⑤ 軍から配られた手榴弾
 - ・ 2-6-⑥ 鬼畜米英、米兵への恐怖心を煽る宣伝
 - ・ 2-6-⑦ 性暴力への恐怖心を煽る宣伝
 - ・ 2-6-⑧ 起きなかった場所・地域との比較
- グラフィック・資料

- ・ 2-7-① 日本軍慰安所
 - ・ 2-7-② 日本兵による性暴力
 - ・ 2-7-③ 米兵による性暴力
- グラフィック

2.住民犠牲の諸相

2-8.障がい者

2-9.ハンセン病患者

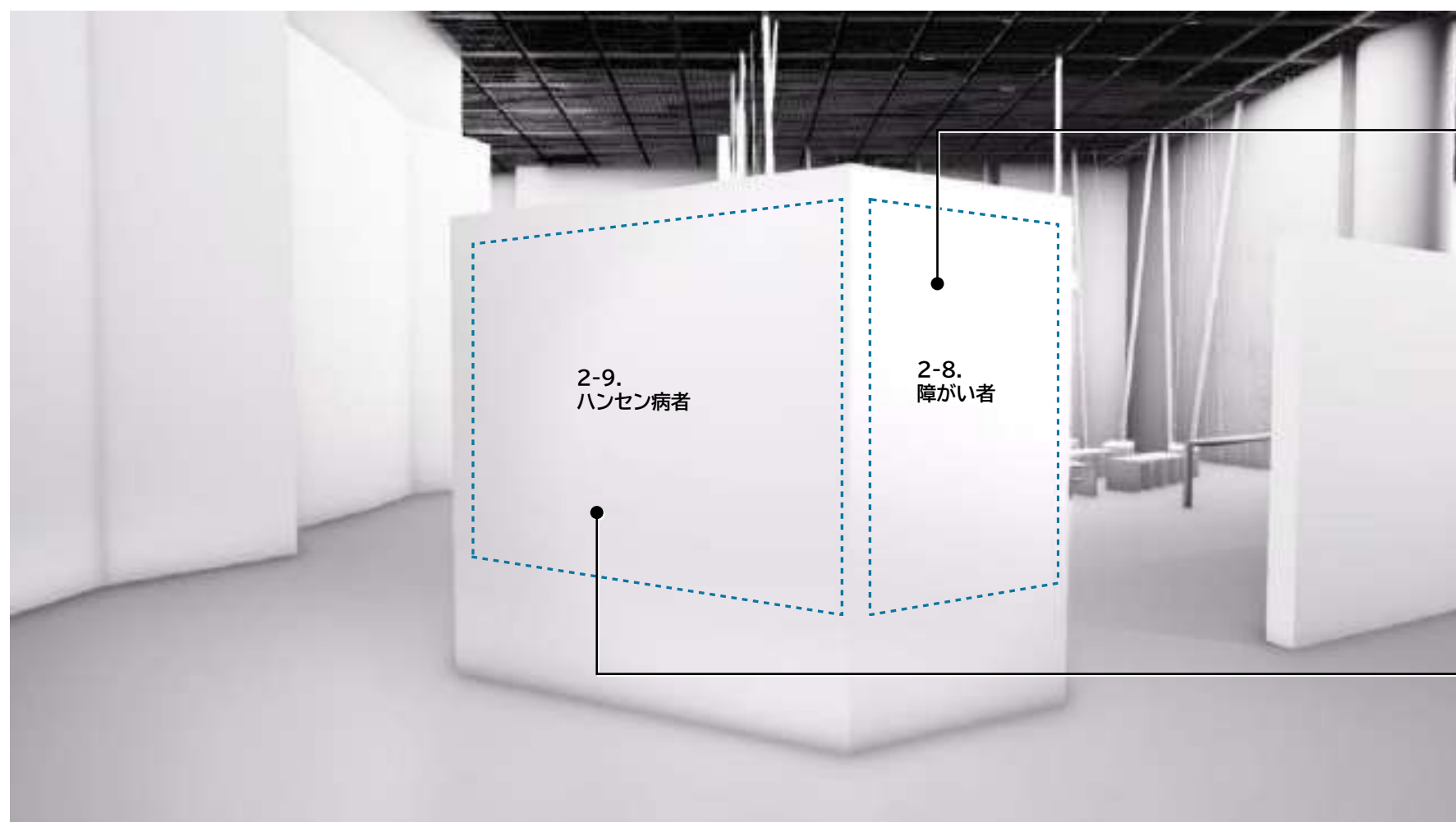
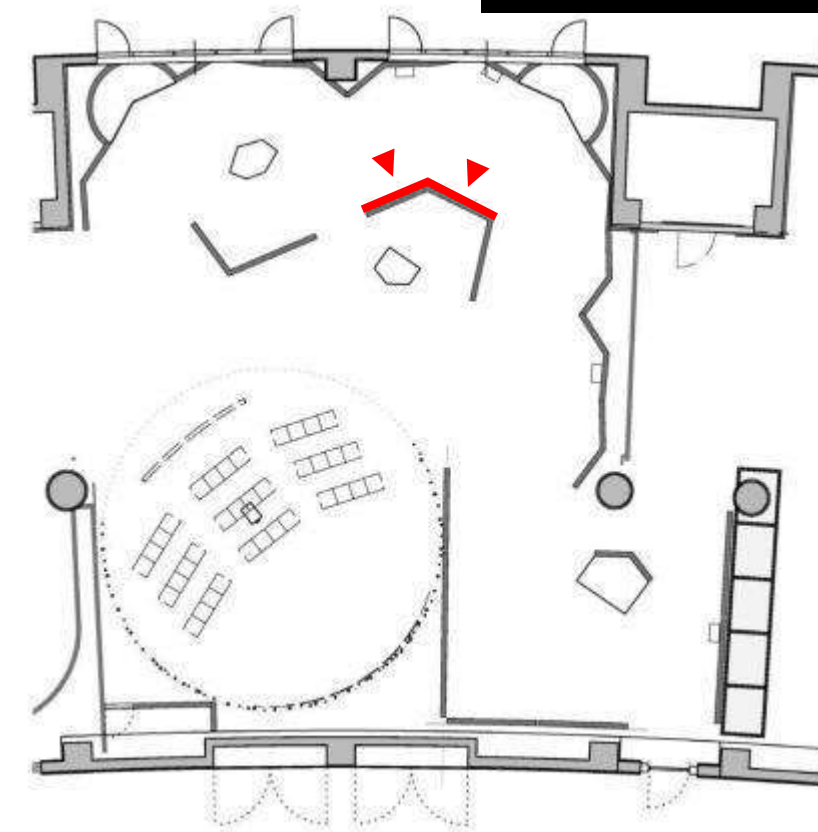
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦の中で住民の犠牲について、戦闘に巻き込まれただけでなく、飢えやマラリア、性暴力など被害の多様な実相を理解してもらう。またそこに巻き込まれた朝鮮人や日米両軍の兵士たちの犠牲も取り上げ、一人一人の個人にとっての戦争の意味を考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- ・ 既存映像を活用した映像展示をおこなう。
- ・ 「住民犠牲の諸相」の情報を構成する礎となった、市史などの地域史について紹介する。
- ・ デジタル端末、あるいはめくり式グラフィックなどの手法により、素朴な疑問を入口に考える素材や資料、視点、論点を提供し、来館者の思考を促す展示を設ける。

KEYPLAN



- ・ 2-8-① 身体障がい者の体験
- ・ 2-8-② 精神障がい者の体験
- ・ 2-8-③ 戦争がつくりだした障がい者
グラフィック

- ・ 2-9-① ハンセン病患者の状況
- ・ 2-9-② 日本軍による強制収容
- ・ 2-9-③ 愛楽園
- ・ 2-9-④ 南静園
グラフィック

2.住民犠牲の諸相

2-10.心の傷

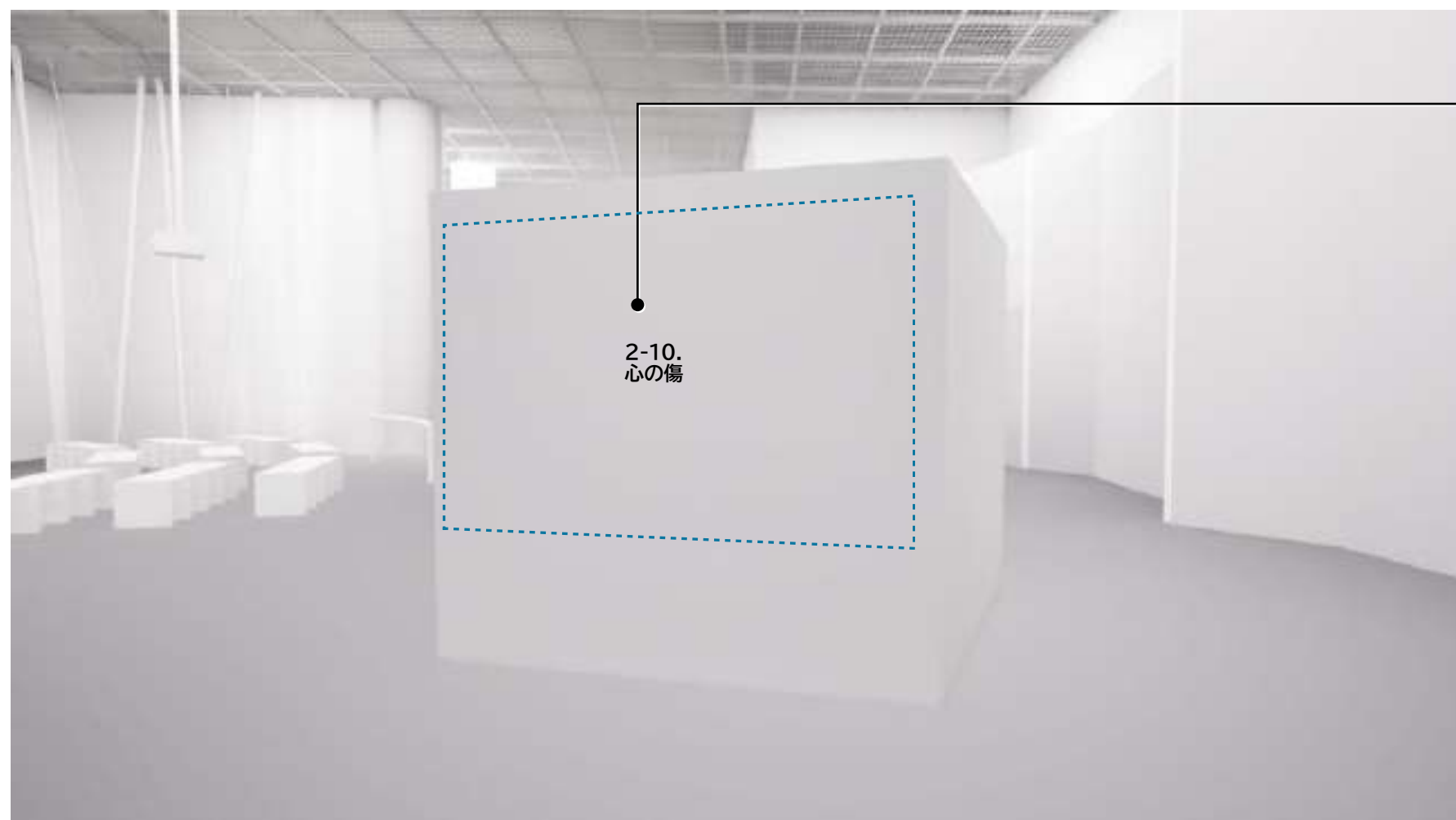
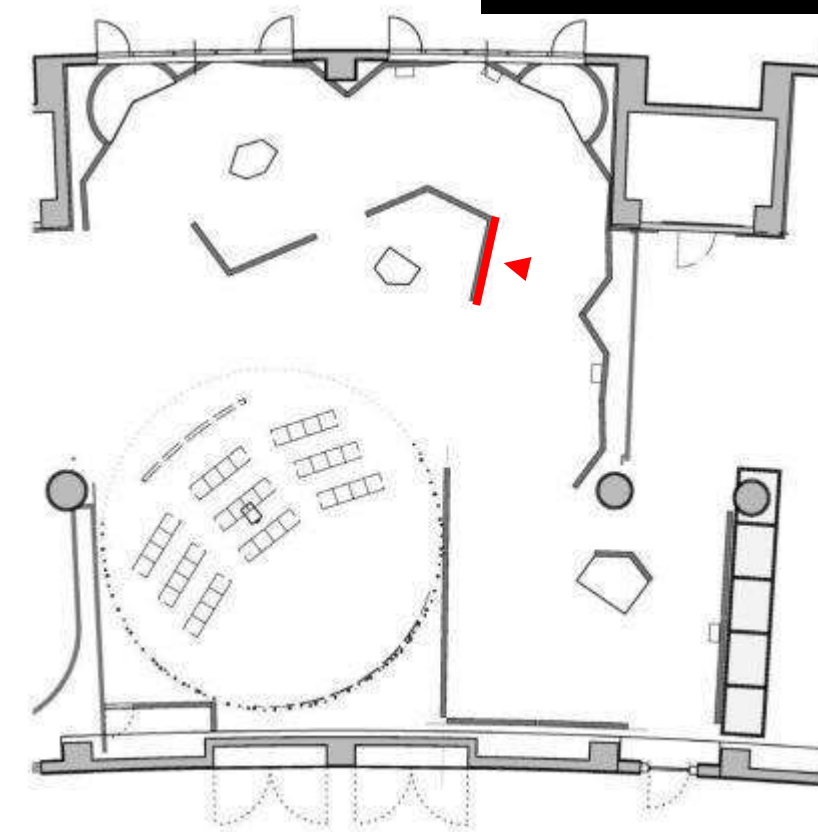
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦の中で住民の犠牲について、戦闘に巻き込まれただけでなく、飢えやマラリア、性暴力など被害の多様な実相を理解してもらう。またそこに巻き込まれた朝鮮人や日米両軍の兵士たちの犠牲も取り上げ、一人一人の個人にとっての戦争の意味を考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- ・ 既存映像を活用した映像展示をおこなう。
- ・ 「住民犠牲の諸相」の情報を構成する礎となった、市史などの地域史について紹介する。
- ・ デジタル端末、あるいはめくり式グラフィックなどの手法により、素朴な疑問を入口に考える素材や資料、視点、論点を提供し、来館者の思考を促す展示を設ける。

KEYPLAN



- ・ 2-10-① 戦闘神経症
 - ・ 2-10-② 戦後も続く心の傷・PTSD
- グラフィック

2.住民犠牲の諸相

2-11.朝鮮人の動員と犠牲

2-12.日本軍兵士にとっての沖縄戦

2-13.米軍兵士にとっての沖縄戦

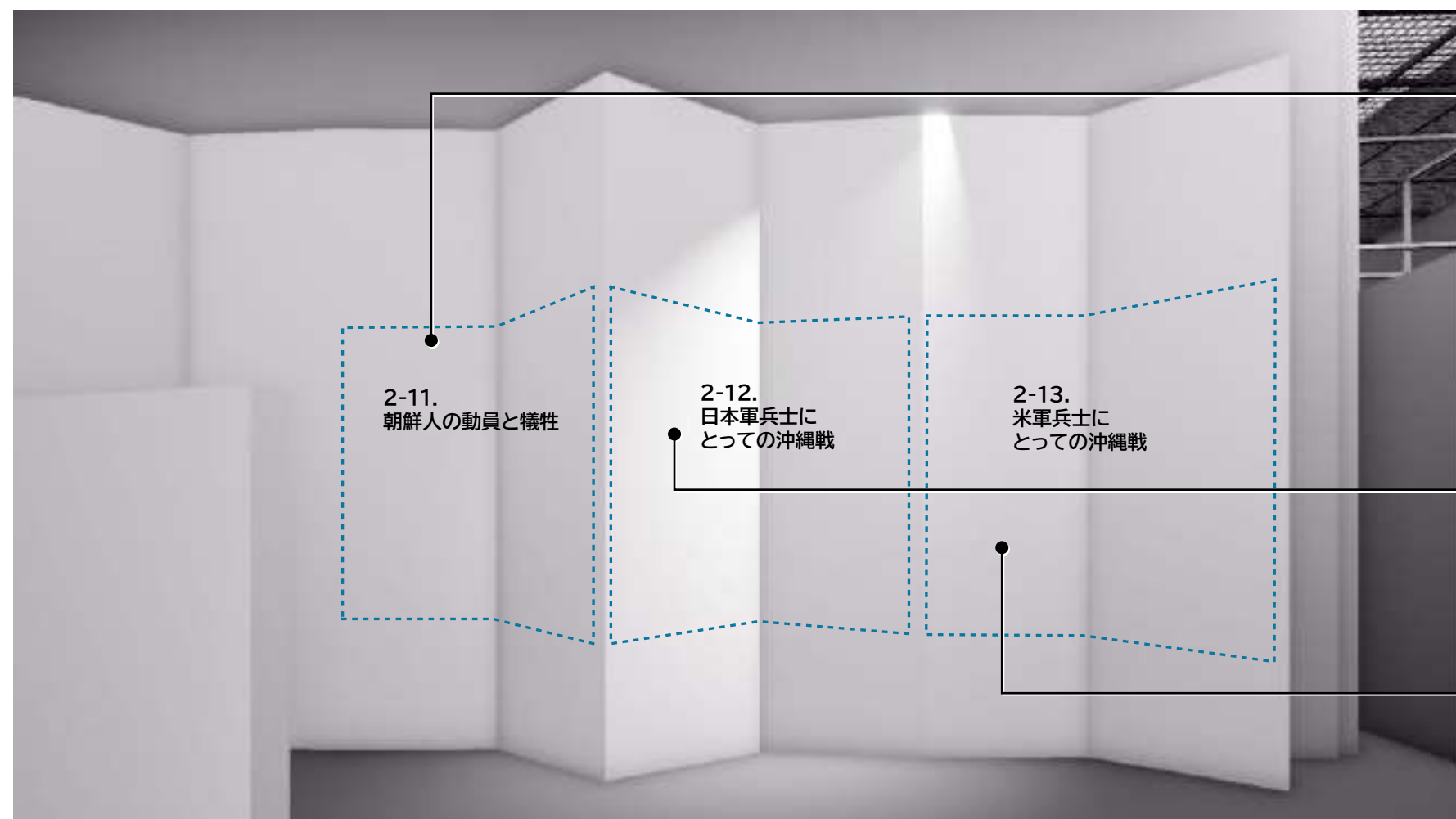
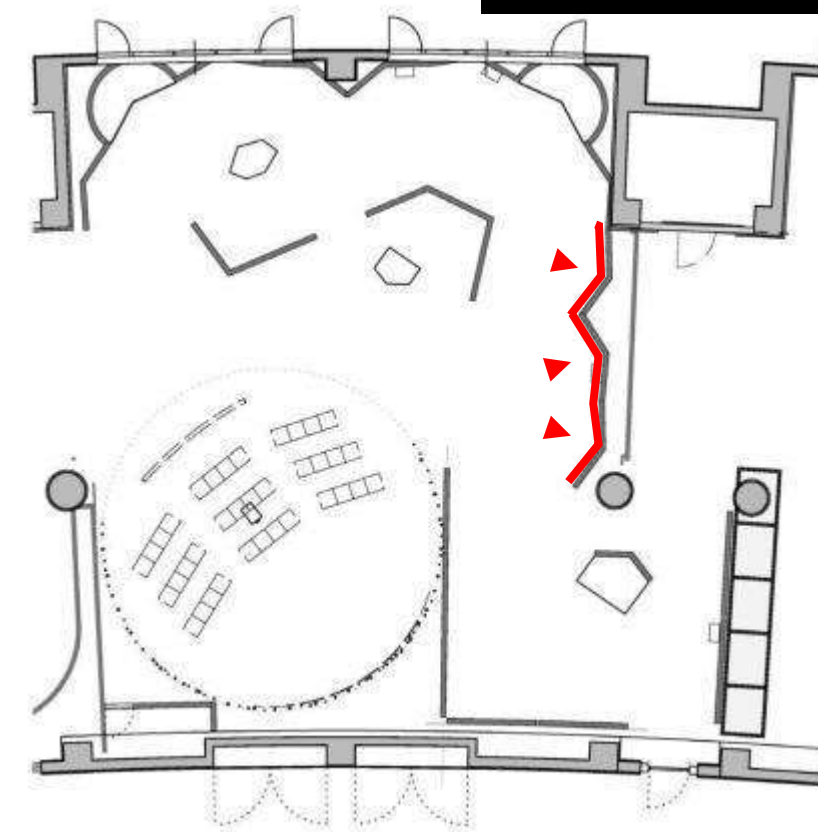
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦の中で住民の犠牲について、戦闘に巻き込まただけでなく、飢えやマラリア、性暴力など被害の多様な実相を理解してもらう。またそこに巻き込まれた朝鮮人や日米両軍の兵士たちの犠牲も取り上げ、一人一人の個人にとっての戦争の意味を考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- ・ 既存映像を活用した映像展示をおこなう。
- ・ 「住民犠牲の諸相」の情報を構成する礎となった、市史などの地域史について紹介する。
- ・ デジタル端末、あるいはめくり式グラフィックなどの手法により、素朴な疑問を入口に考える素材や資料、視点、論点を提供し、来館者の思考を促す展示を設ける。

KEYPLAN



- ・ 2-11-① 沖縄に動員された朝鮮人
 - ・ 2-11-② 軍夫
 - ・ 2-11-③ 軍人
 - ・ 2-11-④ 船舶の乗組員
 - ・ 2-11-⑤ 日本軍「慰安婦」
 - ・ 2-11-⑥ 日本軍による扱い
 - ・ 2-11-⑦ 戦没時期、場所
- グラフィック

- ・ 2-12-① 全国各地から召集されてきた日本兵
 - ・ 2-12-② 日本軍の戦闘方法
 - ・ 2-12-③ 捕虜になることは許されない
 - ・ 2-12-④ 傷病兵殺害、青酸カリ処置
 - ・ 2-12-⑤ 国土決戦教令、戦陣訓
- グラフィック

- ・ 2-13-① 米軍の戦闘方法
 - ・ 2-13-② 米軍部隊の戦歴
 - ・ 2-13-③ 米兵と住民
 - ・ 2-13-④ 米兵の戦闘神経症・PTSD
- グラフィック

3.地域ごとの沖縄戦

3-1.北部の沖縄戦

3-2.中部の沖縄戦

3-3.南部の沖縄戦

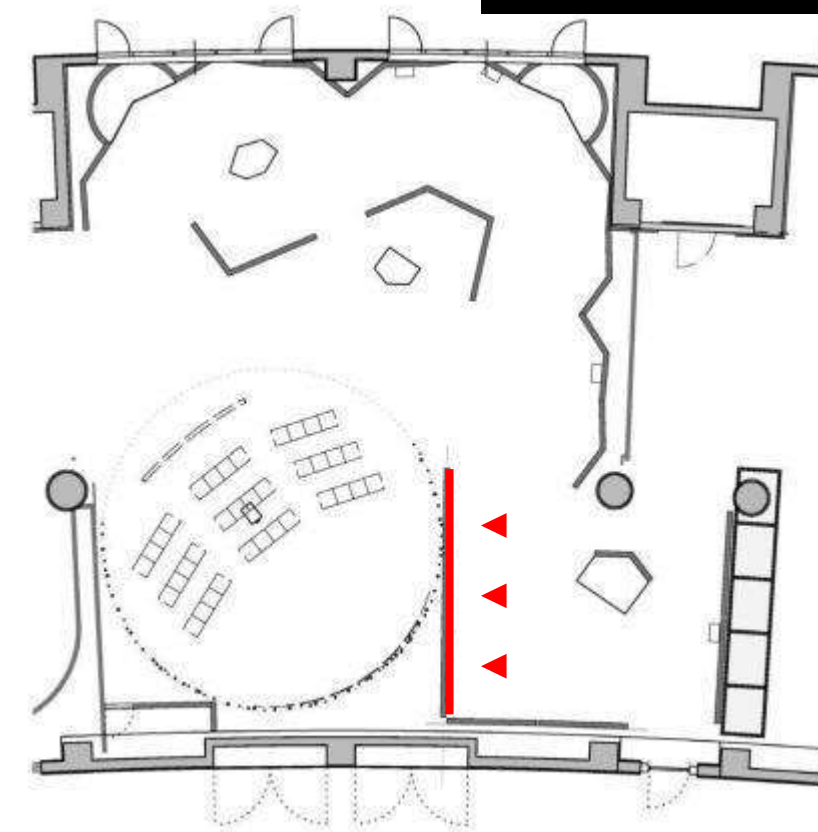
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦のなかでも、地域や島によって異なる状況があったことを示し、県民が自分の関わる地域の状況を身近に感じながらその実相を理解してもらう。また沖縄戦のなかで人々がどのように生きようとして考え、行動したのか、沖縄の住民の視線で共に考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- ・ 既存映像を活用した映像展示をおこなう。
- ・ デジタル端末、あるいはめくり式グラフィックなどの手法により、素朴な疑問を入口に考える素材や資料、視点、論点を提供し、来館者の思考を促す展示を設ける。

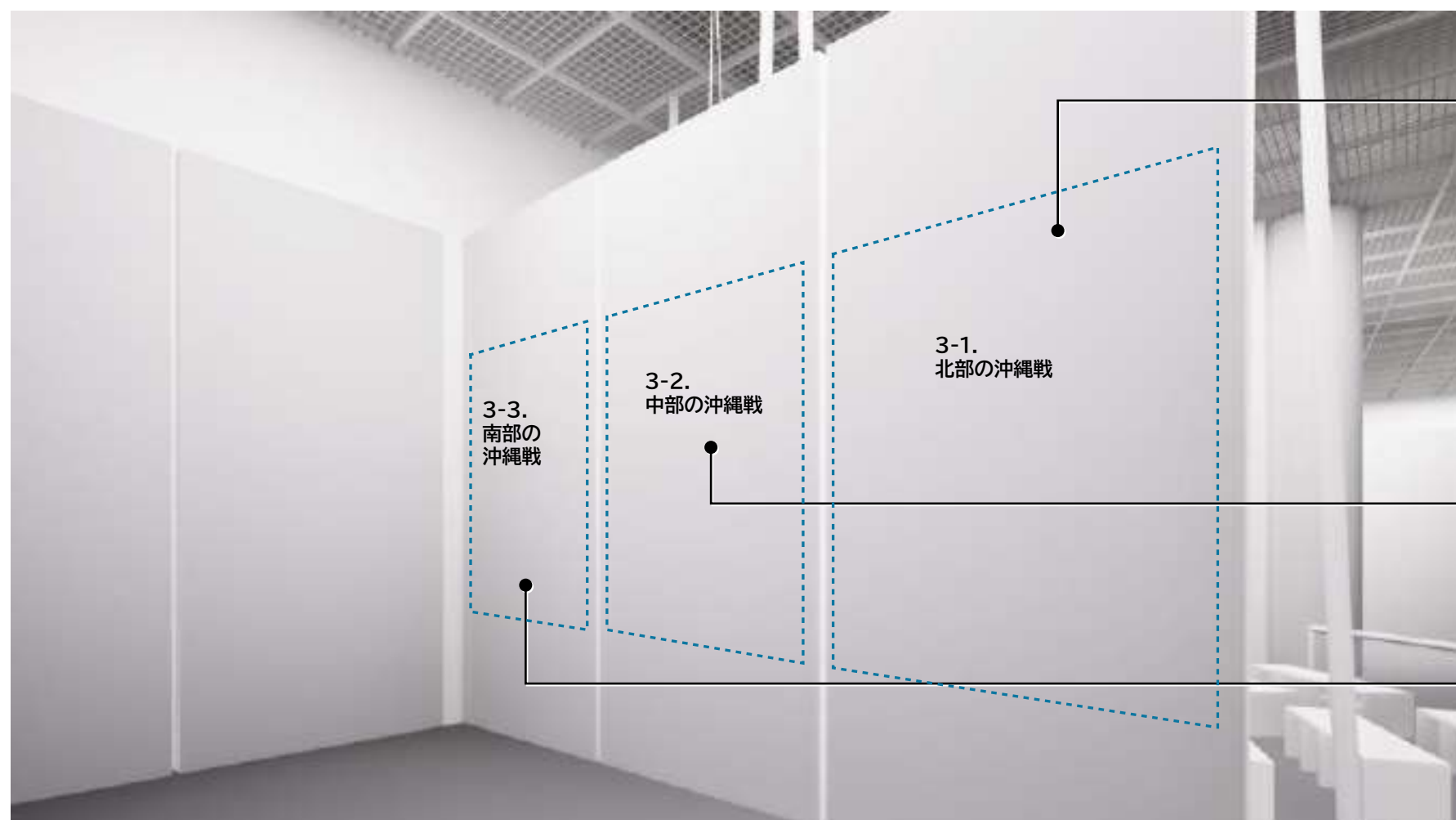
KEYPLAN



- ・ 3-1-① 山中の戦争
 - ・ 3-1-② 国頭支隊(宇土部隊)
 - ・ 3-1-③ 日本兵による住民虐殺、食糧強奪
 - ・ 3-1-④ 飢餓・マラリア
 - ・ 3-1-⑤ 御真影奉護壕
 - ・ 3-1-⑥ 遊撃戦(護郷隊)
 - ・ 3-1-⑦ 陸軍中野学校
 - ・ 3-1-⑧ 伊江島の戦闘
- グラフィック

- ・ 3-2-① 北部疎開と南部への避難
 - ・ 3-2-② 早期に米軍支配下に入った地域
 - ・ 3-2-③ 日米両軍の激戦地
 - ・ 3-2-④ 米軍上陸地点
 - ・ 3-2-⑤ 進む米軍基地建設
- グラフィック

- ・ 3-3-① 戦場での住民動員
 - ・ 3-3-② 南部撤退と多大な住民犠牲
 - ・ 3-3-③ 軍民混在の戦場
 - ・ 3-3-④ 日本軍の行動(住民虐殺、壕追い出し、食糧強奪、投降阻止など)
 - ・ 3-3-⑤ 知念半島の状況
 - ・ 3-3-⑥ 一家全滅
- グラフィック



実物資料やグラフィックパネル、映像などにより展示を構成

3.地域ごとの沖縄戦

3-4.本島周辺離島及び大東諸島の沖縄戦

3-5.宮古・八重山の沖縄戦

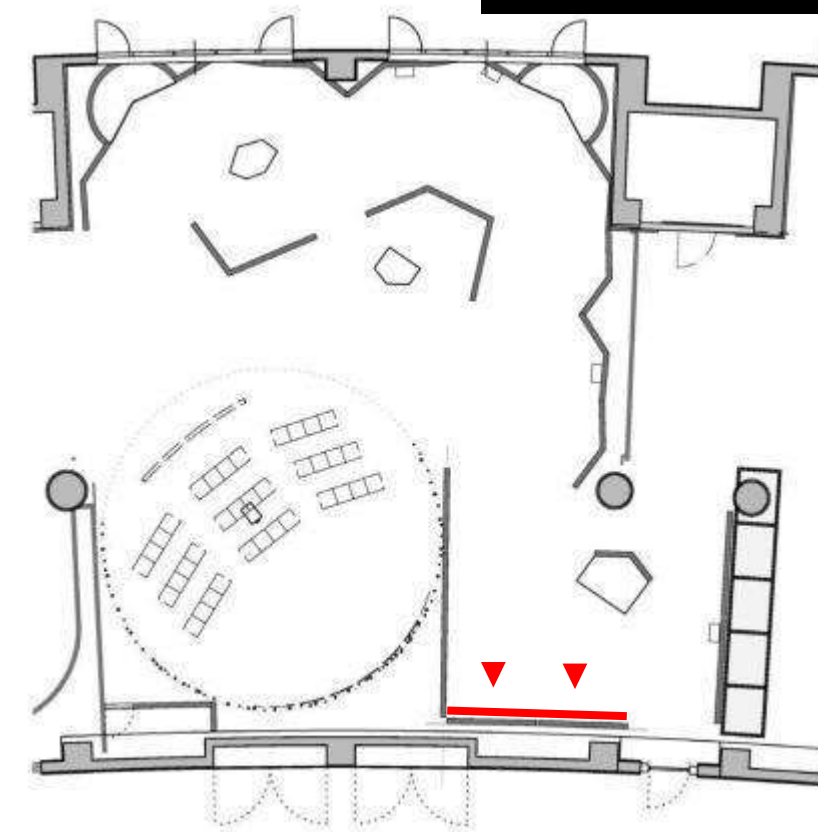
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦のなかでも、地域や島によって異なる状況があったことを示し、県民が自分の関わる地域の状況を身近に感じながらその実相を理解してもらう。また沖縄戦のなかで人々がどのように生きようとして考え、行動したのか、沖縄の住民の視線で共に考えてもらう。

【展示の展開方針】

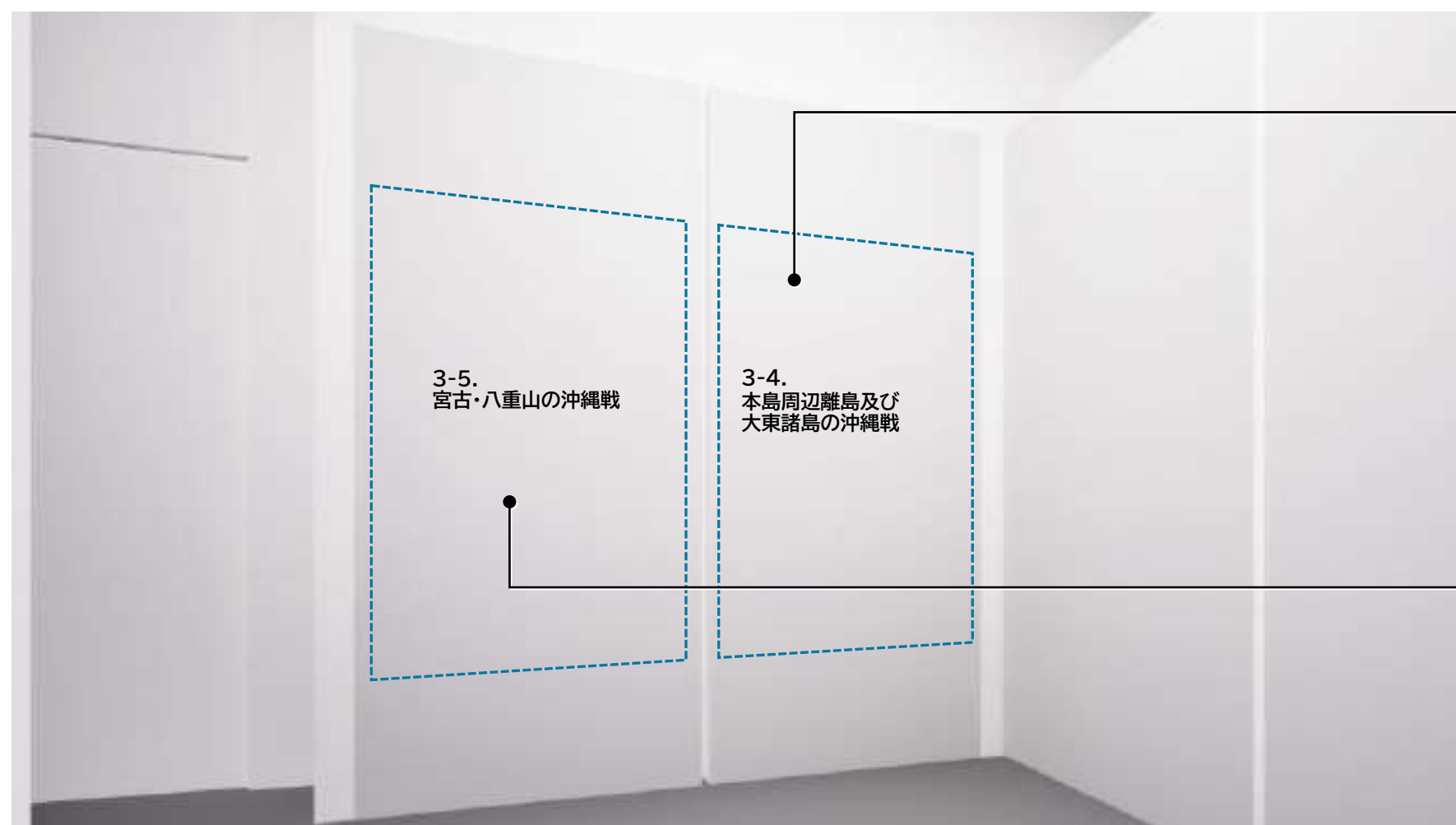
- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- ・ 既存映像を活用した映像展示をおこなう。
- ・ デジタル端末、あるいはめくり式グラフィックなどの手法により、素朴な疑問を入口に考える素材や資料、視点、論点を提供し、来館者の思考を促す展示を設ける。

KEYPLAN



- ・ 3-4-① 日本軍がいた島(慶良間諸島、久米島、津堅島など)
 - ・ 3-4-② 日本軍がいなかった島(前島、平安座島、宮城島、久高島など)
 - ・ 3-4-③ 大東諸島
 - ・ 3-4-④ 奄美群島
- グラフィック

- ・ 3-5-① 戦争マラリアと飢餓
 - ・ 3-5-② 軍命によるマラリア地帯への強制退去
 - ・ 3-5-③ 日本軍慰安所
 - ・ 3-5-④ 米英両軍による砲爆撃
 - ・ 3-5-⑤ 米軍捕虜虐殺と戦犯裁判
 - ・ 3-5-⑥ 陸軍中野学校と離島残置諜者
 - ・ 3-5-⑦ 波照間島、忘勿石
- グラフィック



3.地域ごとの沖縄戦

3-6.命を救った人たち

3-7.沖縄戦を生き抜いた人たち

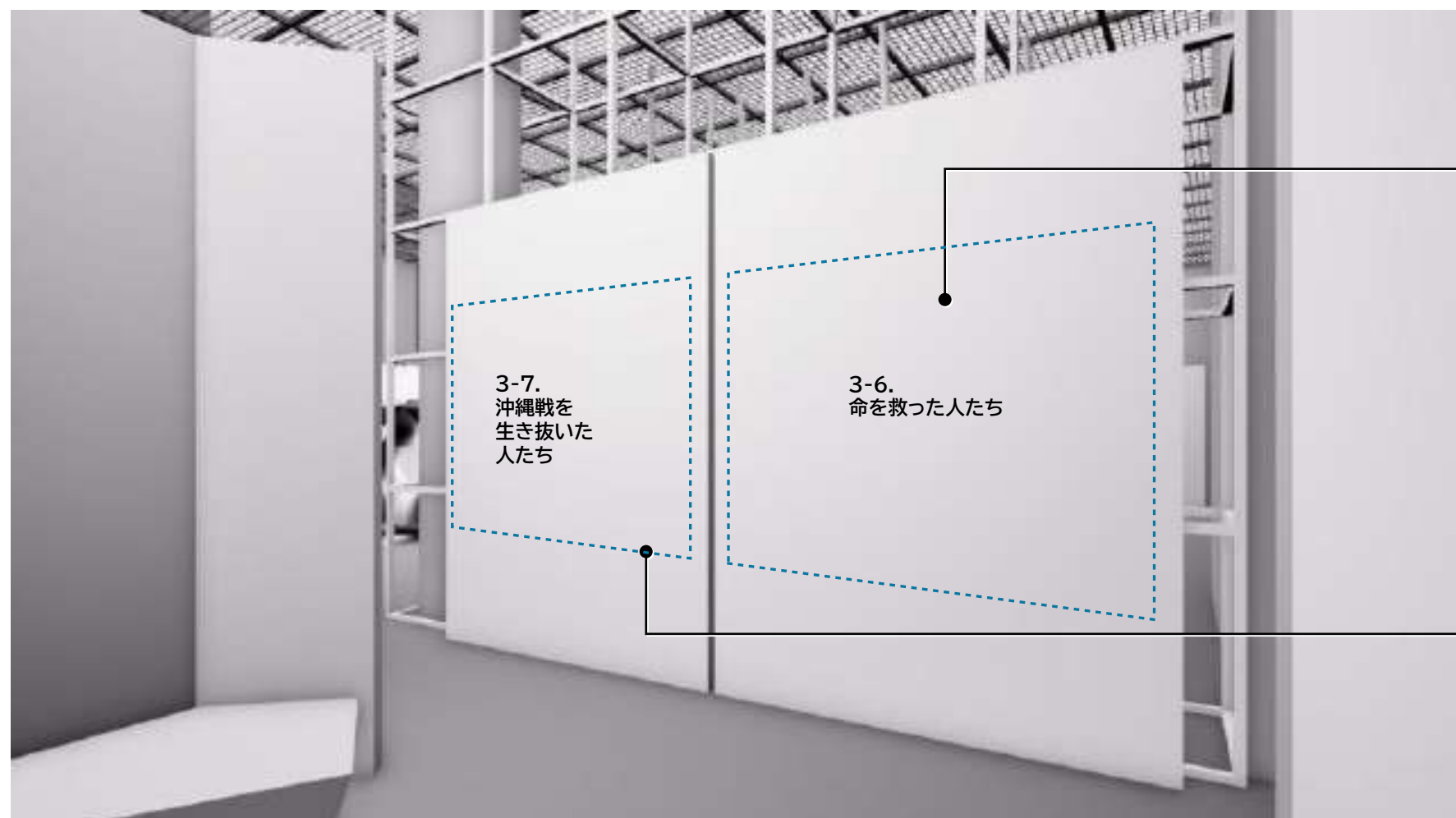
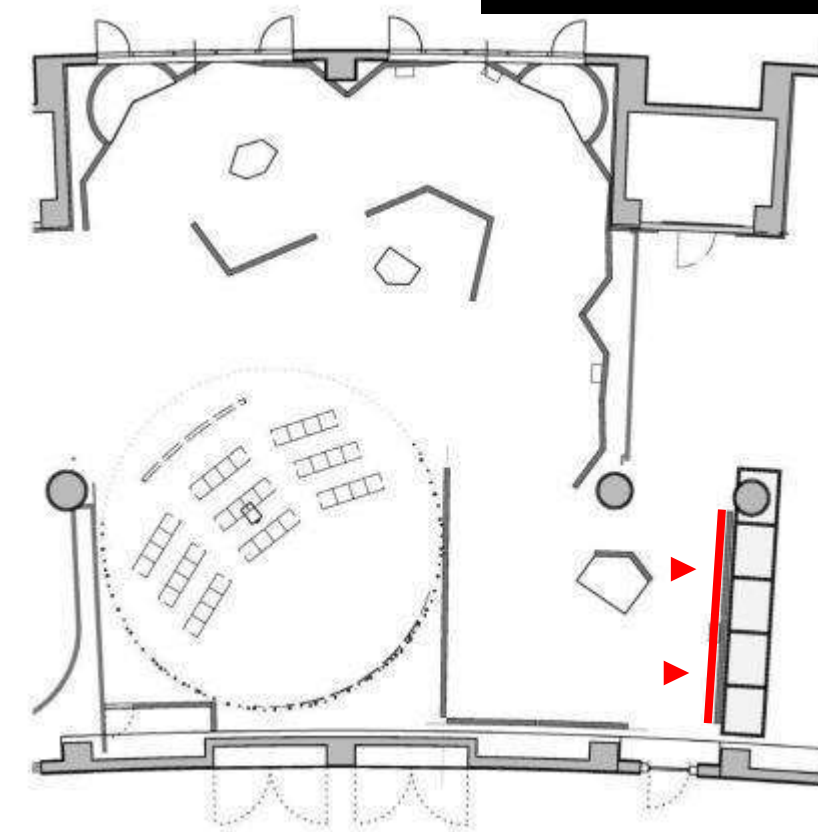
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦のなかでも、地域や島によって異なる状況があったことを示し、県民が自分の関わる地域の状況を身近に感じながらその実相を理解してもらう。また沖縄戦のなかで人々がどのように生きようとして考え、行動したのか、沖縄の住民の視線で共に考えてもらう。

【展示の展開方針】

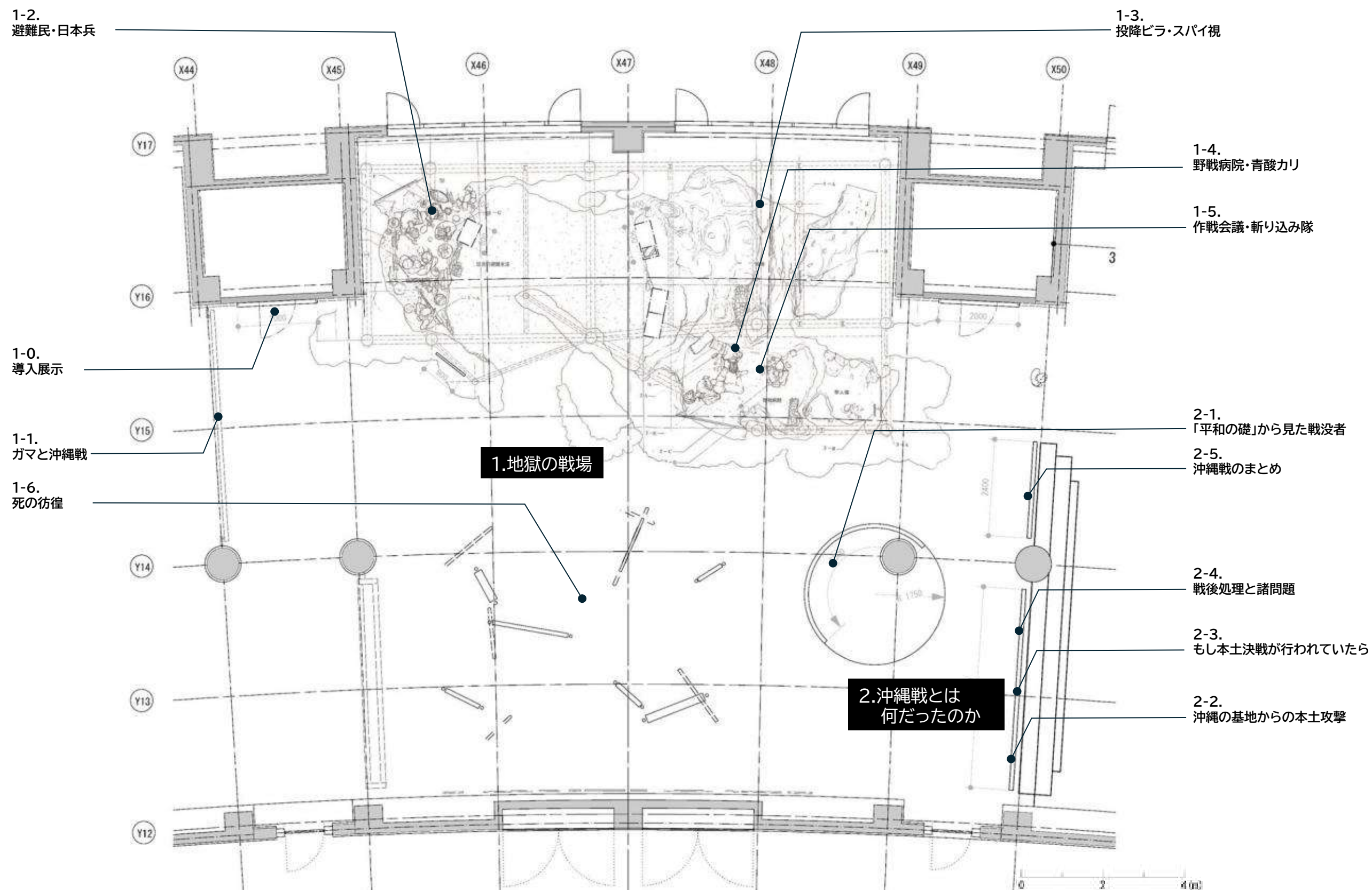
- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- ・ 既存映像を活用した映像展示をおこなう。
- ・ デジタル端末、あるいはめくり式グラフィックなどの手法により、素朴な疑問を入口に考える素材や資料、視点、論点を提供し、来館者の思考を促す展示を設ける。

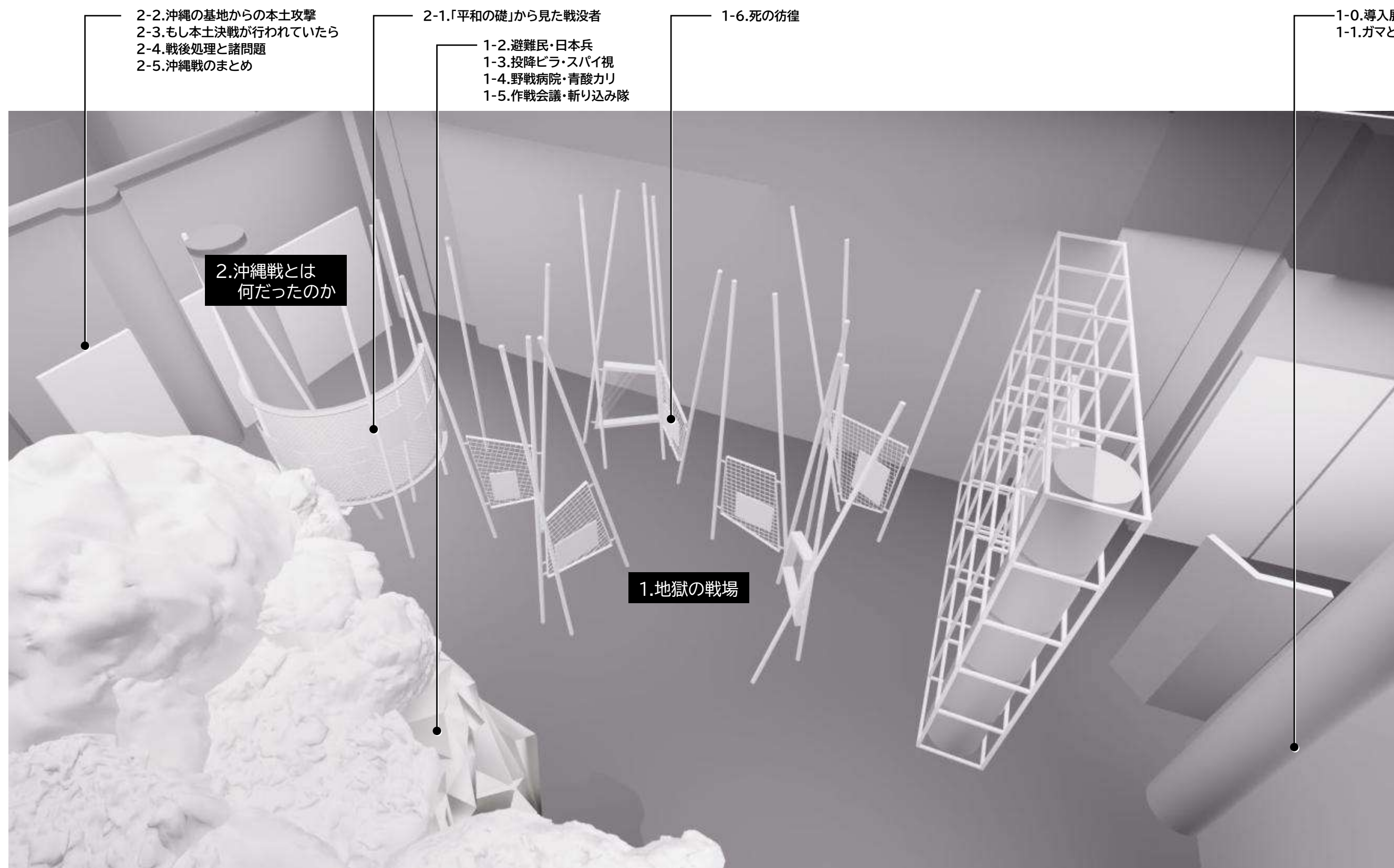
KEYPLAN



- ・ 3-6-① 多くの命を救った人たち
- ・ 3-6-② 生きるように勧めた日本軍将兵
- ・ 3-6-③ 米軍のなかの日系兵士(通訳、沖縄からの移民) グラフィック

- ・ 3-7-① いく人かの人物を取り上げて、沖縄戦全過程のなかでの行動を紹介 グラフィック





1.地獄の戦場

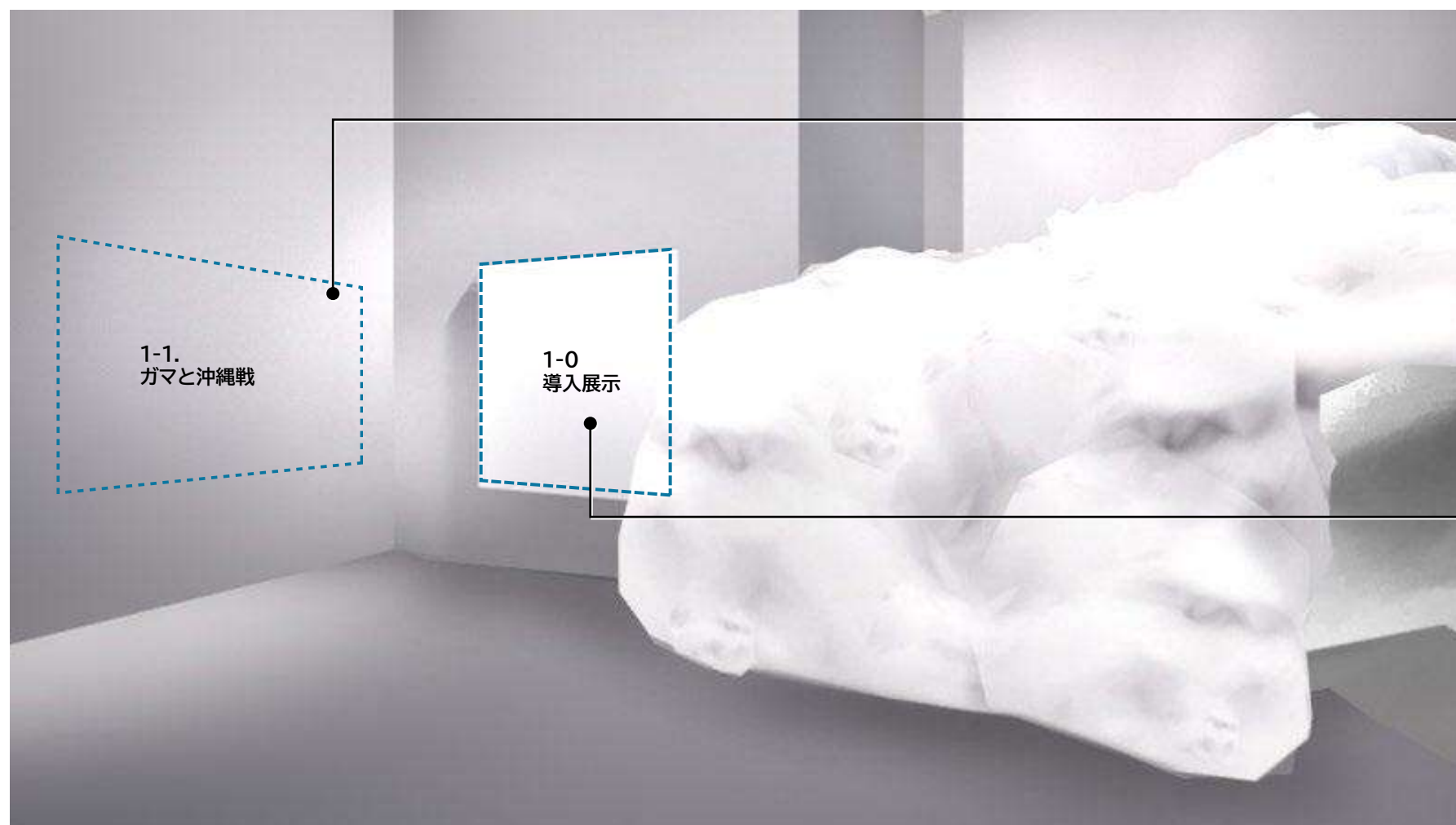
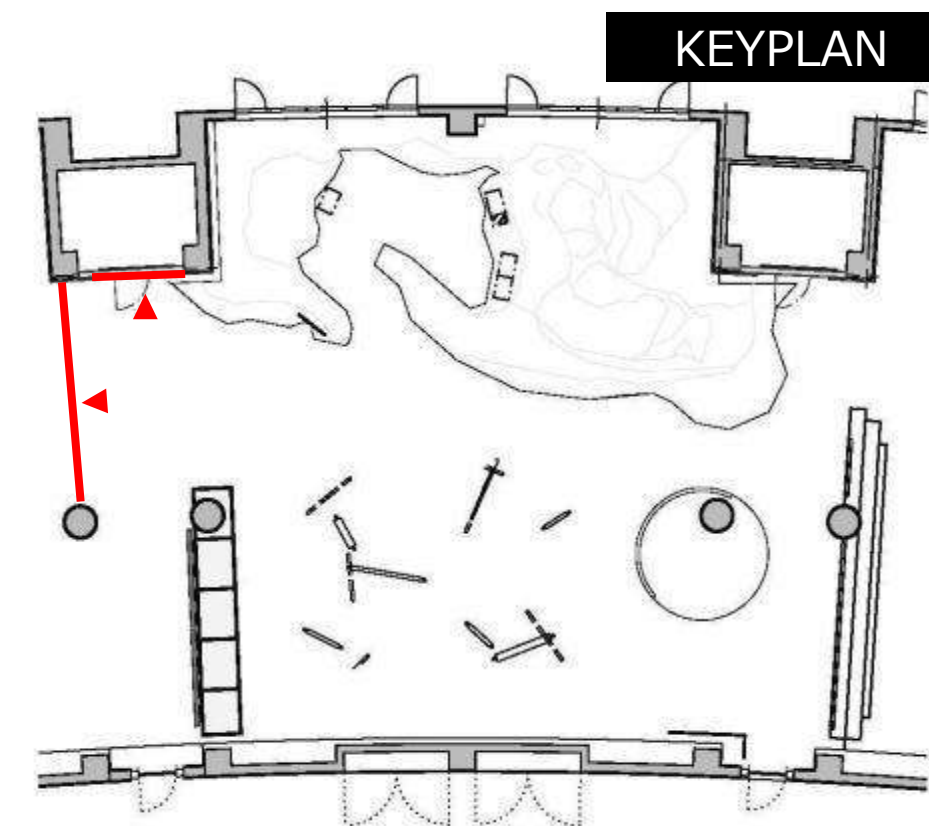
1-1.ガマと沖縄戦

【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦のなかで、軍にとっても住民にとってもガマは、時には死の場所、時には生の場所になるという生死を左右する重要な場所となった。ガマの再現模型のなかに入ることによって沖縄戦の実相をより深く感じ考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に解説する。



- ・ 1-1-① ガマと住民
 - ・ 1-1-② 生死をわけたガマ(チビチリガマとシムクガマ等)
 - ・ 1-1-③ 系数アブチラガマの諸相
 - ・ 1-1-④ 利用された墓(住民の避難場所、日本軍の陣地)
- グラフィック

グラフィック

1.地獄の戦場

1-2.避難民・日本兵～ 1-5.作戦会議・斬り込み隊

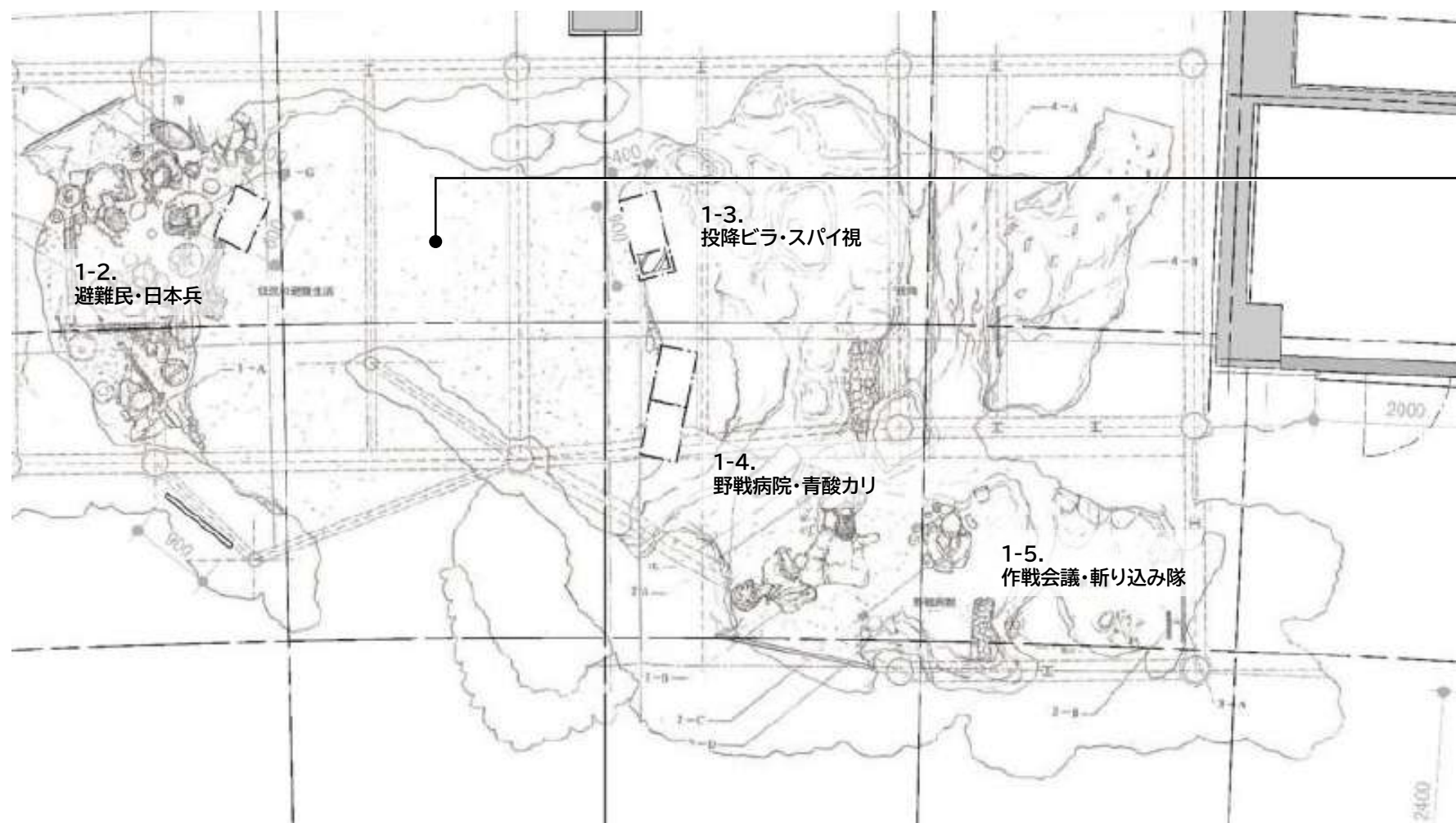
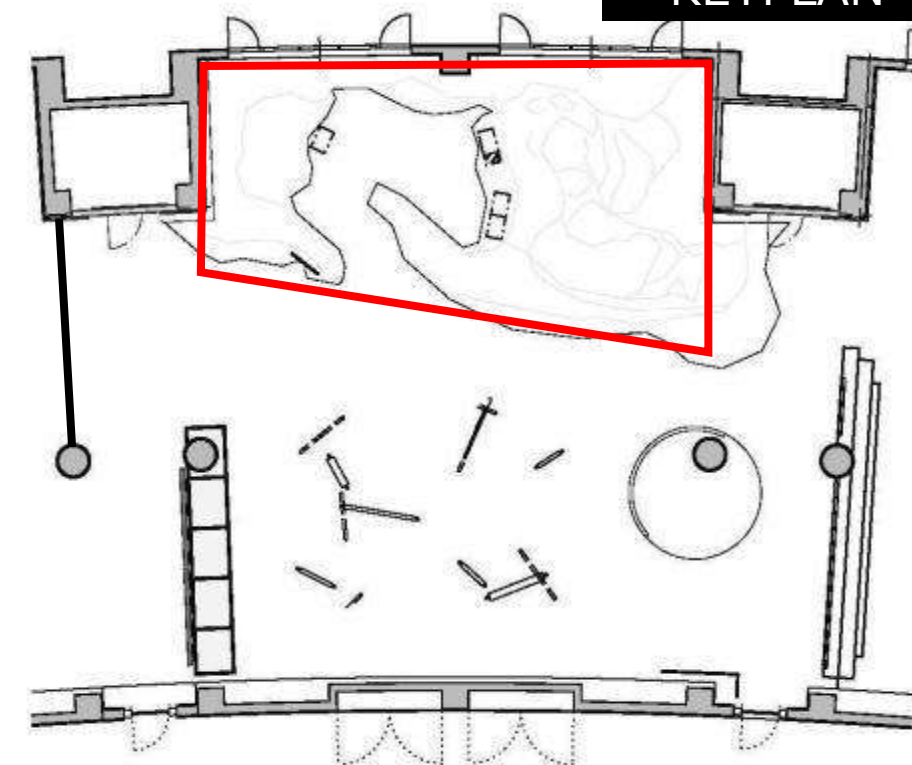
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦のなかで、軍にとっても住民にとってもガマは、時には死の場所、時には生の場所になるという生死を左右する重要な場所となった。ガマの再現模型のなかに入ることによって沖縄戦の実相をより深く感じ考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 既存の展示空間やガマのジオラマを活かしながら、展示を再構成する。
- ・ 来館者の心理的な障壁を下げる誘導・動線計画をおこなう。
- ・ 沖縄戦当時のガマのなかで、“何が起きていたのか”を伝える解説を強化する。
- ・ 解説テキストを多用せず、来館者自身が沖縄戦当時の状況に思いを寄せられる展示表現をおこなう。

KEYPLAN



- ・ 1-2-① 現行のガマの再現模型に説明を追加
- ・ 1-3-① 現行のガマの再現模型に説明を追加
- ・ 1-4-① 現行のガマの再現模型に説明を追加
- ・ 1-5-① 現行のガマの再現模型に説明を追加
グラフィック・音響装置・資料・造形

既存のジオラマを活用しながら、各シーンの解説グラフィックや実物資料、音声解説などを追加する。

1.地獄の戦場

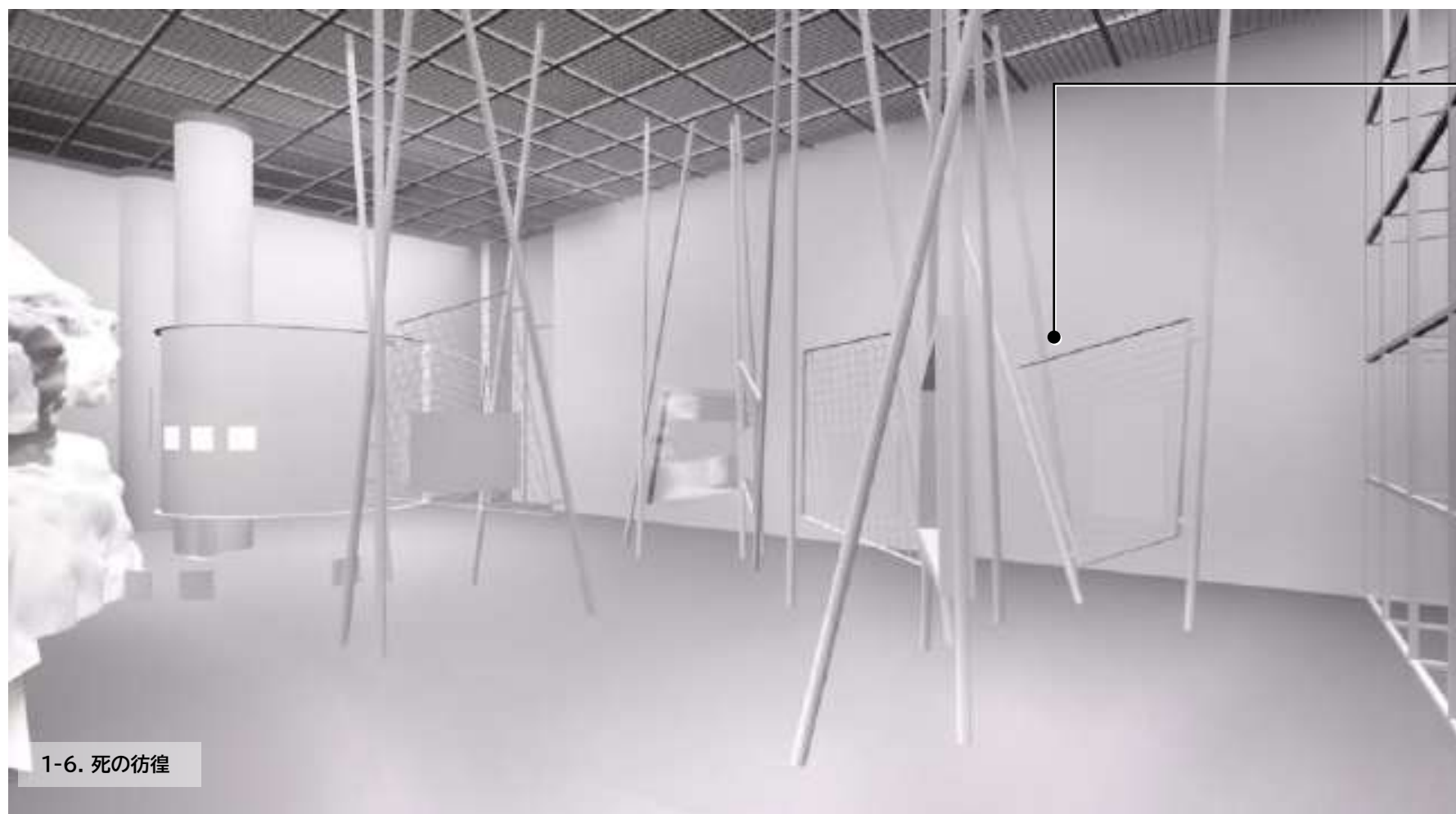
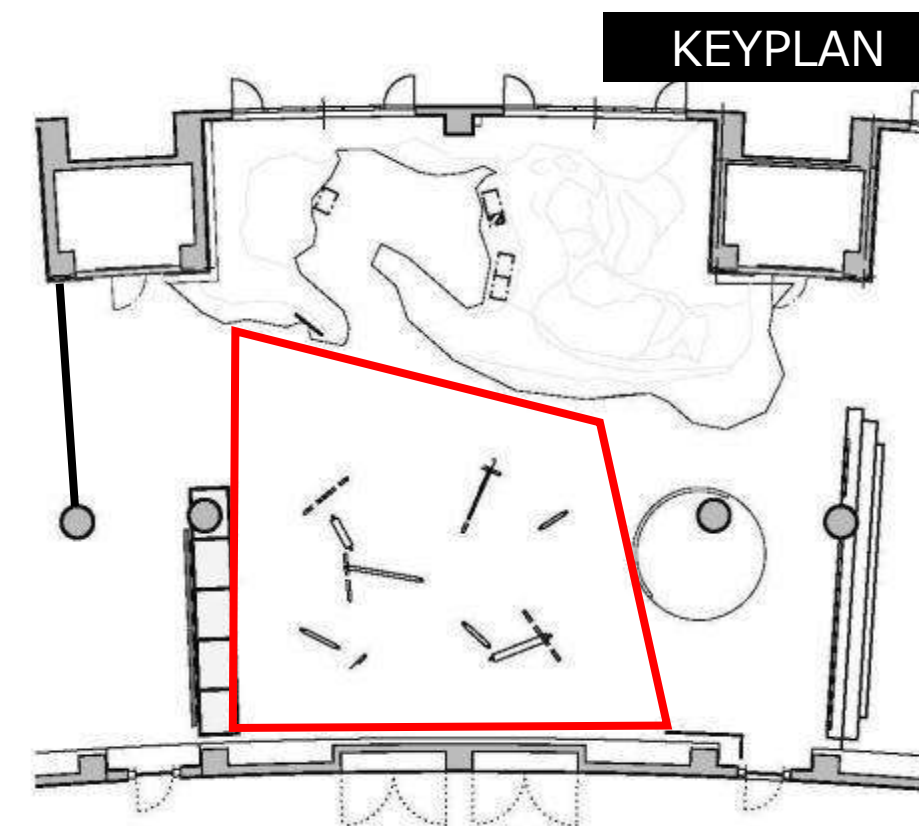
1-6.死の彷徨

【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦のなかで、軍にとっても住民にとってもガマは、時には死の場所、時には生の場所になるという生死を左右する重要な場所となった。ガマの再現模型のなかに入ることによって沖縄戦の実相をより深く感じ考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 写真を中心に、沖縄戦における住民の戦争体験を伝える。
- ・ 解説テキストを多用せず、来館者自身が沖縄戦当時の状況に思いを寄せられる展示表現をおこなう。



- ・ 1-6-① 現行の展示物、写真を活用
グラフィック・資料

1-6. 死の彷徨

2. 沖縄戦とは何だったのか

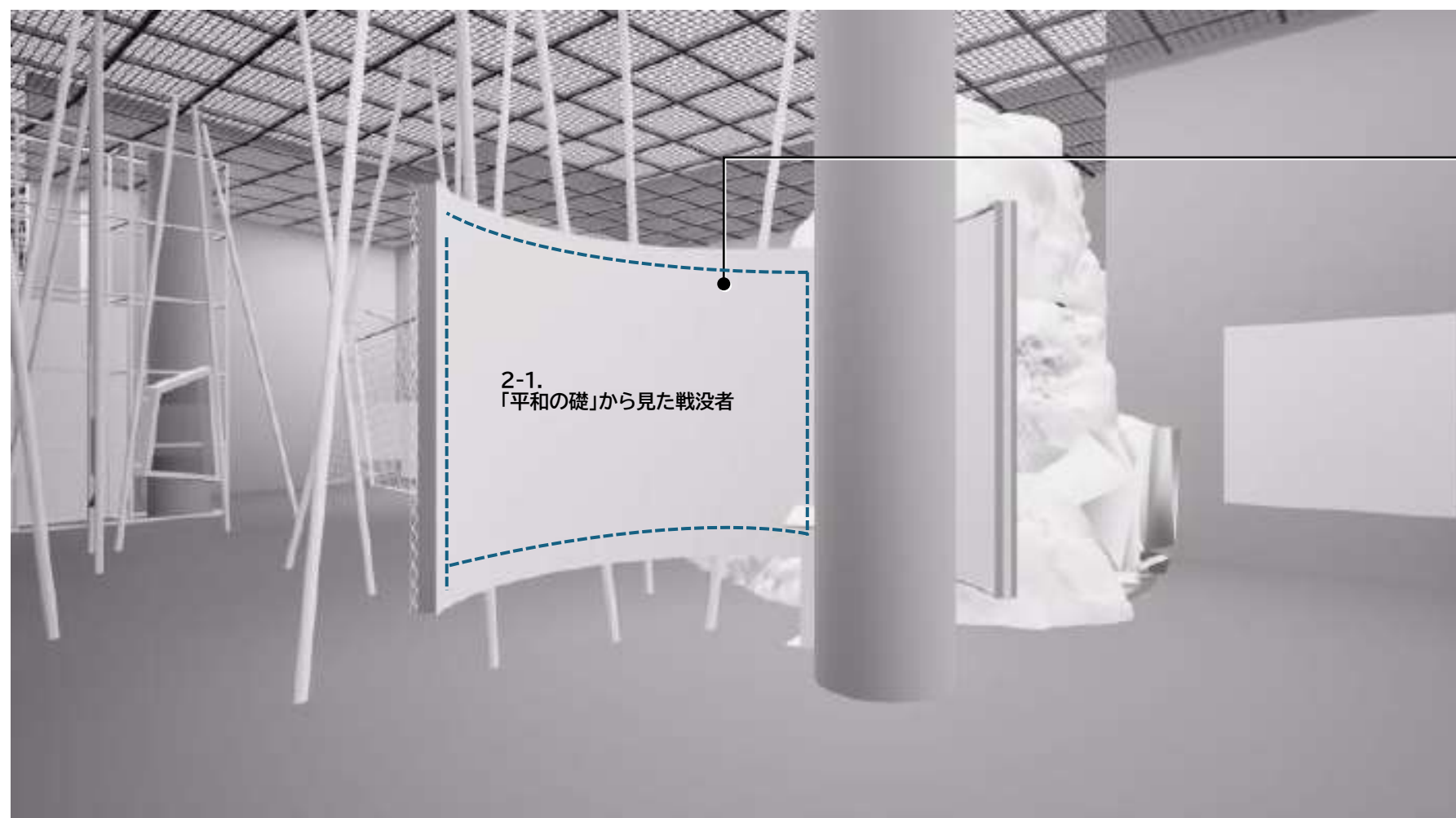
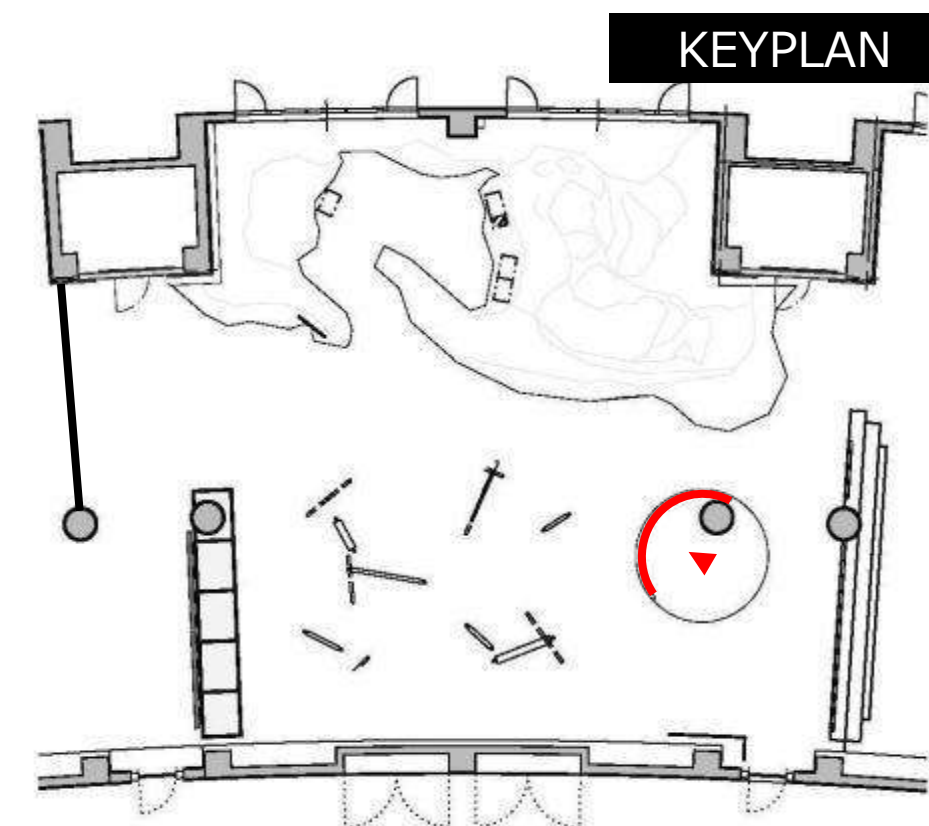
2-1. 「平和の礎」から見た戦没者

【展示のねらい】

- ・「平和の礎」に刻まれた戦没者のデータから沖縄戦の実像を多角的に読み解き、沖縄戦が持つ意味を考えてもらう。同時に沖縄の経験は本土でも起き得たことを理解してもらい、沖縄戦の教訓は沖縄だけでなく日本全体のものであることを考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・「平和の礎」のデータを分析、整理した情報をグラフィックやデジタル端末などで紹介する。



- ・ 2-1-① 「平和の礎」のデータの活用、分析(戦没場所、時期等)
グラフィック・検索装置・資料

2.沖縄戦とは何だったのか

2-2.沖縄の基地からの本土攻撃

2-3.もし本土決戦が行われていたら

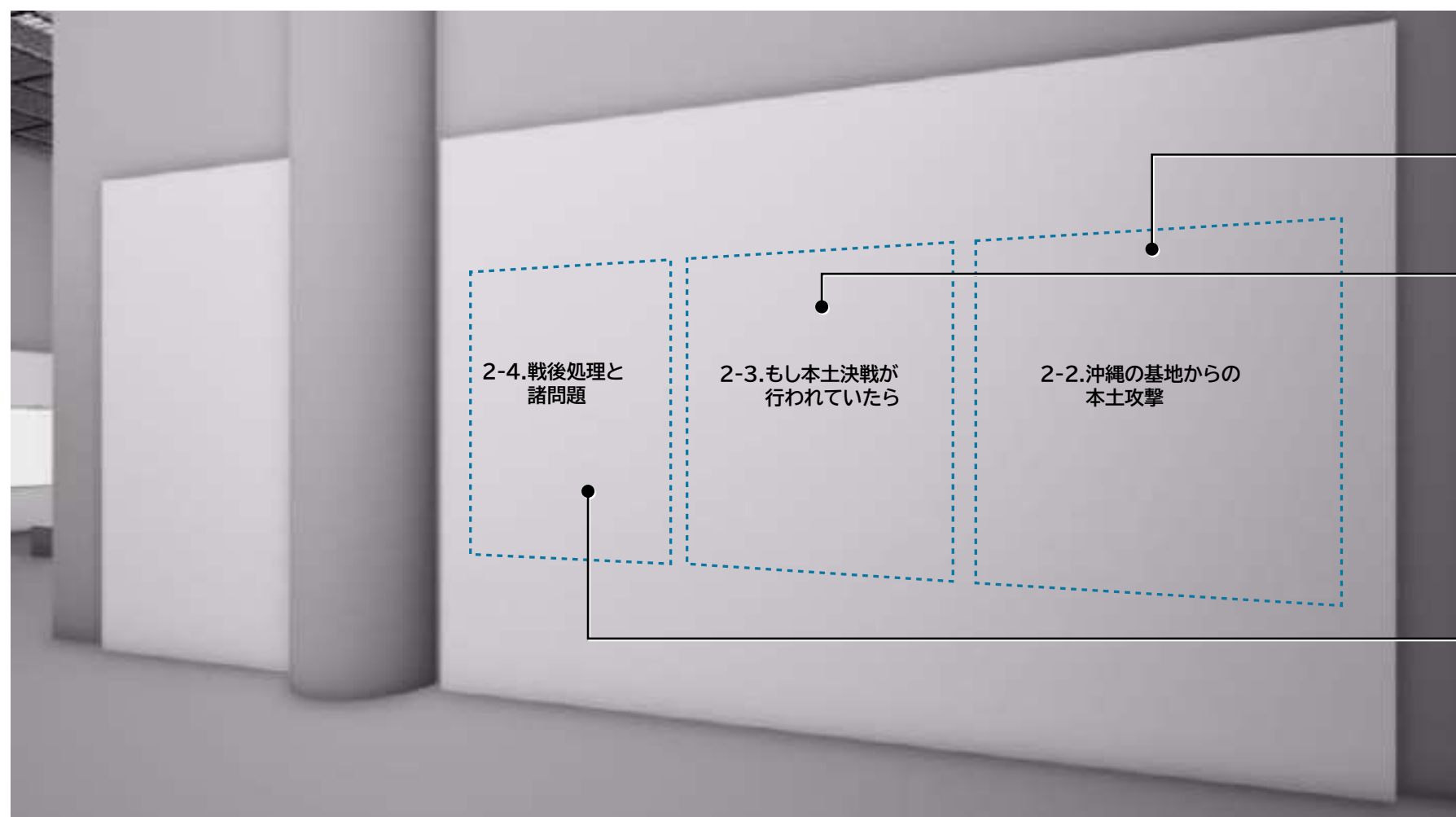
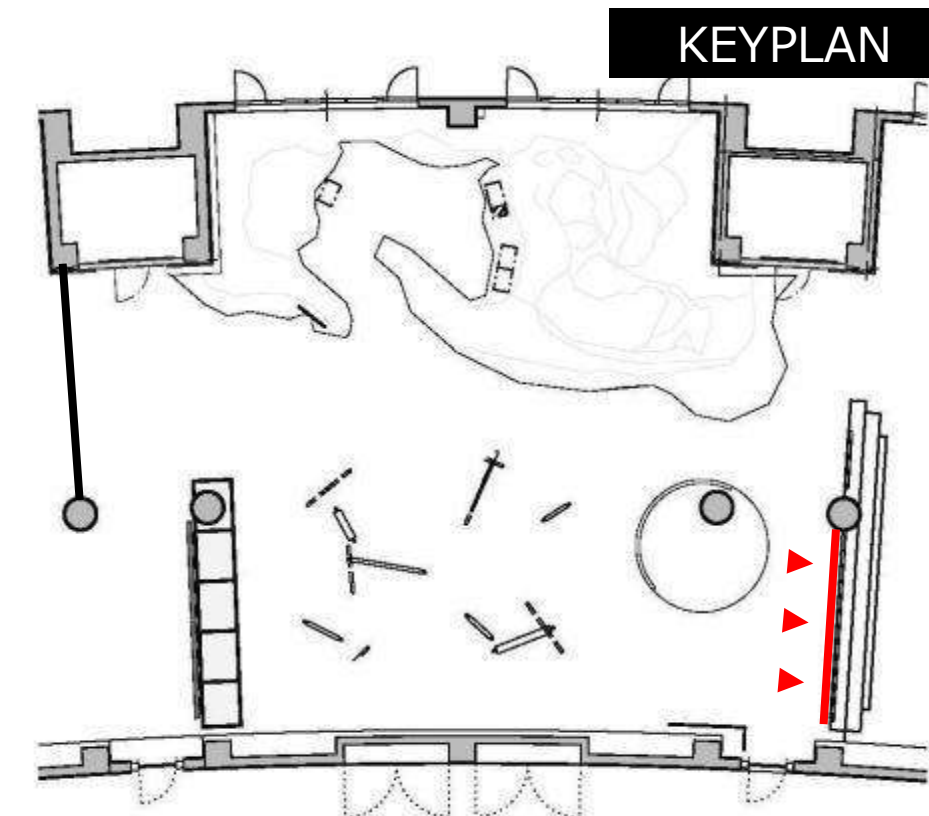
2-4.戦後処理と諸問題

【展示のねらい】

- ・「平和の礎」に刻まれた戦没者のデータから沖縄戦の実像を多角的に読み解き、沖縄戦が持つ意味を考えてもらう。同時に沖縄の経験は本土でも起き得たことを理解してもらい、沖縄戦の教訓は沖縄だけでなく日本全体のものであることを考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に解説する。
- ・ 「2-4.戦後処理と諸問題」については、代表的な写真と解説で構成。ブック式グラフィックなどの手法も検討する。



- ・ 2-2-① 米軍飛行場の建設
- ・ 2-2-② 航空部隊の配備・任務
- ・ 2-2-③ 奄美、九州などへの爆撃
- ・ 2-2-④ 空襲にあった疎開学童
グラフィック

- ・ 2-3-① 米軍の本土進攻作戦計画
- ・ 2-3-② 大本営の本土決戦準備
- ・ 2-3-③ 国民義勇戦闘隊
- ・ 2-3-④ 地区特設警備隊
グラフィック

- ・ 2-4-① 遺骨収集
- ・ 2-4-② 追悼、慰霊碑(塔)
- ・ 2-4-③ 援護法
- ・ 2-4-④ 不発弾
- ・ 2-4-⑤ 戦争遺跡の保存、文化財登録
- ・ 2-4-⑥ 教科書検定問題
- ・ 2-4-⑦ 平和の礎
グラフィック

2. 沖縄戦とは何だったのか

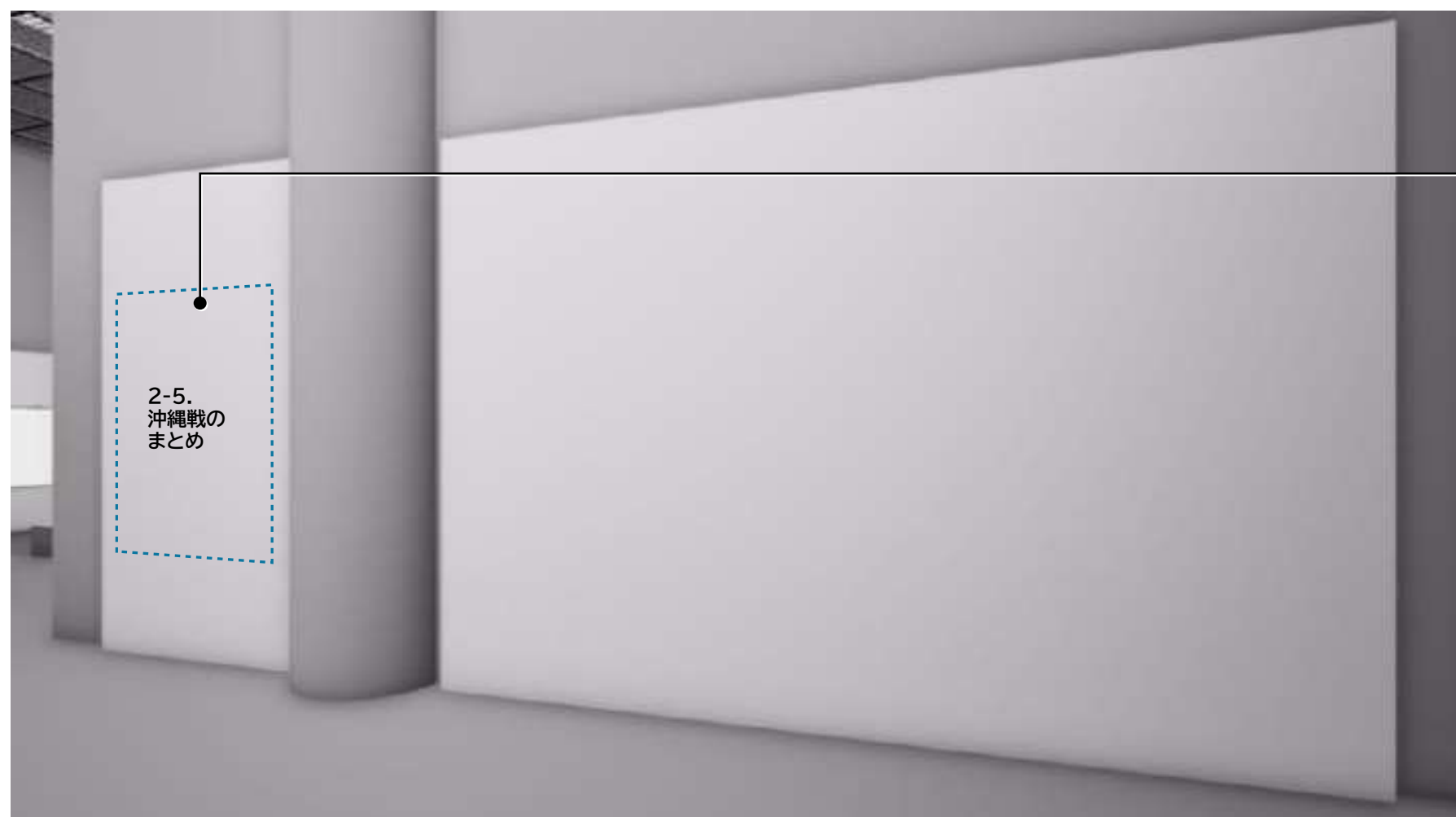
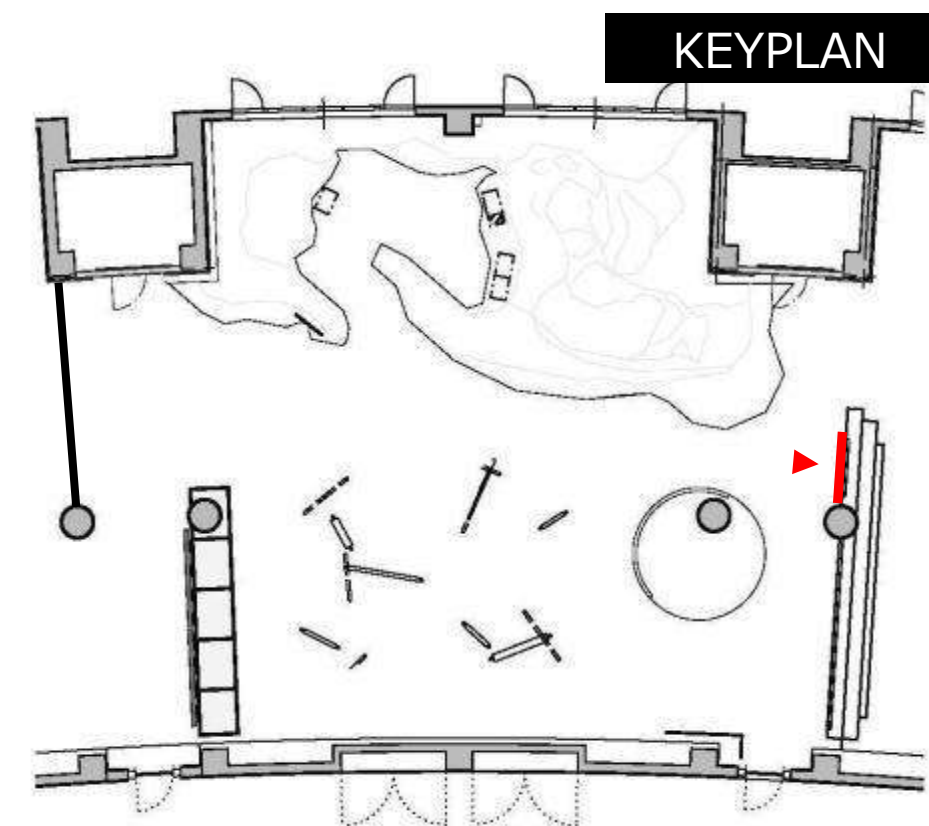
2-5. 沖縄戦のまとめ

【展示のねらい】

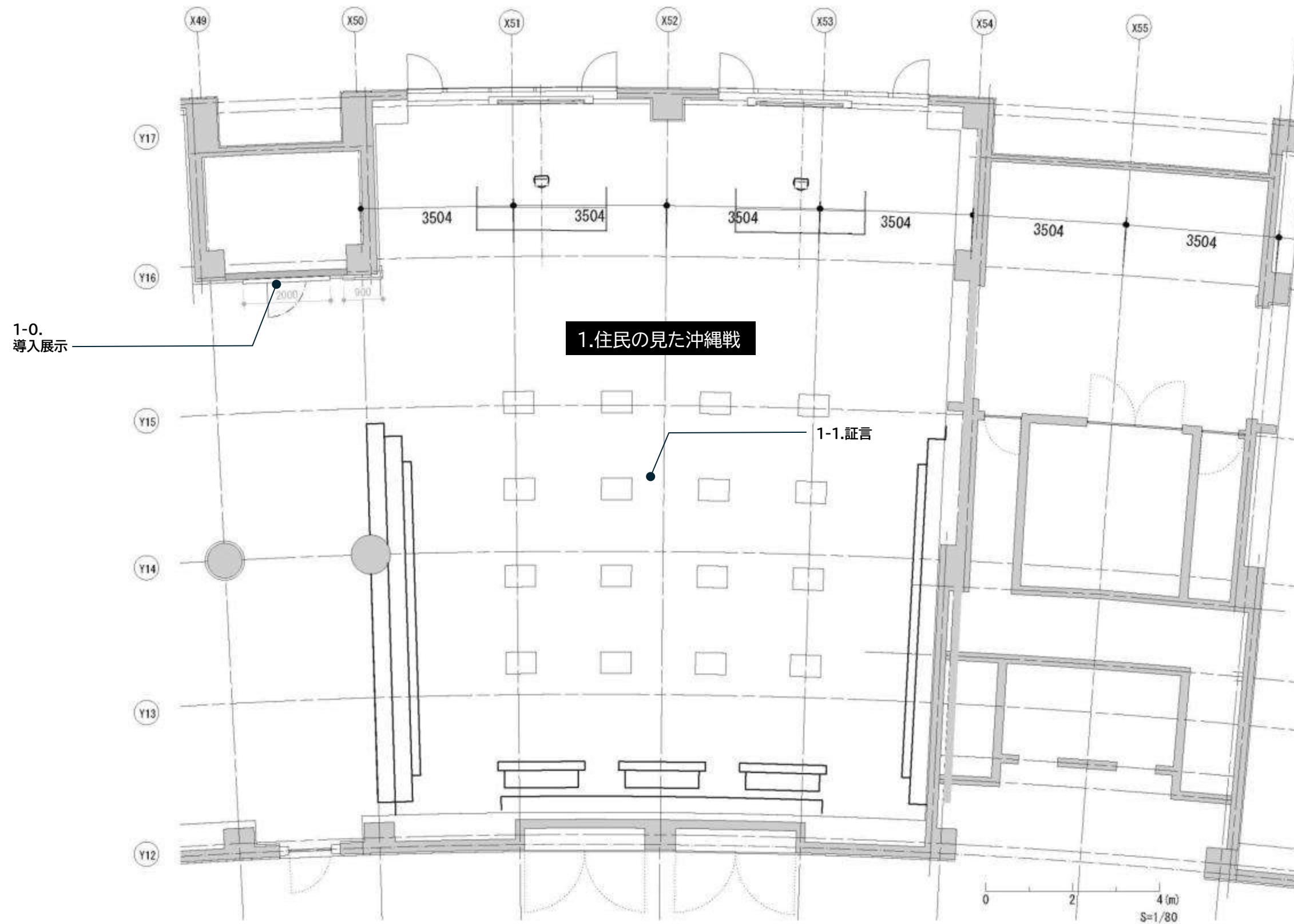
- ・「平和の礎」に刻まれた戦没者のデータから沖縄戦の実像を多角的に読み解き、沖縄戦が持つ意味を考えてもらう。同時に沖縄の経験は本土でも起き得たことを理解してもらい、沖縄戦の教訓は沖縄だけでなく日本全体のものであることを考えてもらう。

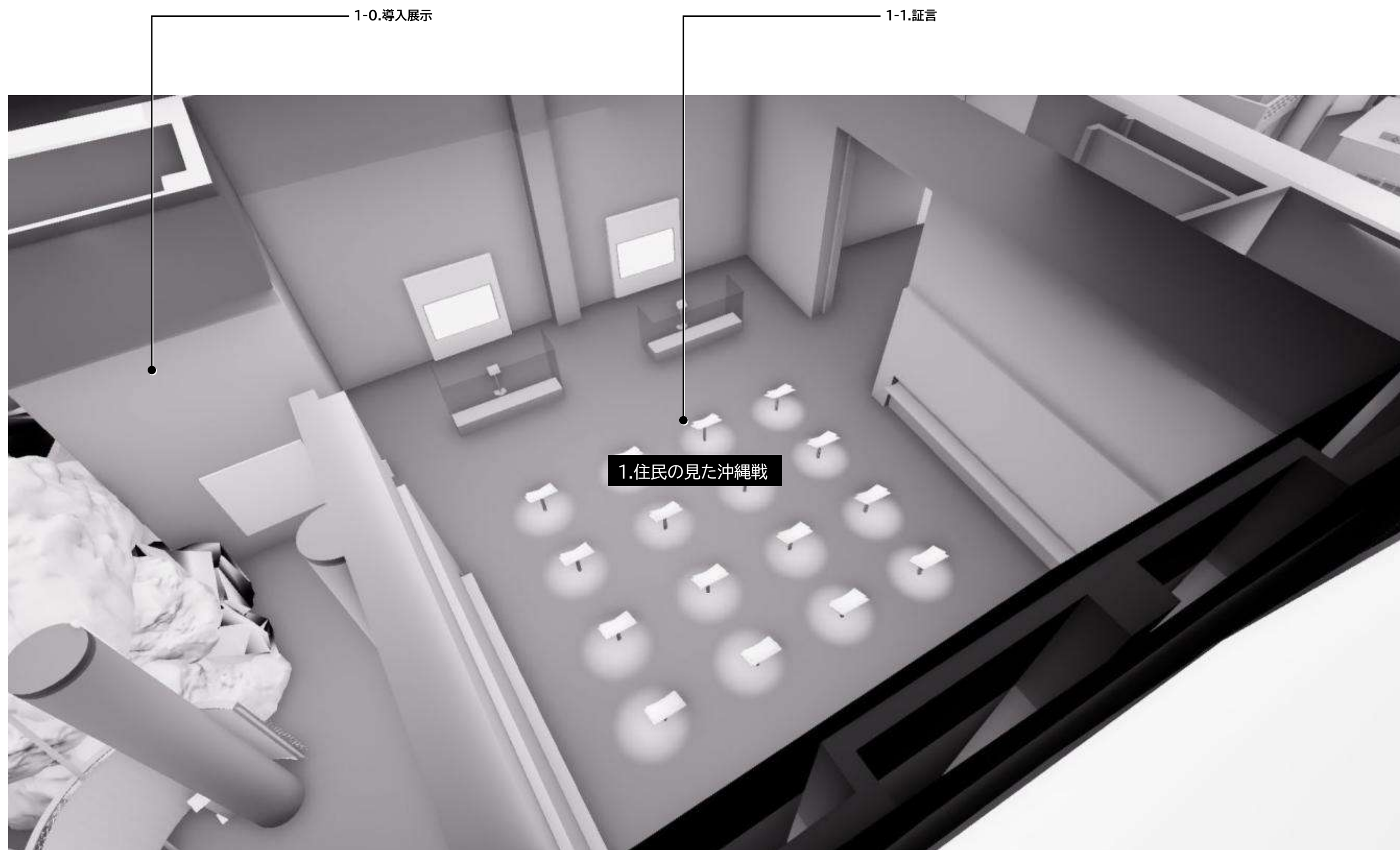
【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に解説する。



- ・ 2-5-① 住民の視点で見た沖縄戦の振り返りグラフィック





1.住民の見た沖縄戦

1-1.証言

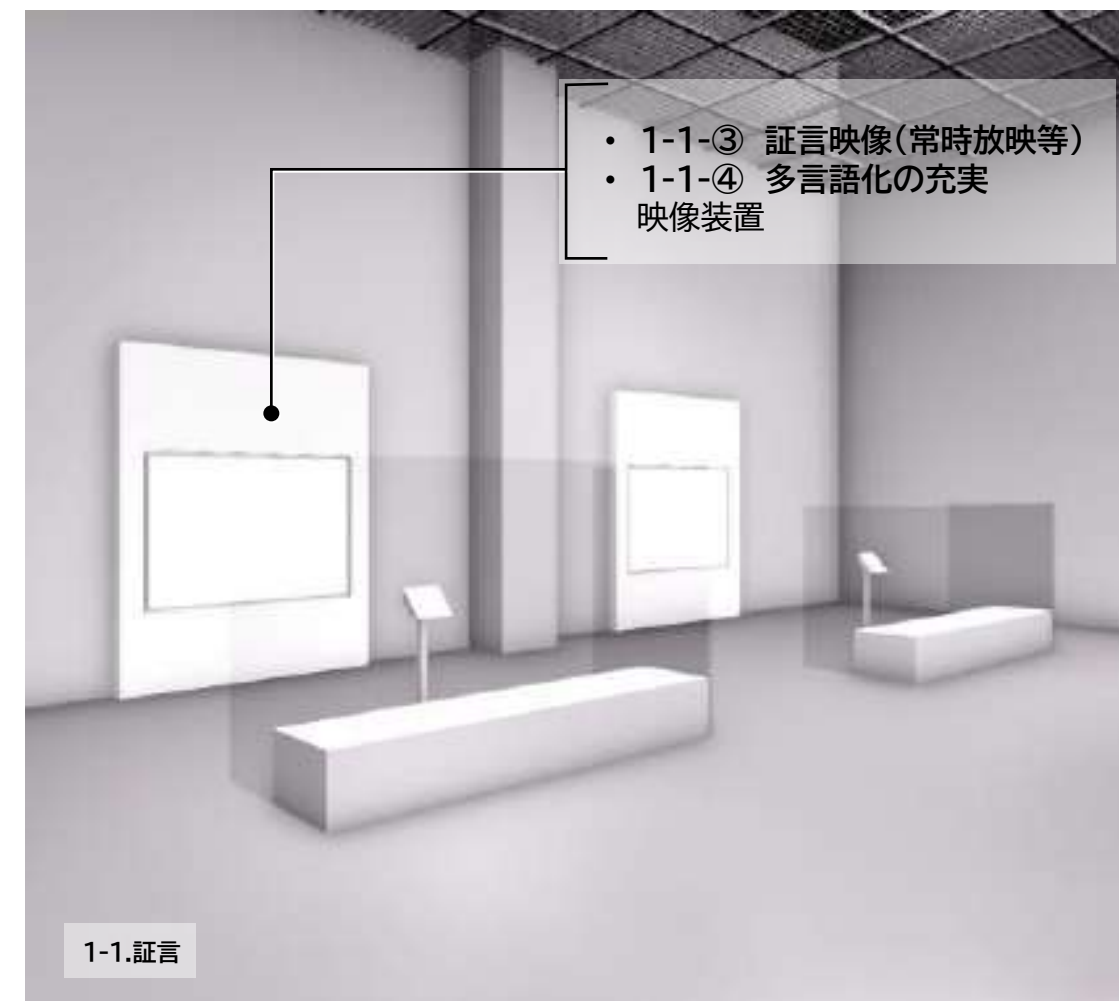
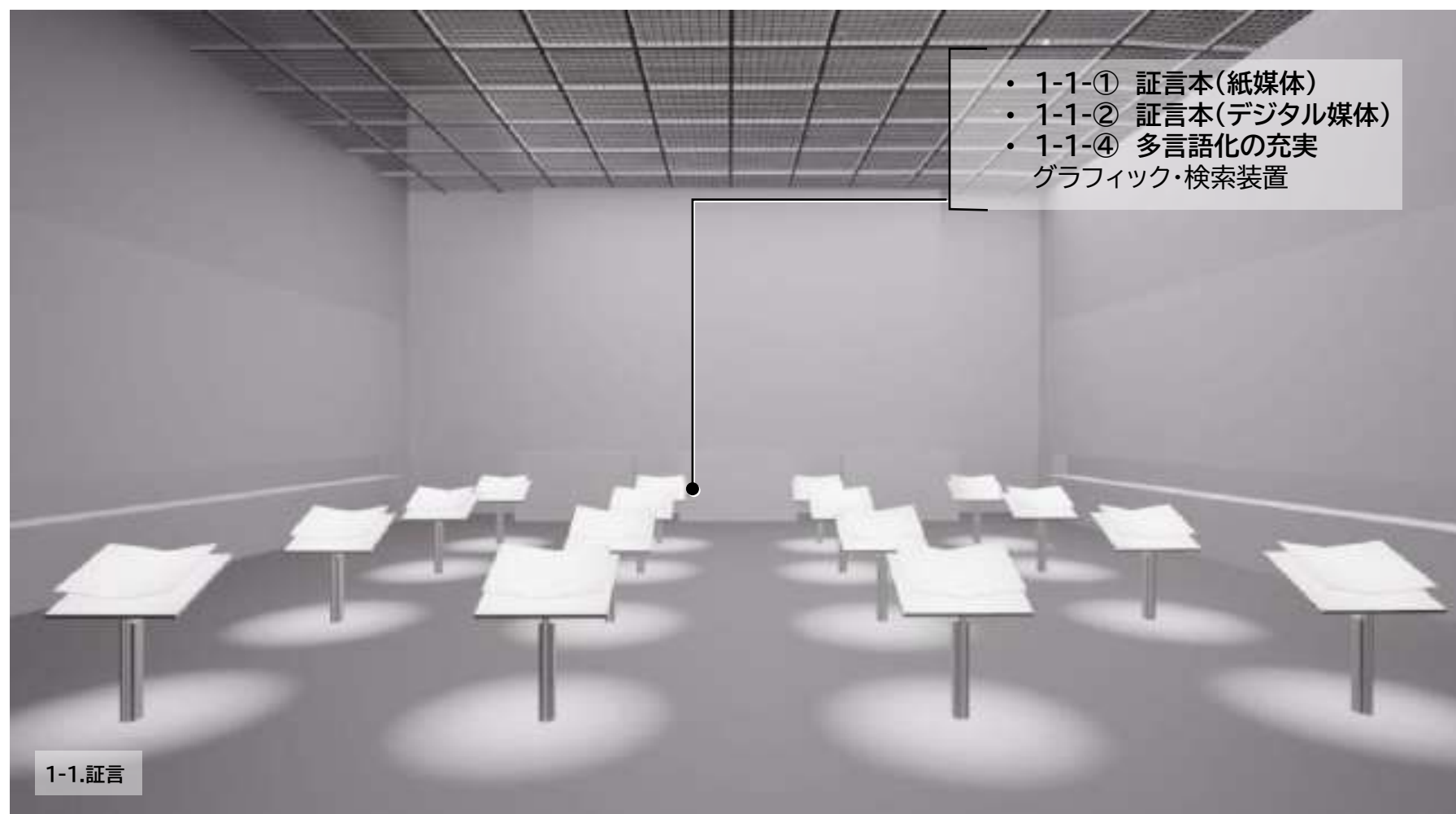
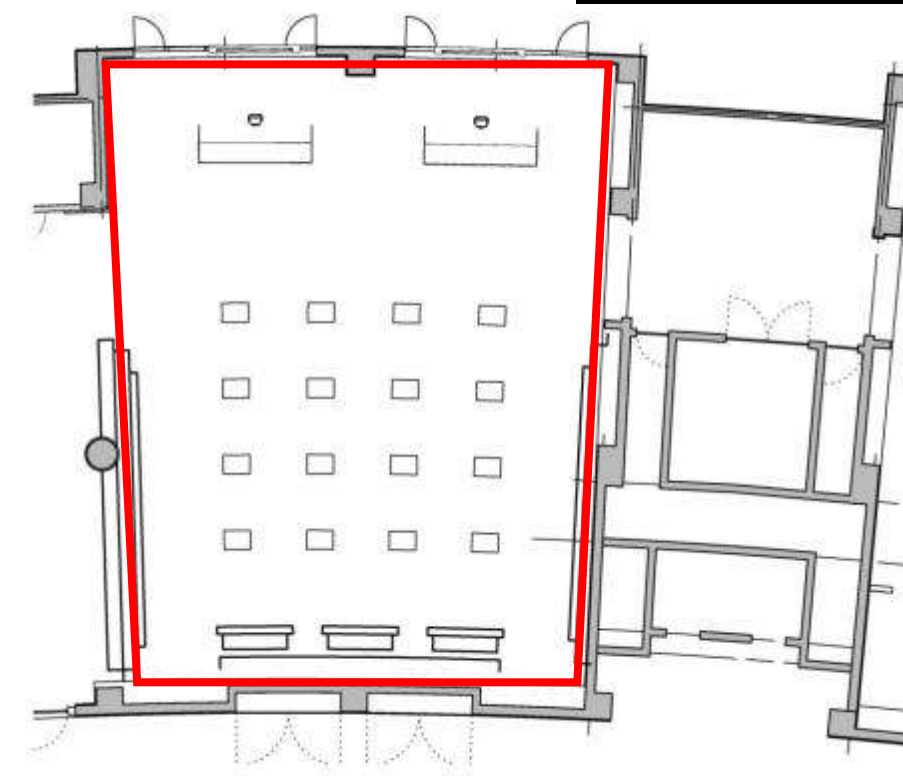
【展示のねらい】

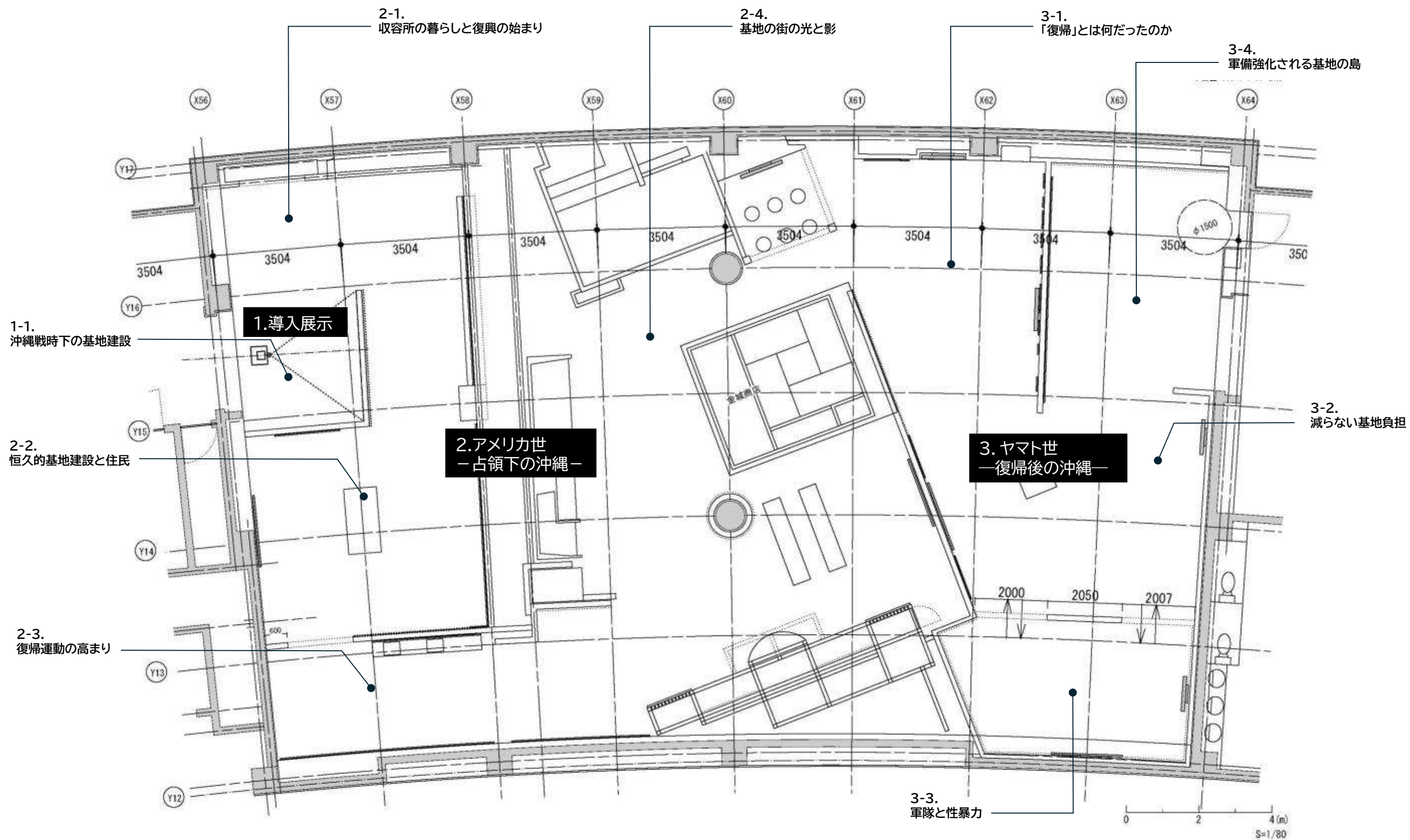
- ・ 沖縄戦をはじめとする戦争を体験した沖縄の一人ひとりの証言にじっくり向き合うことで、戦争の実相を感じ取り、来館者一人一人にとって戦争とは何かを考える契機とする。

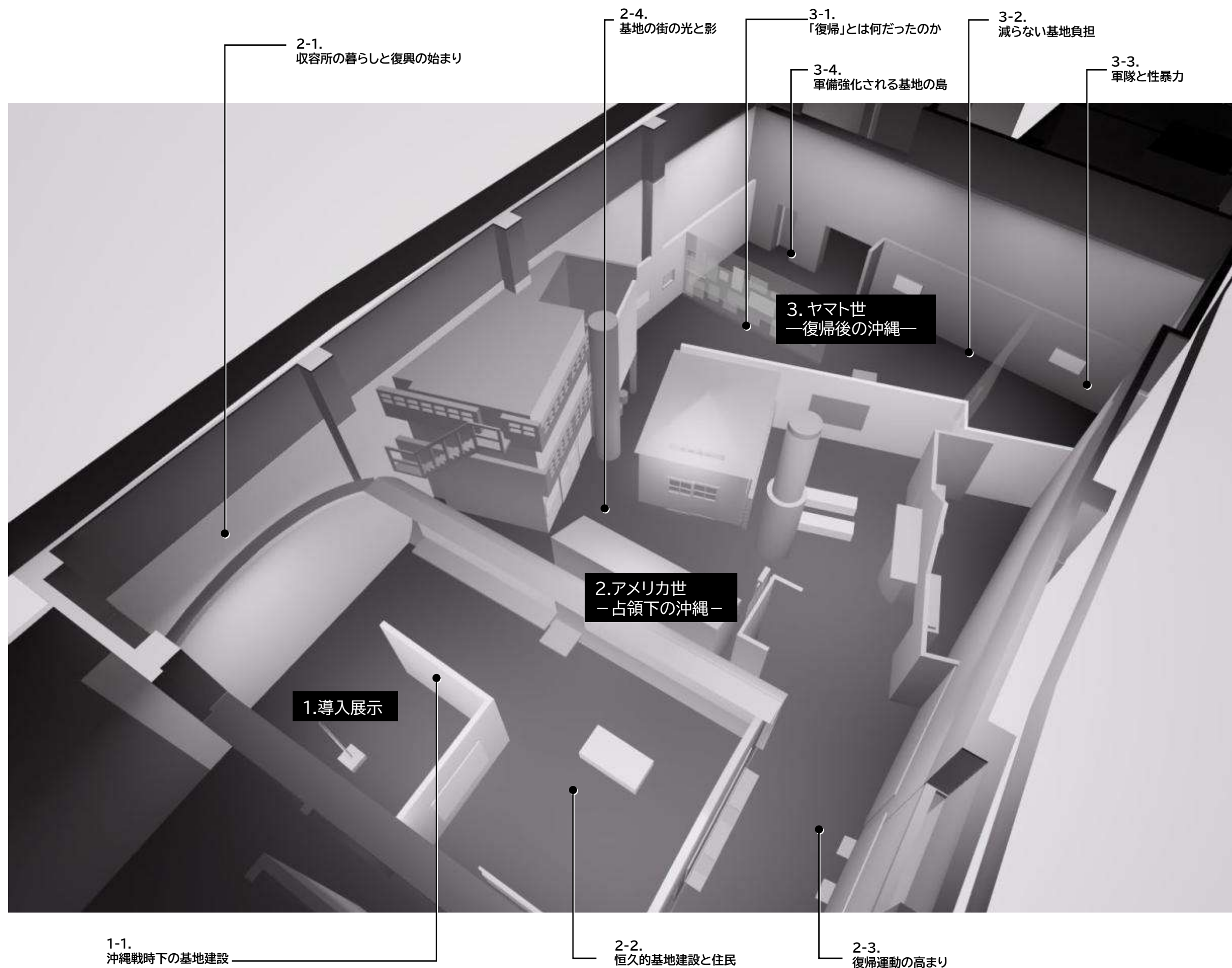
【展示の展開方針】

- ・ 既存の展示環境を踏襲。証言(本、映像)を中心にした展示空間とする。
- ・ 証言本は、テーマや証言内容を分かりやすく示す工夫を施す。
- ・ 1000点を超える証言映像のうち、当時の立場や場所、証言内容から10～20点程度選定。来館者が自由に選択できる仕様とする(なお、すべての証言映像は、1階で閲覧可能にする)。

KEYPLAN







1.導入展示

1-1.沖縄戦時下の基地建設

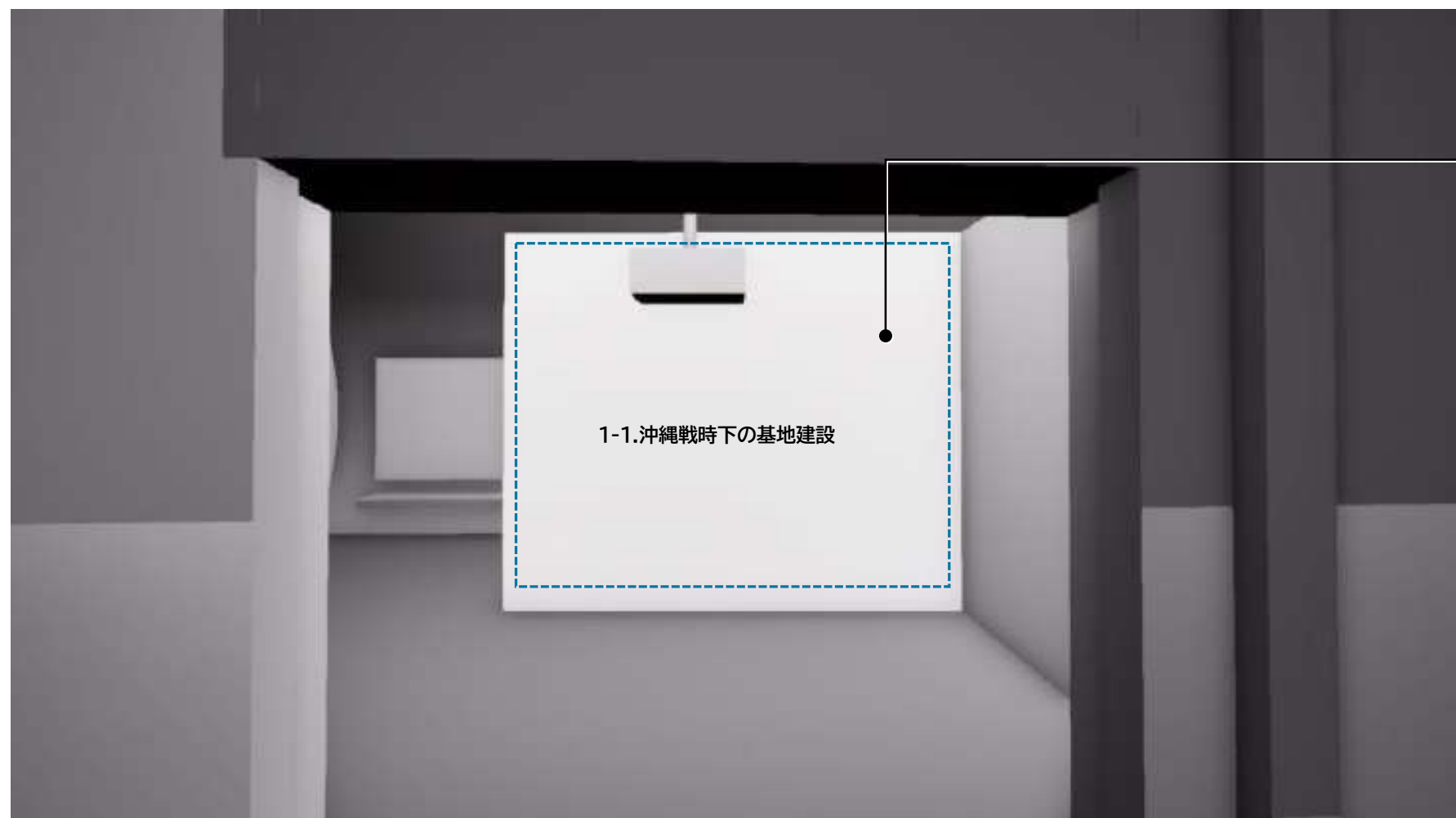
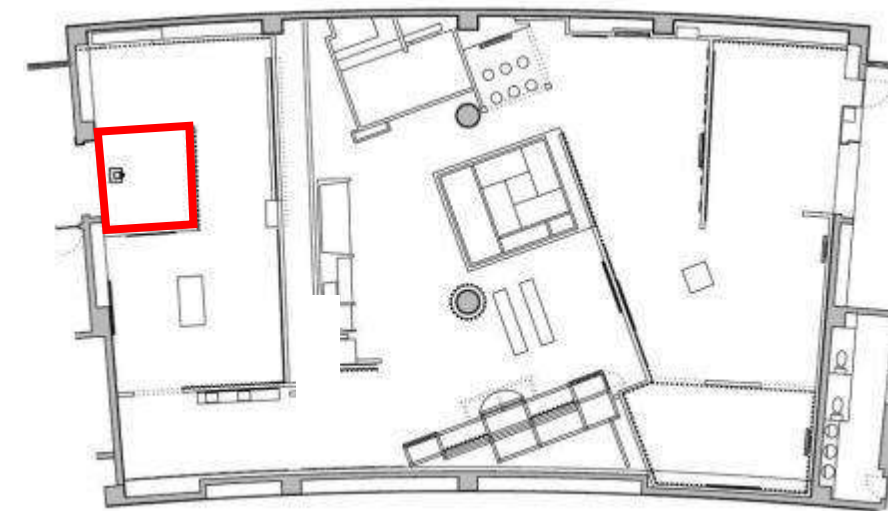
【展示のねらい】

- ・ 戦闘と並行して基地建設が進められていたことから、沖縄戦が現在の基地問題の出発点であることを感じてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 沖縄戦の最中、西海岸で米軍が基地建設を行っている様子や、建設された基地から、戦闘機が本土に向かって出撃している様子などを、プロジェクターで壁面に投影する。
- ・ 現在に至る基地問題は、沖縄戦時から始まっていたことへの気づきを引き出すメッセージを発信する。

KEYPLAN



- ・ 1-1-① 来館者へのメッセージ
- ・ 1-1-② 戦闘と並行した基地建設
グラフィック・映像装置

プロジェクターにより、米軍による基地建設の様子や、基地から本土に向かって出撃する戦闘機の様子などをとらえた映像等を投影。

2.アメリカ世一占領下の沖縄一

2-1.収容所の暮らしと復興の始まり

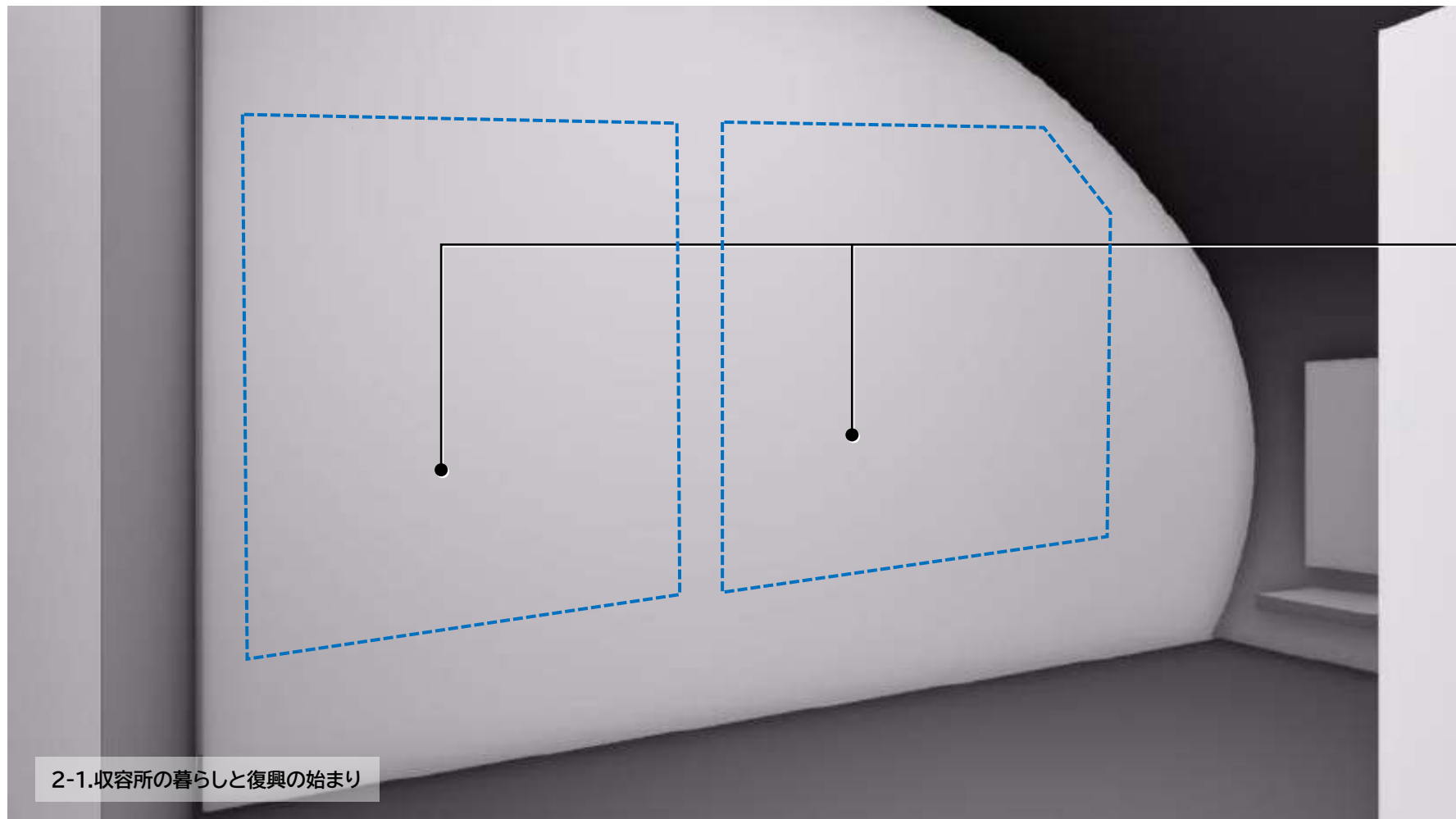
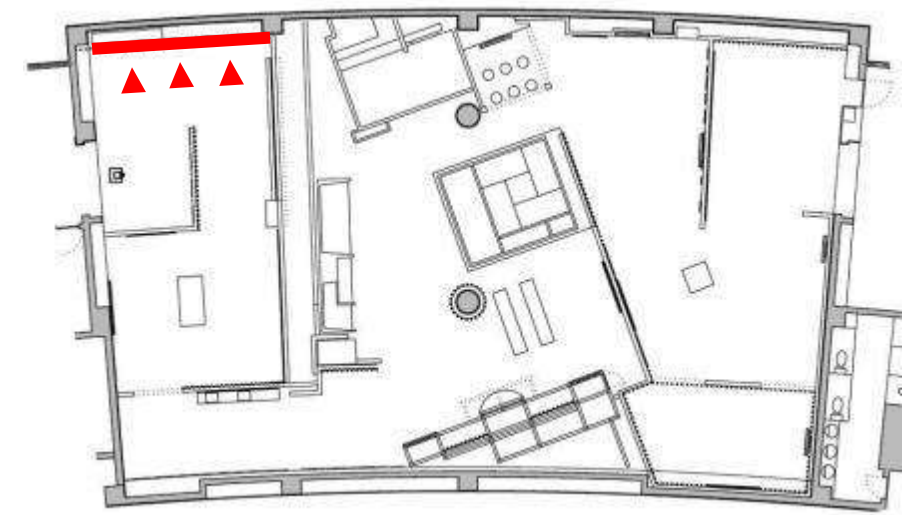
【展示のねらい】

- 戦後の沖縄が収容所生活から始まり、困難の中で暮らしを再建していった様子を知ってもらう。

【展示の展開方針】

- 地図や写真を用いた大判壁面グラフィックで、収容所生活、帰郷、生活再建の様子を描く。生活用具等の実物資料も補助的に配置する。

KEYPLAN



- ・ 2-1-① 収容所の暮らしと食糧事情
- ・ 2-1-③ 帰郷(基地建設と離散)
グラフィック

2-1.収容所の暮らしと復興の始まり

2.アメリカ世一占領下の沖縄一

2-1.収容所の暮らしと復興の始まり

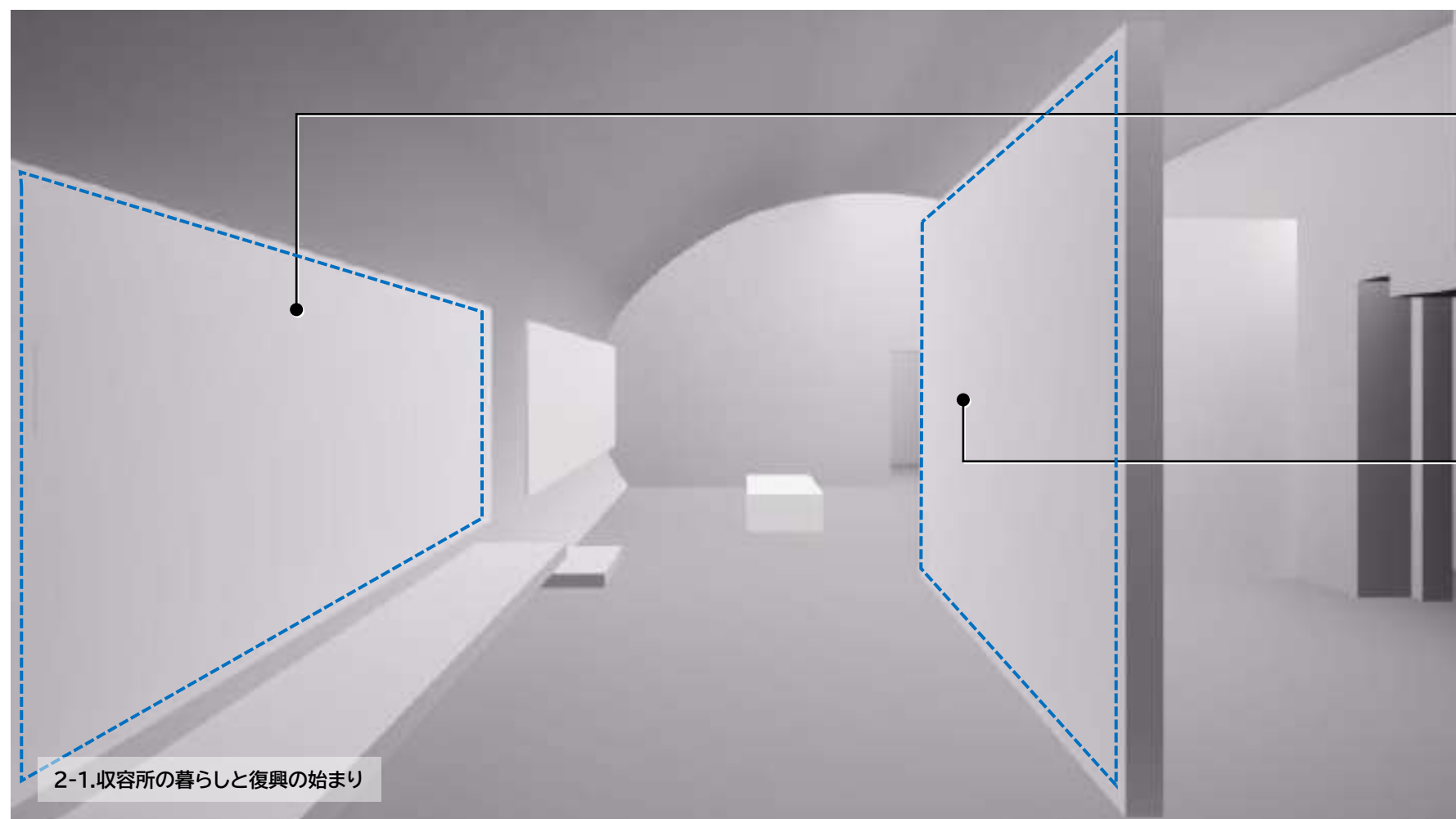
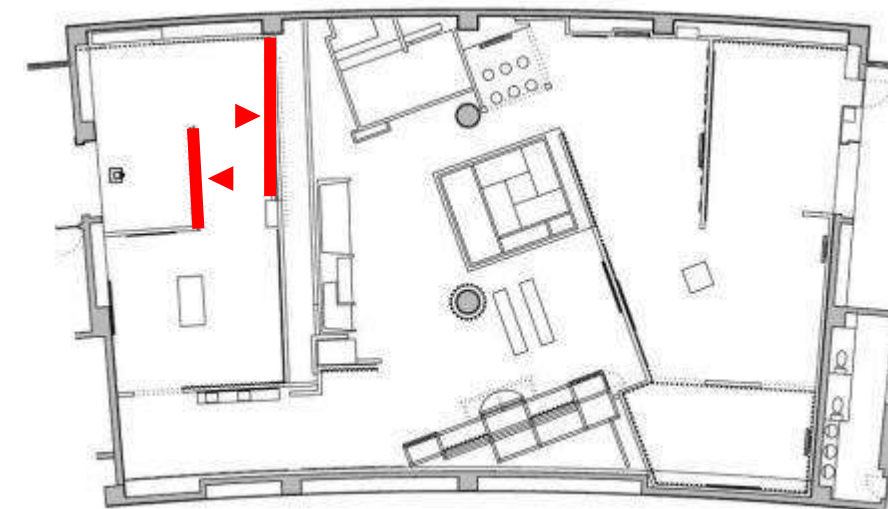
【展示のねらい】

- ・ 戦後の沖縄が収容所生活から始まり、困難の中で暮らしを再建していった様子を知ってもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 地図や写真を用いた大判壁面グラフィックで、収容所生活、帰郷、生活再建の様子を描く。生活用具等の実物資料も補助的に配置する。

KEYPLAN



2-1.収容所の暮らしと復興の始まり

- ・ 2-1-② 戦後教育の始まり
- ・ 2-1-④ 戦果と密貿易
- ・ 2-1-⑤ 海外・県外引揚げの諸相
- ・ 2-1-⑥ 県人の救済活動と米軍支援物資
- ・ 2-1-⑦ 文化の復興
- ・ 2-1-⑧ うるま新報
グラフィック・資料
- ・ 2-1-③ 帰郷(基地建設と離散)
グラフィック

2.アメリカ世一占領下の沖縄ー

2-2.恒久的基地建設と住民

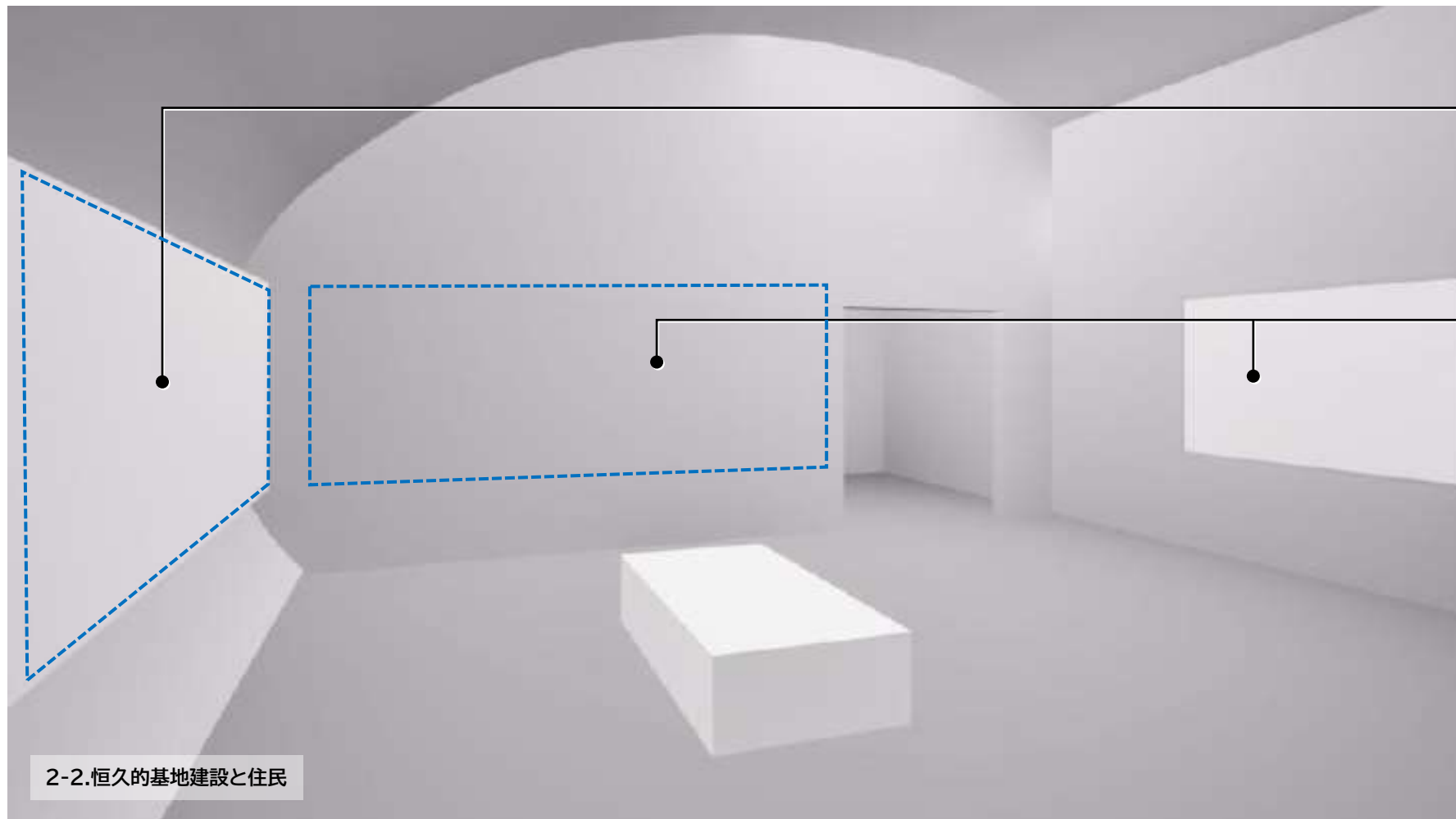
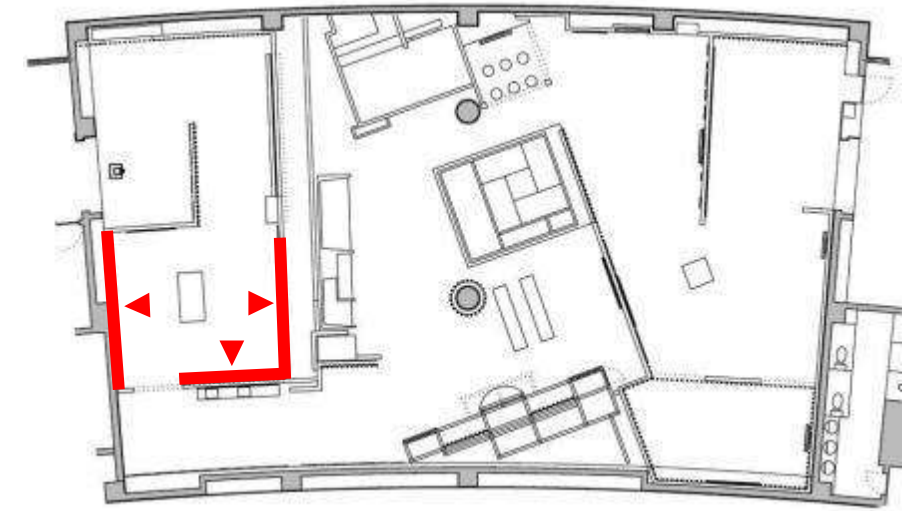
【展示のねらい】

- 本土の基地が沖縄へ移転する中で基地の恒久化が進み、それに抗う住民の姿と、占領下での行政組織や統治の仕組みを知ってもらう。

【展示の展開方針】

- 壁4面に囲まれた空間を活用し、大型モニターと壁面グラフィックを連動させて、1950年代に基地が沖縄へ集中していく過程を示す。アニメーション及び図表により、本土と沖縄の動きを具体的に明らかにする。

KEYPLAN



- 2-2-① 沖縄保有の決定
- 2-2-② サンフランシスコ講和条約
- 2-2-⑤ 基地建設工事
グラフィック

- 2-2-③ 島ぐるみ闘争
- 2-2-④ 本土の基地問題と海兵隊
- 2-2-⑥ 土地接収
- 2-2-⑦ 海兵隊の移転
- 2-2-⑧ 核兵器
グラフィック・映像装置

2.アメリカ世一占領下の沖縄ー

2-2.恒久的基地建設と住民

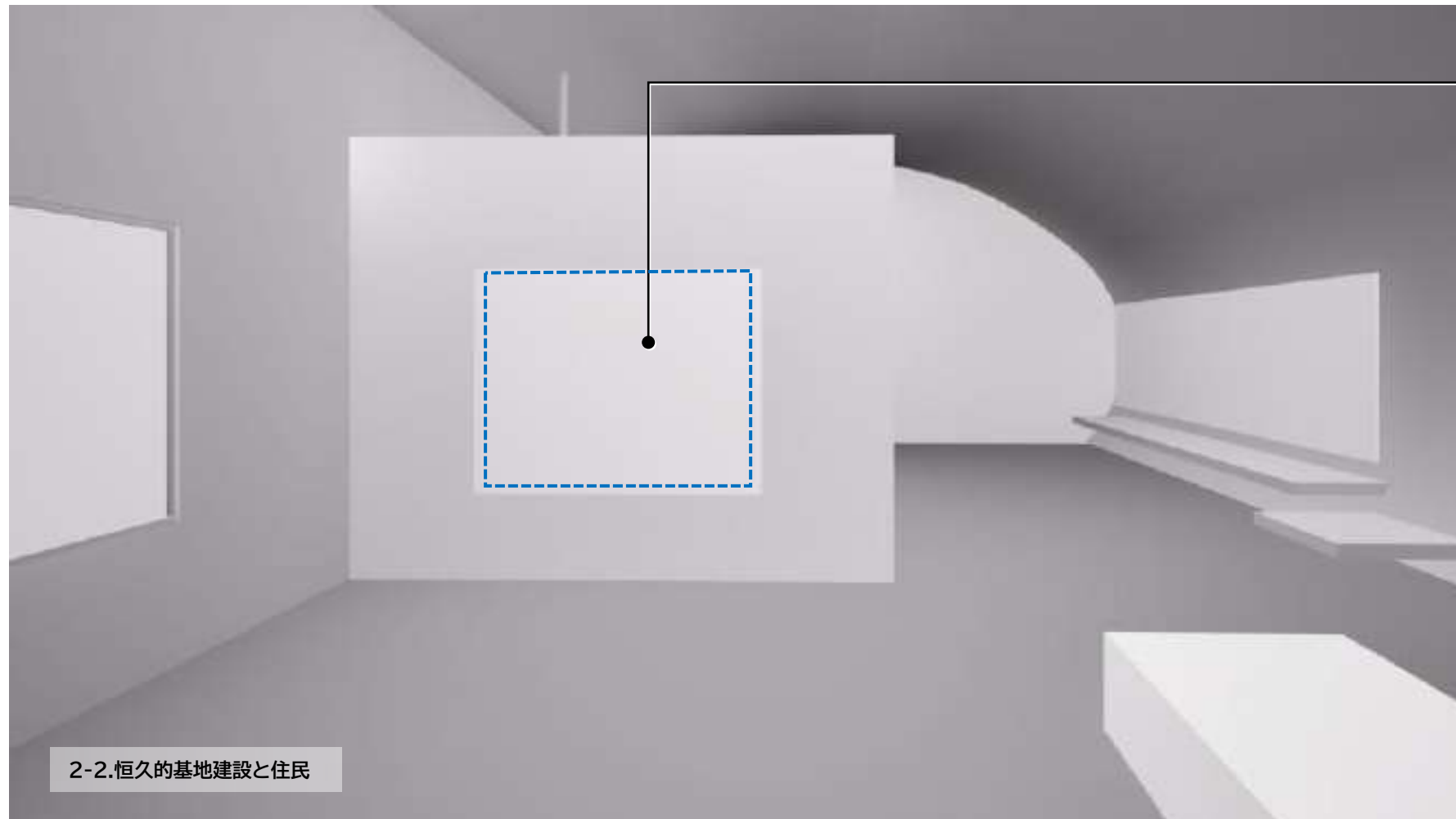
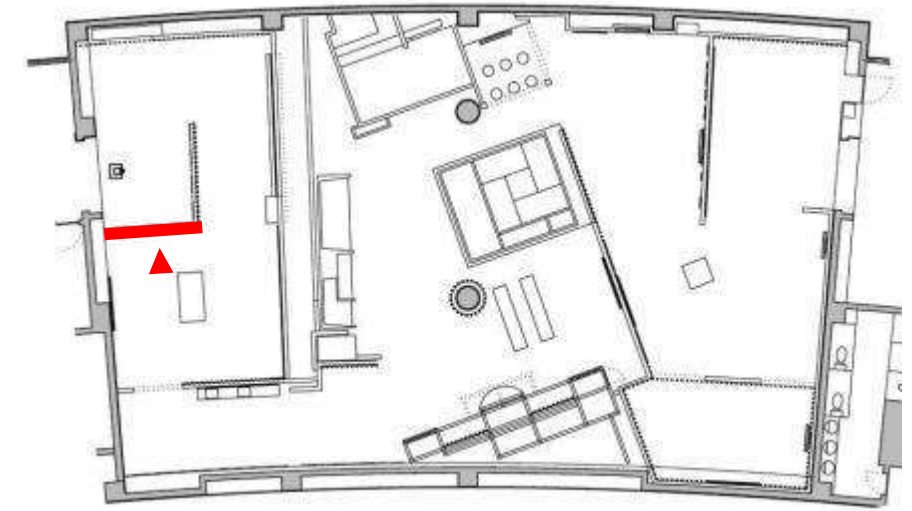
【展示のねらい】

- 本土の基地が沖縄へ移転する中で基地の恒久化が進み、それに抗う住民の姿と、占領下での行政組織や統治の仕組みを知ってもらう。

【展示の展開方針】

- 壁4面に囲まれた空間を活用し、大型モニターと壁面グラフィックを連動させて、1950年代に基地が沖縄へ集中していく過程を示す。アニメーション及び図表により、本土と沖縄の動きを具体的に明らかにする。

KEYPLAN



- 2-2-⑨ 行政組織の変遷
- 2-2-⑩ 占領統治の仕組み
- 2-2-⑪ 南米移民、八重山開拓
グラフィック

2.アメリカ世一占領下の沖縄一

2-3.復帰運動の高まり

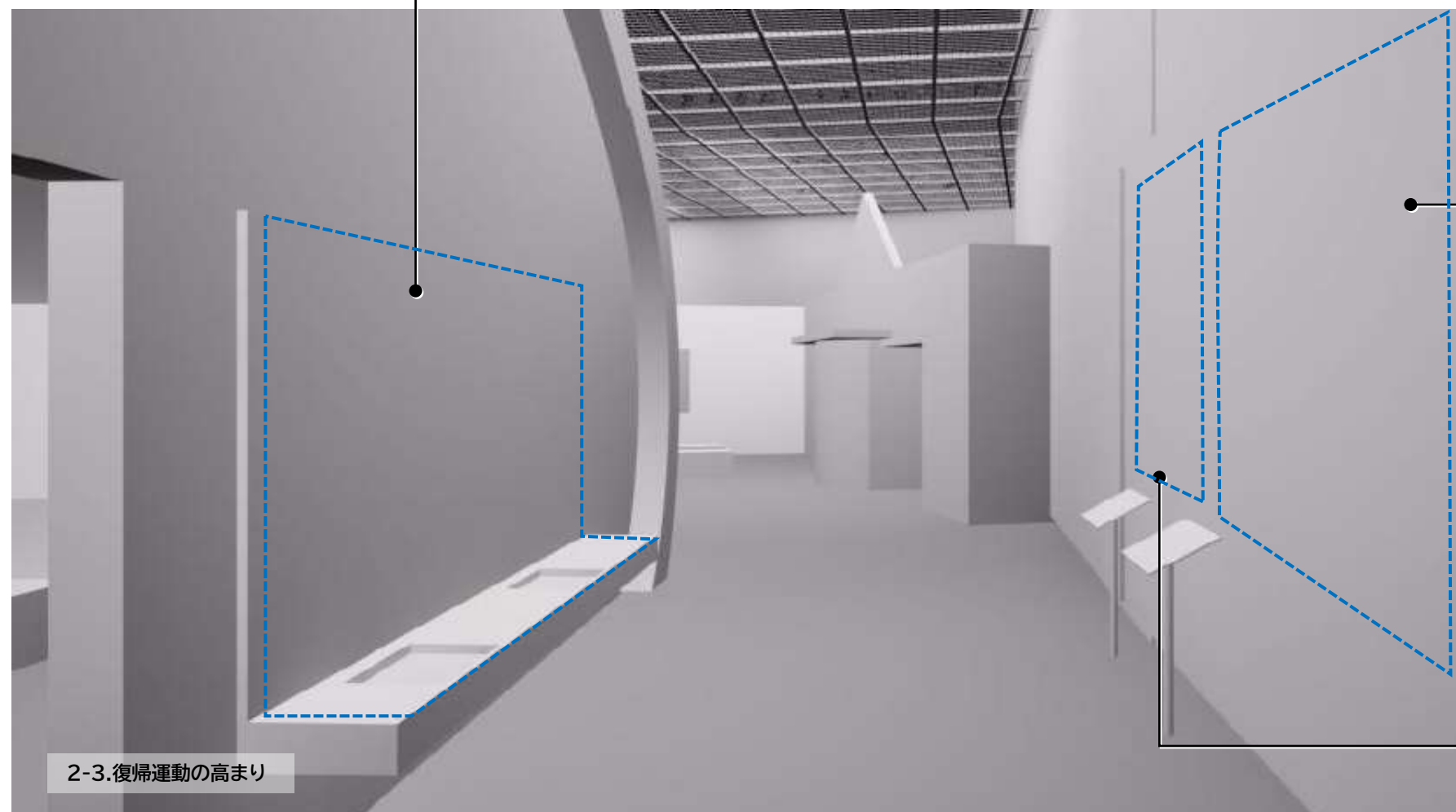
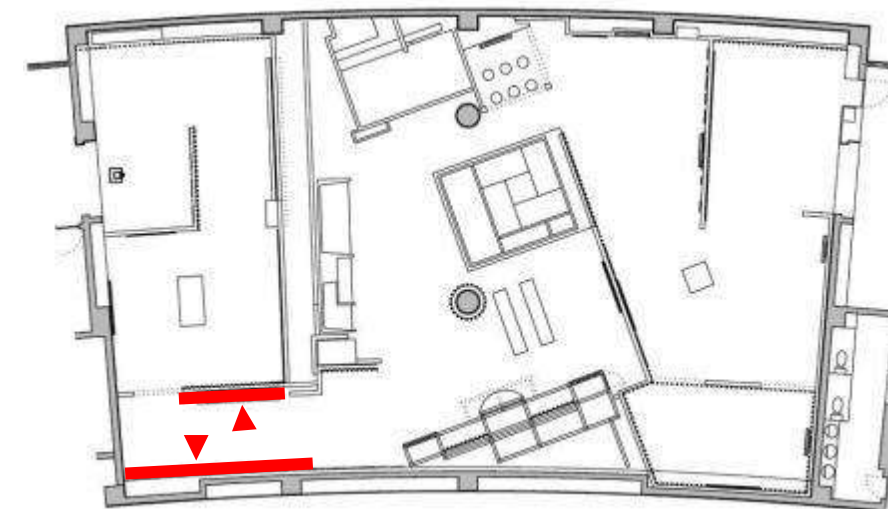
【展示のねらい】

- ・ 事件や権利侵害が続いた占領下の現実と、日本への復帰と権利回復を求めた県民の動きを示すとともに、占領下を象徴する展示物を通して当時の状況を具体的に理解してもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 占領下で制限のある生活を送る中、増加する悲惨な米軍関連事件・事故を、写真や絵画を効果的に用いて描き、復帰運動が高まっていく様子と復帰に向けた日米の動きを示す。

KEYPLAN



2-3.復帰運動の高まり

- ・ 2-3-① 言論統制・渡航制限・裁判移送
 - ・ 2-3-⑦ 日米への留学と集団就職
 - ・ 2-3-③ 男女平等の新民法の施行(憲法は適用されず)
- グラフィック・資料

- ・ 2-3-② 増加する米軍関連の事件・事故
 - ・ 2-3-④ 沖縄県祖国復帰協議会の結成
 - ・ 2-3-⑤ 主席公選闘争と教公二法阻止闘争
 - ・ 2-3-⑥ 全軍労の結成
 - ・ 2-3-⑧ 沖縄返還をめぐる日米協議の始まり
- グラフィック・資料

- ・ 2-4-⑧ ベトナム戦争
- グラフィック・資料

2.アメリカ世一占領下の沖縄一

2-4.基地の街の光と影

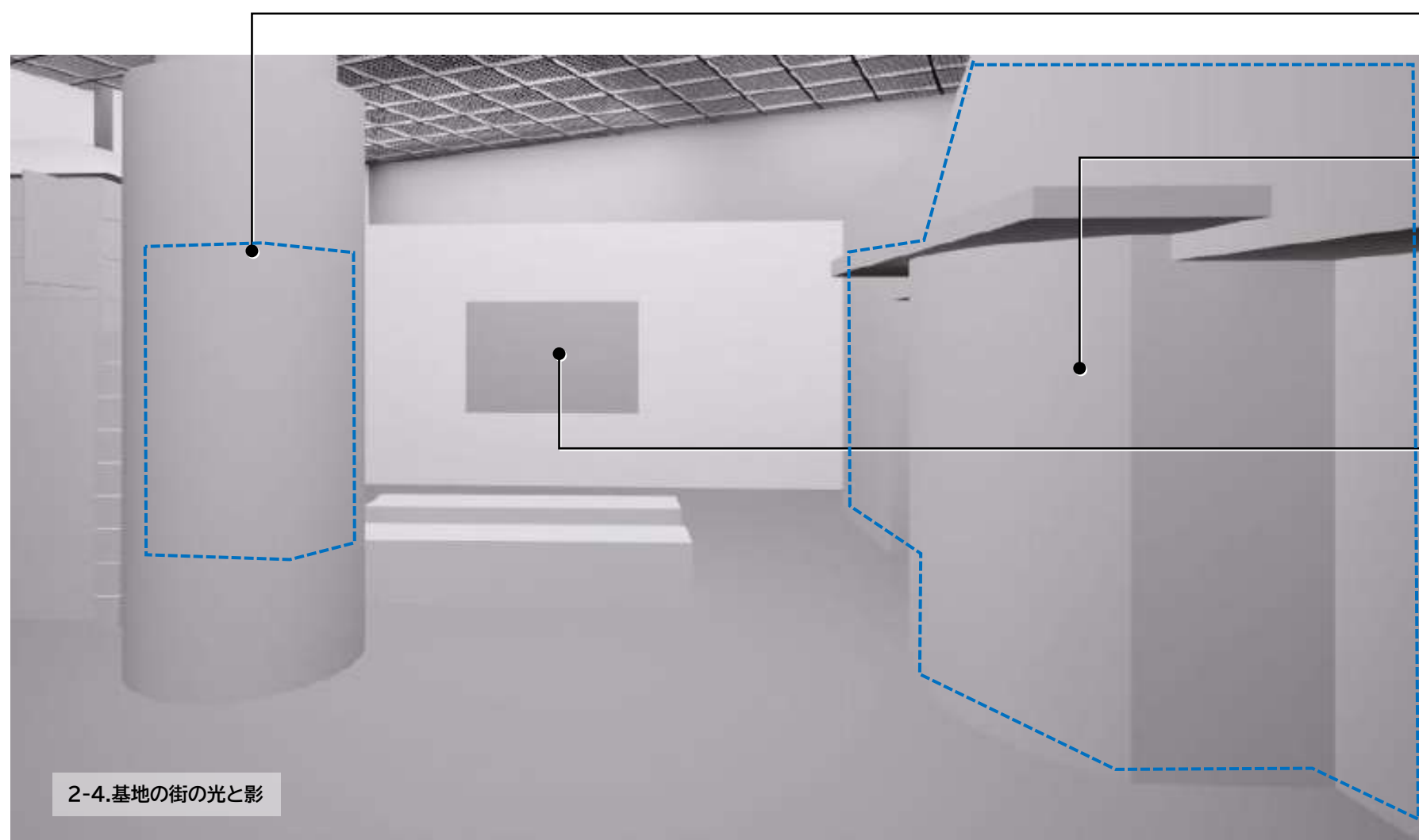
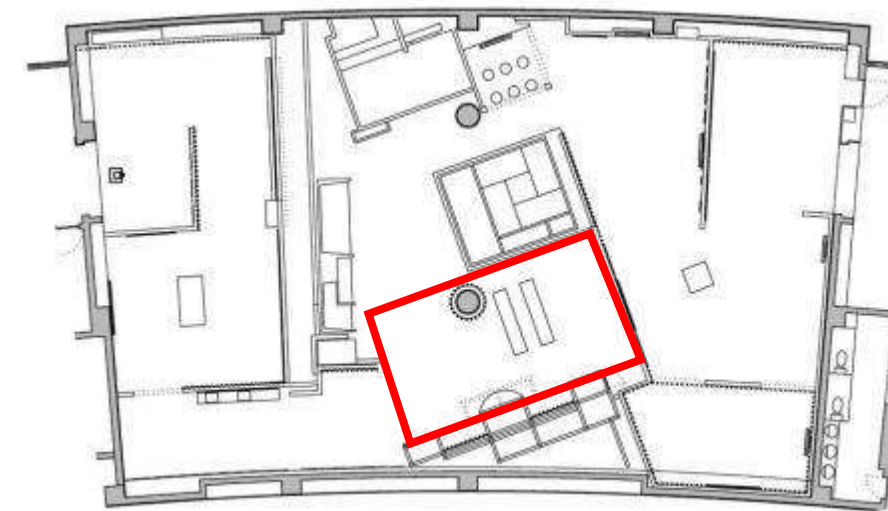
【展示のねらい】

- 基地の存在によって生まれた街の繁栄と、その影で生じた犠牲の両面に目を向け、ベトナム戦争と沖縄の関わりを通して基地が持つ構造を捉えてもらう。

【展示の展開方針】

- 再現空間内の各建物に解説を設け、短編映像を組み合わせて基地の街の繁栄と犠牲を描く。コザ騒動や復帰前の沖縄社会、ベトナム戦争との関わりを通して、基地がもたらす影響を空間全体で示す。

KEYPLAN



• 2-4-① 基地の街の背景
グラフィック

• 2-4-② アーニーパイル国際劇場と那覇の街
グラフィック・資料・造形

• 2-4-⑦ 映像コーナー
映像装置

2-4.基地の街の光と影

2.アメリカ世一占領下の沖縄ー

2-4.基地の街の光と影

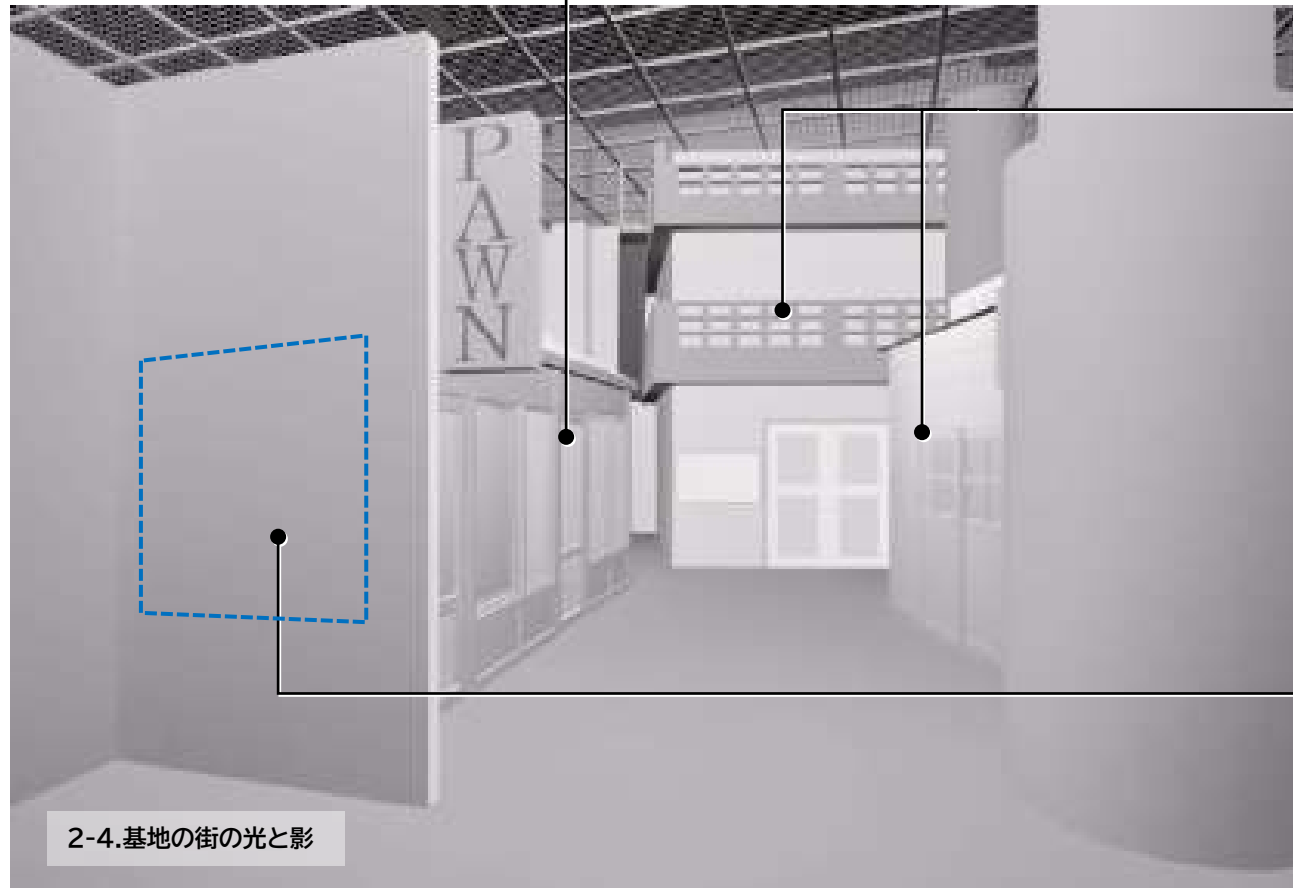
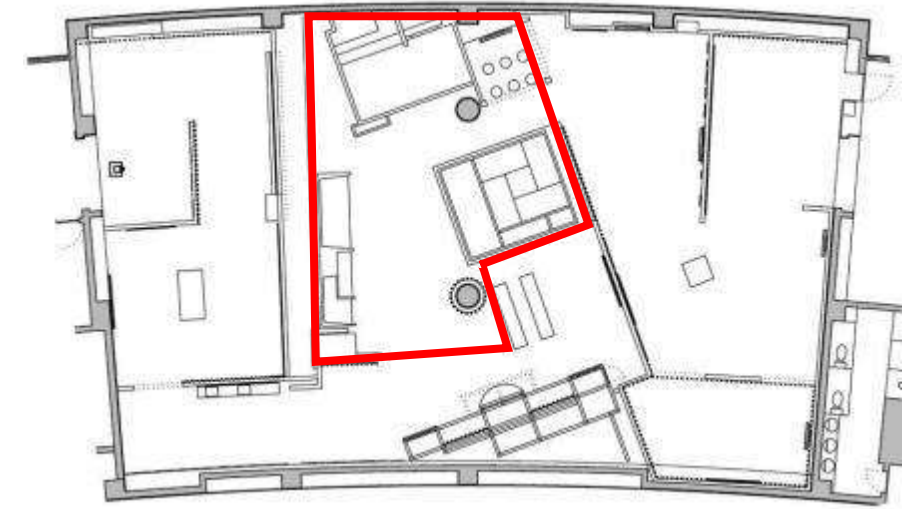
【展示のねらい】

- 基地の存在によって生まれた街の繁栄と、その影で生じた犠牲の両面に目を向け、ベトナム戦争と沖縄の関わりを通して基地が持つ構造を捉えてもらう。

【展示の展開方針】

- 再現空間内の各建物に解説を設け、短編映像を組み合わせることで基地の街の繁栄と犠牲を描く。コザ騒動や復帰前の沖縄社会、ベトナム戦争との関わりを通して、基地がもたらす影響を空間全体で示す。

KEYPLAN



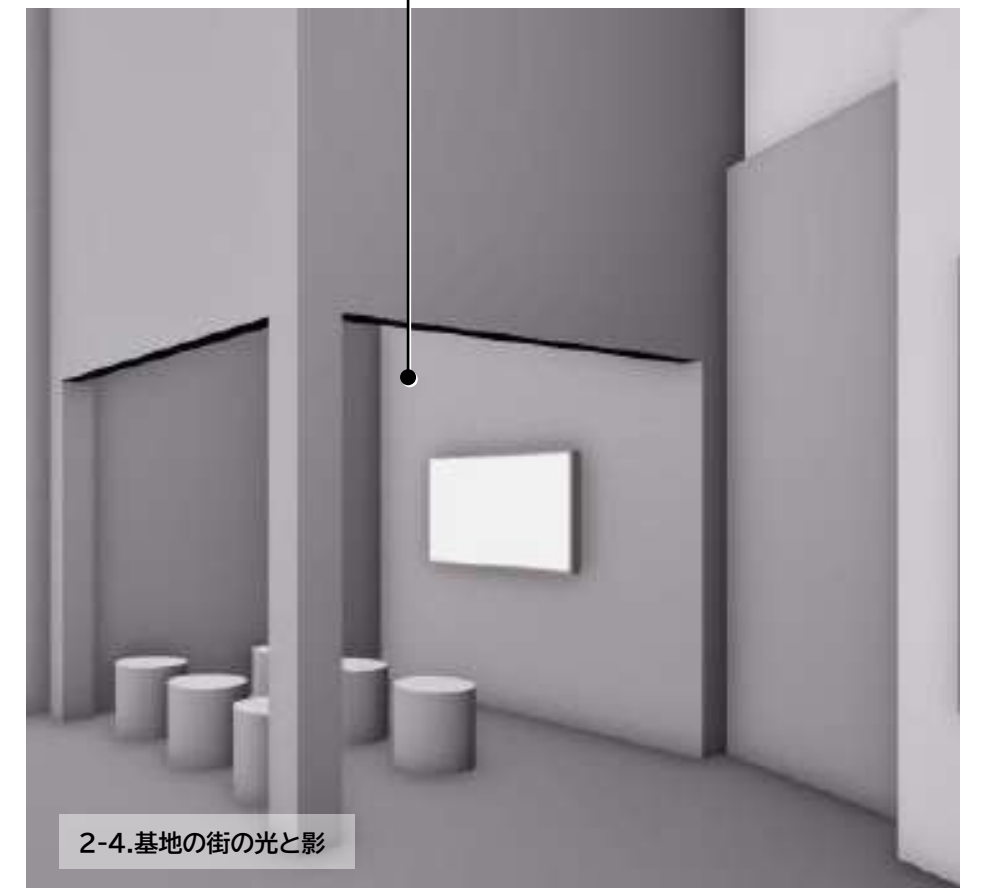
• 2-4-③ スーベニアショップとテラー
グラフィック・映像装置・資料・造形

• 2-4-④ 金城商店とAサインバー
グラフィック・映像装置・資料・造形

• 2-4-⑤ B-52とパラシュート
グラフィック・造形

2-4.基地の街の光と影

- 2-4-⑥ 毒ガス移送とコザ騒動
- 2-4-⑦ 映像コーナー
映像装置



2-4.基地の街の光と影

3.ヤマト世ー復帰後の沖縄ー

3-1.「復帰」とは何だったのか

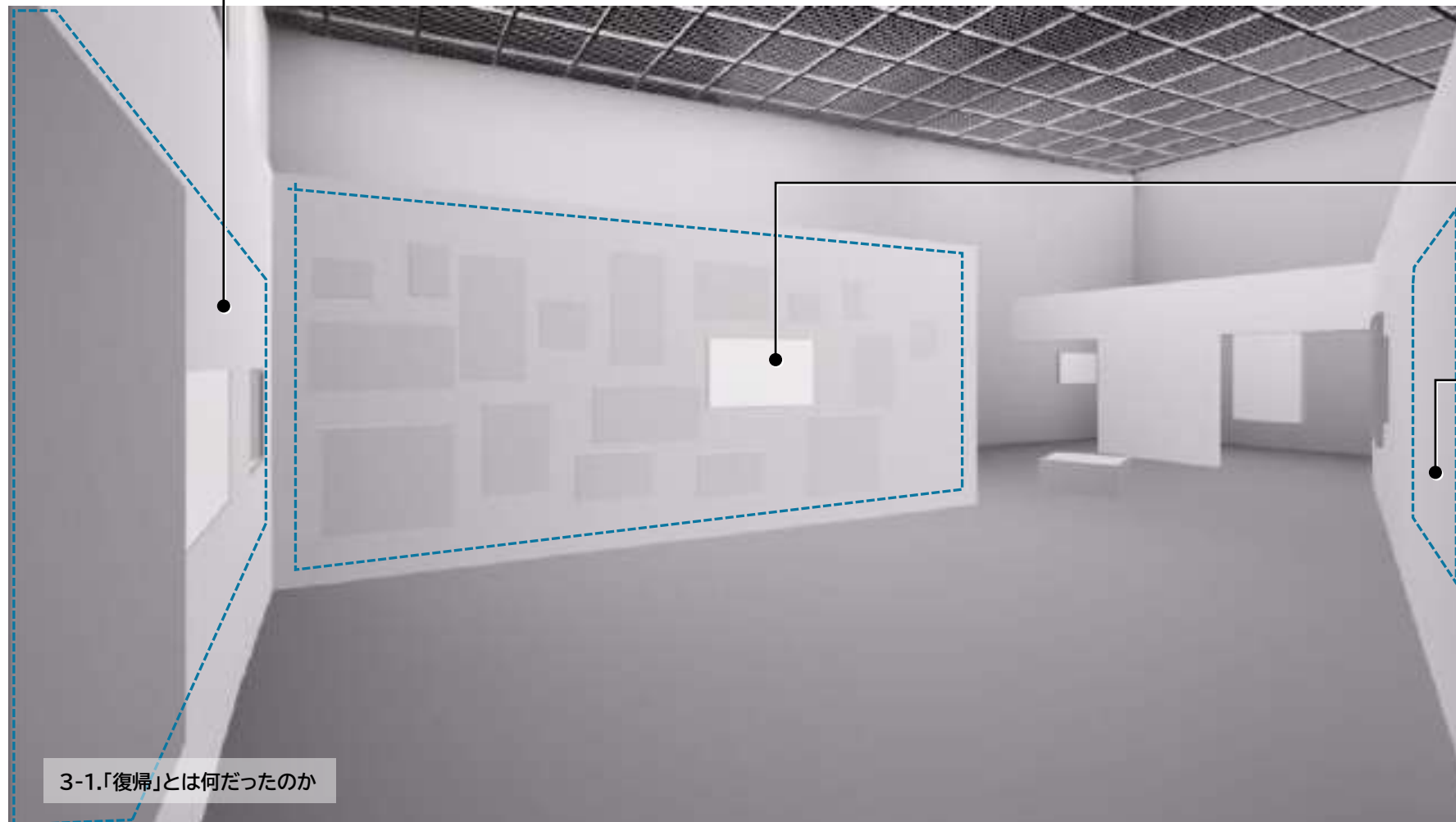
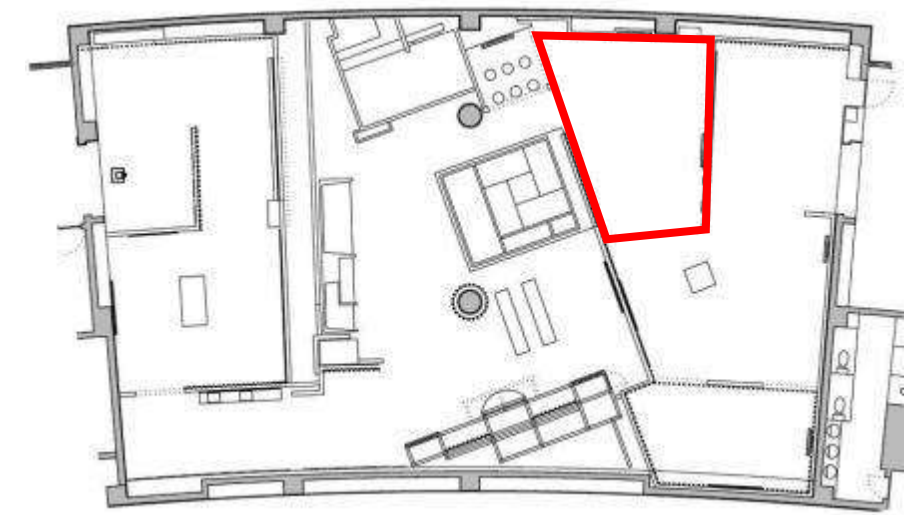
【展示のねらい】

- ・「核抜き・本土並み」基地の返還と平和を願って迎えた復帰が理想とは異なる形で実現したことと、その後の歩みから、復帰とはなんだったのかを考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 復帰式典映像と壁面写真・図版を用い、復帰直後の期待と混乱、同時に残った基地問題を対比的に見せる構成とする。

KEYPLAN



- ・ 3-1-① 沖縄返還協定(核抜き・本土並み)
- ・ 3-1-② 復帰の措置に関する建議書
- ・ 3-1-③ 1972年5月15日
グラフィック・映像装置・資料

- ・ 3-1-④ 日本政府の沖縄振興策
- ・ 3-1-⑤ 復帰三大事業と730交通方法変更
- ・ 3-1-⑧ 復帰後の文化
グラフィック・映像装置・資料

- ・ 3-1-⑦ 跡地利用、基地関連収入
- ・ 3-2-① 縮小する首都圏の米軍基地と減らない基地負担
グラフィック

3-1.「復帰」とは何だったのか

3.ヤマト世一復帰後の沖縄ー

3-2.減らない基地負担

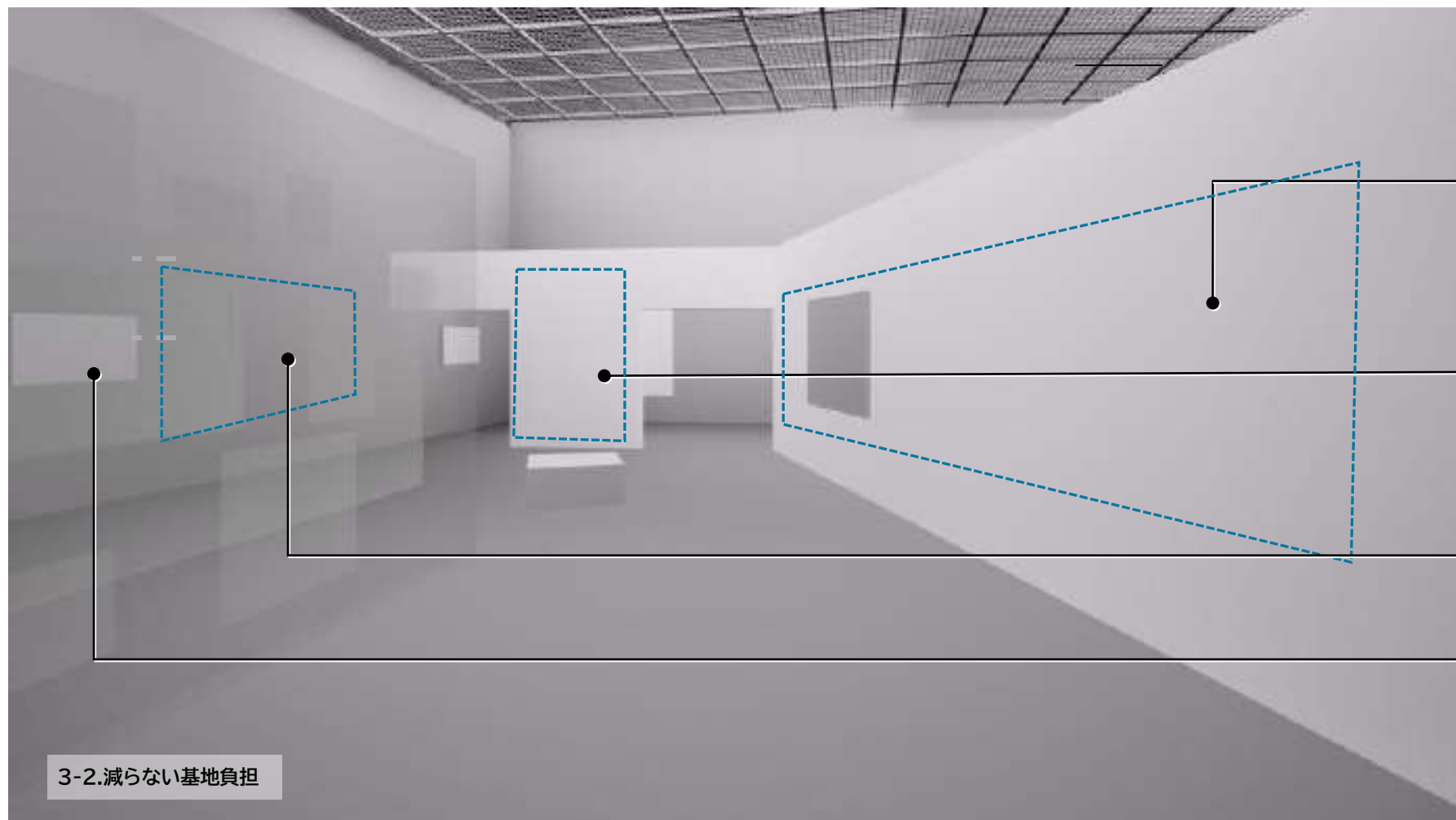
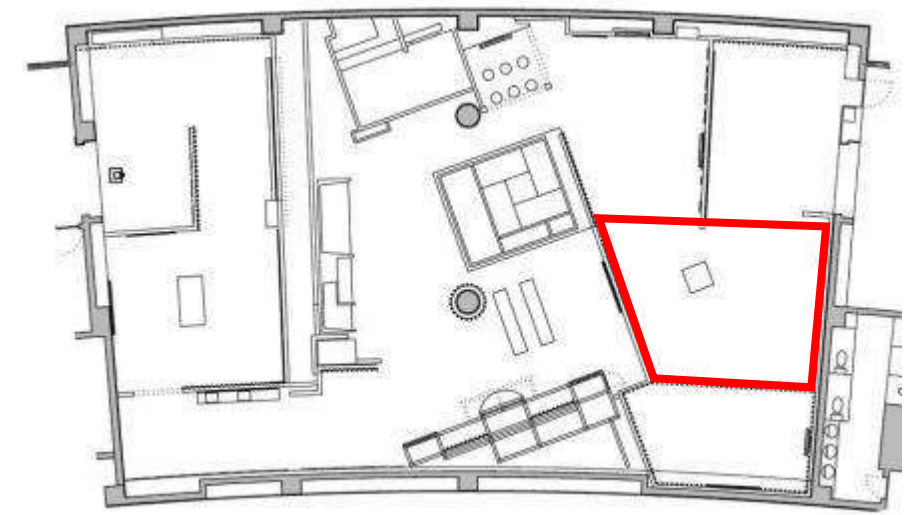
【展示のねらい】

- ・ 本土で基地が縮小される一方で沖縄の負担が続き、新基地建設が進められている。事件・事故が繰り返される中で日米地位協定が大きな壁となっている状況を示し、この問題が沖縄だけでなく日本全体の課題であることを感じてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ モニターや図表を活用したグラフィックパネルにより、本土との基地負担の格差や、日米地位協定が日本全体に関わる課題であることを示すとともに、基地周辺地域に及ぶ環境問題など、現在も続く基地負担の実態を紹介する。

KEYPLAN



- ・ 3-2-⑤ 沖縄大ヘリ墜落事件等・不時着と落下物事故
 - ・ 3-2-③ 日米地位協定、県民投票
- グラフィック・映像装置

- ・ 3-2-② 1995年米兵による少女性暴力事件
- グラフィック

- ・ 3-1-⑥ 開発と環境問題
- グラフィック・検索装置

- ・ 検索装置

3.ヤマト世一復帰後の沖縄ー

3-3.軍隊と性暴力

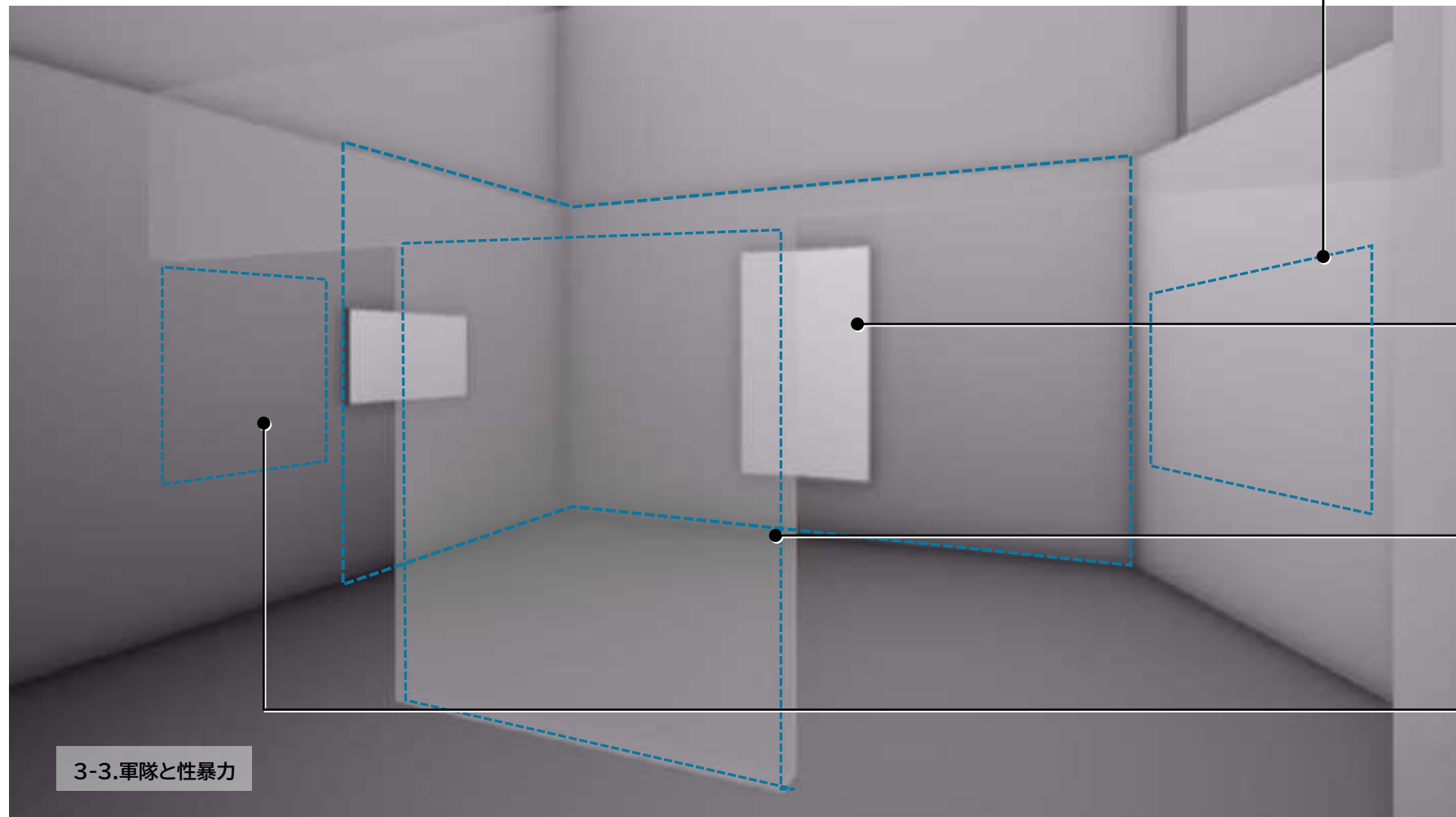
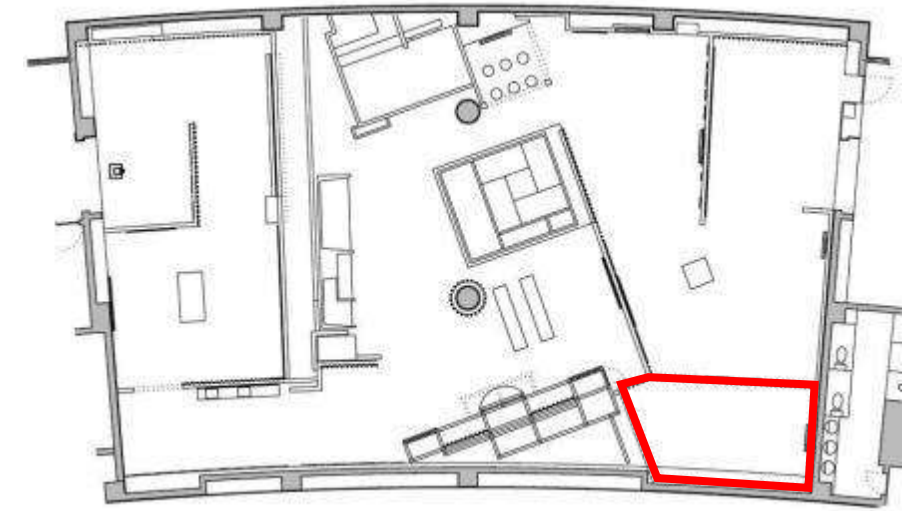
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦以降及び安全保障政策の名の下で沖縄に駐留し続ける軍隊によって、沖縄戦時から現在に至るまで、女性や子どもたちが繰り返し性暴力の被害を受けてきた現実を示し、基地の存在が人間の尊厳を侵害し続けてきたこと、そしてその負担が一方的に女性に集中する構造が今なお変わらず残っていることを伝える。

【展示の展開方針】

- ・ 没入感ある独立した空間で、事件年表の表示、新聞や証言資料、解説パネルを組み合わせ、軍隊と性暴力の歴史から消されがちな被害の構造を丁寧に示す。

KEYPLAN



- ・ 3-3-① 沖縄民政府と慰安施設設置問題
- ・ 3-3-② ハトナム戦争と性暴力・殺人事件
グラフィック

- ・ 3-3-⑤ 米軍による性暴力
グラフィック・映像装置・検索装置

- ・ 3-3-③ 1995年米兵による少女性暴力事件で開催された
県民大会の様子
グラフィック

- ・ 3-3-④ 強姦救援センター・沖縄「REICO(レイコ)」
グラフィック

3.ヤマト世ー復帰後の沖縄ー

3-4.軍備強化される基地の島

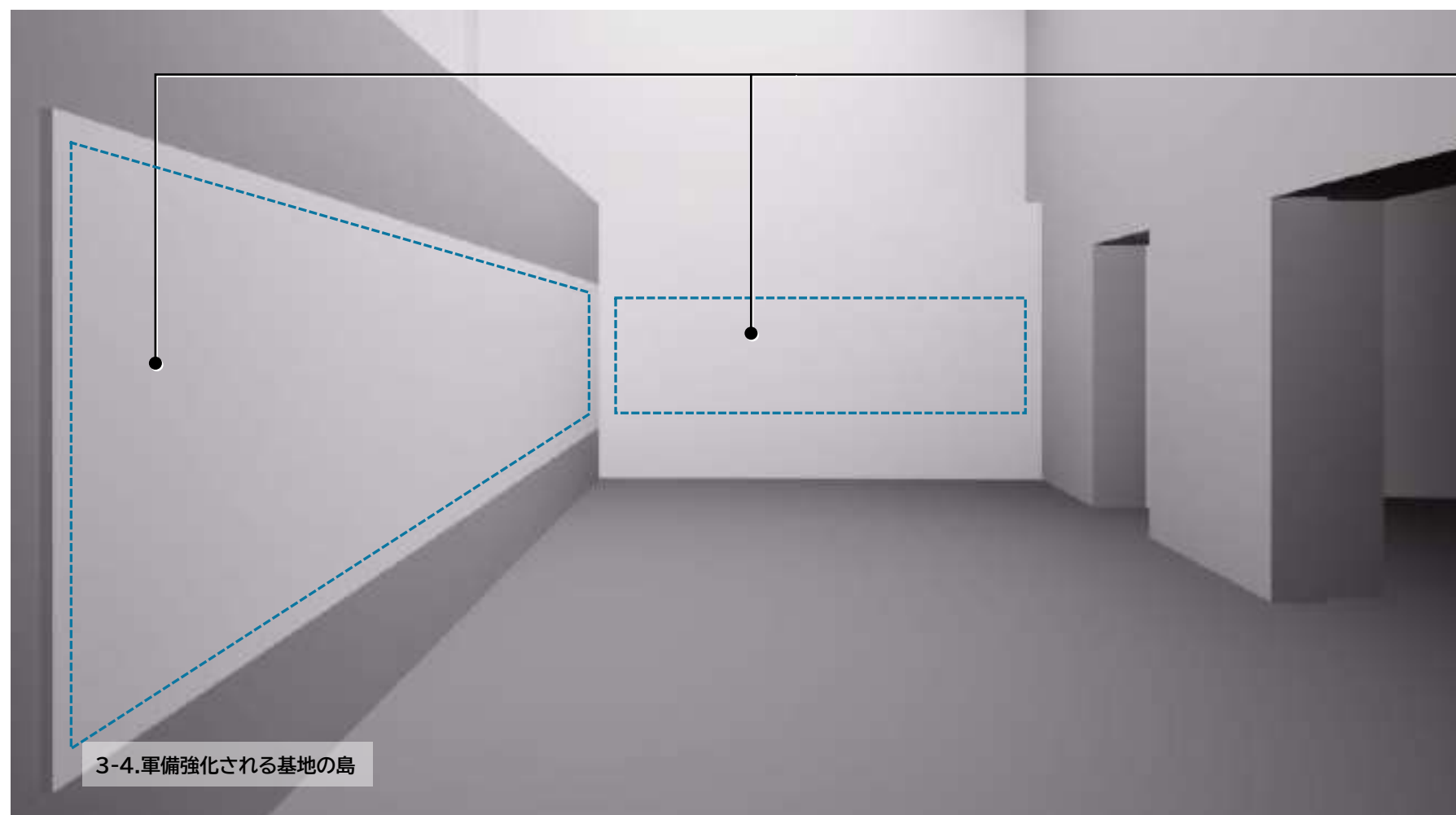
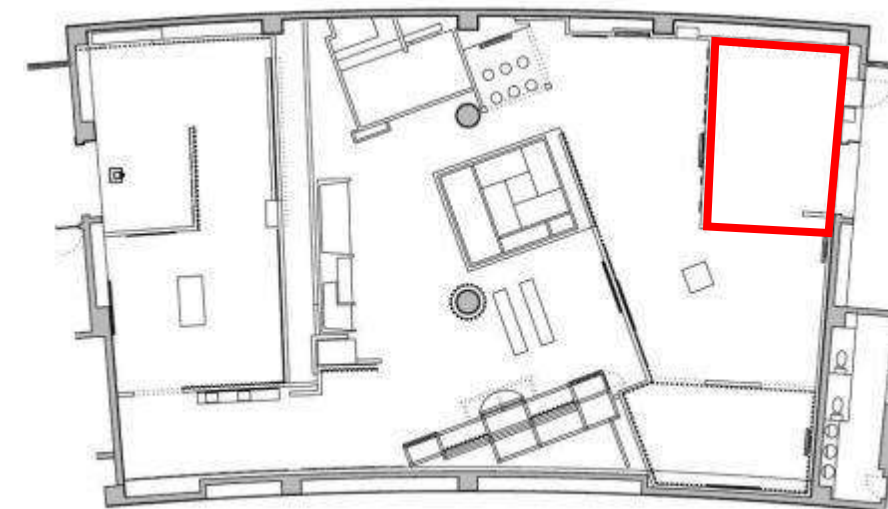
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦以前の日本軍による要塞化から、戦後の米軍基地拡張、さらに現在の自衛隊配備へと続く軍事拠点化の流れを通して、沖縄が一貫して「基地の島」と位置づけられてきた歴史を捉え、その現実に対する県民の訴えと、万国津梁の精神を生かした地域外交による平和への取り組みを理解してもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 普天間飛行場の移設問題をはじめとする基地・安全保障の課題を示すとともに、地域外交や国際交流の取組から、未来に向けた平和拠点・沖縄の可能性を展望する。

KEYPLAN



- ・ 3-2-④ 普天間飛行場の返還発表から辺野古新基地建設、名護市民投票
- ・ 3-2-⑥ オスプレイ配備
- ・ 3-4-① 南西諸島への自衛隊配備
- ・ 3-4-② 新しい万国津梁(地域外交等の取組)グラフィック

3-4.軍備強化される基地の島

子ども・プロセス展示室（情報ライブラリーを含む）（1 階）

1. 「平和の礎」を考えるコーナー

【展示のねらい】

「平和の礎」から沖縄戦について学ぶとともに、平和を尊重する“沖縄のこころ”を考える機会を提供する。また「平和の礎」と当館を往還するきっかけを提供し、より深く戦争や平和を考えられることをねらいとする。

2. 現在の戦争や紛争について考えるコーナー

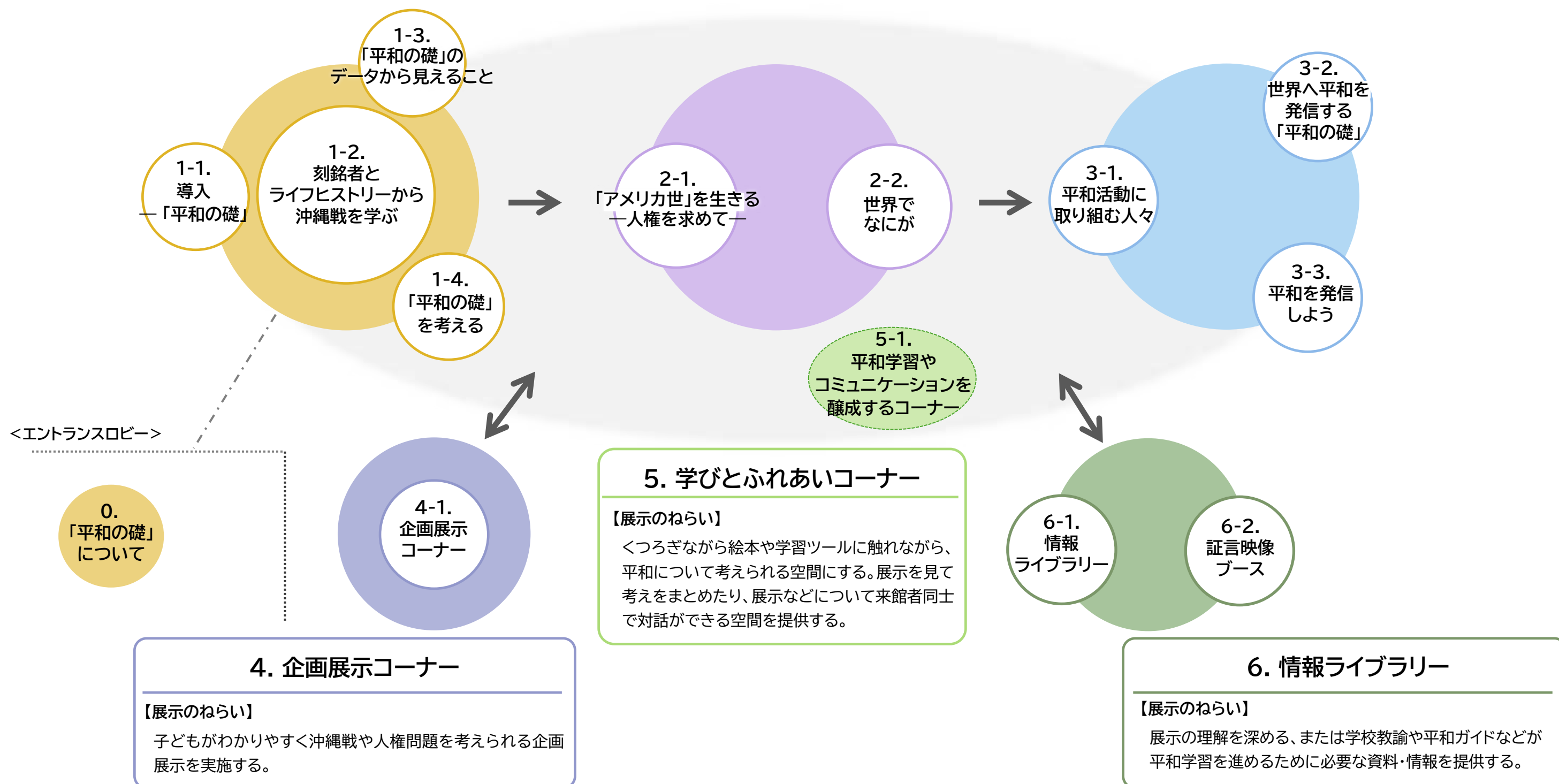
【展示のねらい】

現在もつづく世界の戦争・紛争や、沖縄と世界各地の戦争・紛争のつながりを学び、戦争と人権問題のつながりについて考える。

3. 平和創造を考えるコーナー

【展示のねらい】

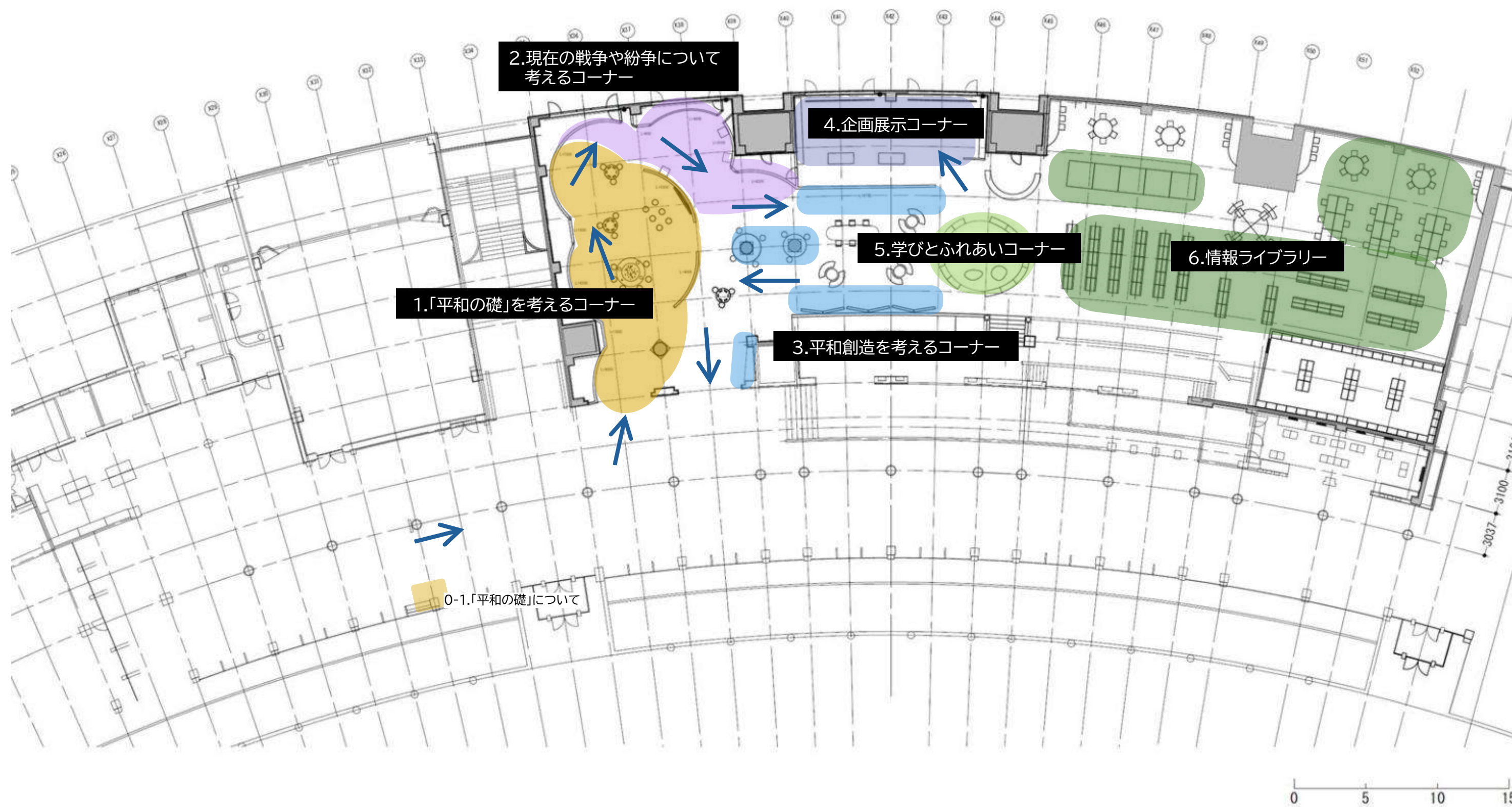
平和構築や人権保障のために活動している人々の取り組みを学び、平和活動に参加する意欲を醸成する。

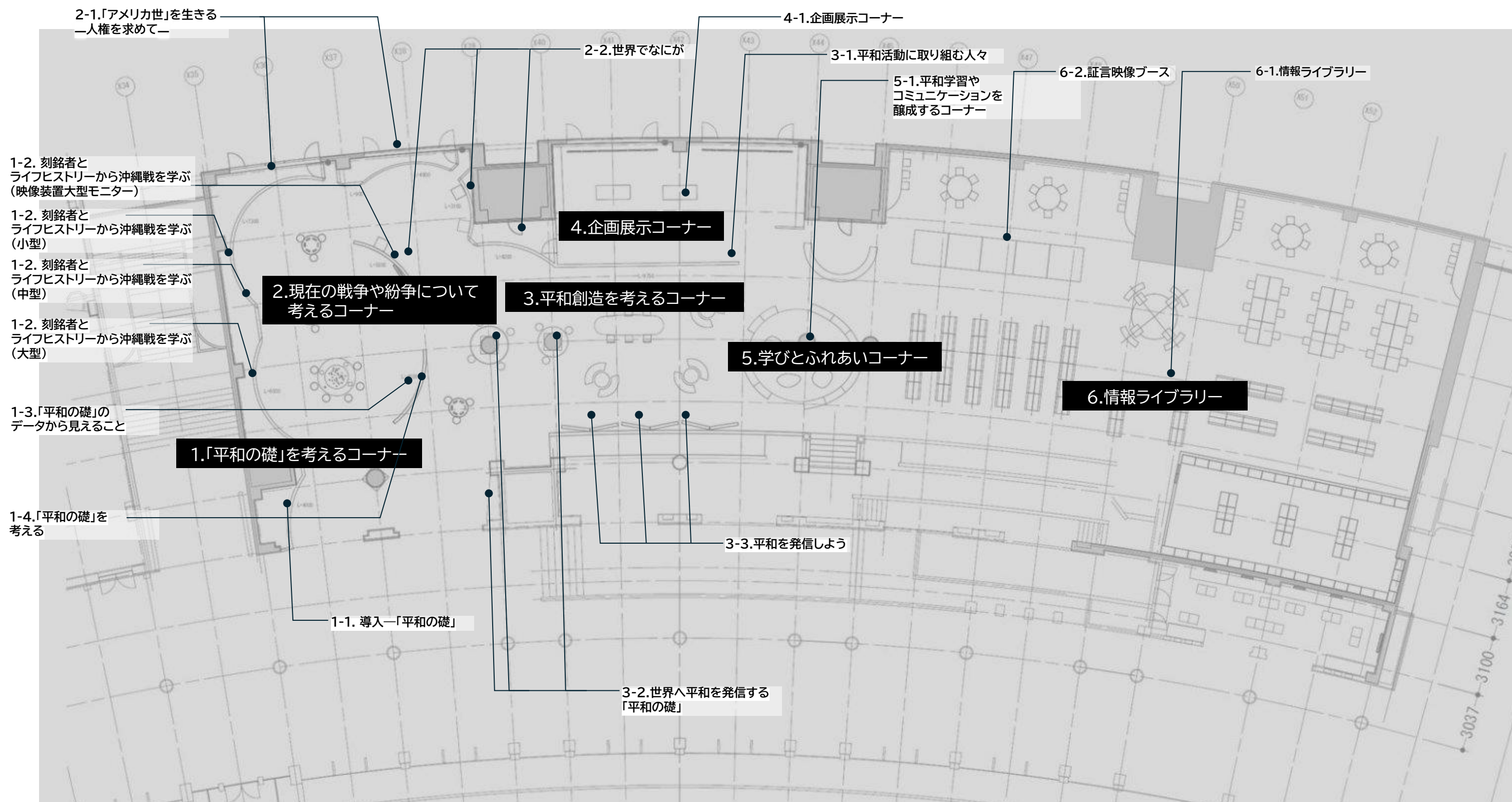


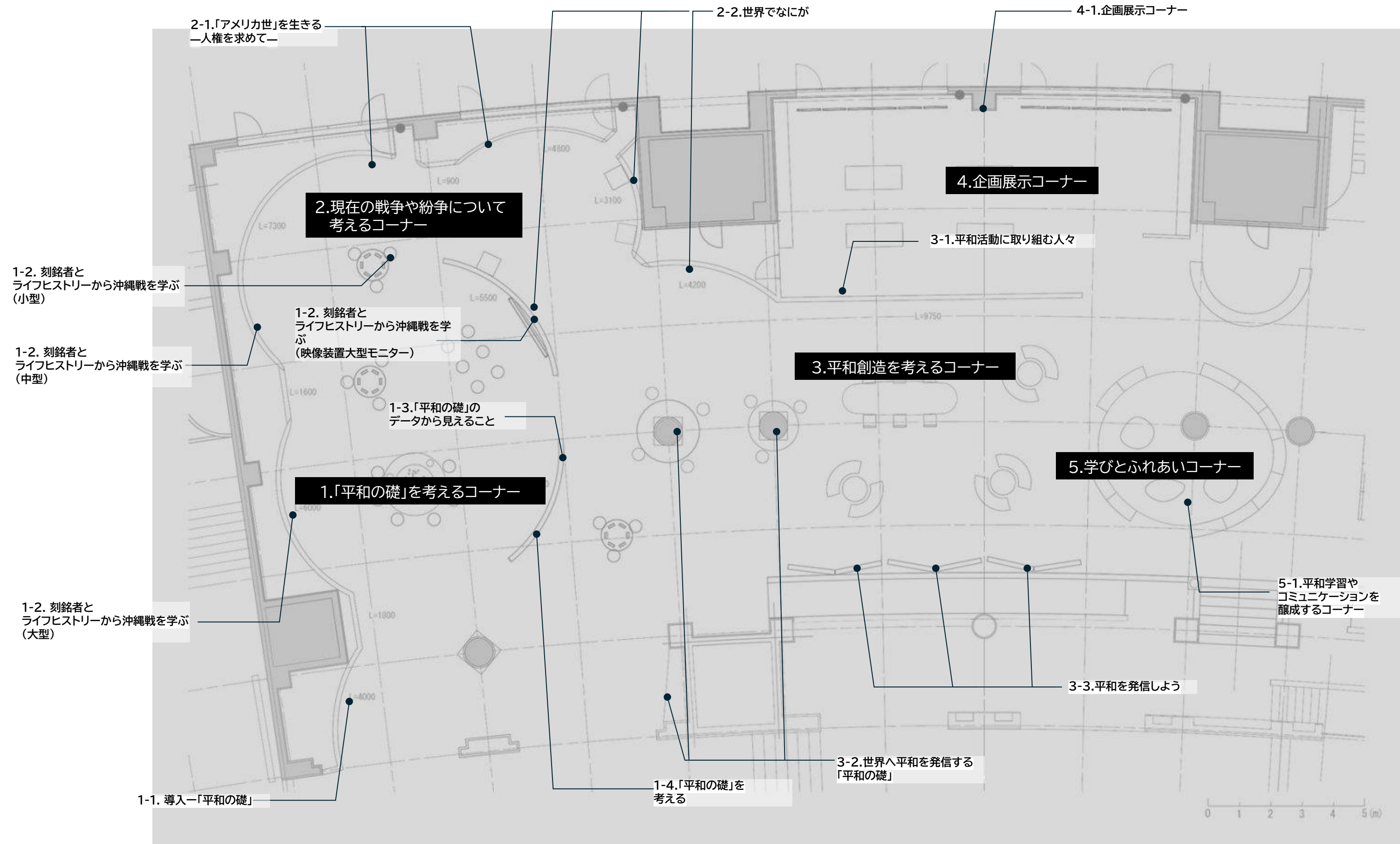
※以下に示す目的・ねらいについては、現状仮の文章になります。

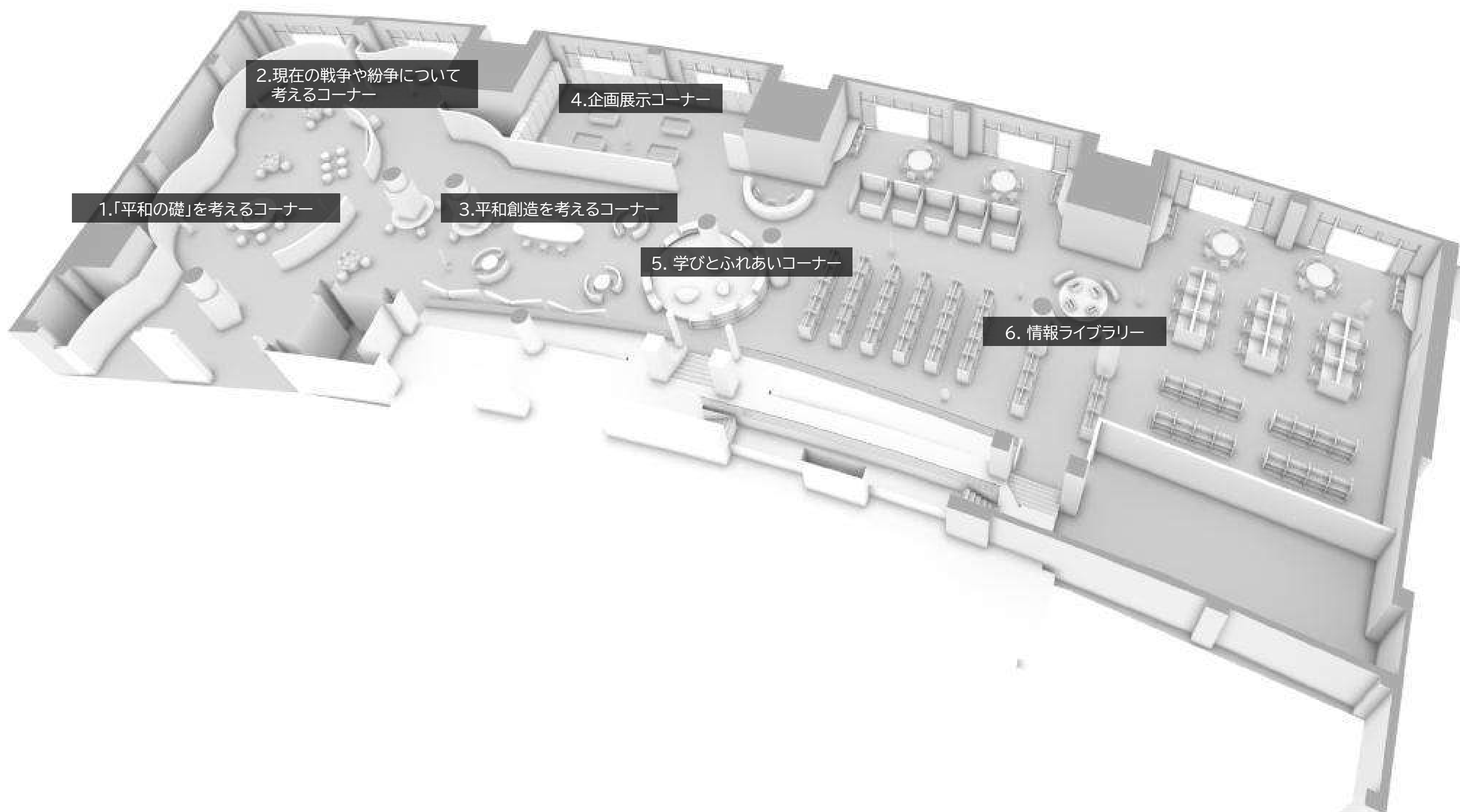
ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
子ども・プロセス展示室	「平和の礎」を主軸に平和と人権について考える	0.「平和の礎」について ※エントランスロビー	「平和の礎」が見える場所で、「平和の礎」についての問いかけや「平和の礎」と資料館を往還するきっかけを提供する。	0-1.「平和の礎」について	ー	0-1-① 「平和の礎」に対する問いかけ 0-1-② 「平和の礎」と資料館のつながり	グラフィック・映像装置	
		1.「平和の礎」を考えるコーナー	「平和の礎」から沖縄戦について学ぶとともに、平和を尊重する“沖縄のこころ”を考える機会を提供する。 また「平和の礎」と当館を往還するきっかけを提供し、より深く戦争や平和が考えられることをねらいとする。	1-1.導入ー「平和の礎」	「平和の礎」に訪れる様々な人々（追悼する人、学習する人など）の様子を見せ、「平和の礎」とは何か、何を伝えているのか、という問いを持たせる。	1-1-① 「平和の礎」に訪れる人々の様子や、「平和の礎」とは何かという問いかけ	グラフィック	「平和の礎」を訪れる人々の写真、「平和の礎」の刻銘など
				1-2.刻銘者とライフヒストリーから沖縄戦を学ぶ	「平和の礎」に刻銘されている人々が、どのような人で、戦争によってどのように人権が侵害され、亡くなったのかを伝え、自分事として沖縄戦を捉え、その特徴などを考える。	1-2-① 刻銘者のライフヒストリー 建設趣旨、基本理念や沖縄戦の特徴などが考えられるライフヒストリーの事例	グラフィック・映像装置・資料	「平和の礎」の刻銘者、その関係者のライフヒストリー
				1-3.「平和の礎」のデータから見えること	「平和の礎」の刻銘者のデータから、沖縄県民の犠牲の特徴を考え、あるいは疑問を持ってもらう。	1-3-① 「平和の礎」刻銘者のデータから沖縄戦を考える	グラフィック・映像装置・模型	「平和の礎」の登録データから分析された図解等
				1-4.「平和の礎」を考える	「平和の礎」の建設趣旨や基本理念、「平和の礎」のデザインの意味などをわかりやすく伝える。	1-4-① 建設趣旨、基本理念、デザインコンセプト 1-4-② 刻銘者と刻銘されていない人々	グラフィック	「平和の礎」の建設趣旨や基本理念についての解説パネルなど
		2.現在の戦争や紛争について考えるコーナー	現在もつづく世界の戦争・紛争や、沖縄と世界各地の戦争・紛争のつながりを学び、戦争と人権問題のつながりについて考える。	2-1.「アメリカ世」を生きる一人権を求めてー	①沖縄戦を生き抜いた人々が、戦後も米軍統治下で人権を制限され、沖縄戦後も「人間の安全保障」が脅かされたことを伝える。 ②在沖米軍基地がベトナムや中東など、世界の戦争と関係したことを知り、沖縄が世界の戦争とつながっていることを伝える。	2-1-① 沖縄の人々がたどった戦後のライフヒストリー 2-1-② 沖縄とつながる世界の戦争・紛争	グラフィック	沖縄戦の影響、戦後沖縄の課題などが考えられるライフヒストリー、など
				2-2.世界でなにか	①世界でおきた（おきている）戦争・紛争、差別などの人権問題を知り、戦争や紛争は人々の相互不信や偏見が要因のひとつであることを伝える。 ②人々の相互不信や偏見は、戦争のない社会や、身近な社会にも存在し、人権を脅かしていることから、平和な社会とは何かを考えてもらう。	2-2-① 第二次世界大戦後の戦争・紛争、人権問題 2-2-② 沖縄・日本にある人権問題	グラフィック・模型・資料	世界の戦争・紛争に関わる地図、沖縄・日本に存在する人権問題や差別問題に関わる人々のライフヒストリーなど

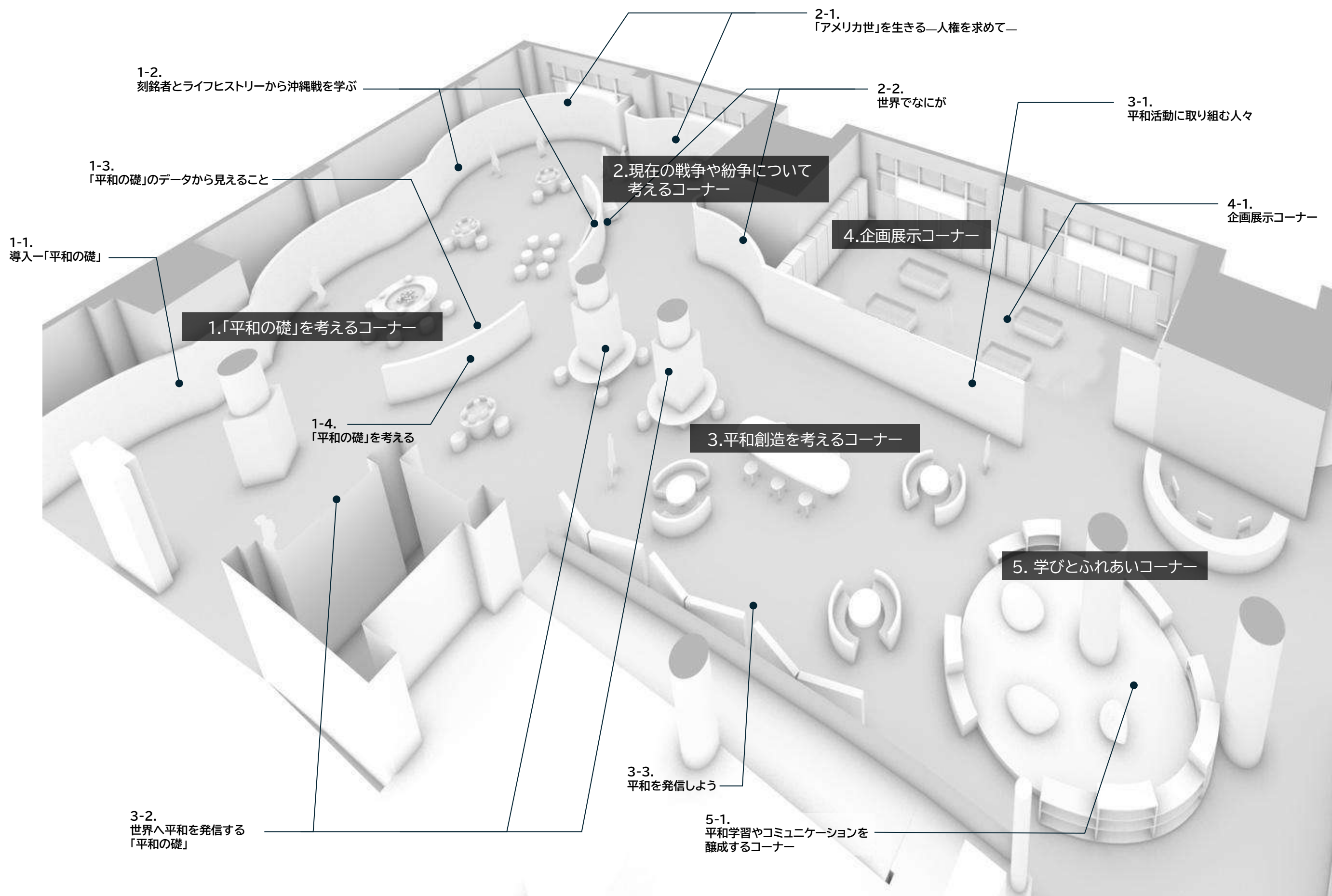
ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
		3.平和創造を考えるコーナー	平和構築や人権保障のために活動している人々の取り組みを学び、平和活動に参加する意欲を醸成する。	3-1.平和活動に取り組む人々	①世界各地の紛争地で平和構築活動をしている人の取り組みなどを伝え、紛争は終わらせることができることを伝える。 ②日本や沖縄などで平和構築や人権問題解決に取り組む人々を取り上げ、平和活動に参加しようという意識を醸成する。 ③国内外の平和博物館及び関連施設を紹介し、平和等に関する学習意欲を高めてもらう。	3-1-① 世界的な平和活動を行っている人々について 3-1-② 日本・沖縄など身近に平和活動をしている人々について 3-1-③ 国内外の平和博物館及び関連施設	グラフィック	主に沖縄平和賞に関する資料、県内・国内外の平和博物館関連施設に関する資料など
				3-2.世界へ平和を発信する「平和の礎」	戦争の原因である相互不信や差別、分断と「平和の礎」の建設趣旨・基本理念を照らし合わせ、「平和の礎」が何を伝えているのか、課題をどう克服すればいいのかを考えてもらう。	3-2-① 「平和の礎」の理念や課題を振り返り、未来にむけての可能性を考える	グラフィック	「平和の礎」に対するこれまでの意見、来館者のメッセージ
				3-3.平和を発信しよう	身近な子どもたちが平和について発信していることを伝え、来館者に平和を発信する意識を醸成してもらう。	3-3-① 平和を創造する意思表示等を何らかのアクションで発信する	グラフィック・資料	児童・生徒の平和メッセージ展の作品
		4.企画展示コーナー	子どもがわかりやすく沖縄戦や人権問題を考えられる企画展示を実施する。	4-1.企画展示コーナー	子どもがわかりやすく沖縄戦や人権問題を考えられる企画展示を実施する。	4-1-① 子ども対象の沖縄戦や人権問題、国際理解をテーマとした企画展	グラフィック・資料	
		5.学びとふれあいコーナー	くつろぎながら絵本や学習ツールに触れながら、平和について考えられる空間にする。 展示を見て考えをまとめたり、展示などについて来館者同士で対話ができる空間を提供する。	5-1.平和学習やコミュニケーションを醸成するコーナー	くつろぎながら絵本や学習ツールに触れながら、平和について考えられる空間にする。 展示を見て考えをまとめたり、展示などについて来館者同士で対話ができる空間を提供する。	5-1-① 多様な国々・世界の子どもたち 5-1-② 沖縄の戦争遺跡や世界の戦争・紛争のマップ 5-1-③ 平和を考える絵本 5-1-④ 来館者のふれあい（メッセージ等）	グラフィック・映像装置・資料・模型	現在の「世界のこどもたち」のケース内展示物、平和に関する絵本など
						6-1-① 書籍の充実 6-1-② 利用しやすい書架の配列（こども図書ライブラリー） 6-1-③ 書庫の充実 6-1-④ 学習スペースの充実	資料・造形	図書資料、閲覧台、収納スペースなど
		6.情報ライブラリー	展示の理解を深める、または学校教諭や平和ガイドなどが平和学習を進めるために必要な資料・情報を提供する。	6-1.情報ライブラリー	展示の理解を深める、または学校教諭や平和ガイドなどが平和学習を進めるために必要な資料・情報を提供する。	6-2-① 映像機器の更新	映像装置	戦争体験証言の映像など
				6-2.証言映像ブース	本館が所蔵する多数の戦争体験証言を閲覧し、常設展示の理解を深められるようにする。			











0.「平和の礎」について

0-1.「平和の礎」について

【展示のねらい】

- ・「平和の礎」が見える場所で、「平和の礎」についての問いかけや「平和の礎」と資料館を往還するきっかけを提供する。

【展示の展開方針】

- ・「平和の礎」への問いかけや「平和の礎」と資料館をつなぐ解説を設置。
- ・ 追加刻銘のデータや基本情報などはデジタル機器を使用することを検討。
- ・ デジタル機器を使用する場合は、アクセシビリティを考慮する。



- ・0-1-① 「平和の礎」に対する問いかけ
- ・0-1-② 「平和の礎」と資料館のつながり
グラフィック・映像装置

1.「平和の礎」を考えるコーナー

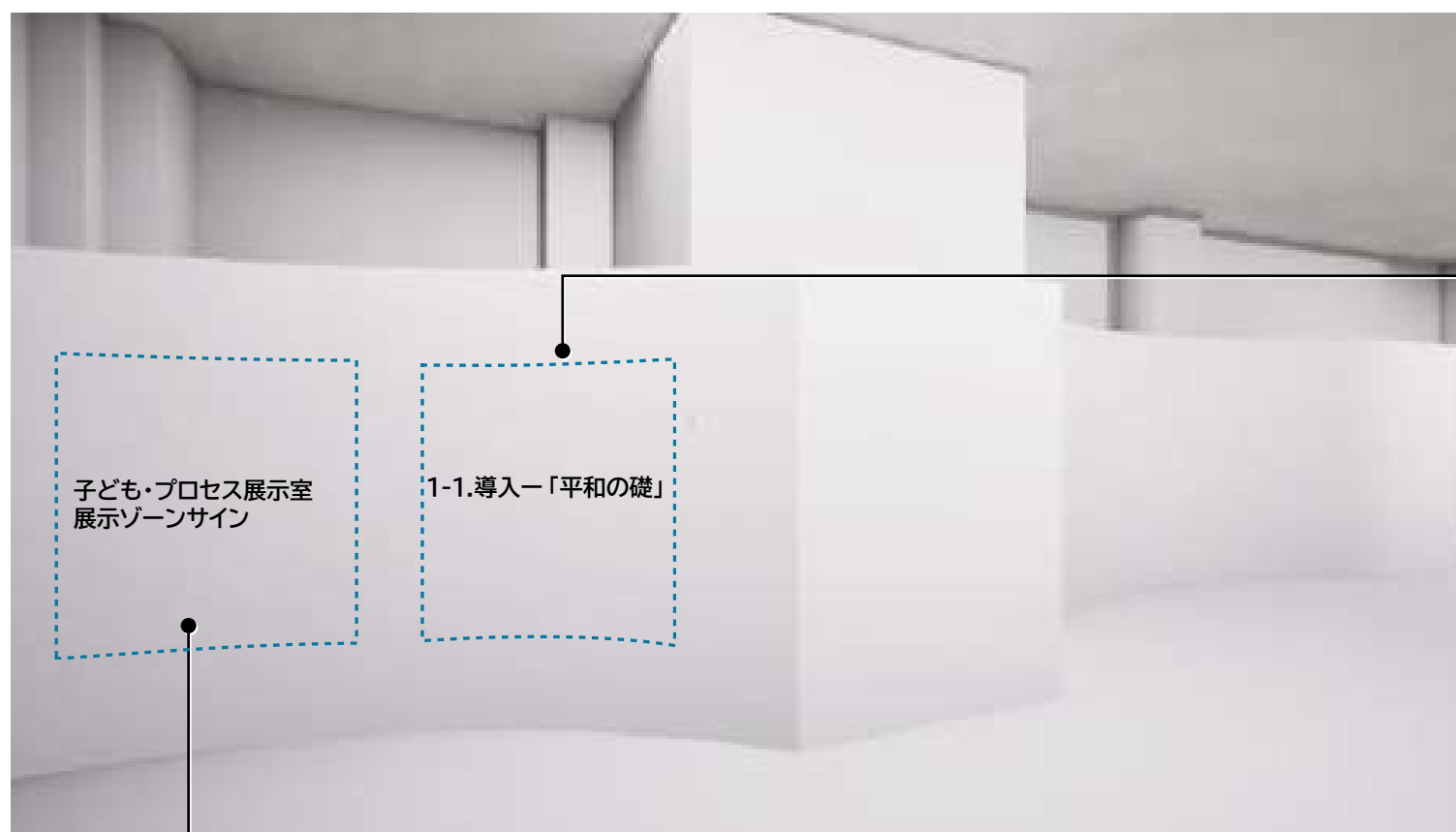
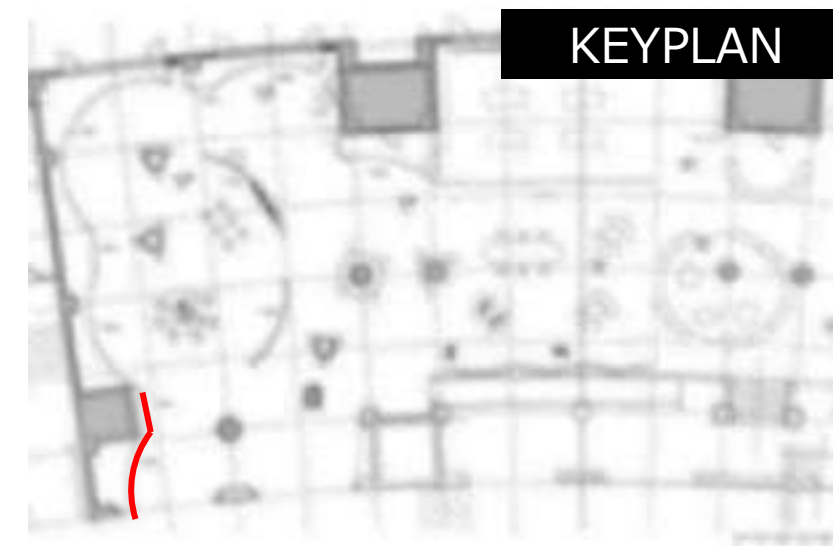
1-1.導入―「平和の礎」

【展示のねらい】

- ・「平和の礎」に訪れる様々な人々（追悼する人、学習する人など）の様子を見せ、「平和の礎」とは何か、何を伝えているのか、という問いを持たせる。

【展示の展開方針】

- ・ 問いかけなど文字を少なくし、イラストや写真などのグラフィックを主にする。
- ・ 「平和の礎」への問いかけをし、展示室とのつなぎ・導入とする。



- ・ 1-1-① 「平和の礎」に訪れる人々の様子や、「平和の礎」とは何かという問いかけグラフィック
（「平和の礎」を訪れる人々の写真、「平和の礎」の刻銘など）

グラフィック

1.「平和の礎」を考えるコーナー

1-2.刻銘者とライフヒストリーから沖縄戦を学ぶ

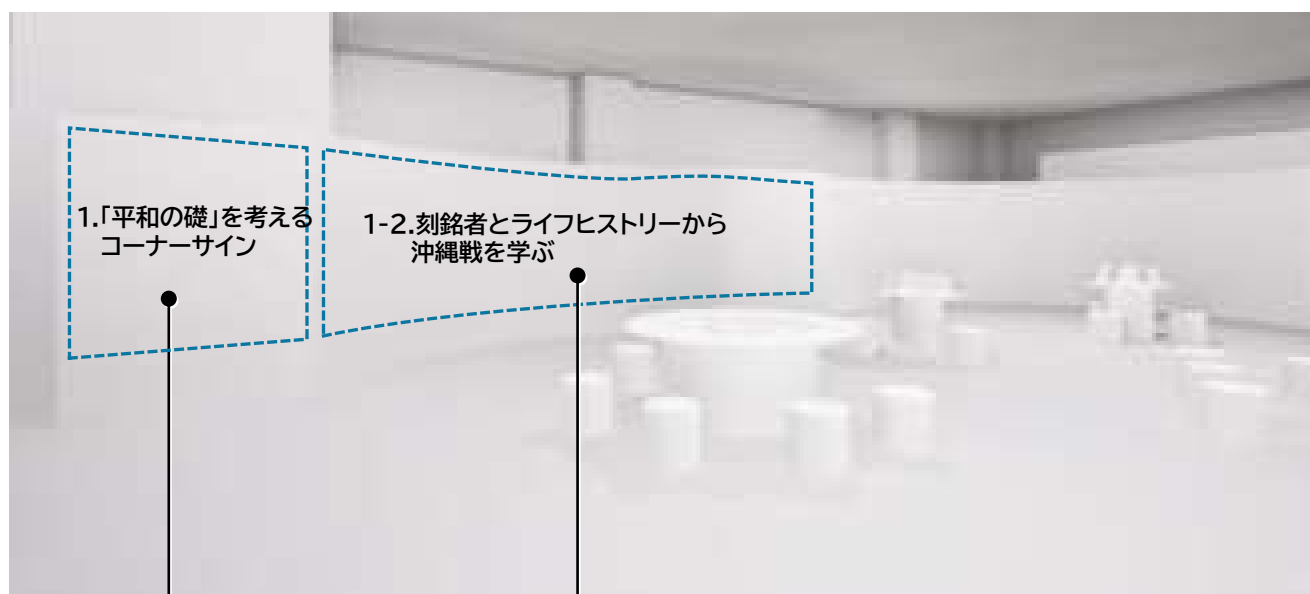
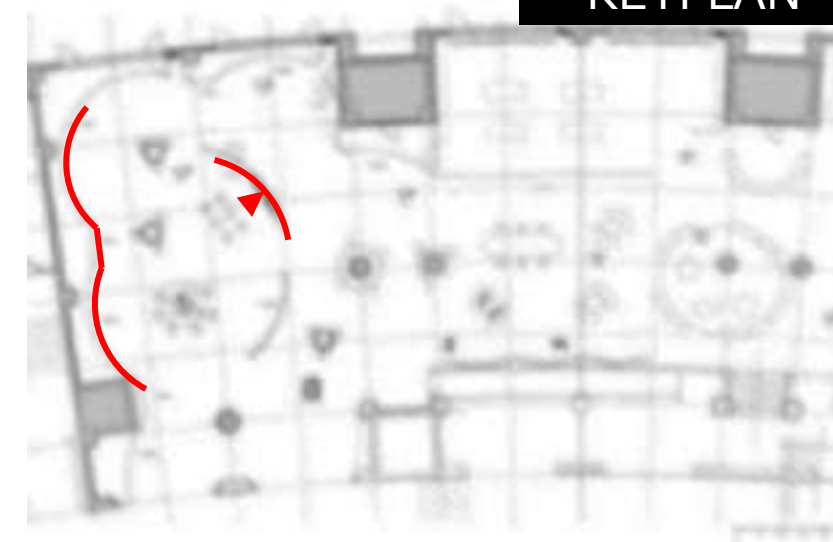
【展示のねらい】

- ・「平和の礎」に刻銘されている人々が、どのような人で、戦争によってどのように人権が侵害され、亡くなったのかを伝え、自分事として沖縄戦を捉え、その特徴などを考える。

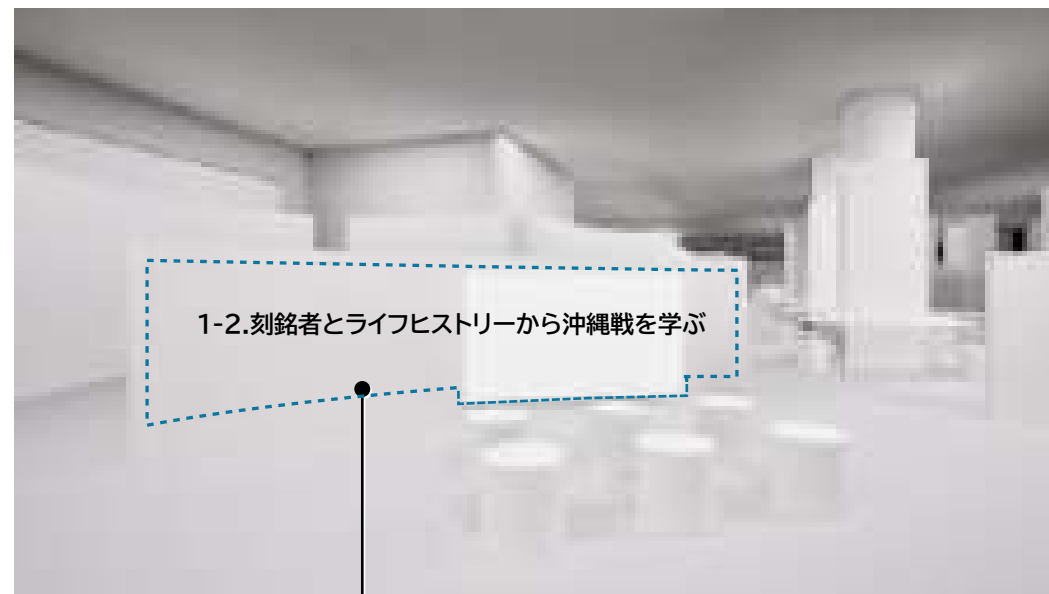
【展示の展開方針】

- ・ 大型パネルで刻銘者のライフヒストリーを1人(1家族)描く。
- ・ モニターで、ライフヒストリーのアニメを上映し、幅広い年齢層にライフヒストリーを伝えられるようにする。
- ・ 小型ライフヒストリーで、各出身地の刻銘者を取り上げる。
- ・ 沖縄戦の多様な実相を伝えるため、可変的な展示とする。

KEYPLAN



グラフィック



- ・ 1-2-① 刻銘者のライフヒストリー
建設趣旨、基本理念や沖縄戦の特徴などが考えられるライフヒストリーの事例
グラフィック・映像装置・資料
(「平和の礎」の刻銘者、その関係者のライフヒストリー)

1.「平和の礎」を考えるコーナー

1-3.「平和の礎」のデータから見えること

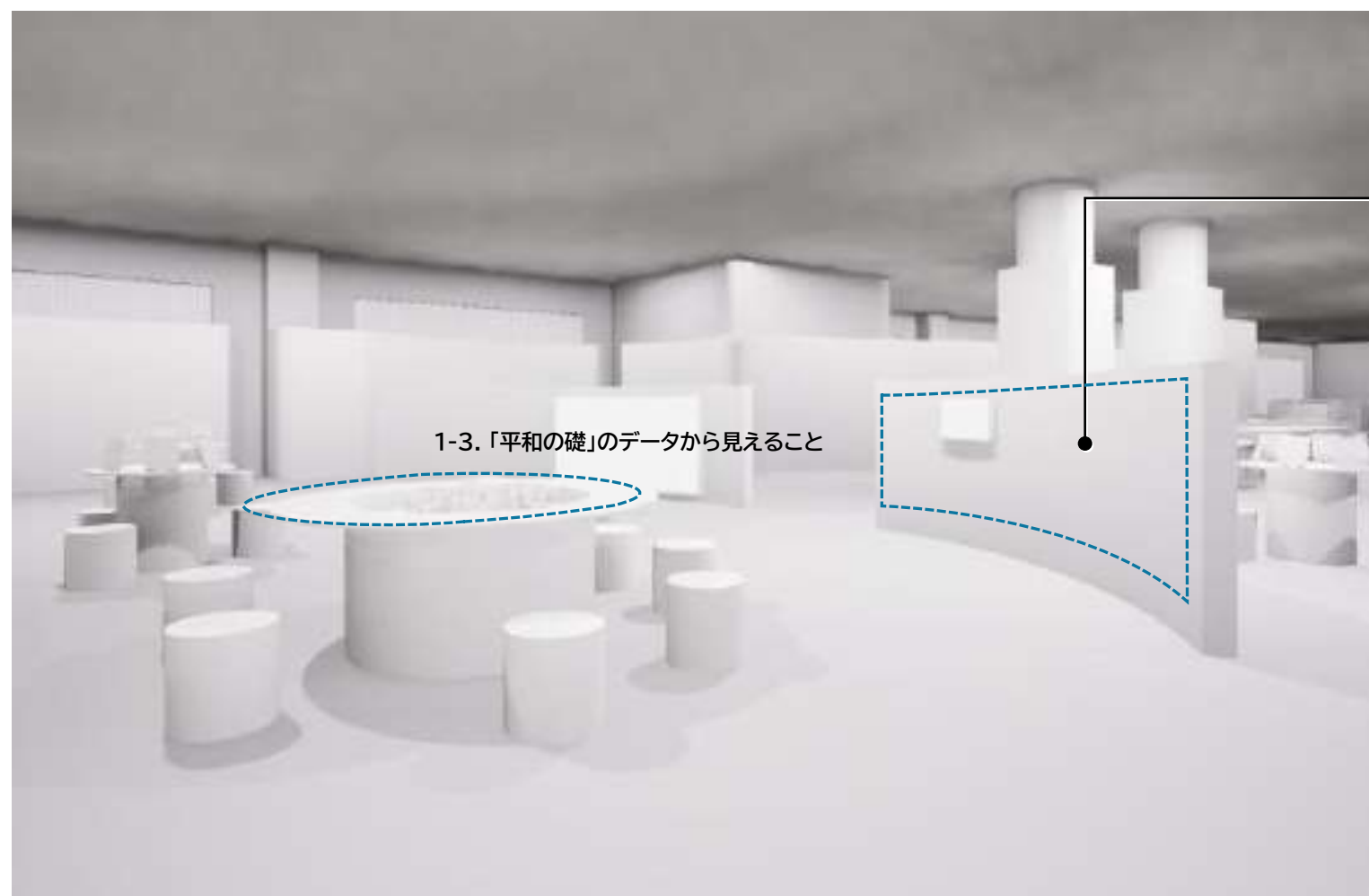
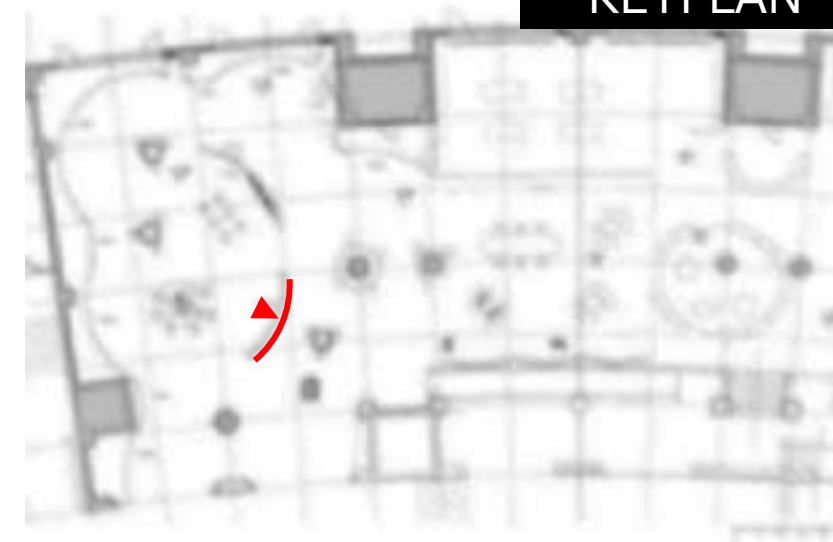
【展示のねらい】

- ・「平和の礎」の刻銘者のデータから、沖縄県民の犠牲の特徴を考え、あるいは疑問を持ってもらう。

【展示の展開方針】

- ・「平和の礎」の刻銘者データをグラフ化して展示する。
- ・ブロックなどハンズオンの装置を利用して、戦没地マッピングを行う。

KEYPLAN



- ・1-3-① 「平和の礎」刻銘者のデータから沖縄戦を考える
グラフィック・映像装置・模型
(「平和の礎」の登録データから分析された図解等)

1.「平和の礎」を考えるコーナー

1-4.「平和の礎」を考える

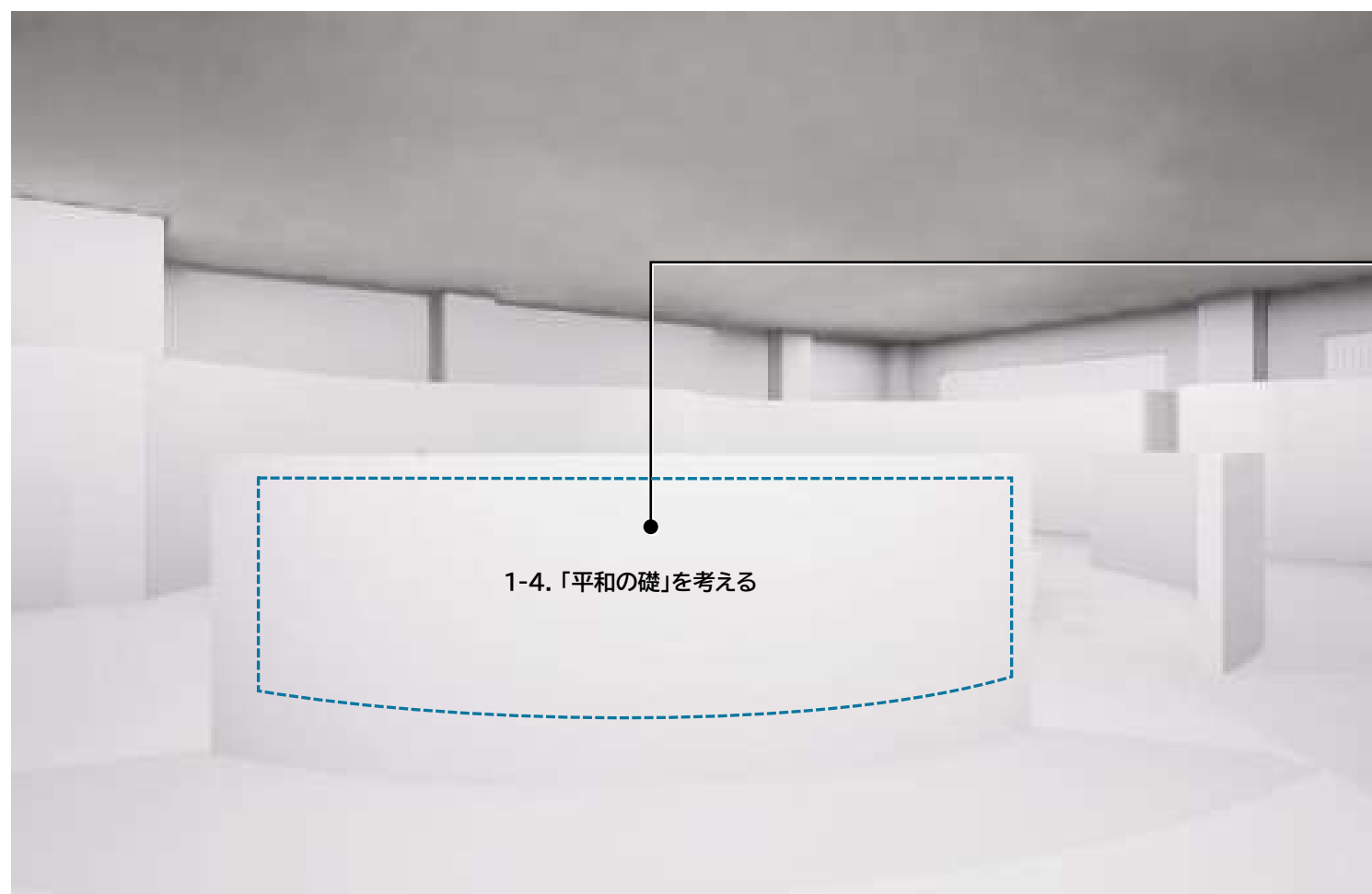
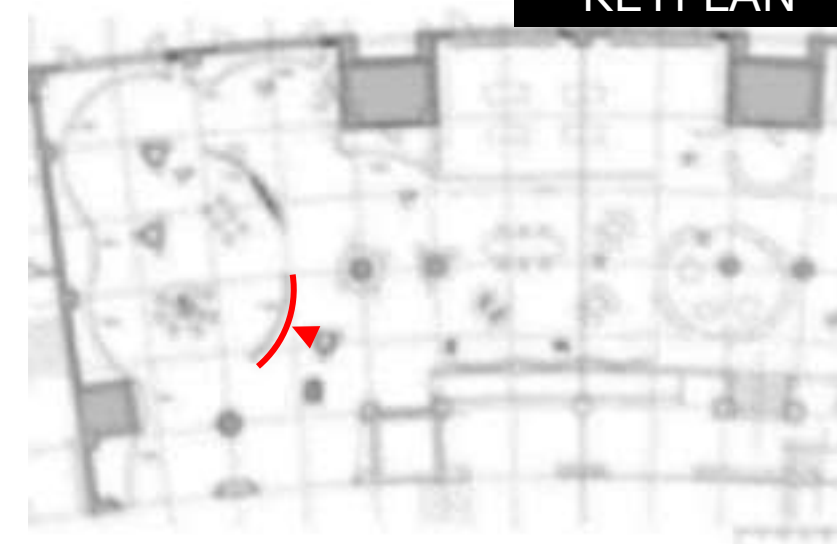
【展示のねらい】

- ・「平和の礎」の建設趣旨や基本理念、「平和の礎」のデザインの意味などをわかりやすく伝える。

【展示の展開方針】

- ・ 建設趣旨、基本理念などの基本情報を伝える。
- ・ 刻銘されていない人々などの「平和の礎」の課題を伝える。
- ・ 解説ではなく、クイズ形式など学びやすい手法を検討する。

KEYPLAN



- ・1-4-① 建設趣旨、基本理念、デザインコンセプト
- ・1-4-② 刻銘者と刻銘されていない人々
グラフィック
(「平和の礎」の建設趣旨や基本理念についての解説パネルなど)

2.現在の戦争や紛争について考えるコーナー

2-1.「アメリカ世」を生きる ―人権を求めて―

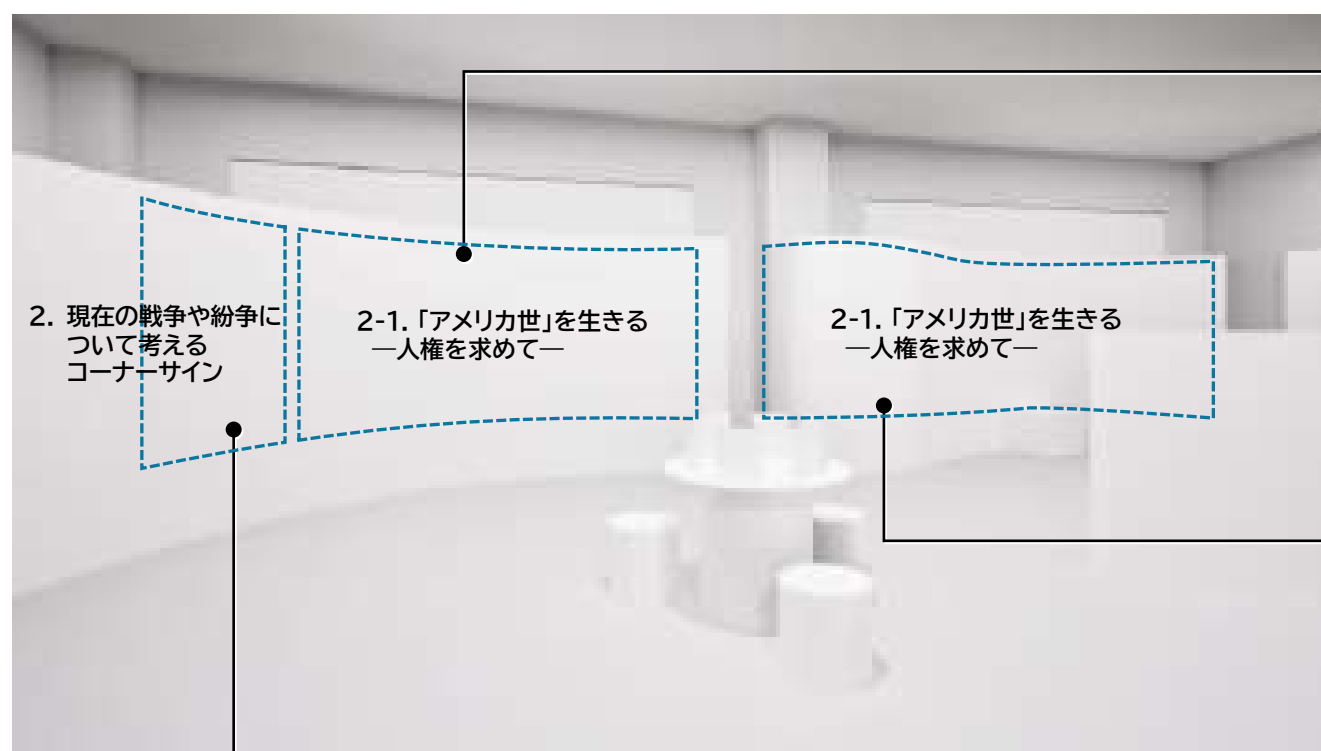
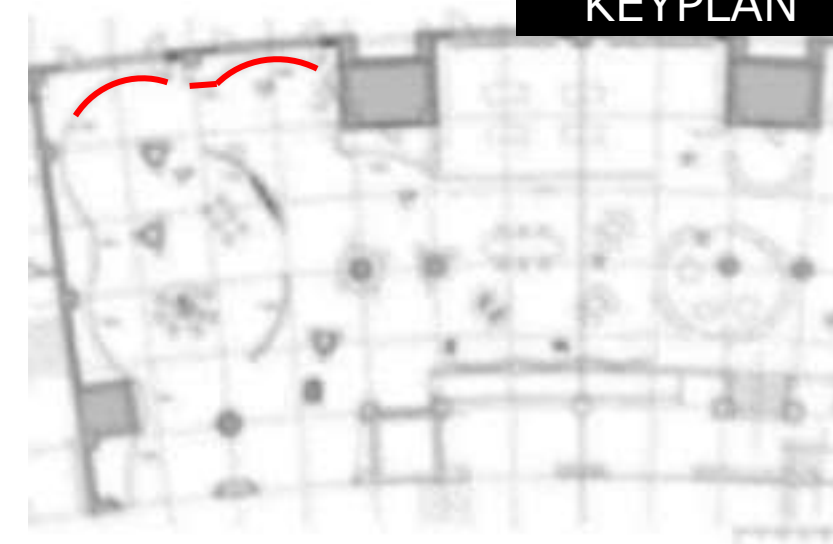
【展示のねらい】

- ① 沖縄戦を生き抜いた人々が、戦後も米軍統治下で人権を制限され、沖縄戦後も「人間の安全保障」が脅かされたことを伝える。
- ② 在沖米軍基地がベトナムや中東など、世界の戦争と関係したことを知り、沖縄が世界の戦争とつながっていることを伝える。

【展示の展開方針】

- ・ 米軍統治下の沖縄の人々のライフヒストリーを伝える。
- ・ 戦争の反省から日本国憲法がつくられたことや、憲法の適用をもとめて復帰運動が行われたことも伝える。
- ・ 沖縄の人々の平和活動や平和を願う想いがわかる展示内容を検討する。
- ・ ジェンダーバランスや活動の内容を考慮し、様々な人物が取り上げられるよう可変的な展示とする。
- ・ 在沖米軍基地が関係する戦争・紛争について地図や図解で示す。

KEYPLAN



- ・ 2-1-① 沖縄の人々がたどった戦後のライフヒストリー
グラフィック
(沖縄戦の影響、戦後沖縄の課題などが考えられるライフヒストリー、など)

- ・ 2-1-② 沖縄とつながる世界の戦争・紛争
グラフィック
(世界の戦争・紛争に関わる地図、沖縄・日本に存在する人権問題や差別問題に関わる人々のライフヒストリーなど)

グラフィック

2.現在の戦争や紛争について考えるコーナー

2-2.世界でなにが

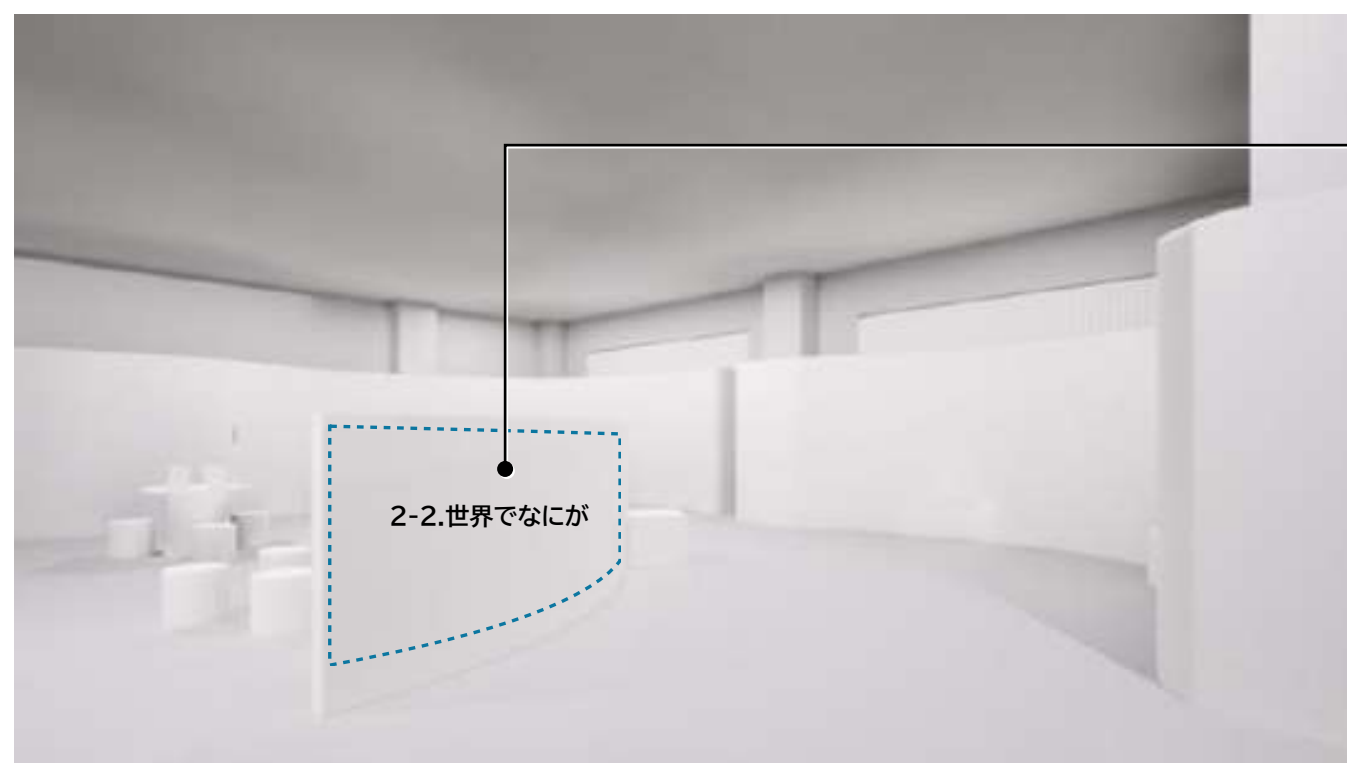
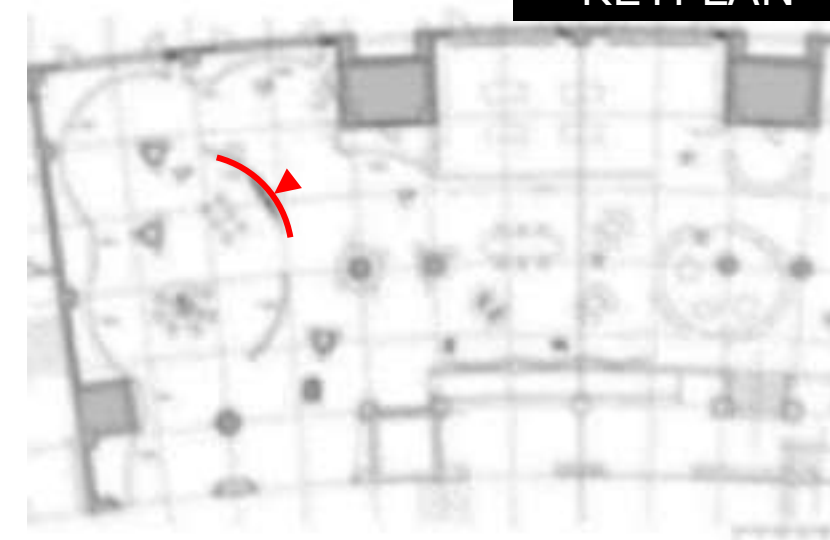
【展示のねらい】

- ① 世界でおきた(おきている)戦争・紛争、差別などの人権問題を知り、戦争や紛争は人々の相互不信や偏見が要因のひとつであることを伝える。
- ② 人々の相互不信や偏見は、戦争のない社会や、身近な社会にも存在し、人権を脅かしていることから、平和な社会とは何かを考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 第二次世界大戦後の主な戦争・紛争を地図で示す。また最新の紛争が示せるように更新性のある手法を検討する。
- ・ 大戦の反省から世界人権宣言等ができたことや、国際人権法が確立されても紛争がつづく現状を伝える。
- ・ 世界の戦争・紛争や人権問題に関わる人々のライフヒストリーを伝える。
- ・ 日本、沖縄にある人権問題に関わる人々のライフヒストリーを伝える。
- ・ 世界各地の戦争・紛争を取り上げるため、可変的な展示とする。

KEYPLAN



- ・ 2-2-① 第二次世界大戦後の戦争・紛争、人権問題
- ・ 2-2-② 沖縄・日本にある人権問題
グラフィック・模型・資料
(世界の戦争・紛争に関わる地図、沖縄・日本に存在する人権問題や差別問題に関わる人々のライフヒストリーなど)

2.現在の戦争や紛争について考えるコーナー

2-2.世界でなにが

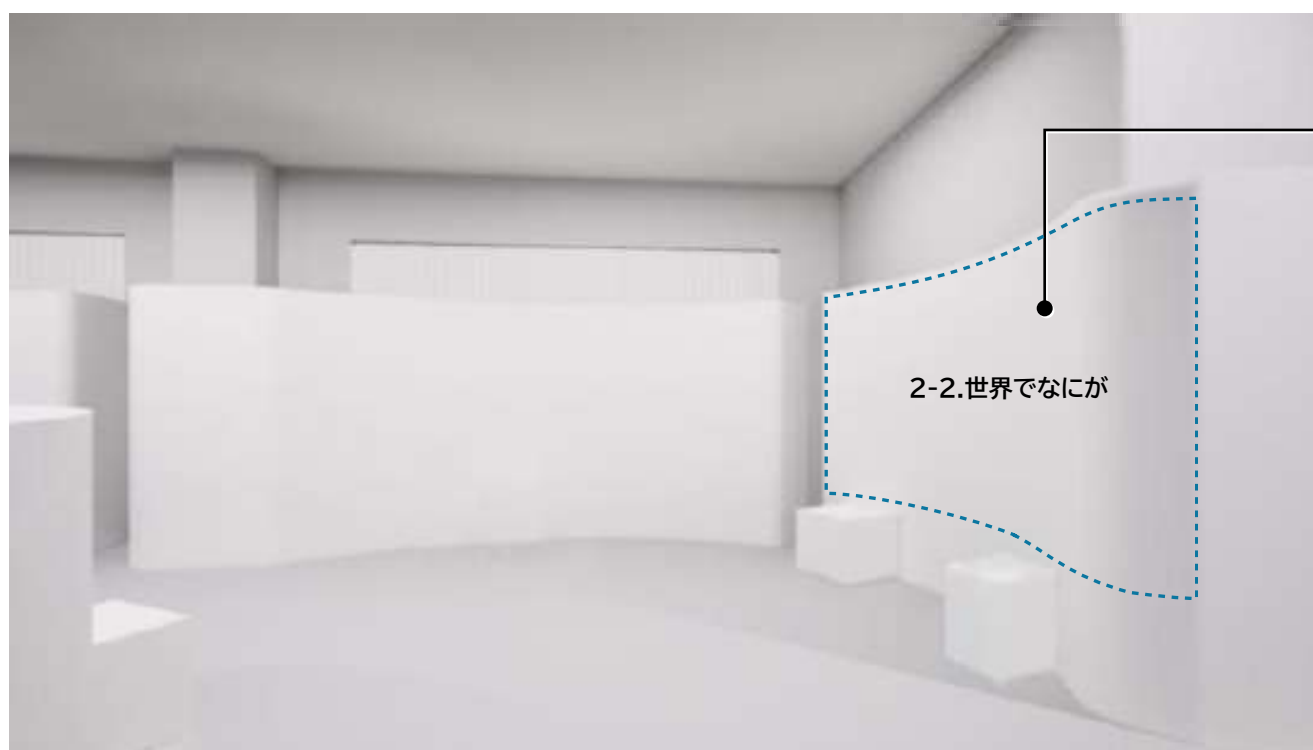
【展示のねらい】

- ① 世界でおきた(おきている)戦争・紛争、差別などの人権問題を知り、戦争や紛争は人々の相互不信や偏見が要因のひとつであることを伝える。
- ② 人々の相互不信や偏見は、戦争のない社会や、身近な社会にも存在し、人権を脅かしていることから、平和な社会とは何かを考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ めいぐるみ爆弾など、既存の体験型展示を活用する。
- ・ ハンズオンなどの体験型展示に関連する、紛争地の人々のライフヒストリーを伝える。

KEYPLAN



- ・ 2-2-① 第二次世界大戦後の戦争・紛争、人権問題
グラフィック・模型・資料
(世界の戦争・紛争に関わる地図、沖縄・日本に存在する人権問題や差別問題に関わる人々のライフヒストリーなど)

2.現在の戦争や紛争について考えるコーナー

2-2.世界でなにが

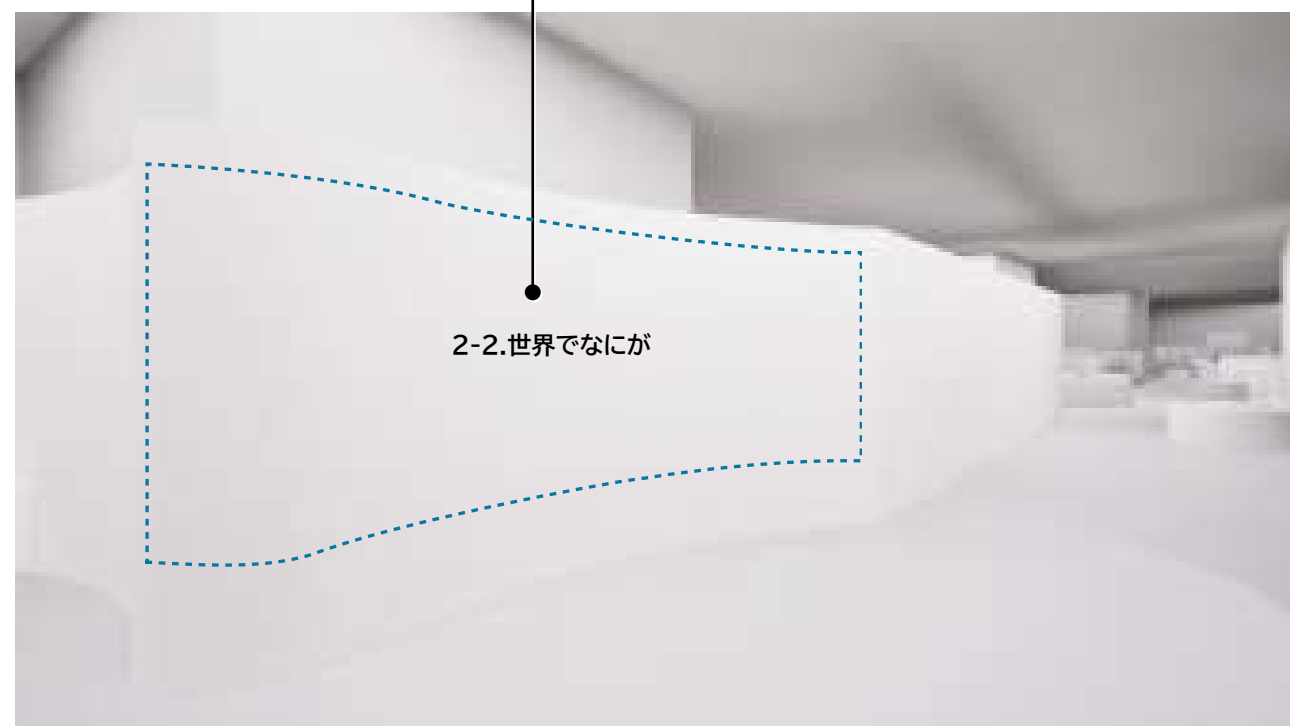
【展示のねらい】

- ① 世界でおきた(おきている)戦争・紛争、差別などの人権問題を知り、戦争や紛争は人々の相互不信や偏見が要因のひとつであることを伝える。
- ② 人々の相互不信や偏見は、戦争のない社会や、身近な社会にも存在し、人権を脅かしていることから、平和な社会とは何かを考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ アフガニスタンの紛争と中村哲氏の平和構築活動についてパネルで伝える。
- ・ 大項目2と大項目3をつなぐような、紛争と平和構築の両方を伝える内容とする。

KEYPLAN



- ・ 2-2-① 第二次世界大戦後の戦争・紛争、人権問題
- ・ 2-2-② 沖縄・日本にある人権問題
グラフィック・模型・資料
(世界の戦争・紛争に関わる地図、沖縄・日本に存在する人権問題や差別問題に関わる人々のライフストーリーなど)

3.平和創造を考えるコーナー

3-1. 平和活動に取り組む人々

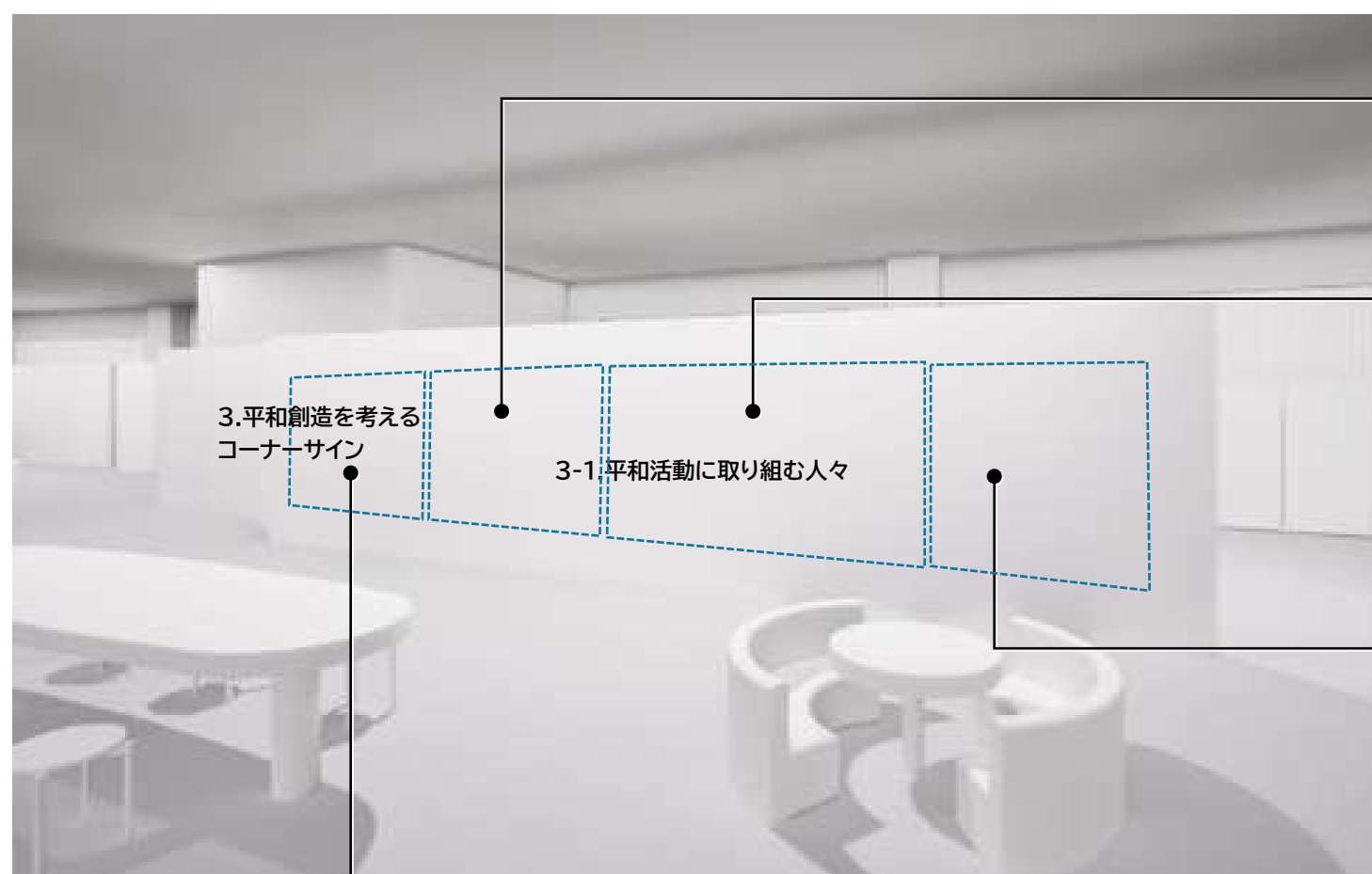
【展示のねらい】

- ① 世界各地の紛争地で平和構築活動をしている人の取り組みなどを伝え、紛争は終わらせることができることを伝える。
- ② 日本や沖縄などで平和構築や人権問題解決に取り組む人々を取り上げ、平和活動に参加しようという意識を醸成する。
- ③ 国内外の平和博物館及び関連施設を紹介し、平和等に関する学習意欲を高めてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 平和構築活動をしている人々のライフヒストリーを伝える。
- ・ 沖縄県内など身近に平和活動を行っている人々についても取り扱う。
- ・ 本館とつながりのある平和博物館関連施設について紹介する。

KEYPLAN



- ・ 3-1-① 世界的な平和活動を行っている人々について
グラフィック
(主に沖縄平和賞に関する資料、県内・国内外の平和博物館関連施設に関する資料など)
- ・ 3-1-② 日本・沖縄など身近に平和活動をしている人々について
グラフィック
(主に沖縄平和賞に関する資料、県内・国内外の平和博物館関連施設に関する資料など)
- ・ 3-1-③ 国内外の平和博物館及び関連施設
グラフィック
(主に沖縄平和賞に関する資料、県内・国内外の平和博物館関連施設に関する資料など)

グラフィック

3.平和創造を考えるコーナー

3-2.世界へ平和を発信する「平和の礎」

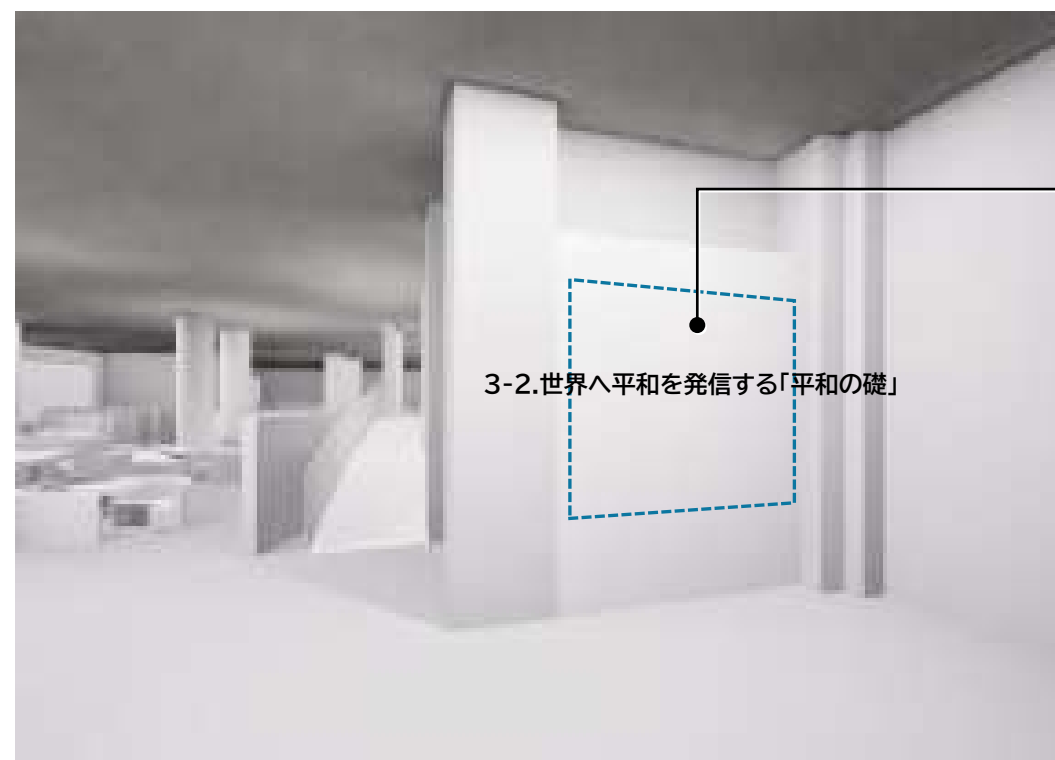
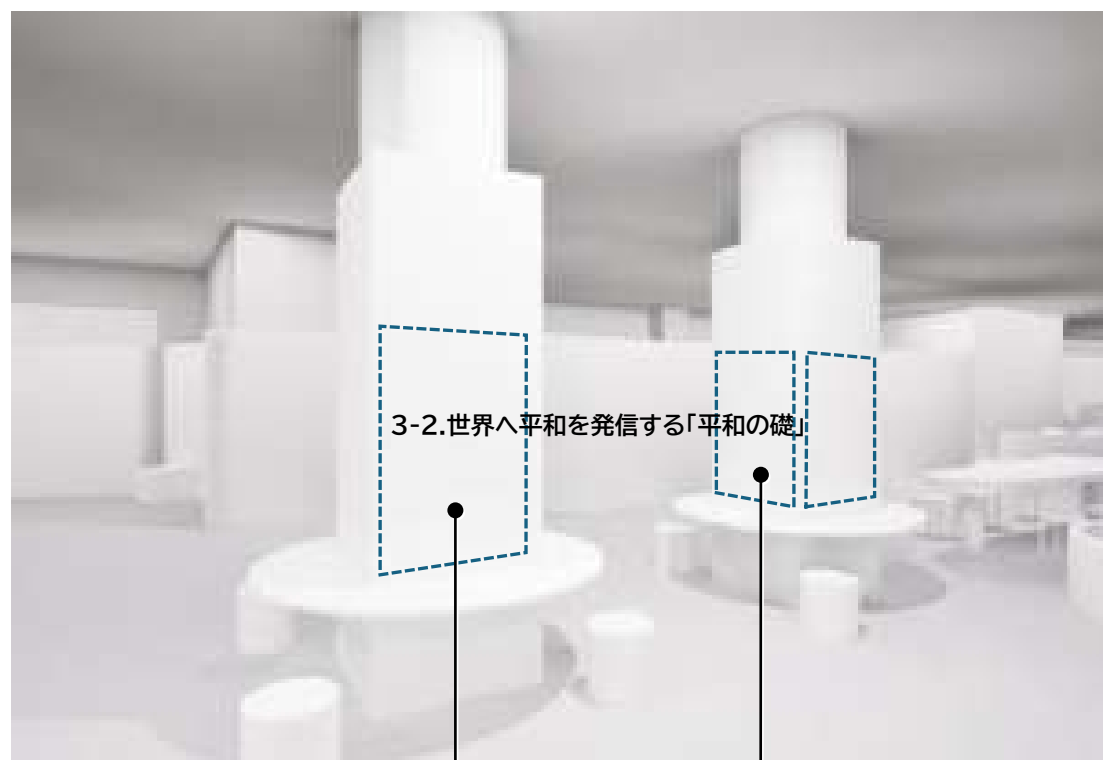
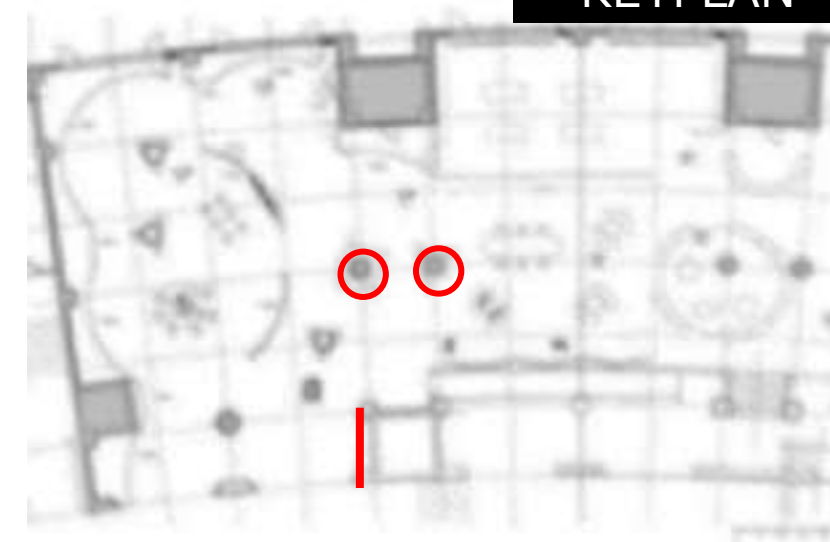
【展示のねらい】

- 戦争の原因である相互不信や差別、分断と「平和の礎」の建設趣旨・基本理念を照らし合わせ、「平和の礎」が何を伝えているのか、課題をどう克服すればいいのかを考えてもらう。

【展示の展開方針】

- 「平和の礎」に対する、沖縄県民の思いや意見、課題を改めて解説する。
- 「平和の礎」について考えたことを来館者参加型で展示する。

KEYPLAN



- 3-2-① 「平和の礎」の理念や課題を振り返り、未来にむけての可能性を考えるグラフィック

- 3-2-① 「平和の礎」の理念や課題を振り返り、未来にむけての可能性を考えるグラフィック
(「平和の礎」に対するこれまでの意見、来館者のメッセージ)

3.平和創造を考えるコーナー

3-3.平和を発信しよう

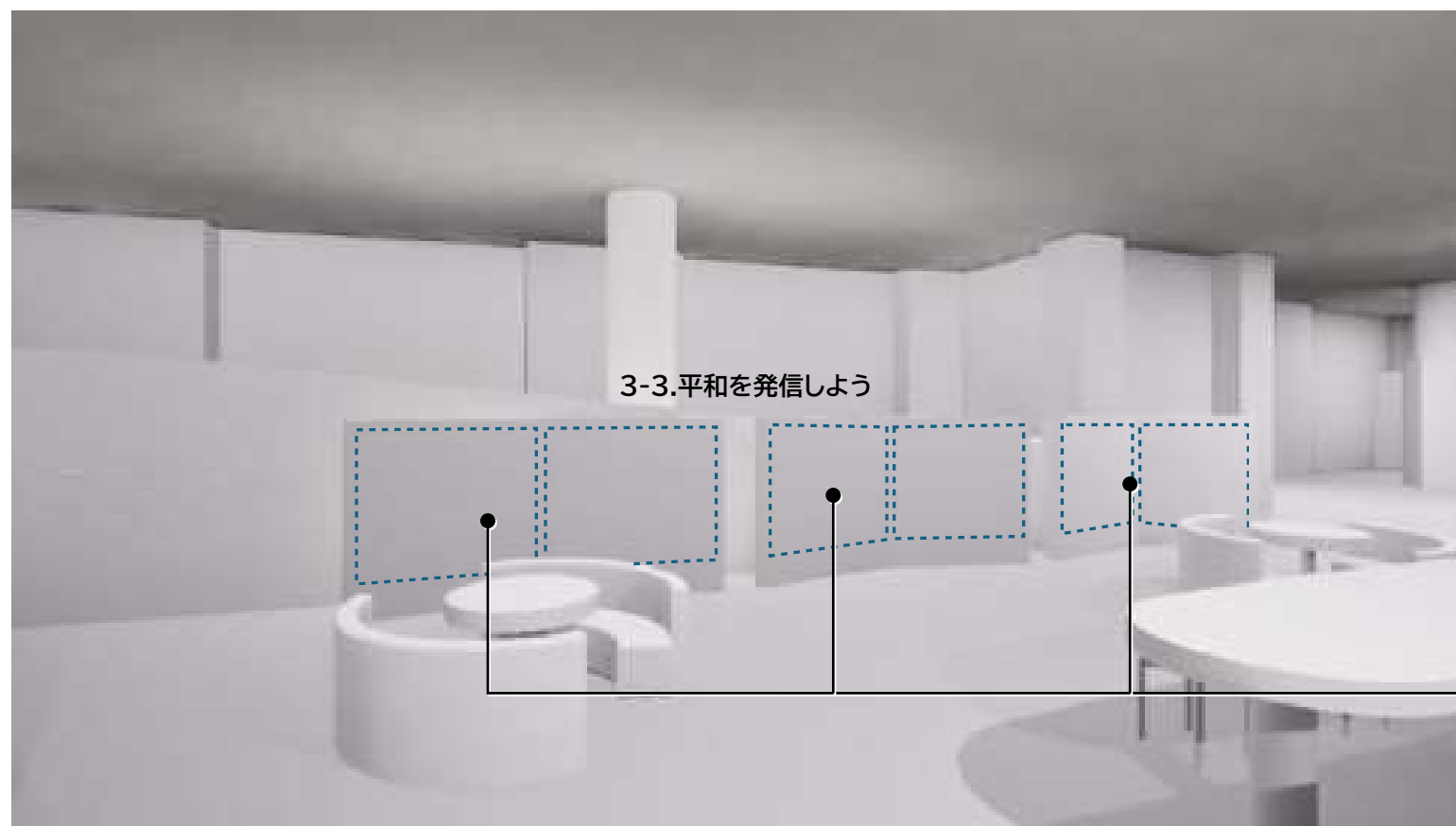
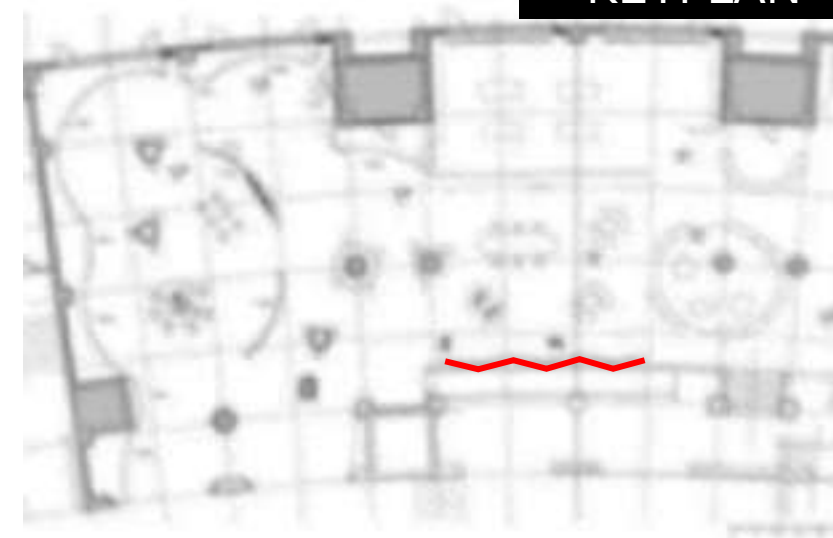
【展示のねらい】

- ・ 身近な子どもたちが平和について発信していることを伝え、来館者に平和を発信する意識を醸成してもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 「児童・生徒の平和メッセージ展」の作品をパネルで紹介する。
- ・ その年ごとの作品が展示できるように更新性の高いものにする。

KEYPLAN



- ・ **3-3-①** 平和を創造する意思表示等を何らかのアクションで発信する
グラフィック・資料
(児童・生徒の平和メッセージ展の作品)

4.企画展示コーナー

4-1.企画展示コーナー

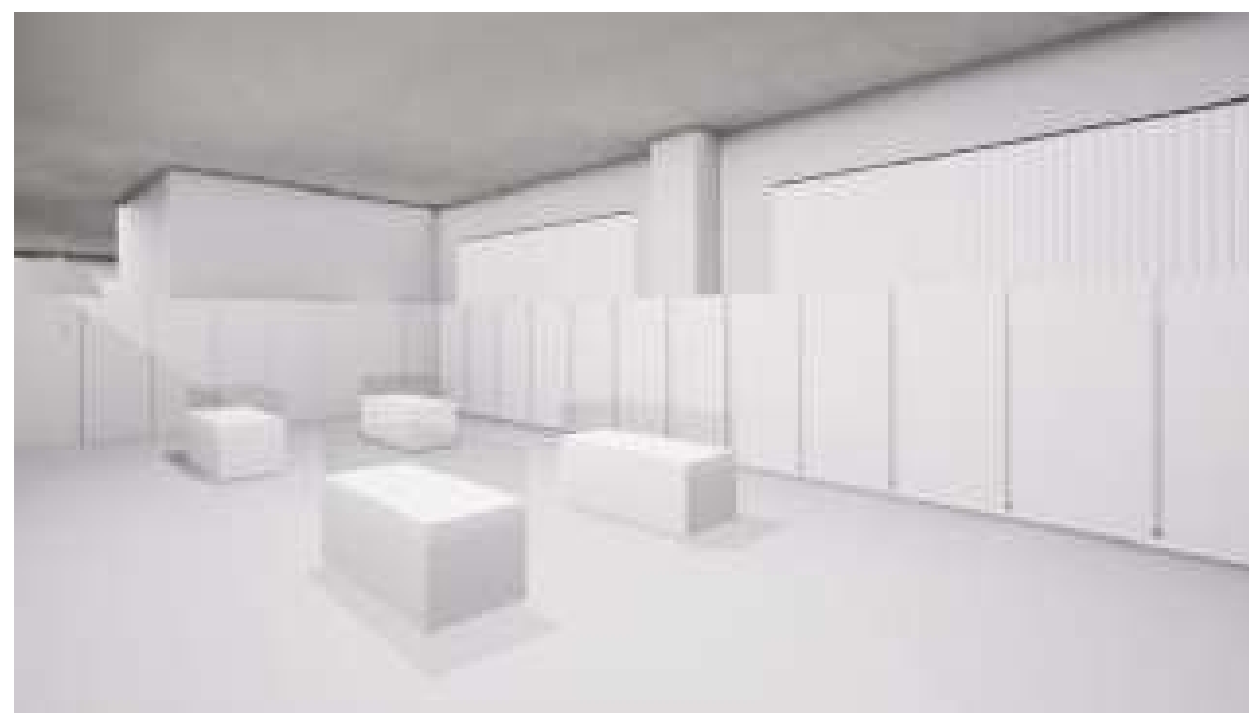
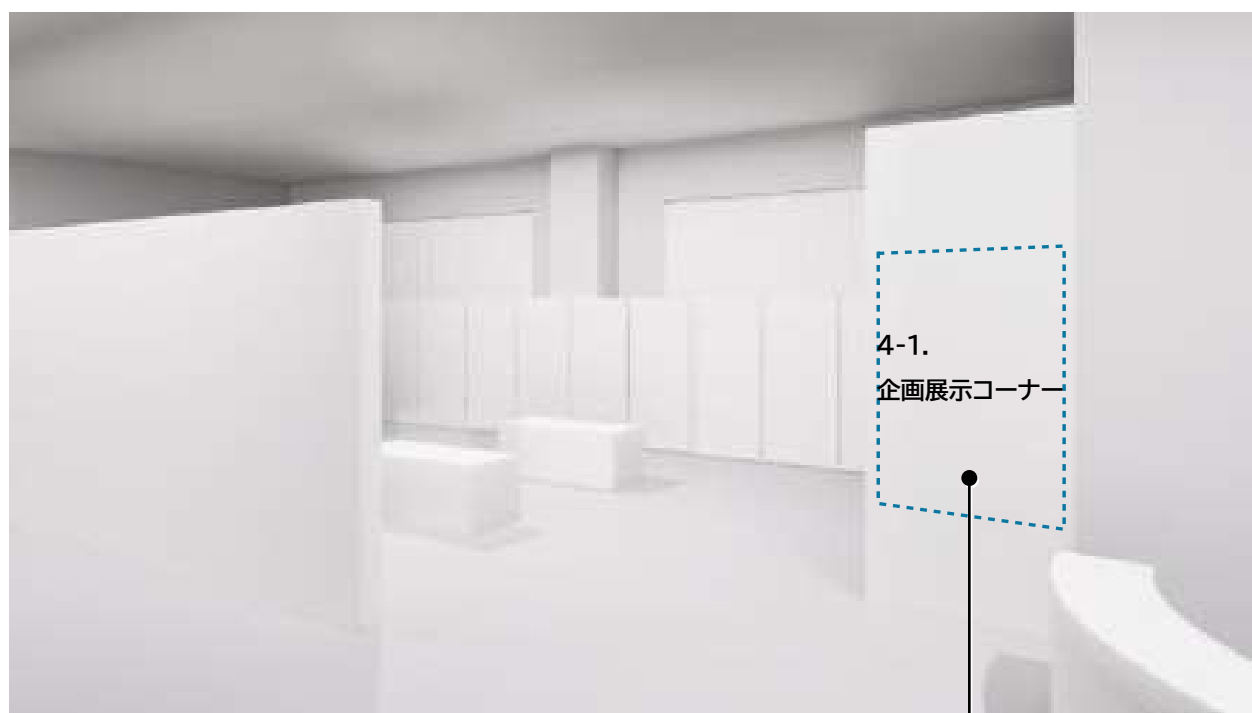
【展示のねらい】

- ・ 子どもがわかりやすく沖縄戦や人権問題を考えられる企画展示を実施する。

【展示の展開方針】

- ・ 既存の企画展示室と同程度の展示面積を確保する。
- ・ 1年に数回の展示替えができるよう、更新性の高い什器を設置する。

KEYPLAN



- ・ 4-1-① 子ども対象の沖縄戦や人権問題、国際理解をテーマとした企画展
グラフィック・資料

5.学びとふれあいコーナー

5-1.平和学習やコミュニケーションを醸成するコーナー

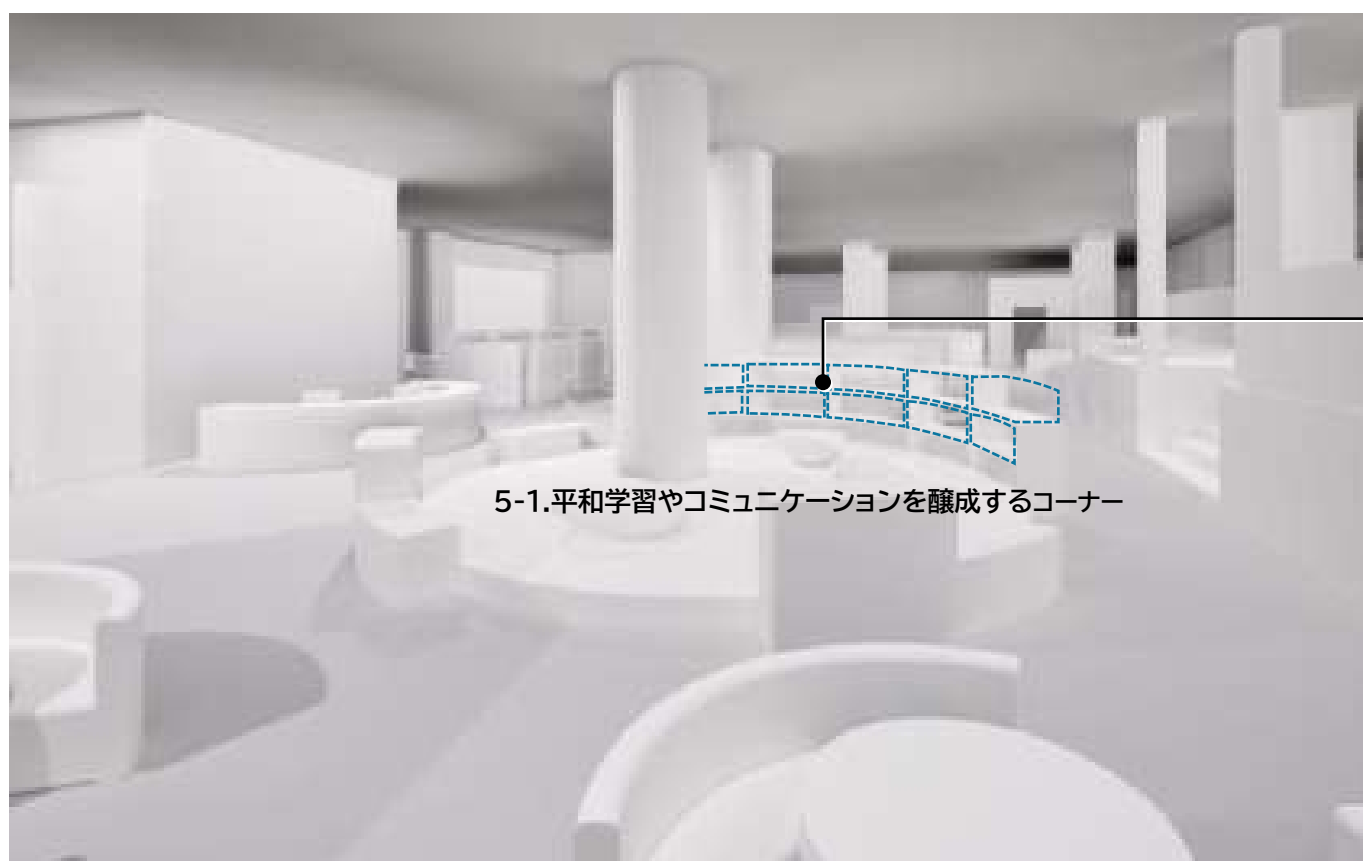
【展示のねらい】

- ・ くつろぎながら絵本や学習ツールに触れながら、平和について考えられる空間にする。
- ・ 展示を見て考えをまとめたり、展示などについて来館者同士で対話ができる空間を提供する。

【展示の展開方針】

- ・ 小上がりにし、くつを脱いでくつろげるスペースとする。
- ・ 絵本や紙芝居等、手に取れる資料を設置する。

KEYPLAN



- ・ 5-1-① 多様な国々・世界の子どもたち
- ・ 5-1-② 沖縄の戦争遺跡や世界の戦争・紛争のマップ
- ・ 5-1-③ 平和を考える絵本
- ・ 5-1-④ 来館者のふれあい(メッセージ等)
グラフィック・映像装置・資料・模型
(現在の「世界のこどもたち」のケース内展示物、平和に関する絵本など)

5.学びとふれあいコーナー

5-1.平和学習やコミュニケーションを醸成するコーナー

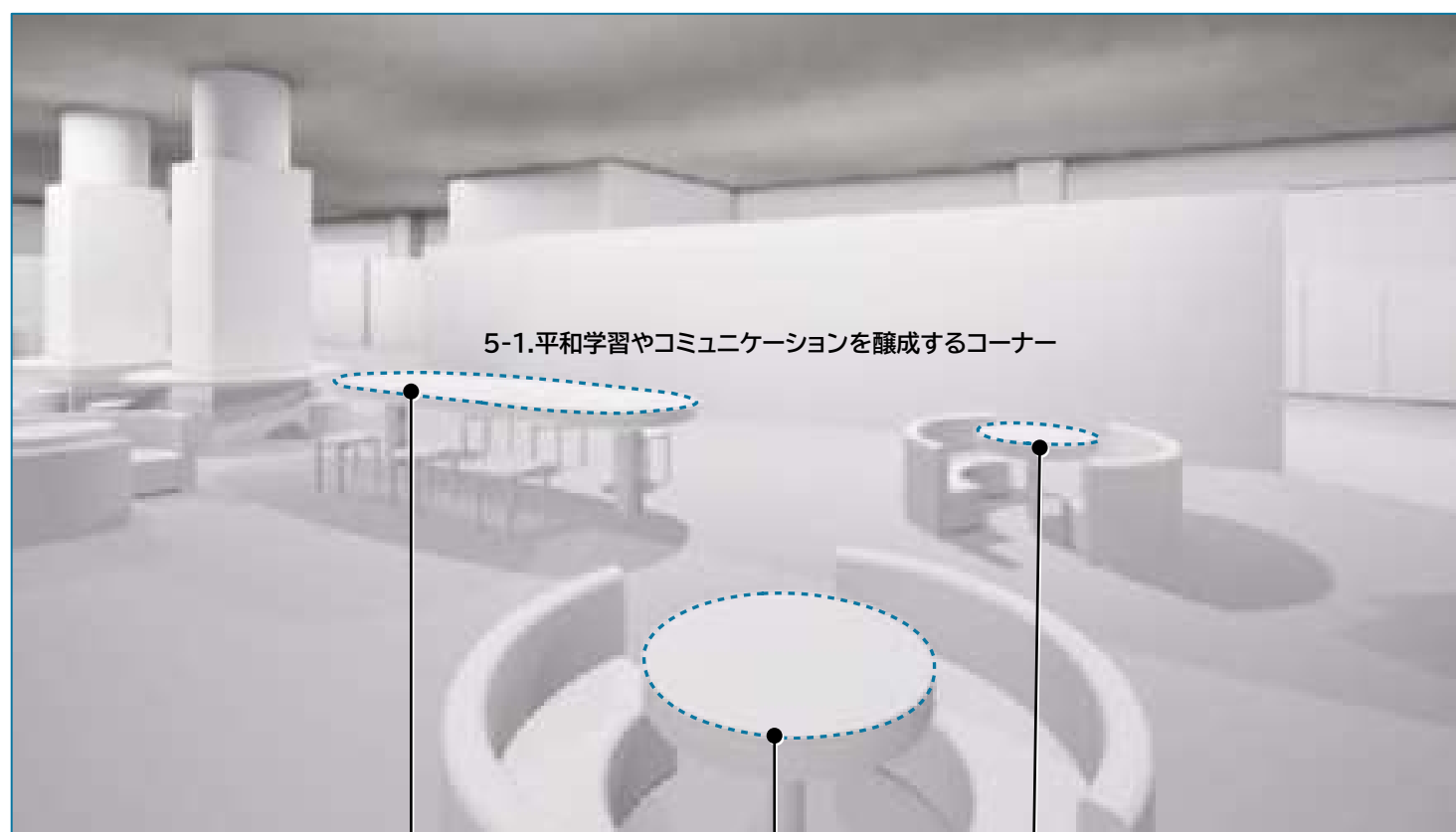
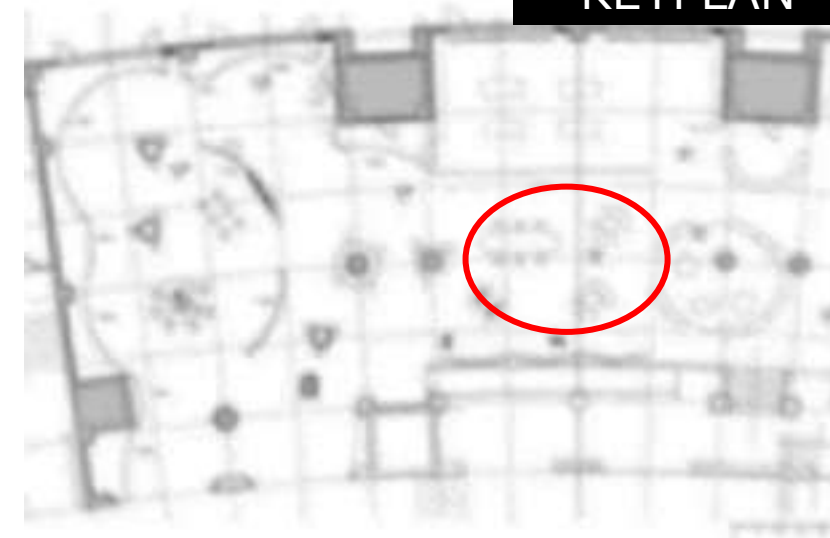
【展示のねらい】

- ・ くつろぎながら絵本や学習ツールに触れながら、平和について考えられる空間にする。
- ・ 展示を見て考えをまとめたり、展示などについて来館者同士で対話ができる空間を提供する。

【展示の展開方針】

- ・ 展示を振り返りながら、来館者同士が対話できる場とする。
- ・ アンケートやメッセージ、ワークを設置して、平和や戦争・紛争について深く考えられるような工夫をする。

KEYPLAN



- ・ 5-1-④ 来館者のふれあい(メッセージ等)グラフィック

6.情報ライブラリー

6-1.情報ライブラリー

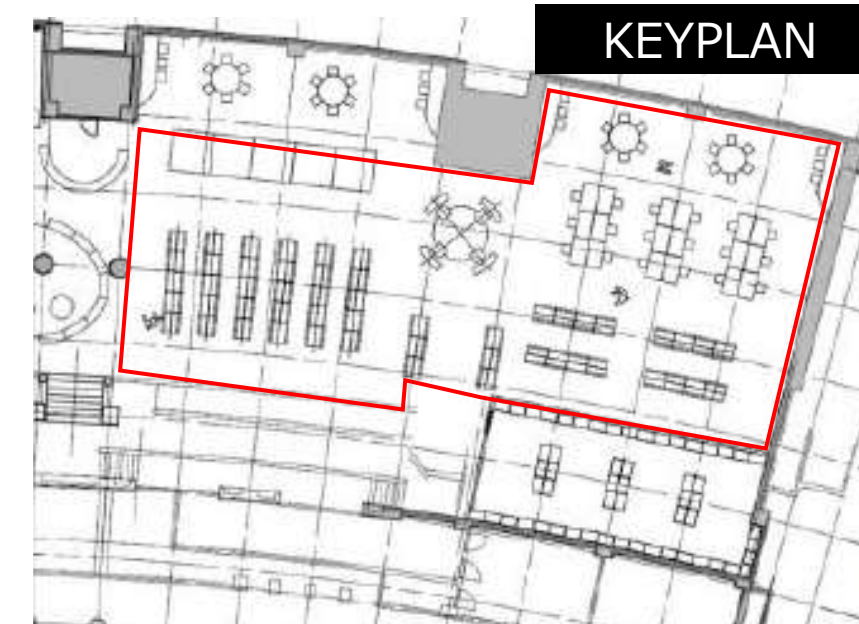
【展示のねらい】

- ・ 展示の理解を深める、または学校教諭や平和ガイドなどが平和学習を進めるために必要な資料・情報を提供する。

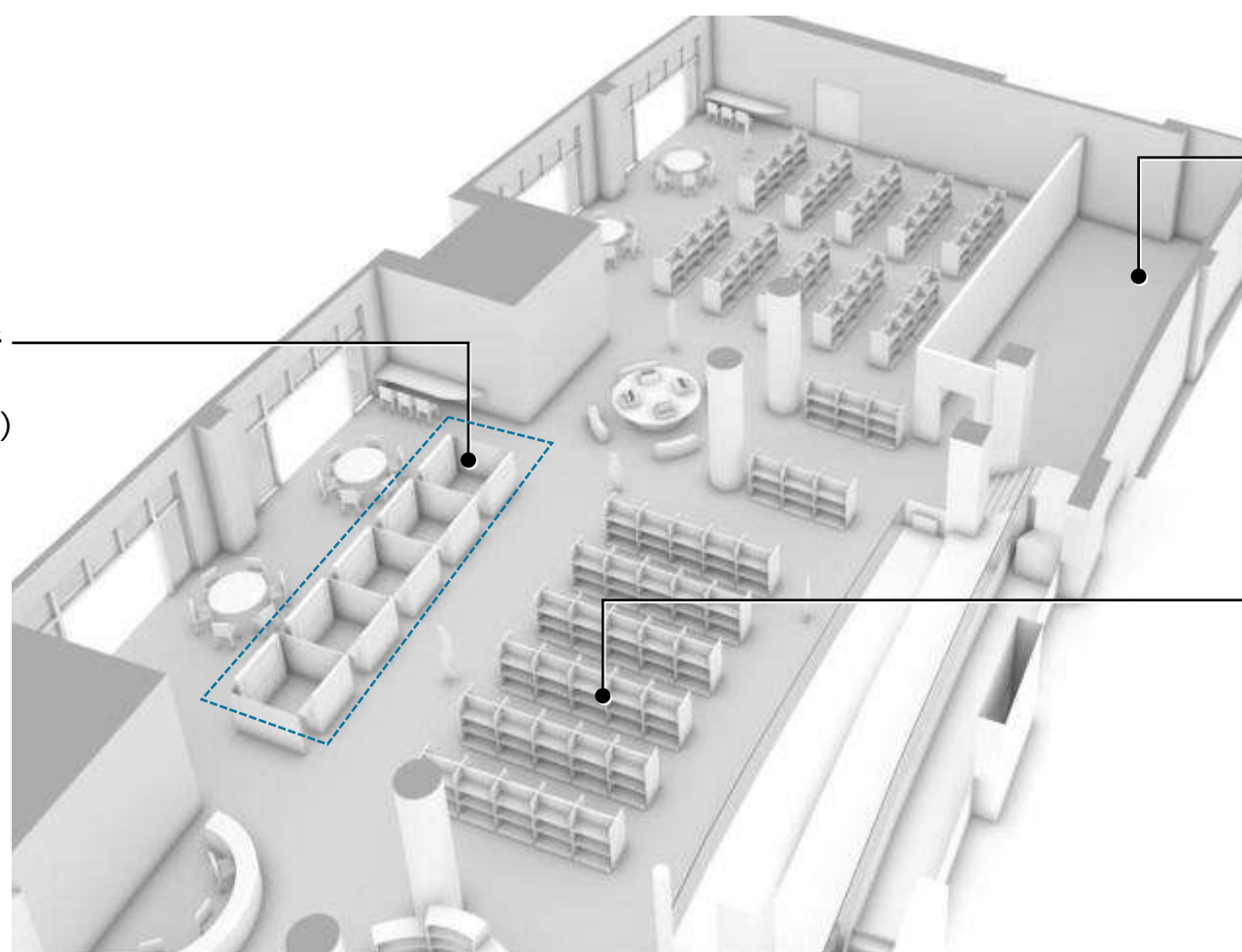
6-2.証言映像ブース

【展示のねらい】

- ・ 本館が所蔵する多数の戦争体験証言を閲覧し、常設展示の理解を深められるようにする。



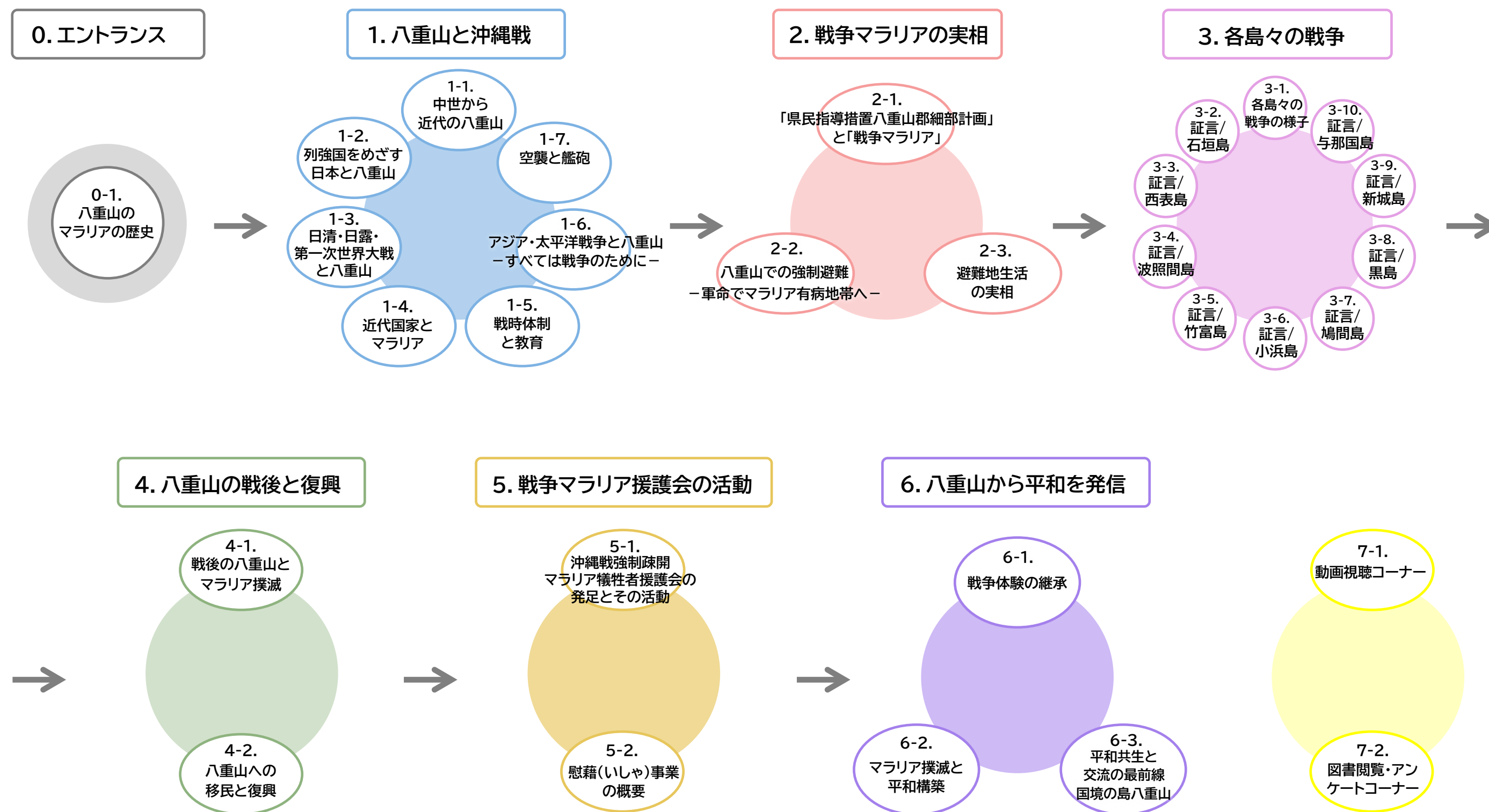
- ・ 6-2-① 映像機器の更新
映像装置
(戦争体験証言の映像など)



バックヤード(収納スペース)

- ・ 6-1-① 書籍の充実
- ・ 6-1-② 利用しやすい書架の配列
(こども図書ライブラリー)
- ・ 6-1-③ 書庫の充実
- ・ 6-1-④ 学習スペースの充実
資料・造形
(図書資料、閲覧台、収納スペースなど)

八重山平和祈念館（分館）



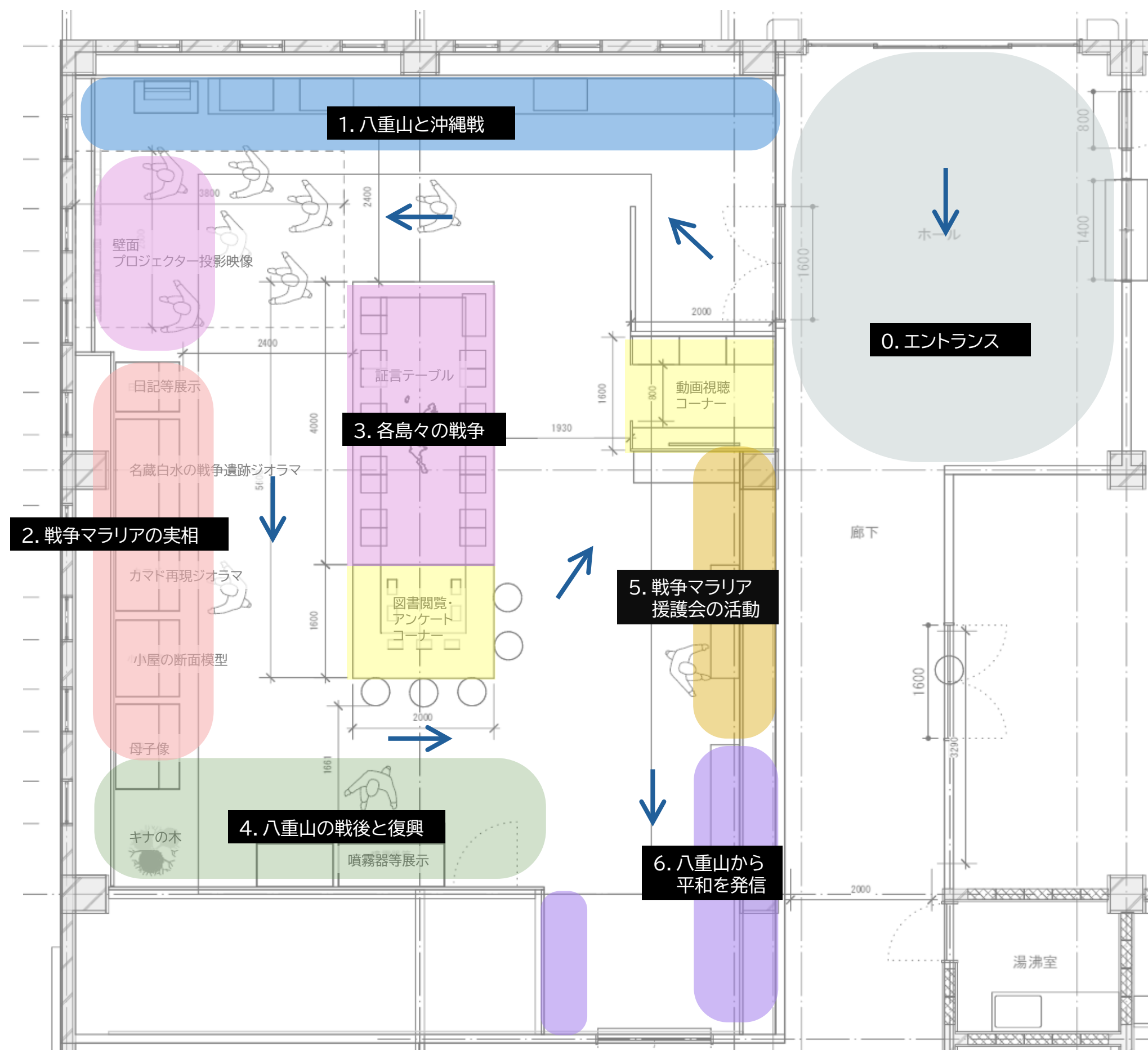
※以下に示す目的・ねらいについては、現状仮の文章になります。

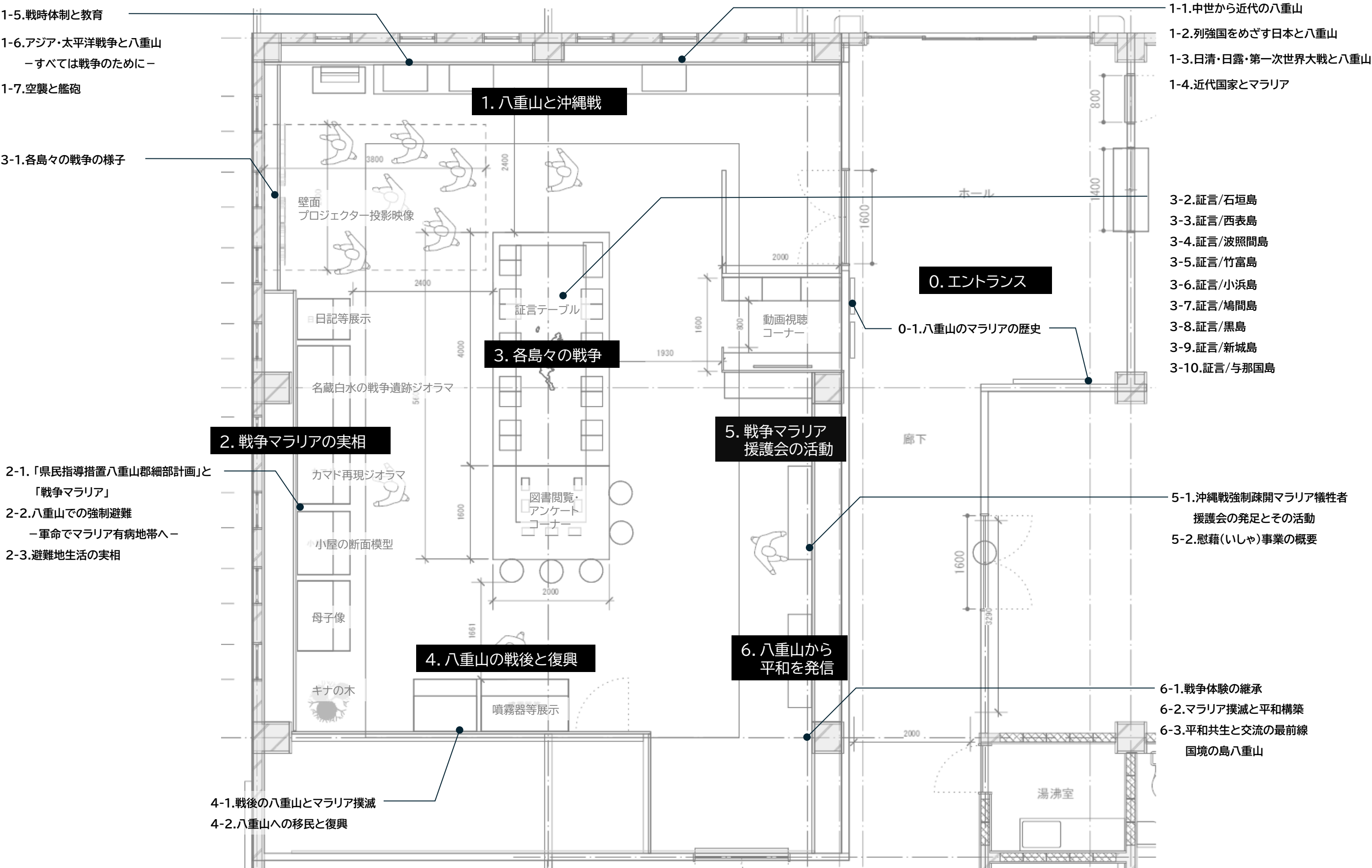
ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
八重山平和祈念館	戦争マラリアの実相を後世に正しく伝えるとともに、人間の尊厳が保障される社会の構築と、八重山地域から世界に向けて恒久平和の実現を訴える「平和の発信拠点」の形成をめざす。	0.エントランス	八重山で風土病とされていたマラリアの基本的な情報を伝えるとともに、沖縄戦における八重山の戦没者の多くが戦争マラリアによるものであることへの気づきを促す。	0-1.八重山のマラリアの歴史	八重山で風土病とされていたマラリアの基本的な情報を伝えるとともに、沖縄戦における八重山の戦没者の多くが戦争マラリアによるものであることへの気づきを促す。	0-1-① 八重山の戦争とは？ 0-1-② マラリアとは？ 0-1-③ 八重山とマラリア	グラフィック	八重山とマラリアの関係を示す図解など
		1.八重山と沖縄戦	八重山を視座にすえ、八重山を通して戦争へと突き進む日本政府の動きを概観するとともに、その国家体制へと組み込まれていく八重山の姿を伝える。米軍の上陸はなかったものの、激しい空襲攻撃にさらされた、沖縄戦時の八重山の状況を伝える。	1-1.中世から近代の八重山	人頭税や大津波、寄人制度による強制移住政策等によって、近代を迎える時点の八重山が大きく疲弊した状況であったことを伝える。	1-1-① フーキ（風気）と称された八重山の風土病「マラリア」 1-1-② 人頭税と強制移住政策 1-1-③基大な被害をもたらした「明和の大津波」	グラフィック	
				1-2.列強国をめざす日本と八重山	日本の台湾出兵や、琉球併合、清国との分島・条約案の動きなど、日本に組み込まれ政治的な問題に利用されながら、八重山が日本の国境となっていく過程を伝える。	1-2-① 牡丹社事件と台湾出兵 1-2-② 琉球併合と分島・条約案	グラフィック・資料	台湾出兵、琉球併合に関する図解・写真など
				1-3.日清・日露・第一次世界大戦と八重山	日清戦争以後、沖縄でも徴兵制が施行され、日本の軍国主義が広がり、八重山も急速に変化していく様子を伝える。また台湾が日本の領有となり、八重山に与えた影響などにもふれる。	1-3-① 徴兵令の発布 1-3-② 日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦 1-3-③ 台湾の植民地化	グラフィック	日清戦争・日露戦争に関する写真、当時の植民地地図など
				1-4.近代国家とマラリア	これまで八重山の人びとを苦しめてきた熱病がマラリアだと明らかになり、マラリアの防遏に向けて動き出した八重山について伝える。	1-4-① 南西諸島調査とマラリアの「発見」 1-4-② マラリア防遏への取り組み 1-4-③ 人頭税の廃止（1903年） 1-4-④ 日本の恐慌と八重山住民	グラフィック・資料	『南島探検』『八重山群島瘴癘毒記』など
				1-5.戦時体制と教育	戦争が忍び寄ってきた八重山でも思想統制や戦時体制が強化され、学校教育での皇民化教育や軍国主義教育が重要な役割を担っていたことを伝える。さらに地域の文化や風習など生活のあらゆる面が統制されていったことを伝える。	1-5-① 御真影、教育勅語の下賜 1-5-② 国民学校と「国体護持」 1-5-③ 弾圧される日本教育労働組合八重山支部 1-5-④ 翼賛青年連盟与那国支部・大政翼賛会八重山支部の誕生 1-5-⑤ 八重山から中国大陆へ 1-5-⑥ 鳥居設置の奨励と戦争	グラフィック・資料	教育勅語、誓の家札など
				1-6.アジア・太平洋戦争と八重山ーすべては戦争のためにー	・戦争のために、生活が苦しくなっていく住民や疎開が進められ地域を離れざるを得ない住民など、戦時下の八重山の状況を伝える。 ・また、八重山においても、根こそぎ戦場動員が行われ、朝鮮人軍夫や慰安婦が存在したこと、さらに特攻と関連の深い地域であったことなども伝える。	1-6-① 大舩松市顕彰運動 1-6-② 船浮臨時要塞と第32軍 1-6-③ 陸軍中野学校出身者 1-6-④ 住民の根こそぎ動員 1-6-⑤ 朝鮮人軍夫 1-6-⑥ 慰安婦問題 1-6-⑦ 台湾、九州への疎開 1-6-⑧ 子どもたちの動員 1-6-⑨ 沖縄戦特攻作戦第1陣 石垣島から出陣	グラフィック・資料	米英に宣戦布告したことを伝える新聞、臨時召集令状、千人針、軍隊手帳など
				1-7.空襲と艦砲	米軍の上陸はなかったものの、激しい空襲と艦砲射撃にさらされた、沖縄戦時の八重山の状況を伝える。	1-7-① 沖縄島での戦闘の概要 1-7-② 激烈を極める空襲 1-7-③ みのかさ部隊 1-7-④ 船舶撃沈事件 1-7-⑤ 米軍捕虜虐殺事件 1-7-⑥ 空襲と御真影・教育勅語	グラフィック・資料	石垣島地方気象台の弾痕跡、みのかさ部隊の鉄かぶと（レプリカ）など

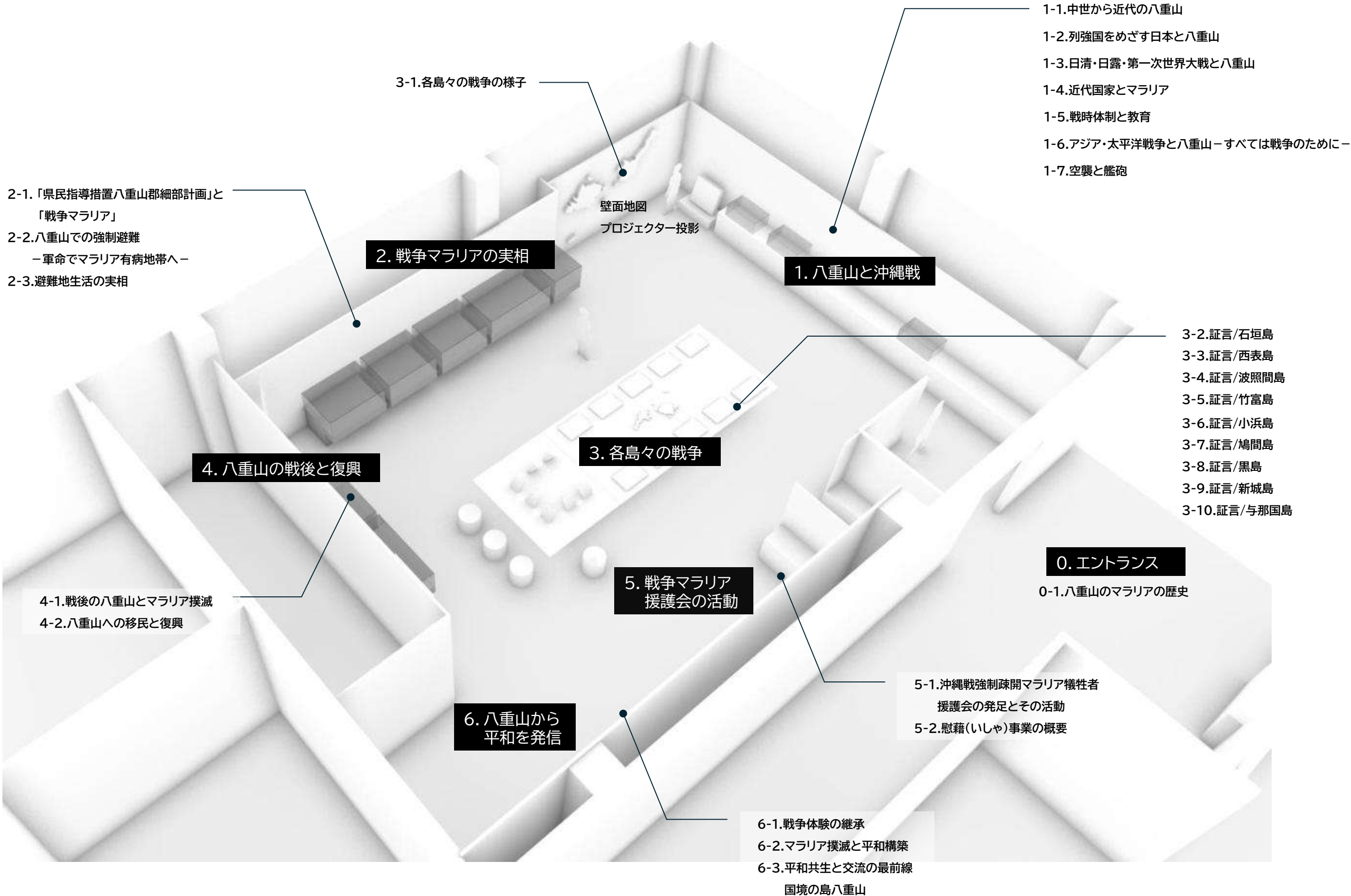
ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
		2.戦争マラリアの実相	軍命による有病地への強制避難によって引き起こされた戦争マラリアの実相を伝える。 食糧も薬もないなかで、住民たちがどのような暮らしを強いられたのかを伝える。	2-1.「県民指導措置八重山郡細部計画」と戦争マラリア	戦争マラリアが引き起こされた背景や計画、それぞれの島の状況を伝える。さらに「県民指導措置八重山郡細部計画」や、各島々で軍と行政が強制避難の際にどのような役割を果たしていたのかを伝える。	2-1-① 県民指導措置八重山郡細部計画 2-1-② マラリア有病地への強制避難命令 2-1-③ 強制避難命令のねらい	グラフィック・資料	『県民指導措置八重山郡細部計画』など
				2-2.八重山での強制避難 －軍命でマラリア有病地帯へ－	日本軍がマラリア有病地を調査した上で島民を移動させる命令を出し、多くの島民がマラリアにより犠牲になった戦争マラリアの概要、軍命のねらいなどを伝える。さらに戦争孤児や、兵士のマラリアについても取り上げる。	2-2-① 強制避難の概況 2-2-② 波照間島住民と忘勿石 2-2-③ 兵士たちのマラリア犠牲 2-2-④ 戦争マラリアと戦争孤児	グラフィック・資料	東畑広吉参謀長の手記、鉄田義司氏の日記、潮平寛保氏の日記など
				2-3.避難地生活の実相	軍命により、空襲を避けながら指定された地域へ移動し、劣悪な衛生環境の中で食糧も薬も不足していた過酷な避難地での生活やマラリアに罹患した島民の様子、看病や亡くなった家族を弔うことも難しくなっていく状況など、戦争マラリアの実相を伝える。体験をもとに描かれた絵やジオラマ、模型や遺留品などの展示を通して当時の状況を想像できるように展示する。	2-3-① 避難地での食糧事情と居住環境 2-3-② 戦争マラリアによる犠牲者 2-3-③ 看病、埋葬の状況	グラフィック・模型	白水戦争遺跡群ミニジオラマ、高熱に苦しむ母子像、カマド跡の模型、避難小屋の模型、潮平正道氏の絵など

ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
		3.各島々の戦争	八重山の島々の沖縄戦時の状況を解説する。 証言を通じて、戦争及び戦争マラリアの実相を伝える。	3-1.各島々の戦争の様子	同じ八重山でも各島によって異なる戦時の様子を伝える。軍が支配する体制の中での軍・官・民の関係性や、住民たちの状況を展示することで戦時体制がどのようなものだったのかを考えてもらう。	3-1-① 漁船撃沈等周辺海域の状況 3-1-② 各島の戦争の状況 3-1-③ 各島の軍隊配備状況 3-1-④ 離島残置謀者と八重山 3-1-⑤ 各島の強制避難の状況 3-1-⑥ 強制避難を免れた島・竹富島 3-1-⑦ 各島の戦争及び戦争マラリアによる犠牲者数	グラフィック・映像装置	八重山住民の避難場所を表す地図など
				3-2.証言/石垣島	戦時中の暮らしの変化や、台湾疎開、現地召集、学徒隊、空襲、戦争マラリアなど戦時中の石垣島についての証言を取り上げる。	3-2-① 各島々の証言 石垣島 3-3-① 各島々の証言 西表島 3-4-① 各島々の証言 波照間島 3-5-① 各島々の証言 竹富島 3-6-① 各島々の証言 小浜島 3-7-① 各島々の証言 鳩間島 3-8-① 各島々の証言 黒島 3-9-① 各島々の証言 新城島 3-10-① 各島々の証言 与那国島	グラフィック	旧日本軍の茶碗、石垣会の旗、海軍飛行予科練習生夏服、モンペ、沖縄戦の絵「与那国島カツオ工場への空襲」金城マツエ画など
				3-3.証言/西表島	戦時中の暮らしの変化や、空襲、護郷隊、安東丸事件、マラリアなど、戦時中の西表島についての証言を取り上げる。			
				3-4.証言/波照間島	戦時中の暮らしの変化や、空襲、残置工作員の配置、家畜の屠殺、戦争マラリアなど、戦時中の波照間島についての証言を取り上げる。			
				3-5.証言/竹富島	戦時中の暮らしの変化や、空襲、大石部隊、西表島への疎開が強制ではなくなった背景など、戦時中の竹富島についての証言を取り上げる。			
				3-6.証言/小浜島	戦時中の暮らしの変化や、空襲、特攻艇、朝鮮人軍夫、島内でのマラリアなど、戦時中の小浜島についての証言を取り上げる。			
				3-7.証言/鳩間島	戦時中の暮らしの変化や、空襲、国民学校長の殉職、戦争マラリアなど、戦時中の鳩間島についての証言を取り上げる。			
				3-8.証言/黒島	戦時中の暮らしの変化や、空襲、残置工作員の配置、家畜の屠殺、戦争マラリアなど、戦時中の黒島についての証言を取り上げる。			
				3-9.証言/新城島	戦時中の暮らしの変化や、空襲、戦争マラリアなど、戦時中の新城島についての証言を取り上げる。			
				3-10.証言/与那国島	戦時中の暮らしの変化や、空襲、残置工作員の配置、島内でのマラリアなど、戦時中の与那国島についての証言を取り上げる。			

ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
		4.八重山の戦後と復興	八重山において戦後がどのように始まったのか、その中で取り組まれたマラリア対策とその成果に触れるとともに、引揚者による人口増加、沖縄島の米軍基地建設に伴う移民の増加などにより、マラリアが再流行したこと、その後のマラリア撲滅までの取り組み等を紹介する。 復興に向かう八重山の状況について紹介する。	4-1.戦後の八重山とマラリア撲滅	八重山の戦後がどのように始まったのか、そしてその中で取り組まれたマラリア防遏や罹患者への治療や対策、さらにウィラー博士によるマラリア撲滅計画「ウィラープラン」など、マラリア撲滅へ力を注いだ戦後の八重山について伝える。また戦後拡大していく沖縄島の米軍基地建設や戦後の引揚げによる人口増加などを背景に、まだ有病地だった八重山の土地に多くの開拓移民が入植し、移民マラリアが発生したことについても解説する。	4-1-① 八重山の戦後の始まり 4-1-② 引揚げと移民 4-1-③ 戦後直後のマラリア対策とその成果 4-1-④ 米軍基地建設等に伴う移民の増加、森林開拓等によるマラリア再燃 4-1-⑤ WHOによるマラリア根絶計画の公表 4-1-⑥ ウィラープランの展開	グラフィック・資料	アテブリン、マラリア防遏のチラシ　マラリア対策に関する帳簿類、マラリア対策に使用された機器類、キナの木（枯木）など
				4-2.八重山への移民と復興	戦後の八重山での開拓移民や、八重山からも沖縄島や本土へ出稼ぎ者が増加するなど、戦後の人びとの動きを伝える。また「密貿易」など戦後の混乱した状況とともに、インフラ整備、復興博覧会の開催など復興に向かう八重山の状況を伝える。	4-2-① 沖縄島や宮古島等からの移民の実態 4-2-② 八重山からの人口流出と移住者の流入 4-2-③ 「密貿易」と復興 4-2-④ 八重山自治政府 4-2-⑤ 八重山における文芸復興の動き 4-2-⑥ 米国民政府の復興政策 4-2-⑦ とぅばらーま大会（昭和22年から）		
		5.戦争マラリア援護会の活動	沖縄戦強制疎開マラリア犠牲者援護会発足の経緯とその活動について伝えるとともに、その活動の成果として、慰霊碑や八重山平和祈念館が設置されたことなどについて伝える。	5-1.沖縄戦強制疎開マラリア犠牲者援護会の発足とその活動	平成の初めに援護会が結成され、戦後補償に向けて動き出した流れや遺族の思いを伝える。戦争マラリアが軍命によって引き起こされたことを明らかにするために集められた資料を展示する。	5-1-① 総決起大会 5-1-② 陳情活動 5-1-③ 追悼式の開催 5-1-④ 篠原武夫教授が援護会活動を始めるきっかけとなった『平和への証言－沖縄県立平和祈念資料館ガイドブック』	グラフィック・資料	援護会の活動を示す資料、『平和への証言－沖縄県立平和祈念資料館 ガイドブックー』など
				5-2.慰藉（いしゃ）事業の概要	八重山平和祈念館が設立される背景である慰藉事業の概要について伝える。	5-2-① 八重山戦争マラリア犠牲者慰霊之碑の建立 5-2-② 「八重山平和祈念館」の設立 5-2-③ 『悲しみを乗り越えて－八重山戦争マラリア犠牲者追悼平和祈念誌－』の発行		
	6.八重山から平和を発信	6.八重山から平和を発信	沖縄戦、そして、戦争マラリアを経験した八重山から日本に、そして世界に平和のメッセージを発信する。 八重山における平和創造に関する活動や取組を紹介する。	6-1.戦争体験の継承	これまで蓄積されてきた戦争体験や沖縄戦研究から戦争の教訓を伝えるとともに、八重山で続けられてきた次世代に戦争体験継承の活動を紹介する。	6-1-① むすびのことば 6-1-② 戦争体験継承への取組 6-1-③ これまでに建立された慰霊碑（モニュメント）の紹介	グラフィック・資料	戦争体験の継承を示す写真 八重山諸島内の慰霊塔の写真など
				6-2.マラリア撲滅と平和構築	現在の世界においても紛争地域とマラリア有病地に関連があることを伝える。途上国におけるインフラや公衆衛生の諸課題について、マラリア撲滅を達成した八重山から平和構築のあり方を考える。	6-2-① マラリア×紛争　世界地図 6-2-② マラリア有病地の課題（インフラ・公衆衛生など） 6-2-③ マラリア撲滅と八重山（ゼロマラリアの碑、当館でのJICA研修受け入れなど）		
				6-3.平和共生と交流の最前線 国境の島八重山	国境の島である八重山は、近隣地域との行政・民間での交流が活発な地域であり、共生と交流の活動が続けられてきたことを紹介し、世界へ平和を発信する。	6-3-① 八重山を中心に広がる地図（近隣地域との位置関係） 6-3-② 八重山と台湾の関係史 6-3-③ 八重山における国際交流		
		—	—	7-1.動画視聴コーナー	—	—	映像	—
				7-2.図書閲覧・アンケートコーナー	—	—		







0.エントランス

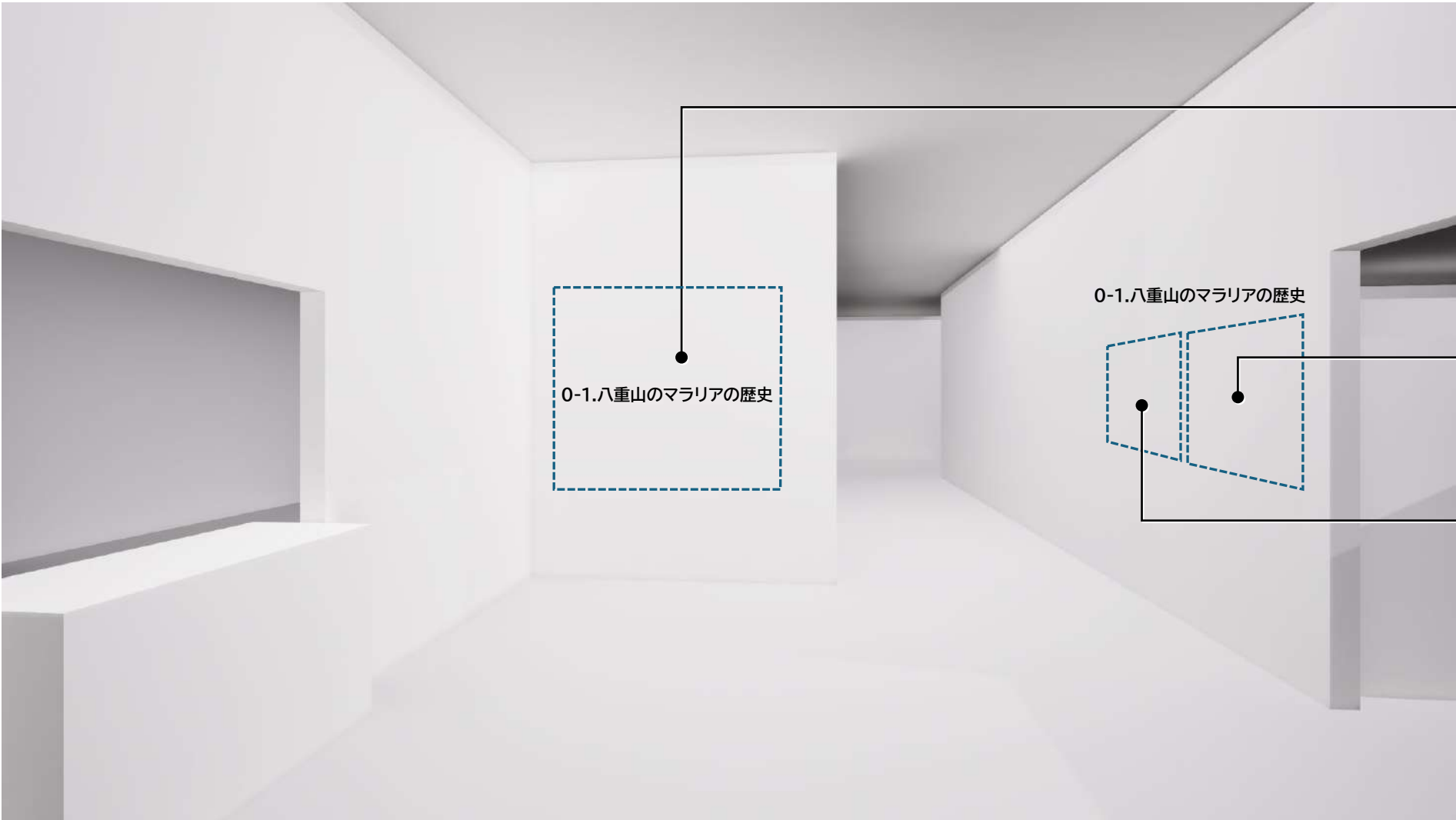
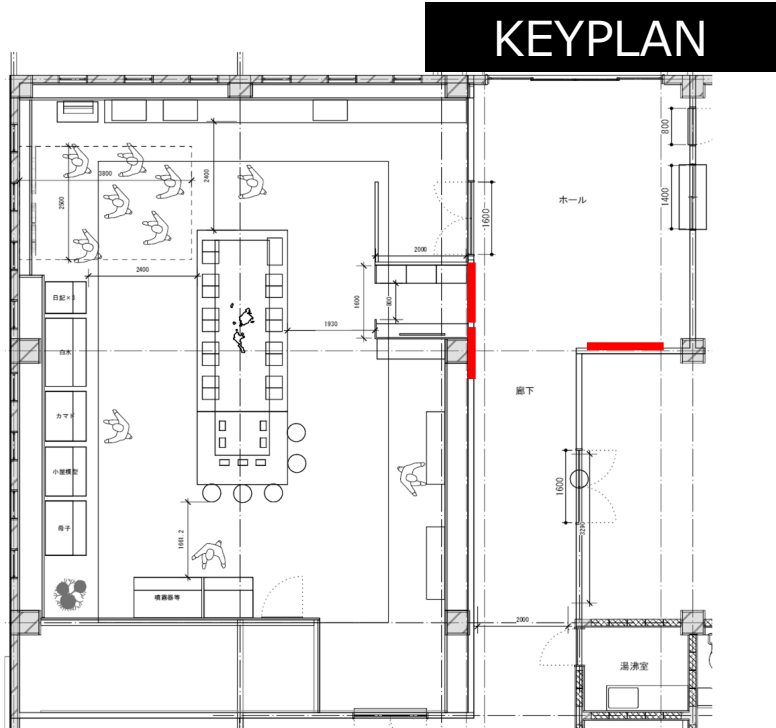
0-1.八重山のマラリアの歴史

【展示のねらい】

- ・ 八重山で風土病とされていたマラリアの基本的な情報を伝えるとともに、沖縄戦における八重山の戦没者の多くが戦争マラリアによるものであることへの気づきを促す。

【展示の展開方針】

- ・ データと問いかけを活用し、八重山の戦争体験への関心を喚起する。
- ・ マラリアの基本的な情報と、八重山とマラリアの関係性をわかりやすく伝える。



- ・ 0-1-① 八重山の戦争とは？
グラフィック
(八重山とマラリアの関係を示す図解など)
- ・ 0-1-② マラリアとは？
グラフィック
(八重山とマラリアの関係を示す図解など)
- ・ 0-1-③ 八重山とマラリア
グラフィック
(八重山とマラリアの関係を示す図解など)

1.八重山と沖縄戦

1-1.中世から近代の八重山

1-2.列強国をめざす日本と八重山

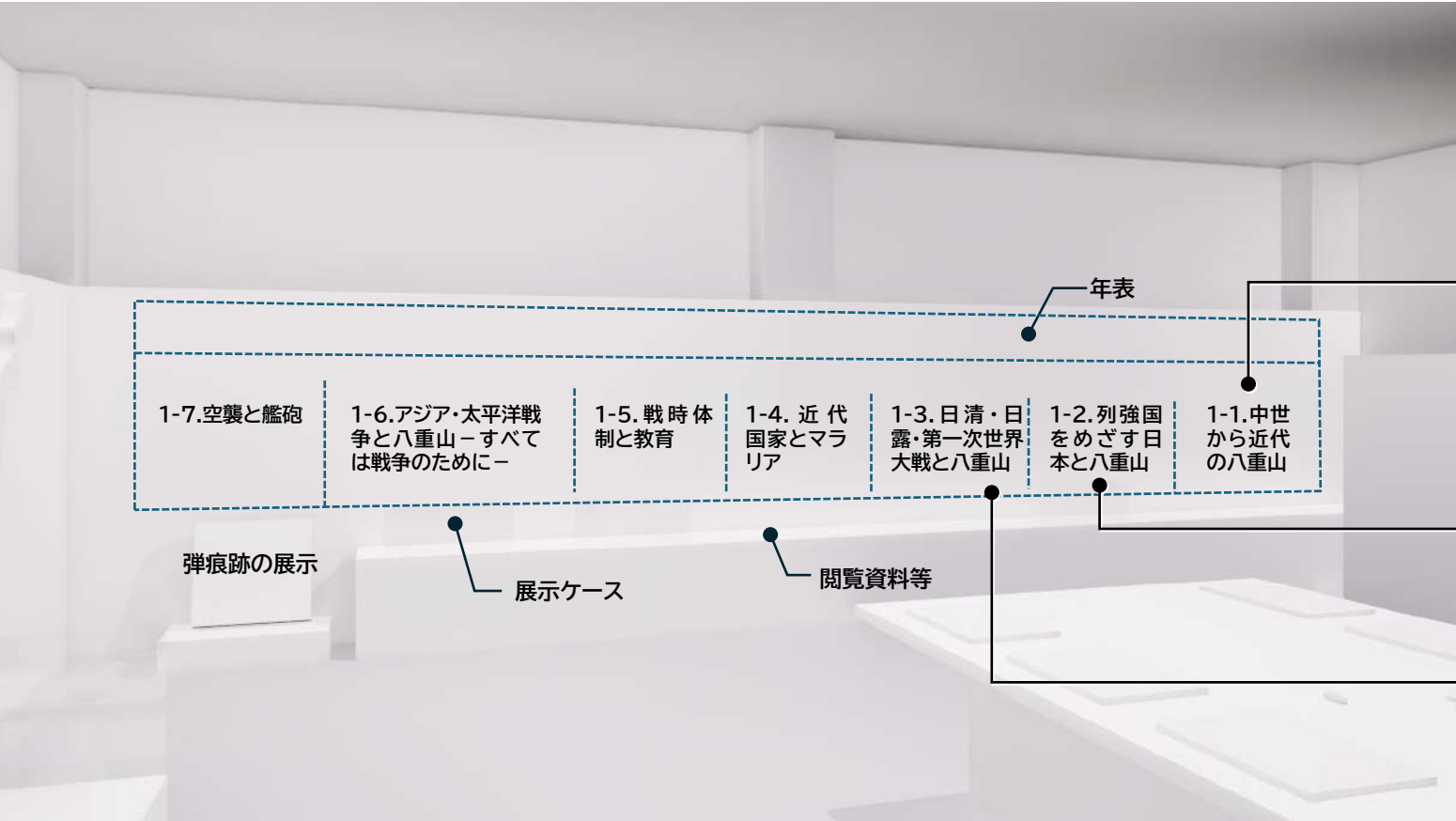
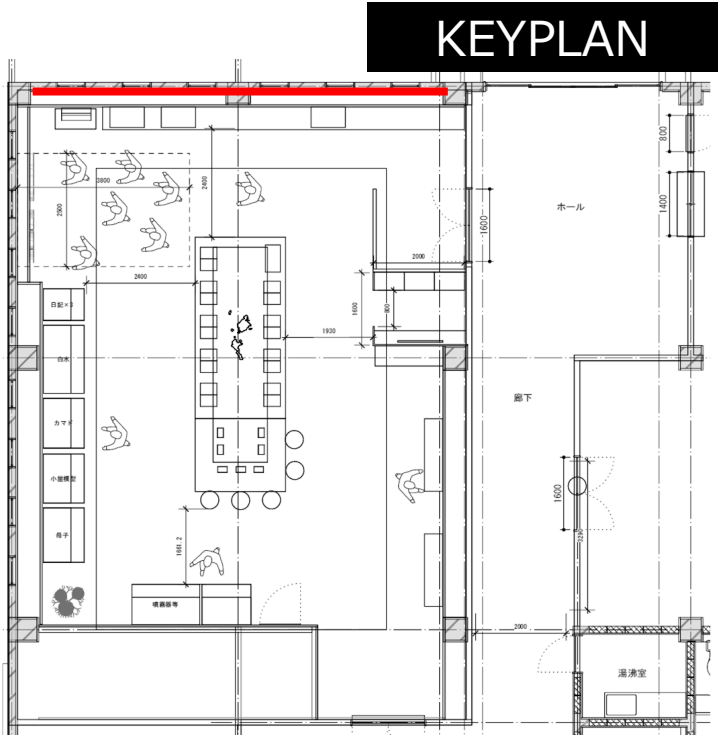
1-3.日清・日露・第一次世界大戦と八重山

【展示のねらい】

- ・ 八重山を視座にすえ、八重山を通して戦争へと突き進む日本政府の動きを概観するとともに、その国家体制へと組み込まれていく八重山の姿を伝える。
- ・ 米軍の上陸はなかったものの、激しい空襲攻撃にさらされた、沖縄戦時の八重山の状況を伝える。

【展示の展開方針】

- ・ 沖縄戦までの流れがわかるように展示展開を行う。
- ・ 各項目の時系列がわかるようにグラフィックを工夫する。
- ・ 実物資料を精選し、展示展開を補完する役割を強める。



- ・ 1-1-① フーキ(風気)と称された八重山の風土病「マラリア」
- ・ 1-1-② 人頭税と強制移住政策
- ・ 1-1-③ 甚大な被害をもたらした「明和の大津波」
グラフィック
- ・ 1-2-① 牡丹社事件と台湾出兵
- ・ 1-2-② 琉球併合と分島・増約案
グラフィック・資料
(台湾出兵、琉球併合に関する図解・写真など)
- ・ 1-3-① 徴兵令の発布
- ・ 1-3-② 日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦
- ・ 1-3-③ 台湾の植民地化
グラフィック
(日清戦争・日露戦争に関する写真、当時の植民地地図など)

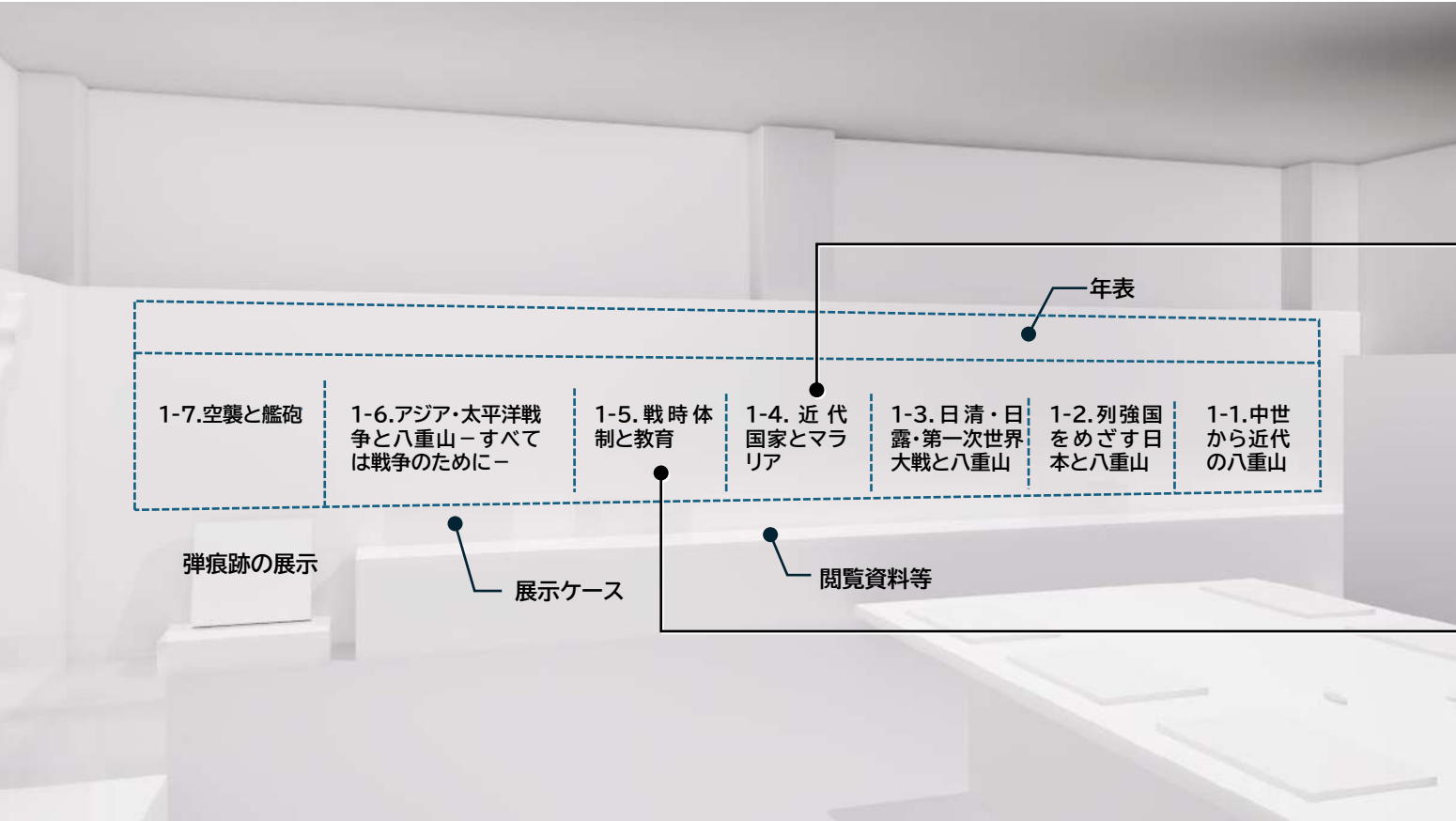
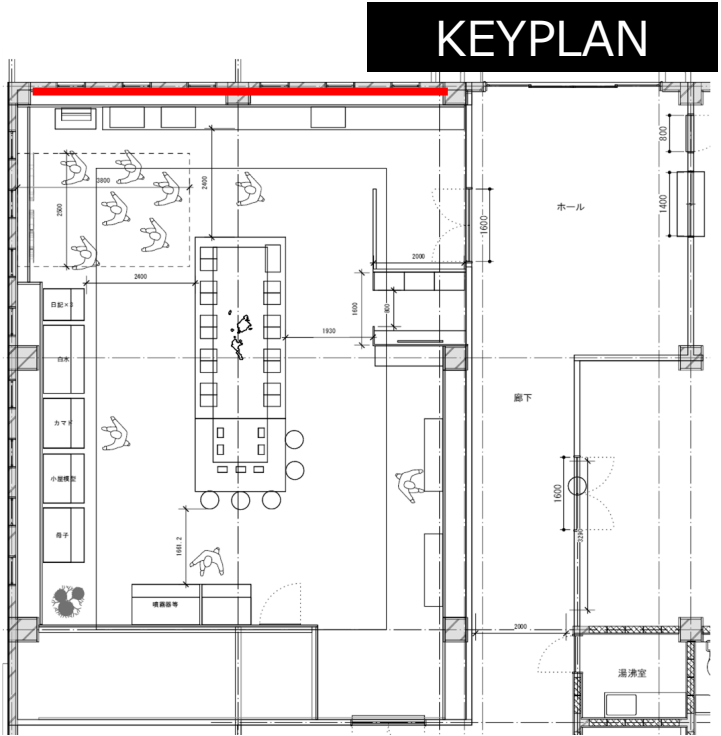
1.八重山と沖縄戦
1-4.近代国家とマラリア
1-5.戦時体制と教育

【展示のねらい】

- ・ 八重山を視座にすえ、八重山を通して戦争へと突き進む日本政府の動きを概観するとともに、その国家体制へと組み込まれていく八重山の姿を伝える。
- ・ 米軍の上陸はなかったものの、激しい空襲攻撃にさらされた、沖縄戦時の八重山の状況を伝える。

【展示の展開方針】

- ・ 沖縄戦までの流れがわかるように展示展開を行う。
- ・ 各項目の時系列がわかるようにグラフィックを工夫する。
- ・ 実物資料を精選し、展示展開を補完する役割を強める。



- ・ 1-4-① 南西諸島調査とマラリアの「発見」
- ・ 1-4-② マラリア防遏への取り組み
- ・ 1-4-③ 人頭税の廃止(1903年)
- ・ 1-4-④ 日本の恐慌と八重山住民
グラフィック・資料
(『南島探検』『八重山群島瘴癘毒記』など)
- ・ 1-5-① 御真影、教育勅語の下賜
- ・ 1-5-② 国民学校と「国体護持」
- ・ 1-5-③ 弾圧される日本教育労働組合八重山支部
- ・ 1-5-④ 翼賛青年連盟与那国支部・大政翼賛会八重山支部の誕生
- ・ 1-5-⑤ 八重山から中国大陆へ
- ・ 1-5-⑥ 鳥居設置の奨励と戦争
グラフィック・資料
(教育勅語、営の家札など)

1.八重山と沖縄戦

1-6.アジア・太平洋戦争と八重山ーすべては戦争のためにー

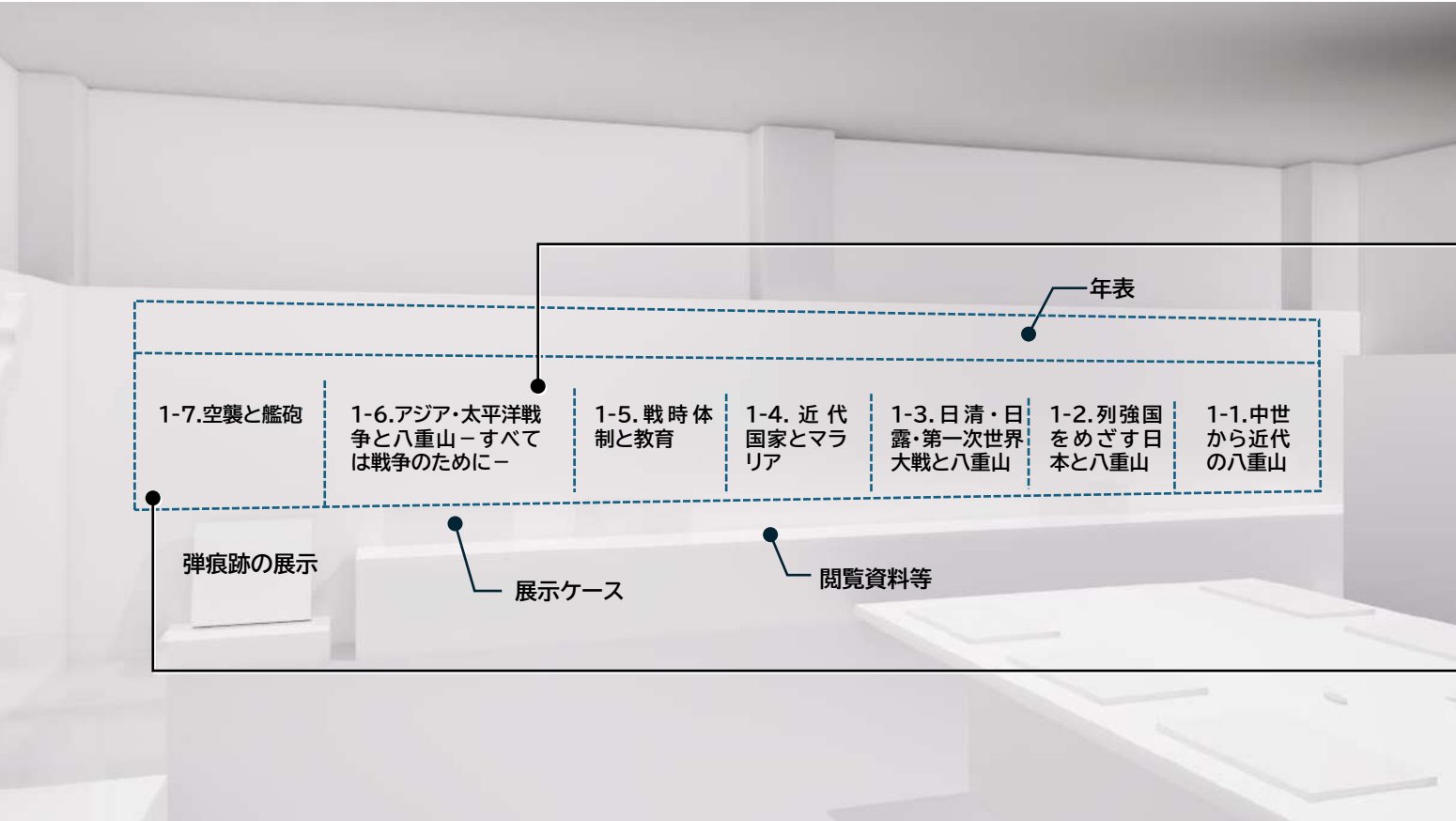
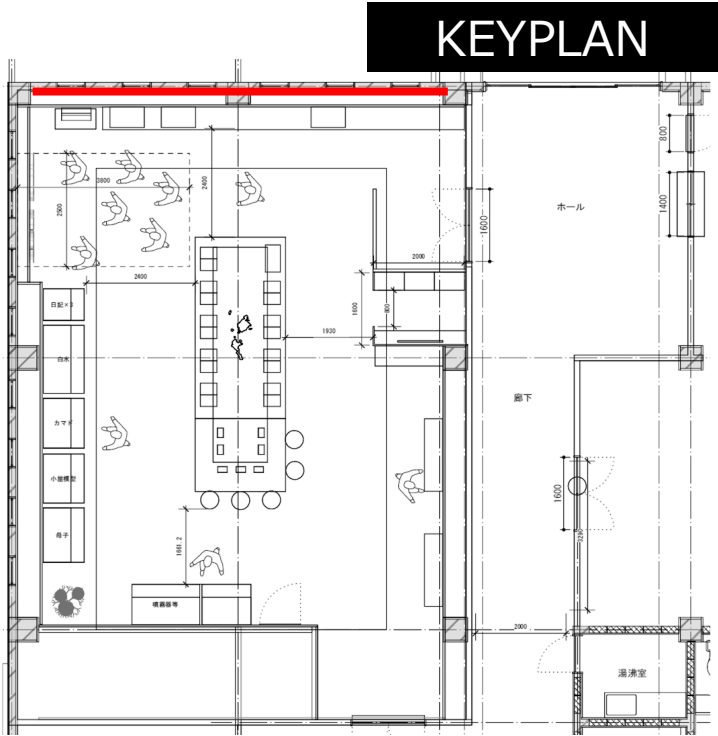
1-7.空襲と艦砲

【展示のねらい】

- ・ 八重山を視座にすえ、八重山を通して戦争へと突き進む日本政府の動きを概観するとともに、その国家体制へと組み込まれていく八重山の姿を伝える。
- ・ 米軍の上陸はなかったものの、激しい空襲攻撃にさらされた、沖縄戦時の八重山の状況を伝える。

【展示の展開方針】

- ・ 沖縄戦までの流れがわかるように展示展開を行う。
- ・ 各項目の時系列がわかるようにグラフィックを工夫する。
- ・ 実物資料を精選し、展示展開を補完する役割を強める。



- ・ 1-6-① 大舩松市顕彰運動
- ・ 1-6-② 船浮臨時要塞と第32軍
- ・ 1-6-③ 陸軍中野学校出身者
- ・ 1-6-④ 住民の根こそぎ動員
- ・ 1-6-⑤ 朝鮮人軍夫
- ・ 1-6-⑥ 慰安婦問題
- ・ 1-6-⑦ 台湾、九州への疎開
- ・ 1-6-⑧ 子どもたちの動員
- ・ 1-6-⑨ 沖縄戦特攻作戦第1陣 石垣島から出陣
グラフィック・資料
(米英に宣戦布告したことを伝える新聞、臨時召集令状、千人針、軍隊手帳など)

- ・ 1-7-① 沖縄島での戦闘の概要
- ・ 1-7-② 激烈を極める空襲
- ・ 1-7-③ みのかさ部隊
- ・ 1-7-④ 船舶撃沈事件
- ・ 1-7-⑤ 米軍捕虜虐殺事件
- ・ 1-7-⑥ 空襲と御真影・教育勅語
グラフィック・資料
(石垣島地方気象台の弾痕跡、みのかさ部隊の鉄かぶと(レプリカ)など)

2.戦争マラリアの実相

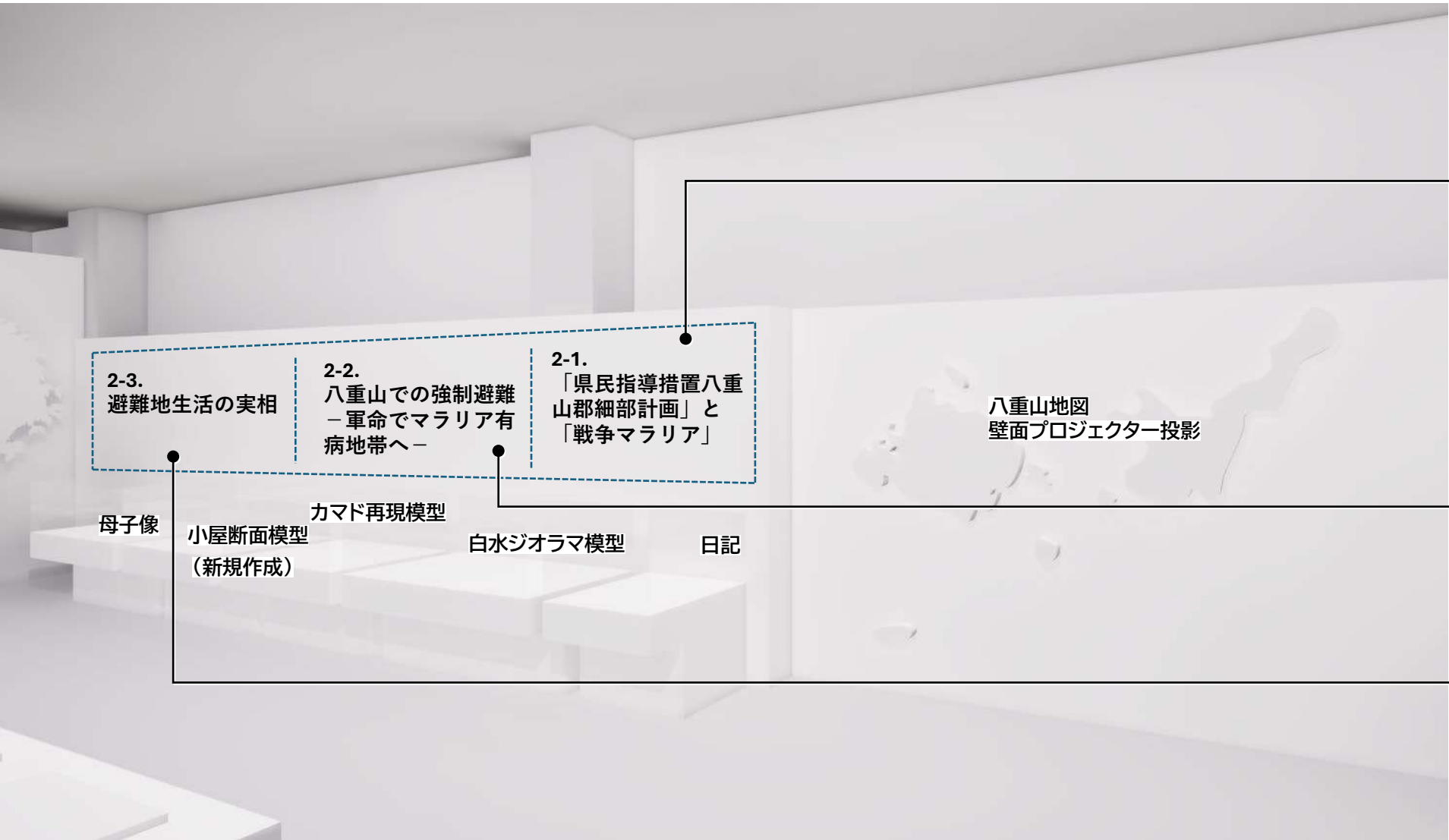
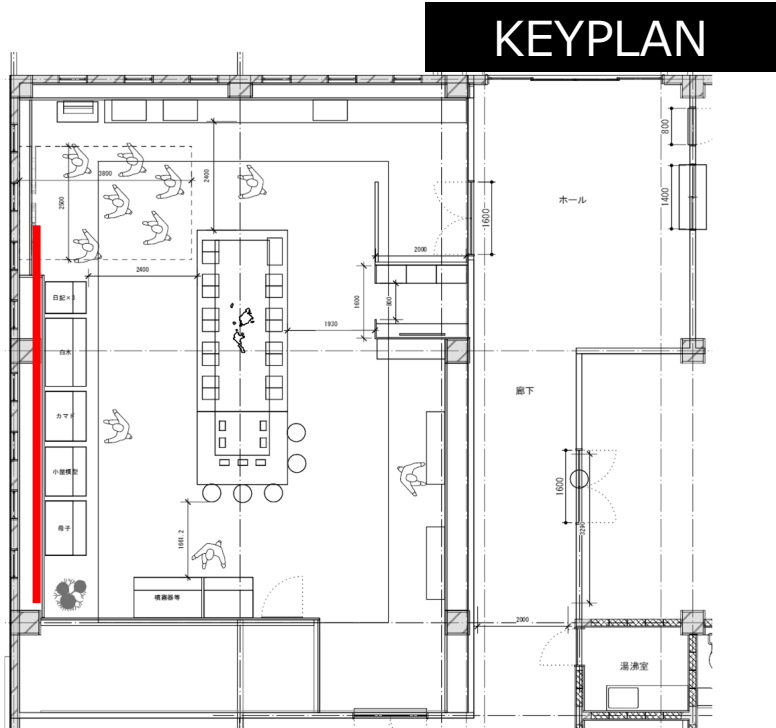
- 2-1.「県民指導措置八重山郡細部計画」と「戦争マラリア」
- 2-2.八重山での強制避難－軍命でマラリア有病地帯へ－
- 2-3.避難地生活の実相

【展示のねらい】

- ・ 軍命による有病地への強制避難によって引き起こされた「戦争マラリア」の実相を伝える。
- ・ 食糧も薬もないなかで、住民たちがどういう暮らしを強いられたのかを伝える。

【展示の展開方針】

- ・ 強制避難の実相を実物資料も用いて解説する。
- ・ 既存の模型を修繕して活用する。
- ・ 絵と模型で、避難地生活の実相をわかりやすく伝える。



- ・ 2-1-① 県民指導措置八重山郡細部計画
- ・ 2-1-② マラリア有病地への強制避難命令
- ・ 2-1-③ 強制避難命令のねらい
グラフィック・資料
(『県民指導措置八重山郡細部計画』など)

- ・ 2-2-① 強制避難の概況
- ・ 2-2-② 波照間島住民と忘勿石
- ・ 2-2-③ 兵士たちのマラリア犠牲
- ・ 2-2-④ 「戦争マラリア」と戦争孤児
グラフィック・資料
(東畑広吉参謀長の手記、鉄田義司氏の日記、潮平寛保氏の日記など)

- ・ 2-3-① 避難地での食糧事情と居住環境
- ・ 2-3-② 「戦争マラリア」による犠牲者
- ・ 2-3-③ 看病、埋葬の状況
グラフィック・模型
(白水戦争遺跡群ミニジオラマ、高熱に苦しむ母子像、カマド跡の模型、避難小屋の模型、潮平正道氏の絵など)

3.各島々の戦争

- 3-1.各島々の戦争の様子

3-2.証言/石垣島

3-3.証言/西表島

3-4.証言/波照間島

3-5.証言/竹富島
- 3-6.証言/小浜島

3-7.証言/鳩間島

3-8.証言/黒島

3-9.証言/新城島

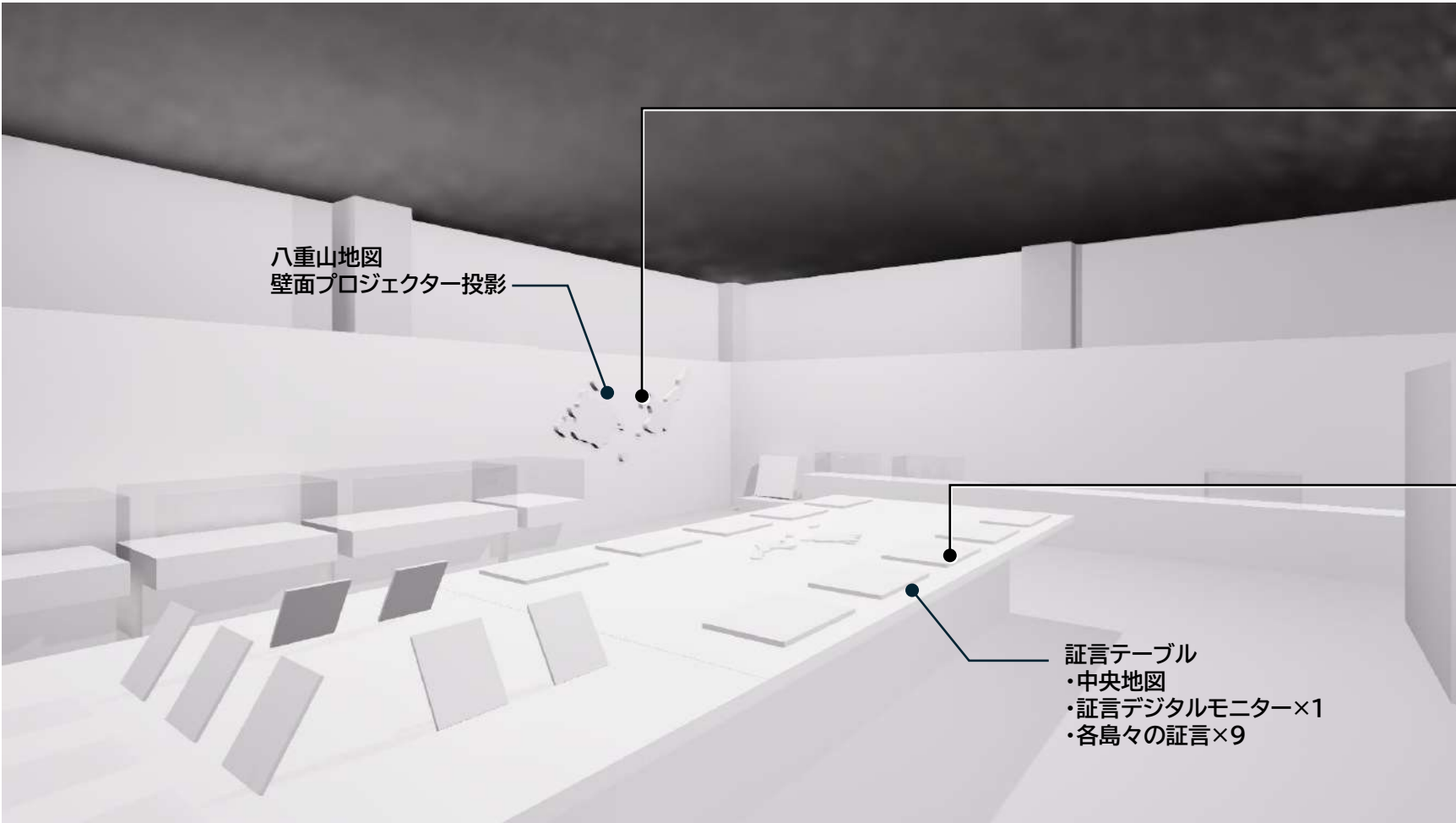
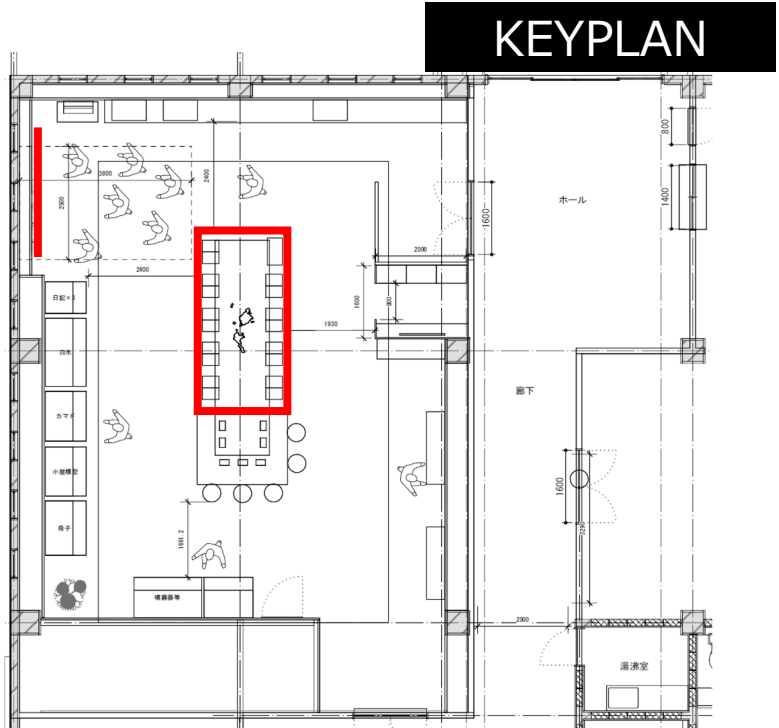
3-10.証言/与那国島

【展示のねらい】

- ・ 八重山の島々の沖縄戦時の状況を解説する。
- ・ 証言を通じて、戦争及び戦争マラリアの実相を伝える。

【展示の展開方針】

- ・ 八重山出身者の八重山以外での戦争体験も展示する。
- ・ 多言語対応の機器も設置する。



- ・ 3-1-① 漁船撃沈等周辺海域の状況
 - ・ 3-1-② 各島の戦争の状況
 - ・ 3-1-③ 各島の軍隊配備状況
 - ・ 3-1-④ 離島残置謀者と八重山
 - ・ 3-1-⑤ 各島の強制避難の状況
 - ・ 3-1-⑥ 強制避難を免れた島・竹富島
 - ・ 3-1-⑦ 各島の戦争及び「戦争マラリア」による犠牲者数
- グラフィック・映像装置
(八重山住民の避難場所を表す地図など)
- ・ 3-2-① 各島々の証言 石垣島
 - ・ 3-3-① 各島々の証言 西表島
 - ・ 3-4-① 各島々の証言 波照間島
 - ・ 3-5-① 各島々の証言 竹富島
 - ・ 3-6-① 各島々の証言 小浜島
 - ・ 3-7-① 各島々の証言 鳩間島
 - ・ 3-8-① 各島々の証言 黒島
 - ・ 3-9-① 各島々の証言 新城島
 - ・ 3-10-① 各島々の証言 与那国島
- グラフィック
(旧日本軍の茶碗、石垣会の旗、海軍飛行予科練習生 夏服、モンペ、沖縄戦の絵「与那国島カツオ工場への空襲」金城マツエ画など)

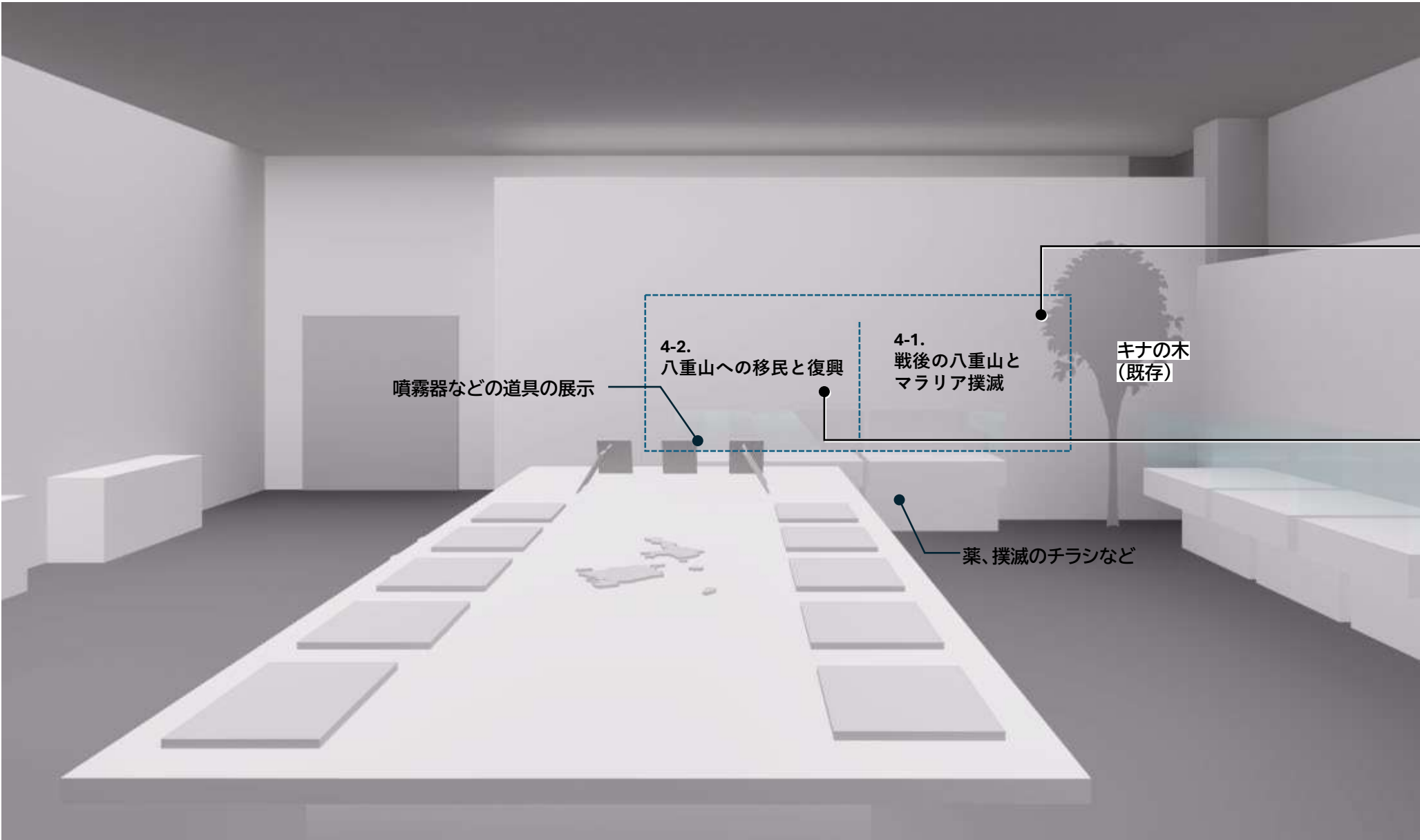
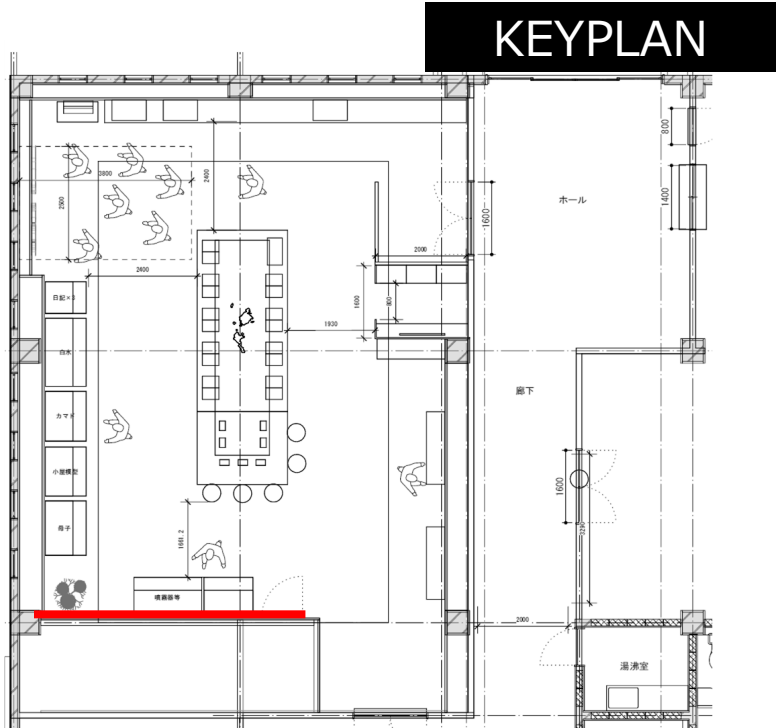
4.八重山の戦後と復興
4-1.戦後の八重山とマラリア撲滅
4-2.八重山への移民と復興

【展示のねらい】

- ・ 八重山において戦後がどのように始まったのか、その中で取り組まれたマラリア対策とその成果に触れるとともに、引揚げによる人口増加、沖縄島の米軍基地建設に伴う移民の増加などにより、マラリアが再流行したこと、その後のマラリア撲滅までの取り組み等を紹介する。
- ・ 復興に向かう八重山の状況について紹介する。

【展示の展開方針】

- ・ マラリア撲滅までの流れが理解できるような展示展開にする。
- ・ 戦後の復興について、米国の政策とともに住民の取り組みも伝える。



- ・ 4-1-① 八重山の戦後の始まり
- ・ 4-1-② 引揚げと移民
- ・ 4-1-③ 戦後直後のマラリア対策とその成果
- ・ 4-1-④ 米軍基地建設等に伴う移民の増加、森林開拓等による マラリア再燃
- ・ 4-1-⑤ WHOによるマラリア根絶計画の公表
- ・ 4-1-⑥ ウィラープランの展開
グラフィック・資料
(アデブリン、マラリア防遏のチラシ、マラリア対策に使用された機器類、キナの木(枯木)など)
- ・ 4-2-① 沖縄島や宮古島等からの移民の実態
- ・ 4-2-② 八重山からの人口流出と移住者の流入
- ・ 4-2-③ 「密貿易」と復興
- ・ 4-2-④ 八重山自治政府
- ・ 4-2-⑤ 八重山における文芸復興の動き
- ・ 4-2-⑥ 米国民政府の復興政策
- ・ 4-2-⑦ とぅばらーま大会(昭和22年から)
グラフィック・資料
(移住者の生活用具、文化復興を示す書籍など)

5.戦争マラリア援護会の活動

5-1.沖縄戦強制疎開マラリア犠牲者援護会の発足とその活動

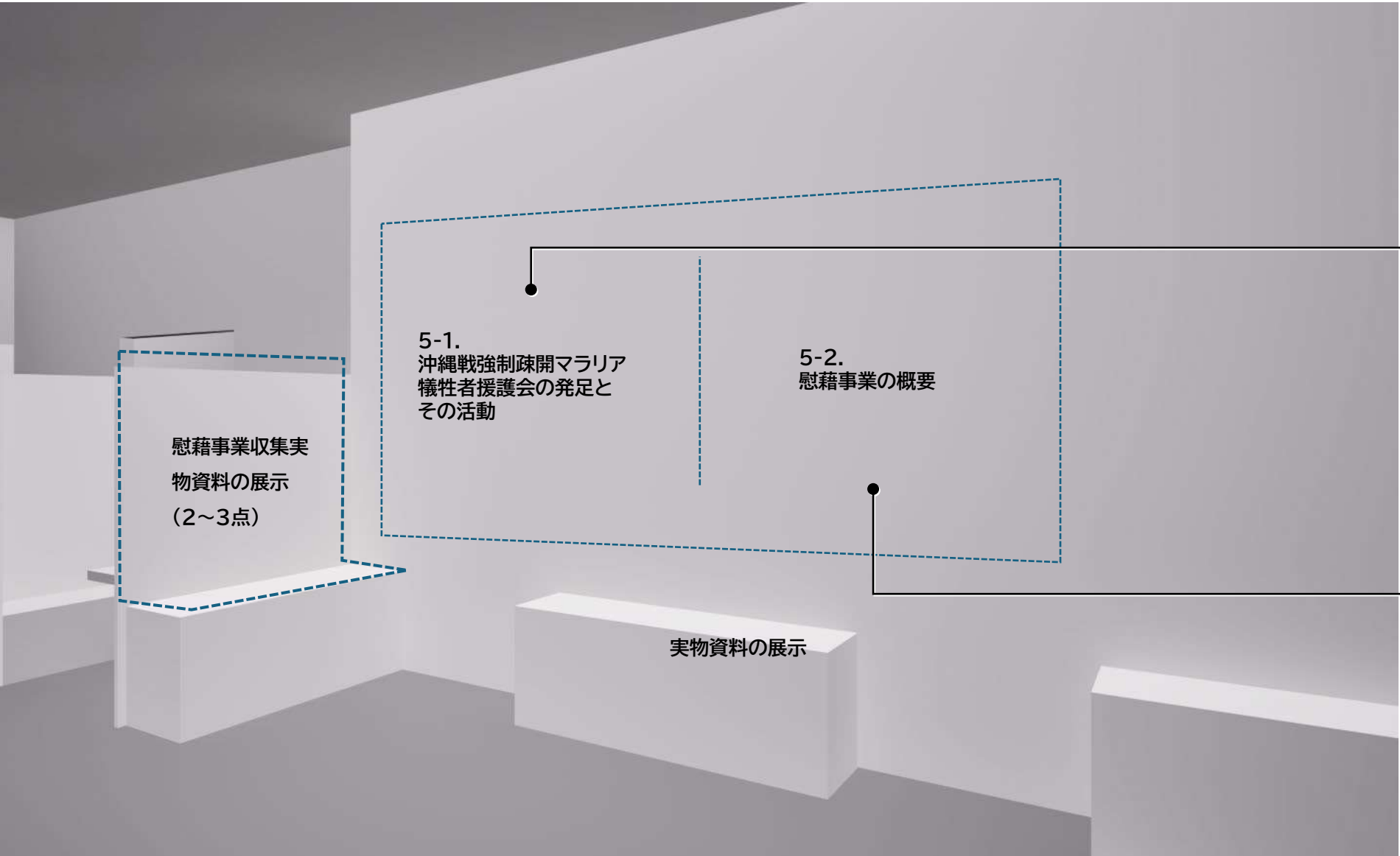
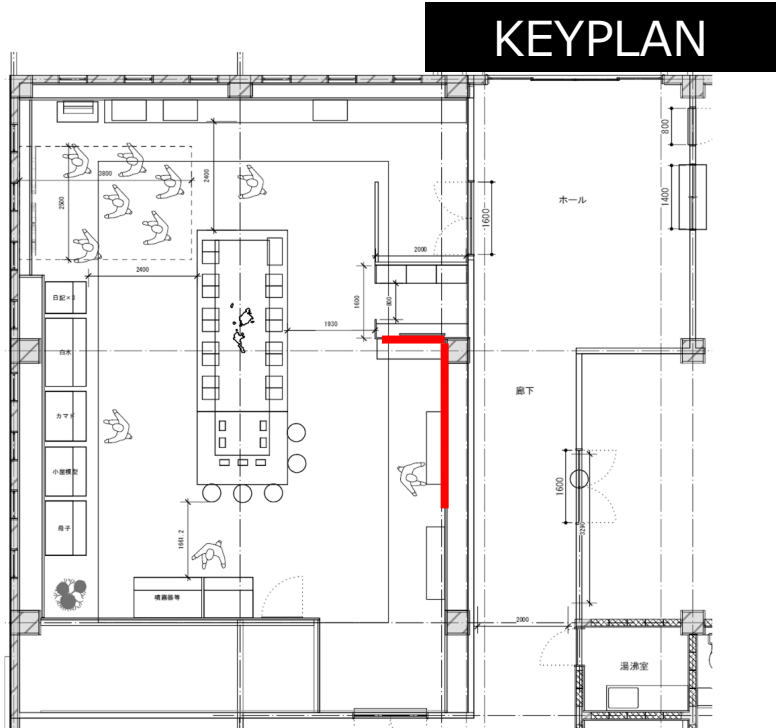
5-2.慰藉(いしゃ)事業の概要

【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦強制疎開マラリア犠牲者援護会発足の経緯とその活動について伝えるとともに、その活動の成果として、慰霊碑や八重山平和祈念館が設置されたことなどについて伝える。

【展示の展開方針】

- ・ 既存の展示資料を活用する。
- ・ 援護会の取り組みの流れが理解できるように工夫する。



- ・ 5-1-① 総決起大会
- ・ 5-1-② 陳情活動
- ・ 5-1-③ 追悼式の開催
- ・ 5-1-④ 篠原武夫教授が援護会活動を始めるきっかけとなった『平和への証言－沖縄県立平和祈念資料館ガイドブック』グラフィック・資料
(援護会の活動を示す資料、『平和への証言－沖縄県立平和祈念資料館 ガイドブックー』など)

- ・ 5-2-① 八重山戦争マラリア犠牲者慰霊之碑の建立
- ・ 5-2-② 「八重山平和祈念館」の設立
- ・ 5-2-③ 『悲しみを乗り越えて－八重山戦争マラリア犠牲者追悼平和祈念誌－』の発行
グラフィック・資料
(慰霊碑と同じ材料で作られた石、『悲しみを乗り越えて－八重山戦争マラリア犠牲者追悼平和祈念誌』など)

6.八重山から平和を発信

6-1.戦争体験の継承

6-2.マラリア撲滅と平和構築

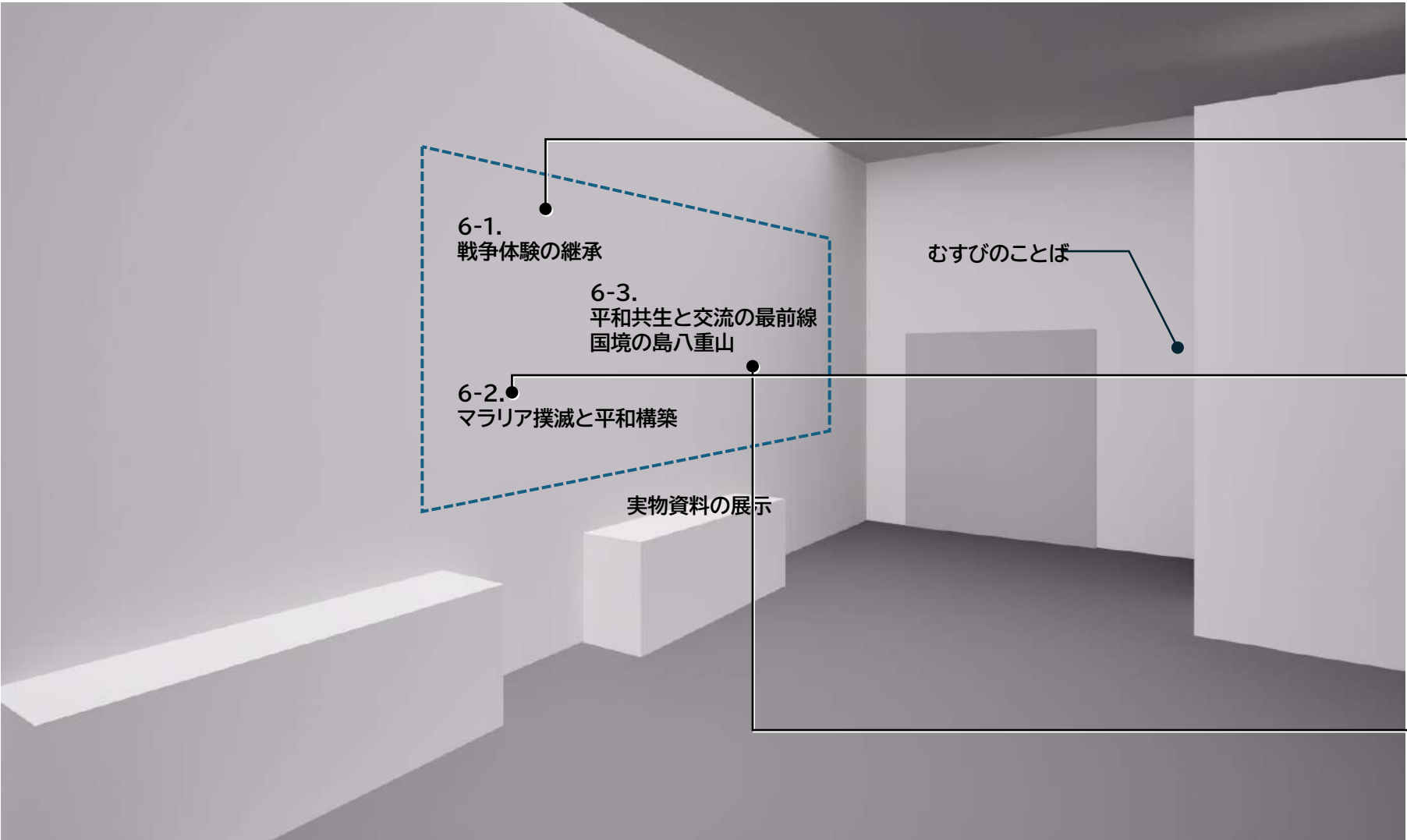
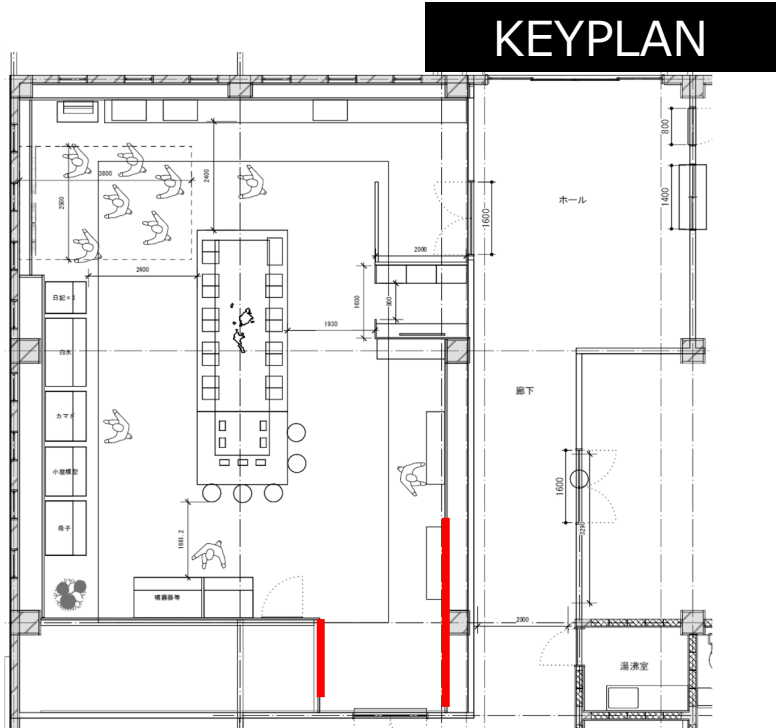
6-3.平和共生と交流の最前線 国境の島八重山

【展示のねらい】

- ・沖縄戦、そして、「戦争マラリア」を経験した八重山から日本に、そして世界に平和のメッセージを発信する。
- ・八重山における平和創造に関する活動や取り組みを紹介する。

【展示の展開方針】

- ・展示全体を振り返るように工夫する。
- ・戦争マラリアの記憶を継承してきたこれまでの取り組みを紹介する。
- ・現在の世界で続くマラリア撲滅の取り組みと八重山の経験をつなげて考えられるようにする。
- ・国境の島だからこそできる平和創造の取り組みを伝える。



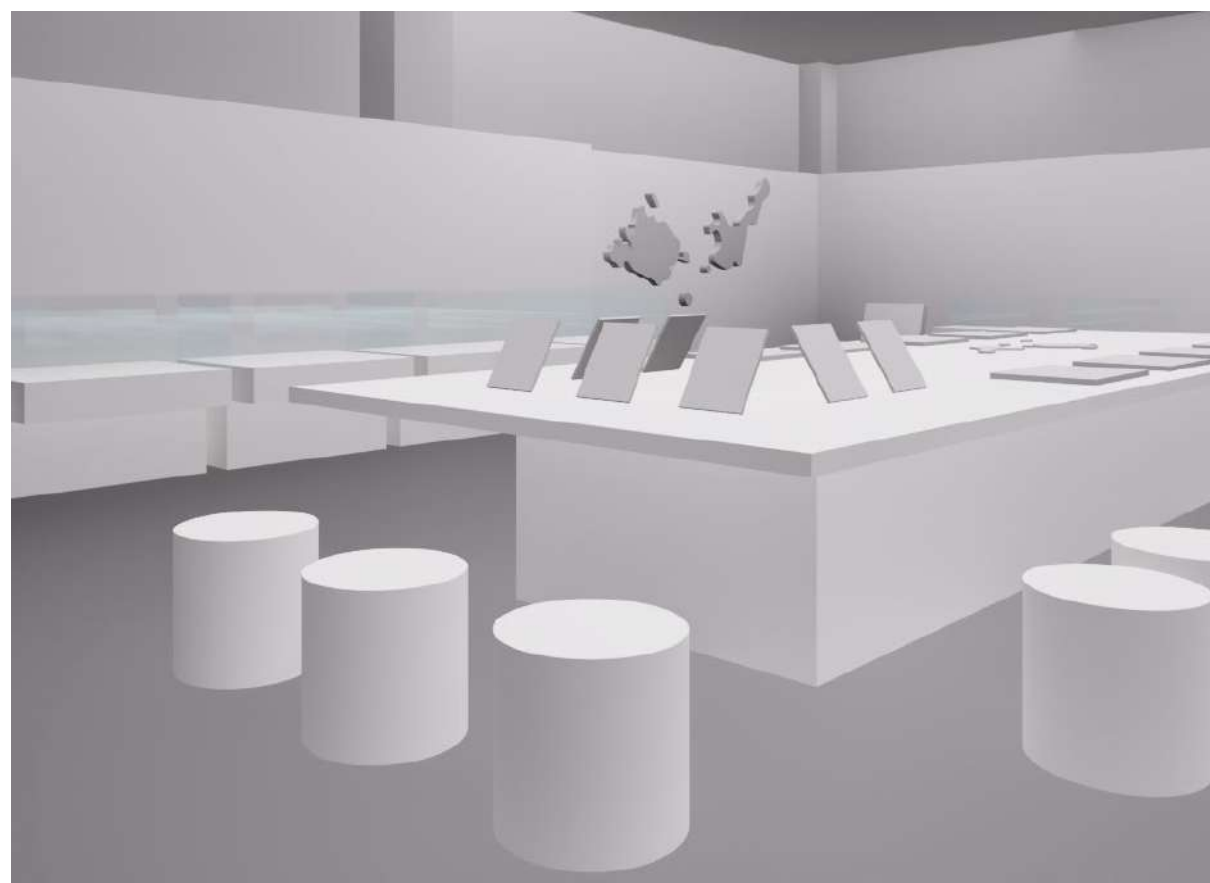
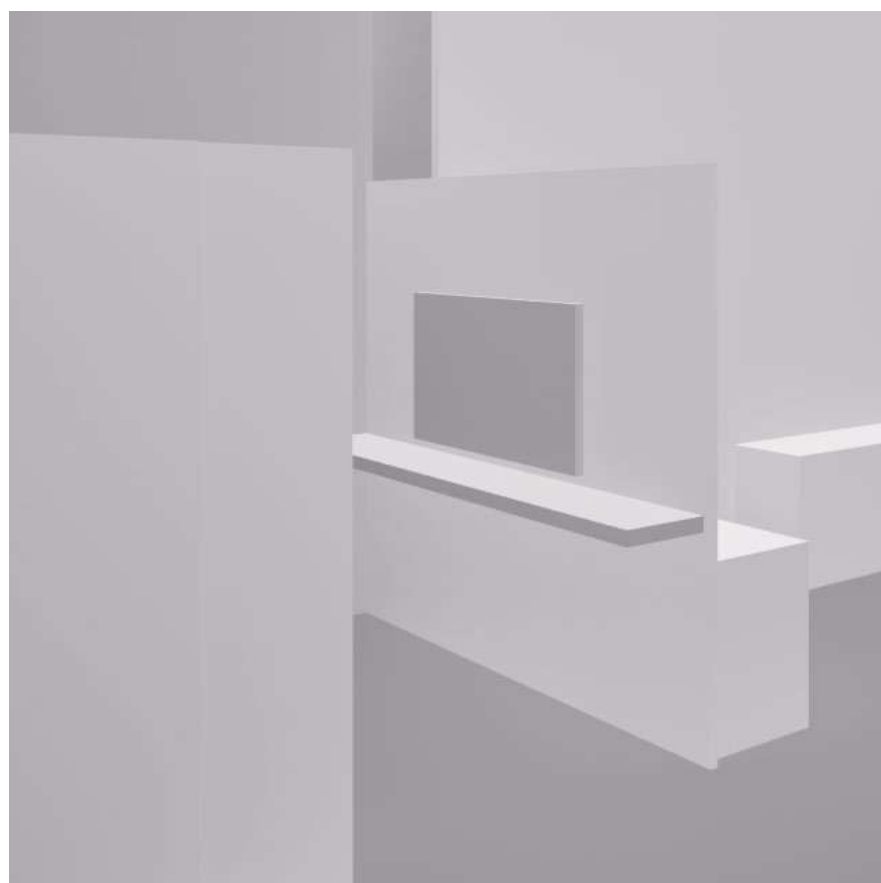
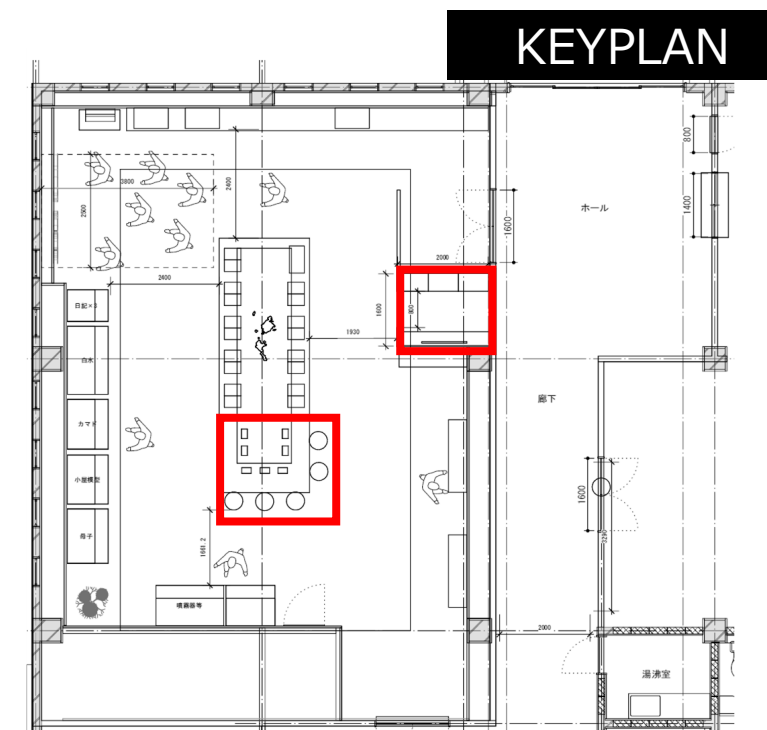
- ・ 6-1-① むすびのことば
- ・ 6-1-② 戦争体験継承への取り組み
- ・ 6-1-③ これまでに建立された慰霊碑(モニュメント)の紹介
グラフィック・資料
(戦争体験の継承を示す写真、八重山諸島内の慰霊塔の写真など)
- ・ 6-2-① マラリア×紛争 世界地図
- ・ 6-2-② マラリア有病地の課題(インフラ・公衆衛生など)
- ・ 6-2-③ マラリア撲滅と八重山(ゼロマラリアの碑、当館でのJICA研修受け入れなど)
グラフィック
(八重山を中心とした地図、八重山と台湾のつながりを示す写真、八重山と海外との交流を示す写真など)
- ・ 6-3-① 八重山を中心に広がる地図(近隣地域との位置関係)
- ・ 6-3-② 八重山と台湾の関係史
- ・ 6-3-③ 八重山における国際交流
グラフィック
(世界のマラリア分布図、現代におけるマラリア対策の写真など)

・ 7-1.動画視聴コーナー

・ 7-2.図書閲覧・アンケートコーナー

【展示の展開方針】

- ・ 複数名が同時に映像を視聴できるブースを設置する。
- ・ 既存の図書や、大項目6で展示されている資料が閲覧できるようにする。
- ・ アンケート記入のスペースとしても活用する。



各部会と確認を要する事項等の検討状況(事務局まとめ)

1 部会間で確認・調整が必要な事項

① 導入における「平和の礎」の扱いについて

第1展示室の「導入の導入」と子ども・プロセス展示室「平和の礎を考えるコーナー」の「導入」において、「平和の礎」の情景を映像（スライドショー含む）にして投影する案が出ている。

内容、手法（映像か写真か、など）を確認しながら検討を進めていく。

（検討状況）

【戦前・戦中時代部会】（資料1）17頁

- 第1展示室：「導入の導入」において、慰霊の日の「平和の礎」の様子をシーンの始まりとして、映像をプロジェクターで投影する。

【平和の発信・学習部会】（資料1）76～77頁

- エントランス：「平和の礎」の基本情報をグラフィックと映像で展示する。
- 子ども・プロセス展示室：導入として「平和の礎」に訪れる人々や「平和の礎」とは何かという問いかけをイラストや写真などグラフィックで展示する。

② 第1展示室、第5展示室の「導入」について

第1展示室（導入部の問いかける展示）と第5展示室の「導入」部分で「なぜ沖縄に基地が多いのか」という問いかけをする案で進んでいる。

第5展示室では、「展示むすびのことば」をうけて、あらためて「なぜ沖縄に基地が多いのか」という問いかけをするという意見をいただいております、今後もその方向で展示計画を進めていきたい。

（検討状況）

【戦前・戦中時代部会】（資料1）19頁

- 第1展示室：展示導入部において「なぜ、沖縄は戦場になり、多くの民間人が命をうばわれたのか？」「なぜ、沖縄には、こんなに基地が多いのか？」の問いを提示する。

【戦後時代部会】（資料1）55頁

- 第5展示室：沖縄戦の最中から米軍が基地建設を行っている様子、この基地からの本土出撃の様子などをプロジェクターで投影し、現在の基地問題は沖縄戦時から始まっていたことをメッセージとして伝える。

③ 「平和の礎」刻銘者データを活用した展示について

第3展示室『「平和の礎」から見た戦没者』、子ども・プロセス展示室「平和の礎を考えるコーナー」において、「平和の礎」刻銘者データを活用した展示の案が出ている。

それぞれの展示室のねらいや空間によって、内容や展示手法において差別化する方向で議論を進めていきたい。

(検討状況)

【戦前・戦中時代部会】(資料1) 47 頁

- 第3展示室：『平和の礎』から見た戦没者」において、「平和の礎」のデータを分析、整理した情報をグラフィックや検索装置で展示する。

【平和の発信・学習部会】(資料1) 79 頁

- 子ども・プロセス展示室：『平和の礎』のデータから見えること」において「平和の礎」のデータをグラフィック・映像・模型で展示する。

④ 第5展示室「現在の戦争と紛争」、「世界情勢」の展示について

展示更新基本計画において、「現展示の『現在の戦争と紛争』、『世界情勢』に関する展示の見直しを検討する。」(p6) が検討課題としてあがっている。

現在、第5展示室の内容には盛り込まれない方向で議論が進んでいる。

子ども・プロセス展示室「現在の戦争や平和について考えるコーナー」「平和創造について考えるコーナー」において類似した内容を扱う方向である。

(検討状況)

【戦後時代部会】(資料1) 66 頁

- 第5展示室：第5展示室の最後は、2階展示室最後のコーナーであることもふまえた展示を検討している。

【平和の発信・学習部会】(資料1) 82 頁

- 子ども・プロセス展示室：「現在の戦争や平和について考えるコーナー」の中で、世界の戦争、紛争、人権問題などを、グラフィック・模型（地図）で取り上げる。

⑤ その他

第2・3展示室、第5展示室で「収容所／収容地区」、「戦後処理と諸問題」、「性暴力」などの内容が重なることが考えられる。部会においては、より展示を具体化したときに調整・検討することを確認した。今後、展示内容が具体化した時点で、改めて部会間で調整していきたい。

(検討状況)

各部会、以下のコーナーで展示を検討している。

【戦前・戦中時代部会】(資料1) 33 頁、35 頁、48 頁

- 第2展示室：2－3 収容所／収容地区、2－7 軍隊による性暴力
- 第3展示室：2－4 戦後処理と諸問題

【戦後時代部会】(資料1) 56 頁、65 頁

- 第5展示室：2－1 収容所の暮らしと復興の始まり、3－3 軍隊と性暴力

2 基本計画（素案）に対するご意見について

基本計画（素案）に対して、パブリックコメントを実施した。（参考資料2）
頂いたご意見について、引き続き今後の検討の参考とさせていただく。

以上